

お

おあえやい (おわえあい、おはへあひ) 【名詞】 1) 鬼ごっこ 2) 追いかけること [会話] ② 走つとんの (ていのを) 追わえて いっしょけんめ (一生懸命) 追わえても、よお おわえらったわい (追えなかったです) 言うて。そすと わしな またその後い追わえて オアエヤイ。用事のある人を追わせるのと、① おにごっこで、オアエヤイすんのもあるし おいやりする。

おあがり (御上) 【名詞】 1) 食べなさい おあがりなさいの略 2) 上がりなさい 部屋、又は家に入りなさい

おい 【代名詞】 自称 俺 (志摩市全域、鳥、度、三、安、松、多、阿、上、張、名、伊、北、尾、南)

おい (老) 【名詞】 老いる事 年を取る事 動詞おいる (老) の名詞化 次次項おい参照

おい (多) 【形容詞】 数量が大である。沢山である。多い おおい参照 (度、伊)

おい 【感動詞】 1) 相手に対して返事するときの言葉 (志 (神明)、員、三、鈴市、鈴郡、安、上、阿、張、名、南) 2) きわめて親しい間柄で交わす挨拶 呼びかけの言葉 (志 (片田)、鳥 (坂手)、三、久、松、上、張、名、南) [会話] オイ (老い)。年寄りん (に) なってくのも (行くのも) オイてく (老いていく) 言うし。② オイ君言うて、自分の むこおのにげ (人間) になあ オイ待て言うたり、おおい、おおい言うて呼ぶときなあ (です) 名前呼ばんと (呼ばずに)。

おい (おひ) (追い) 【名詞】 追加 追い銭 (志 (布施田、浜島)、張、北、尾) [会話] ぬすつと (盗人) に オイやれ (だ) 言うて、盗まれたて (てしまつて) また なんか (何か) 無いよんなつてくと (なつて行くと)。

おい (おひ) (負) 【名詞】 ひけ目 弱点 おいめ

おい 【名詞】 被い 被い覆ぶせる物 おおい参照

おいい (多) 【多】 多い、数量が大である

おいいて (多) 【形容詞】 多くて おいいても参照

おいいても 【多】 多くても [会話] オイイテモ ええわい (よいです) 言うし。そげん (そんなに) おいやんかい (多いです) 言うて、よけ (沢山) の事を、おい言うね (言うのです)。オイイテ言う時は、多い よけあつて 言う事を、オイイテ言うて、こげん よけいらんかい (こんなに沢山要りませんか) 言うて、おおても、ええわい、呉れえ (下さい) 言うて、少のおても (少なくとも) オイイテモ、分けんのおを (るのを) ちわる言うの (のです)。

おいうつ (おひうつ) (追い打つ) 【名詞】 1) 一度支払った上に更に追加して支払う金銭 2) 価値に差のある物を交換する時に不足分として支払う金銭。追い 追い銭。打つ 金銭を支払う 内金を打つ [会話] オイウツ言うな (言うのは)、十円なら十円出したけど (けれど)、そんな たらんよつて (それが不足しているから) 又 どんだけ (どれだけ) でもだすの、オイウツ言うね (言うのです)。足す事をなあ。あやまあ (あれは) オイウタナ (打たなければ)、はざんよおなれ (いけないようです) あんまり安いわれ (余り安いです)。

おいえ (おいへ) (御家) 【名詞】 貴人、大名などの家の敬称。富豪。資産家。(志 (浜島)、伊、度) [会話] こつぱり下駄を履くな (のは)、だんなし (旦那衆) の、オイエの子やなけな (でなければ)、履からつたねんなあ (なかったのです)。

おいかけ (おひかけ) (追掛) 【名詞】 間もなく [用例] ○○さんも オイカケ来るやろど (でしょう)。

おいかぜ (おひかぜ) (追風) 【名詞】 後ろから吹く風 [会話] オイカゼと むこお風、尻から来ん (る) のはオイカゼで、前向いて行くのは向い風。

おいかった 【多】 多くあつた 沢山有つた (上、阿) [会話] オイカッタ。かんじよしたや (計算したら) よけあつた (沢山有つた) 言うう (のを) 思惑よりよけあつた 言うのを オイカッタ言うて。

おいき (大気) 【名詞】 気前がよい 心が広い こせつかない (北、尾) [会話] 気前の良いのを、あのひた (人は) オイキや。オイキでなんも (少しも) 惜しみ無しに、やつて (呉れて) 言う時な (が) あるのお (あります)、おおぎれで 言う時もあるけど (が)、さっぱりしとる人を あの人 おおぎれ やなあ (だなあ) 言うて。さっぱりと ずばずばと なんでも 買おたり (何でも買った)、人ん (に) も 呉れたりすると あの人 おおぎで、たいきやなあ言うて。

おいき。おいきといき 【名詞】 大息、嘆息するときや弱つた時に出す溜息、又その溜息の出る様な状態。青息吐息。おおいき参照 [会話] いっしょけんめ (一生懸命) できて、づつなかつたり (息苦しかったり) すると、オイキトイキやつたよお (だった) 言うて。

おいきた 【感動詞】 持ち構えて居る時頼まれて応ずる語 (員)

おいこ (おひこ) (甥子) 【名詞】 1) 甥 他人の甥に對す

る語 2) 自分の兄弟姉妹の生んだ男の子(南) [会話]
オイコ。男は オイコ 言うて、おなご (女) は 姪子
や (と) 言うし (言います) めいこや、オイコな (が)
よけあって (沢山有って) 言うて。

おいごし (おひごし) 【名詞】 甥 他人の甥に対する尊稱
(一)

おいこみ (おひこみ) (追込) 【名詞】 最後に一段と努力す
る事

おいこむ (おひこむ) (追込) 【他マ五】 追って中へ入れ
る

おいこむ (負担む) 【自マ五】 背負う 責任を持って行く。

おいこむ (老込) 【自マ五】 年を取る 年齢以上に年を取
って見える

おいこんだた おいこんでやった 1) 追いつめてやっ
た 2) 負った、負担してやった 3) 年令以上に老い
た

おいざ 【名詞】 胡座。おおひざ参照。

おいざかく 胡座で座る。おおひざかく参照 (志)

おいざかけ 胡座で座れ [会話] ちんとかしこまっとる
もんで (正座しているので)、ひざわれえ言うて、オイ
ザカケ言うことや (です)、おいざ言うな (のは)、胡座。

おいし 【形容詞】 美味しい 物の味がよい 末尾母音 い
の脱落 (鈴市、南) [会話] うまいなあ 言うのなあ
(のです) オイシイなあ言うて、わしらやったら (私だ
ったら) この芋 うまいなあ 言うて、オイシイ言うて
いはつきり言う人と オイシ言う人と。後ののおを
はつきり言わへん (言わない) 人な (が) 多いの (の
です)。

おいしくない 【形容詞】 うまくない。不味い。おいしくない。
(南) [会話] オイシナイ言うのは こや (これは) なんも
(少しも) うまねえわれ (旨くないです) 言うて。

おいしょ 【感動詞】 1) 夜。人とすれ違う時の挨拶。おい
しょの返事のない時は狐狸妖怪の類とされた。2) それ、
どおぞ 人に物を与える時の言葉 [会話] 1) 人当ると
(逢うと) よさりな (夜です)、でんち (懐中電灯) も
無いし くらがりやんない (暗いでしょう)。オイショ
言うてなあ、だれんでもな (誰にでも) そして言よおっ
たの (言って居たのです)。昔 誰やら彼やら くらがり
りやし (暗いので)、判らせんよって (判らないから)
オイショ言うと、向うも オイショ言うてな、すりちが
うと オイショ言うてな 言よおったのな 夜の挨拶や
なあ (です)。顔もなんも知らんでもな、すりちがえ
ると オイショ言うと オイショ言う。2) 物やんのも (や
るのも) オイショ言うて、何んかくれんのもなあ (呉れ

るのも) やるわ (あげます) 言うのを オイショ 言う
ね (のです)。

おいしょつけ 【名詞】 着物を着せてくれる人 着付師
[会話] いしよつけ (着物を着る事)、オイショツケた
ので (頼んで) 言うて。

おいすえられる 【他ア下一】 追われる さかんに追われ
る [会話] オイスエラレテ、尻からけぶりな (煙が)
出るよお (出る) 言うて。

おいすえる 追い回す。どこまでも追って行く。[会話]
オイスエル。仕事しとてもな (していても) いいしい
いと先い (に) 行く人を 後から オイスエル言うて、
てったいん (手伝いに) 行くと、仕事すんのん (するの
に) えろおて (大変で) いいしいいいい言うて くわ
しごと (艱仕事) すると わしら (私達) その先い
(に) 行くと オイスエラレテ まあ 腰な (が) いと
おても (痛くても) よお 腰ものそかい (伸ばせませ
ん)。麦まくよん (蒔くように) になると たねいれんの
も (種蒔くのも) いいしいと はしんね (走るのです)
ばばばと わしら それを打ってすると まあ オイ
スエラレテ ふうふう 言うて言よおったの (言って居
たのです)。ほんといん (本当に) 仕事のえらい人に一緒
すると、オイスエラレル 言うの (のです)。秋い
(に) 行ても (行っても) 姉さんどおぞ言うて 鎌をお
こして そすと (すると) こお よおもとおつ (四株
づつ) 刈って 持てくの、そすと ま 先い (に) わし
らを 立てといて (ておいて) 後から おいまくんね
(盛んに追うのです)。尻から けぶりな出んない (煙
が出る) 言うて、わしらな (が) 秋い (に) 行とる (行
っている) 時な (に)、わしらを 先い (へ) たてとい
て オイスエルもんで、こんだ (今度は) あの とおさ
ん 先いたてといて オイスエタロヤ (てやりましょ
う) 言うて、わしらな (が) 刈って刈って かりまくつ
たや (ら) まあ こげな (こんな) 汗かいて ぶうぶう
言うとんね (言って居るのです)。すこい 家ん (に)
なると、ねえさん どおぞ 言うて 鎌を 先い (に)
おこすね。するとま 先い 刈りかけると、わがとら
後からまあな ばんばん ばんばん となあ かつてな
投げ かつてな投げ (刈っては投げ) してなあ、すると
わしらも ま いっしょけんめ (一生懸命) するけど
オイマクラレテナ、そいな時な (が) オイスエラレル
言うて。

おいずる (おひずる) (笈摺) 【名詞】 おいずり (笈が濡れ
て服の破れるのを防ぐもの) の訛 修験者巡礼の着る袖
無しの羽織

おいせさん 伊勢神宮(北) [会話] オイセサン、伊勢の
だいじんぐさん。オイセサン 行くのん (に) アメリカ
い (へ) でも 行くよん思よおつて (ように思って) 行
きよおつたの (行って行ったのです)。学校 行くうち
や (間は) 伊勢い (へ) つれてて (連れていって) 呉れ
やせんし (くれない)、修学旅行 行く時ん (に) 天皇
陛下と こんごへえか (皇后陛下) と来て、明治天皇
やったんな (でした) その時なあ (です) 四年生のおり
やったんかいな (時だったのか)、学校で 行ったのな
(行ったのが)。そんな (それが) 始めて。お木曳き
行きたいな 言うたてて (言っても)、わがとら (自分
達) 行ても、めったん (絶対に) 子供は 連れてかせん
やんない (連れていかないでしょう)。行たこたあるか
い (行った事はありません)。

おいせん (おひせん) (追銭) 【名詞】 1) 代価の異なる品
物を交換した時その不足分を補うために支払う金銭
(張) 2) 余分に取りられる出費 二重の損失 [会話]
2) ぬすつと (盗人) に おいやれ (だ) オイセンやれ
言うて、ぬすまれたて (盗まれてしまって) また何んか
ないよん (無いように) なってくと (いくと)、こやま
あ ぬすつと (盗人) に おいやなあ (だ) 言うて、よ
お言うやんかい (よく言います) ぬすまれといて (盗ま
れておいて) また違うもん (物) を、まあ うしのたたり
り (失なったり) する 時んなあ (に)、ぬすつとに
おいやれ言うて。ぬすつとん、たした 言う事 とられ
といて (盗られておいて) また後から、足した言う 意
味やわい (です)。

おいそれと 右から左へ。急に。おいは感動詞それはソレ
(夫) ソレのソ (其) は自分から少し離れた物を指して
言う語レは添語 [会話] オイソレト、そんな (それ
が) 出来よかれ (出来ない)、ちょっとやそつとで (簡
単に)、出来やへん (出来ない)。オイソレト出来よかれ
そげん言うたててなあ (そんなに言っても)。急に出来
ん (出来ない) 事を、オイソレト出来やせん (出来な
い)。

おいた 1) 止めた。やめる。置いた。置く。おく。行っ
ていた行動をやめる。措いた。ものを頼まれた時など
に拒否する語。嫌だ。2) 物や、人物をある場所に置く。
物にある場所を占めさせる。[会話] 1) オイタ。仕事を
オイタ。今日はこんで (これで)、おこやんかれ (終り
ましょう)。一時か二時で おこやんかれ。今日はまあ
一時ん (に) オイタとか。2) 物を置く言うのもあるやん
かい (有ります)。1) 頼まれて、やや (いやだ) 言う時
ん (に)、なんやかや頼むやんない (何か彼が頼むでし

よう)。そやけど (それだが) その人の頼んだ事が嫌い
な事で、したらせん (してやらない) 事を、オイタ言う。
やめたとか言うよおな事を オイタ言うの。

おいだき (おひだき) 【名詞】 追い焚き。一度熱したもの
が冷めなくなったのを温める。風呂などを再度熱くする。
二度焚き。

おいたくる【他ラ五】 1) 追いたてる。追い払う。追い回
す。(志(鶴方、神明、立神、国府、安乗)、松、多、阿、
張、名、尾) 2) 酷使する [会話] 1) オイタクル言う
て、走んのお (走るのを) 後からまた追いまくってく言
うのな (が) 有るし。仕事をすんのを (するのを) オイ
タクル言うもあるし (有ります)。秋 (秋の収穫の手伝
い) 行くでしよお、稲刈りしとると (していると) 後か
ら、家主がオイタクッテ来んねやんかい (来るのです)。

おいだし (おひだし) (追出し) 【名詞】 出産間近の妊婦に
送るお祝。普通妊婦を招待し御馳走する。おいだしげ
普通成の日か大安の日に行なわれる。(志(布施田、浜
島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)) [会話]
オイダシ言うな (言うのは)、妊娠しとんのな (してい
るのが)、はよ (早く) 生まれるよおに言うて、さん
(出産) が、やすく (たやすく、安産で) 出来るよおに、
ごつとお (御馳走) してくれん (くれるのを) オイダ
シや (と) 言うて。初のこお (子) の親な (に) オイダ
シ、皆 呼ぶけど (けれど)、まあ いくたり (幾人)
もすると そげん呼ばせんけど (そんなに呼ばないが)。
よばれてくの (招待を受けるのは) 嫌いやつたんよお
(でした)。大きな腹やりだして (突き出して)、うみづ
きん (臨月に) 近い時ん (に) 行くねよつて (いくのだ
から) 恥かし (恥ずかしい) やら、今しや (今は) ぜん
(銭) や なんで呉れるけど (呉れるが)、昔や (昔
は) 必ずごつとお して呼んで呉れて、そすと喰うと、
すぐん (すぐに) 何時までも居らんと (居らずに) はよ
行け (早く帰れ) 言うて 追い出されるもんで (ので)
オイダシ言う。産がやすなるよおに、はよ (早く) 行け
言うて そこで呼ばれて (御馳走を頂いて) じっと居ら
せん (いつまでも、長い間居ないのです)。腹の中の子
を安産するよおに追い出すんやんかい (追い出すので
す)。その意味でオイダシ言うの (のです)。安産するよ
おに、今しや そげん呼ばせんね (そんなに呼ばないの
です)。しなもんで呉れんねなあ (品物で呉れるのです)。
昔や (昔は) 小豆飯して 尾頭付きや (だ) 言うて、ご
つちやどけ (魚名：笠子など) 煮付けて、口な (が) 太
つきい (大きい) 子 もおける (産む) 言うて、ごつち
はしやせんやんかい (しない、使わない)。

おいたてる (おひたてる) (追立) 【他タ下一】 1) 追い拂う 2) 酷使する

おいて (おひて) (追手) (追風) 【名詞】 おいて風。後ろから吹く風。(度、尾) [会話] オイテ言うのは、あらし (風)。帆へぽんと来るやんな (でしょう)。それを言うの (のです)、風の事なあ (です)。西から吹いてくや (くれば)、西風を オイテカゼ言うて、沖ん (に) 行く時ん (に) 丁度 西風受けるやんない。オイテカゼん 乗って。

おいて 置いて。終って。[会話] 仕事オイテ 言うて、仕事な (が) 済んで 言うのを 仕事オイテ。仕事オイタラ (終わったら) まあ よさや、おれげい (夜は俺の家へ) 来いよおとか、オイタラ どこそこい行ことかか早よ (早く) オケヨオ 言う。早よしまあよ (早く終りなさい) 言うのを ハヨオケヨ言うて、オク言う、事が終る。仕事な (が) きまらんでも (完了しなくても)、まあ ひいな (日が) 暮れてくと、オカナはざんわれ (終らなければいけない) 言うやんない (言うでしょう) まあな こやな (これは) ひい (太陽) な いってたのん (入っていったのに) ま オコヤンカレ (終りましょう) 言うて。仕事な ま きまつたし (終ったので) オコヤンカレ 言う時もあるし きまらせんけど (終らないが) ま 日なくれてたのん (日が暮れたのに) オコヤンカレ 言う時もあるし オコヤンカレ は 終りましょう、まあ 終ろや しまおやんか 言うてな。

おいでおいで 【名詞】 手招き。幼児を呼ぶ時にする動作。(上、阿) [会話] オイデ、オイデ言うて (言って) 子供らな (が)、げえ (芸、動作) のしはじめ (し初め、初めに)、はよ (早く) 団子団子したれ (しなさい)、オイデオイデして、万才、頭てんでん言うて、昔や (昔は) おせえおったやんかい (教えて居たで有りませんか)。赤ちゃんに教えんな (教えるのは) 必ず団子団子な始まりで。頭てんでんやとか (だとか)、オイデオイデは、ええやんかい (よいのです)。てえ (手) の運動で、昔の人らは あん (であれで)、考えとんねなあ (考えているのです)。頭てんでん言うて、頭叩いたり、万才言うて、てえ (手) も上げる稽古させたり、いやいや言うて首ふらしたり。わしらげのばあやん (私の家のお婆さん) 櫓漕ぐ稽古でエンヤコラ言うて、こげんして (体を前後に揺らす) さしたり、てえ (手) 持ってなあ、よおしよおったやんかい (よくして居たで有りませんか)。大島行くのや ヘン言うて、手持って、足もひょいと上げて、今しで言うて運動やけど (だが)、体操でええねけど (よいのだが)、今しのもんら (者は) そい

な (そんな) 事、教えやせん (教えない)。

おいてかぜ (追手風) 【名詞】 後方より吹く風 おいて参照(尾) [会話] 行こと (行こおと) すると、尻から (後から) 吹いて来る風を オイテカゼ 言うて。そして むこおから 風な (が) 吹いて来んの (来るのを) 行く時や (は) むこおかぜ。オイテカゼと むこおかぜ。しり来んの (尻、後ろ来るのは) おいかぜで、そして前向いて行くのは むかいかぜなあ (向い風です)。おいかぜと オイテカゼと 一緒、今日は おいてな (が) よおて (よくて) 言うて、帆まくのん (上げるのに) しり (後ろ) から して来ると 今日は オイテカゼでまあ 楽やなあ (だ) 言うて ど (櫓) こがんでええし (漕がなくてよいので)。

おいてくる 1) 馬鹿 母の体内に知能を置いて来るの意(鈴市) 2) 仕事を終えて来る 3) 物を置いて来る [会話] 2) 仕事を オイテクル 言う時もあるし、3) 物 あしこい (あすこへ) おいといて来たわい (て置いて来ました) 言う時もあるし、もてたけど (持って行ったが) 誰も居らせんもんで (居ないので) オイテキタ言う時と、仕事おいた言う時と。1) あや、まあ、ちよいと (彼は少し) オイテキトンネよってなあ (おいて来ているのだから)、もやしな たらん 言うて、これは馬鹿。にい (荷) に ならんもん (物) オイテクル言うて おいてきたんなあ言うてな。

おいてまち (追手待) 【名詞】 帆走するため、追手風の吹くのを待って居ること。[会話] かざまち、風、待とんの (ているのを) あらしまち、おいまち、オイテマチ 言うて。

おいでる (御出) 【自タ下一】 行く。来る。居るの尊敬語。一般的には使われなかった。(志、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、亀、津、安、久、一、松、多、阿、張、度、伊、鳥、北、南) [会話] オイデル言う事使わせんけどなあ (使いません)。上品な家はつかよおった (使った)。使う家も有んねけど (あるが)、百姓や漁師は荒っぽい言葉で、今日はあの人ら、(が) くんねてわれ (来るそうです) 言うて、いたんてわれ (行ったそうだ) 言うて、だんなし (旦那衆、良家) の家は、標準語で言うけど (言うけれど)、百姓は、貴方や、そなたや (とか) 言うところかい (言っていない)、のおや (お前) そおや、しやれや、こやれ言うて、よそ (他所) の人の来た時、どこそこの人が オイデル言う事は言いおったけど (言っているが)、たまには。そやけど (時には、しかし) 普通の和具の言葉やったら (だったら) まあ来てなれ、行てなれ言うて言うんやろな (言うのでしょう)。○小

父、雨降りめがけて唐傘持たずに、オイデル心は、お泊まり心か、アイボサボン言うて。○言うて肩揉む人な(が) あって、その人な(が) 雨な(が) 降っても、降らんでも、傘 抱いとんので(抱いているので)、傘 抱いとると(持っている)、あや(あれ)、○みたいに(のように) 傘 抱いて言うて。そやもんで(それで)、傘 持たんと(持たずに) 来ると 雨降りめがけてオイデル心は、お泊まり心かチカボン言うて。

おいといし【名詞】 いしなご。御手玉の時に使う1cm角大の木片[会話] オイトイシ言うのは、いしなご。こんだけばかの(これだけばかりの)、かくののおに(立方体ののに)、花な(が) 画いてあって、色な(が) 赤や(だ) ピンクや(だ) 青や(だ) 言うて、色々んしてあんな(にしてあります)。

おいとく 1) 置いておきます。置いておく。2) 終了する。やめる。3) 蓄えておく。[会話] 1) オイトク。此処い(へ) おいとけ(置いておけ) 言うて、其処い(へ) オイトクワ(置いておきます) 言う時もあるしなあ。オイトクワ、オイトクンナ言うのは、おときます(置いておきます)。此処い おときます言うの(の)を 此処い(へ) オイトクド(置いておくぞ) 言うて。そや(それは) 悪り言葉やんかい(です)。オイトクンナ 言うと ちょいと(少し) 丁寧な言葉で、オイトクド 言うとな、ものすごお したしな(親しい)。目下の人やったら(だったら) 此処い こや、オイトクド 持てけよ(持って行け) 行く時言うて 目上の人に言う と オイトクデエ 言うね(のです)。そや(それは) オイトクド 言うのより ちょいと、ていねんなねえ(少し丁寧なのです) 目上の人言うね(のです)。

おいとくでえ。おいとくど。おいとくわ。おいとくんな 置いておきます おいとく参照

おいとけ 1) 置いておけ。2) やめなさい。子供の行為を制する時に発する語。仕事を止めさせる時に発する語。おいた参照。

おいとこ 1) 置いておこう 2) 置いておけ 3) 止めておこう 4) 止めておけ

おいない 来い、行けの尊敬語。おいでる参照。(志、鳥久、一、松、伊) [会話] オイナイ言うな(言うのは)、来い言う事やけどなあ(ですが)、そやまあ(それはもう) 上品で 此処らん(此処らのは)、来んかれ(来い) 言うて。

おいなかされた 背負わされた おぶせる参照 負担をかけられた

おいなかされてきた 背負わされて来た。負担をかけられ

て来た

おいなかされる 背負わされる。負担をおわされる。

おいなかしたた 1) 背負わせてやった 2) 負担をかけてやった 責任をもたせてやった

おいなかしたれ 1) 背負わせてやれ 背負わせました おぶせる参照 2) 負担をかけてやれ 責任を持たせた

おいなかしたろん 背負わしてやる

おいなかしてくれえ 背負わして下さい

おいなかす(おひなかす) 1) 背負わす。2) 負担させる。

3) 値を高くする。[会話] 1) 背巾い(へ) オイナカス 言うて。オイナカシてくれまあえ(負わせて下さい) 言うて、おもとおて(重くて) よおいねんわい(負いねません) オイナカシてくれえ(下さい) 言うて、物を持たして貰うのん(の)に。2) 責任おおで(負んで) 言うて、こや(此れは) わしなするわい(私がします)、しとくわい(しておきます) 言うて すると、そんなら(それなら) まあ お前ん(に) まかすよつて(から) お前な(が) したてくれえ(して下さい)、家い(へ) 持てて(持って行って) して呉れえ 言うのを、あれん(彼に) オイナカシタ(てやった) 言うて、わがと(自分) して来ると 責任オイナカサレテキタヨオ 言うて、まあ 家へ持てて これして来て呉れえ(下さい) 言うて すると、オイナカス言うんなし(言うのです)。

おいによおぼ(おいにようぼう)【名詞】 老女房 夫より年上の妻。おいねによおぼ おいね参照

おいね【名詞】 おいねるの名詞形 1) 絆子、半纏の事。袖なしのものもある 2) 子供を背負う時に使用する着物。ねんねこ。(志(浜島、甲賀、鵜方、立神、国府、安乗)、安、多、阿、張、名) 3) 妻が夫より年上の時、妻又は夫婦にむけて使用する。(志(甲賀、鵜方、神明、立神、国府、安乗)、鳥(鳥羽)、員、津、一、松、多、上、阿、張、名、伊) [会話] 1) オイネ言うな(言うのは)、よのん(布の巾に) しといて(して置いて) 負いねんのを言うんかい(負いねるのを言うのですか)。オイネコ、子のひば(紐) したのを、オイネ言よつた(言って居ました)。ひとはばん(に) して、たすきで、こおして、百姓どこ(農村)の人ら 皆 着とよおつた(着て居ました)。オイネを。2) 子供をあれする時(背負う時) も上へ、オイネ。おいねる、3) オイネニョウボウ、おい女房。あや(あれは) オイネやなあ、言うて 年上の人貰うと。

おいねかす【動詞】 1) 背負わす(志、飯、松、多、阿、張、名、北、尾) 2) 負担させる。値を高くする。3)

責任をおしつける (松、阿、張、名、伊、尾)

おいねこ【名詞】 子供を背負う時に着る着物。ねんねこ。

(志 (布施田)) [会話] おいね言うな (のは)、よの (四巾反物四枚を横につらねる) んしといて (にしておいて) 負いねんのを (ねるのを) 言うんかい (言うのですか) オイネコ。

おいねとる 1) 背負って居る 2) 妻が夫より年上である (度) [会話] ① 猫 オイネトル言うのも 言うやんかい (言います)、猫オイネトルやんない (でしょう)。今しや (今は) 年寄りな (が) 皆 背中な (が) ぼこつとしとんのな (しているのを) ねこおおどる言うて。子供おんどる (背負う) 時も オイネトル言うしなあ、② かあさん (妻) な とおさん (夫) より 年上の時 オイネトル言うて、あやまあ (あれは) おいねやなあ (だ) 言うて。

おいねによおぼお【名詞】 夫より妻が年上のこと。姉さん女房。[会話] かあさんな (妻が) とおさんより (夫より) 年上の時、あやまあ おいねやなあ (だ) 言うて、姉さん女房の事を オイネニョオボオや (です)。

おいねる【他ナ下一】 負う 1) 子供を背に負う。おんぶする。(志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (加茂、相差)、桑郡、桑市、員、鈴市、鈴郡、四、安、津、一、飯、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) 2) 他人の仕事、責任などを引き受ける 3) 妻が夫より年上 (志 (浜島、鶴方、立神、神明、甲賀、国府、安乗)、阿、上) 4) 荷物を背負う (志 (甲賀)、桑郡、桑市、員、三、四、津、多) [会話] ① 背中へおいねんのおな (負うのを) オイネル。② なんやかや (何彼) オイネル言うて、畠え (へ) 行くと、ふごやどけ (藁で編んだ荷物運搬用の器など) を、めしふごやなあ (など)、肩へかけてオイネル。めしふご言うて、べんと (弁当) 入れる、ふごな (が) ありおったやんかい (有ったで有りませんか)。昔や (昔は)、今し (今) でも、ちっちゃいの (小さいのを)、磯人な (海女が) 負いねとるやんない (背負っているでしょう)。あれを、としみで編んで。畠やとか 磯やとか行くのな (行くのは) 底な (が) ふつかいのおを (深いのを)。

おいぼし【名詞】 甥 おいこ おいごし (志 (布施田)、員、三、鈴市、亀、安、上、阿、張、名、南、熊) [会話] オイボシ言うな (言うのは)、おいこの事やんかい (です)。おいこや、めいこ言うて、兄弟の息子をオイボシ。

おいまあしやい【名詞】 追い回し合い。おっかけあい。鬼ごっこ。(志 (神明、甲賀)) [会話] 幾ら逃げて、お

おてくんのを (追ってくるのを)、オイマアシヤイ言うやんかい (言います)。

おいまあす (おひまはす)【追回】【他サ五】 1) 追いまわす。追いかける。おいやい参照 2) 激しく使う。酷使する。[会話] ① 幾ら逃げて、逃げて、おおてくんのを (追ってくるのを) オイマアス 言うのやんかい (言うのです)。かくれんぼすんのを (するのを) オイマアスなあ (です)、あやまあ (あれ) オイマワサレテ言うて。此処い (へ) 隠れたけど (が) オイマワサレタ言うて、ぐるぐるもおてすんのを (廻っているのを)、わかいしゅな (若い衆、若者が) よさりん (夜に) になると、おおてきて (追って来て) オイマアサレテ あの男 (男に) 言うて。

おいまくられる 追われる。盛んに追われる。[会話] 仕事に追われて、追われて、オイマクラレル 言うて。

おいまくる (おひまくる)【追ひ捲くる】【他ラ五】 一生懸命に追う。おいたくる参照 [会話] おいまあすのも、オイマクんの (るのも) おいまくって。はよせえ (早くしなさい) はよせえ言うのも オイマクル言うし、仕事オイマクラレテ 尻からけぶりな (煙が) 出る言うのも 一緒やわい (です) おいすえると一緒や (です)。

おいまち【追待】【名詞】 おいてまちに同じ。帆走するのに、風の吹くのを待つこと

おいめ (おひめ)【負目】【名詞】 弱点。気持ちに負担を感じずる事柄。[会話] オイメ言うの。ひけめ、オイメ。あの人 ひけ目やなあ (だ) 言うて謝る。

おいめ (多) 一定量より少し多い事 [用例] ちよいと (少し) オイメん (に) しとくと、ええわい (してよくとよしい)。

おいもん (多) 沢山、沢山です。多いです。

おいもん (追物)【名詞】 鰯に対する鯉。鯉に対する鮫など、餌にする小さい魚を追う大きな魚。(志 (布施田)) [会話] オイモンな (が) 付いて、いれこまして来た (入って来た)。

おいもんがち【名詞】 多い者勝。物を分配する時、不公平が有っても、多く取った者に不平を言うてはいけない。(阿、張、名)

おいやい【名詞】 鬼ごっこ やいはあい (合) あらそいの訛 (志 (浜島、越賀、片田)、桑郡、一、度、尾) [会話] 幾ら逃げて、逃げて、おおてくんのを (追ってくるのを) オイヤイ言うのやんかい (言うのです)。追い回されて言うて、幾ら逃げて、逃げてもおおてくんの 追い回されて言うて (言って)。まあ、あの子に追ひ回されて言うて。

おいやまくりや 追ったり、逃げたり。ふざけあう。〔会話〕 子らら (子供達) を 畑い (へ) つれてくと (連れていくと)、畑すんな (するのは) 楽なもんで (ので)、連れてくと、オイヤマクリヤしとると (していると) ごおなわいて来て (腹が立って来て)。

おいやる (おひやる) (追遣) 【他ラ五】 追い拂う

おいやん 【代名詞】 小父さん。対称 (安、阿)

おいわい 多いです。〔用例〕 そや、ちょいと (それは、少し) オイワイ。

おいわけ (おひわけ) (追分) 【名詞】 道の二つに分かれて
いる所。三叉路、転じて二つに分ける事。(南)

おう (おふ) (負) 【他ワ五】 引き受ける

おえ 覆いなさい、被せなさい。

おえぎ 【名詞】 泳ぎ、水泳 おえぎかかん参照

おえぎかかん 泳げない〔会話〕 オエギヨオ (よく) カカン。よお、おえがんわね (泳げません)、とか よお、オエギカカン オエギカカン、泳よがん言うことを オエギカカン。

おえぎかく 泳ぐために水を掻き分ける。泳ぐ

おえぎづき (泳突) 【名詞】 泳いでいて、もりで魚を突く
こと〔会話〕 しますな (魚名が) 岩の下おんね (に
います)。それを オエギヅキする人は、そこを あじ
ろん (得意の場所に) して。

おえぎつり 【名詞】 泳ぎながらする釣り。〔会話〕 おえん
どて (泳いでいて)、あこや貝うちやって (壊して) 釣り
おった (ました)。オエギツリで。

おえぎやい 【名詞】 泳ぎ合い、泳いで早さを競うこと。
〔会話〕 あの島い (へ) 迄 よお おえぐか言うたや
(よく泳ぐか言ったら) よお おえぐ 言うたや、オエ
ギヤイしよおや (しましよう) 言うて、一、二、三、言
うて、しよおったてや (して居ました)。

おえぎよおかかん 泳げない。およぎかかん参照

おえぐ (泳) 【自ガ五】 手足を動かして水中水面を進む、
泳ぐ。(志、度)〔会話〕 あおぬいとて (て居て)、オエ
グ (のを) さかさおえぎ。

おえた 終わった〔会話〕 仕事オエタ、仕事な (が) オエタ、
言うのも有るし、仕事な (が) 終わったのも オエタ 言
うし。

おえらがた (御偉方) 【名詞】 地位、身分の高い人。

おえる (おへる) (終) 【他ア下一】 終らせる。終る。仕上
げる。オフ (終) の口語 (津)〔会話〕 オエル 仕事オ
エル 仕事な (が) おえた (終った) 言うのもあるし、
学校 卒業するの がっこ (学校) オエル 言うて。そ
の日に仕事な (が) 終わったのも、オエル 言うし、終っ

てくんのも (来るのも) まあ 終って来たんかい (来た
のですか) おわったんかい (終りましたか) 言うて、ま
あ おえて来たんよお (終って来ました) 言うて、おえ
てきたんか (終って来ましたか) 言うのもあるし おわ
って来たんか 言う事 おえてきたか。

おえん 1) だめだ。いけない。出来ない。2) 終わらない
〔会話〕 まだ 終わらん言う事を オエン。まだ オ
エンうちに (間に) 行たたれ (行ってしまった) 言うな
あ 仕事も オエンうちに (間に) 行たて (行ってい
ま) つて とか、オエンうちに どげん (どんなに) したと
か 言うて 変った事 すると。

おえんだ 泳いだ (志)〔会話〕 およぎ オエンデ (泳い
で) 来た 言うて 泳いだことを。

おえんできた 泳いできた 泳ぎ始めた。よく泳ぐように
なった。おえんだ参照

おお (麻) (苧) 【名詞】 あさの古名 麻や、からむしの織
維を紡いだ糸。緒。糸や紐など細長い物、履物につけて
足に掛ける紐。(鈴市、一、松、阿、張、名、伊、尾)
〔会話〕 オオ (緒) 言うな (のは)、あおそ (青麻) の
オオ。しろそ (白麻) のオオ。結婚式の時 ひきでもん
(引き出物) へ使うのを、しろそ 言うて、下駄の鼻緒や
なんやかや (とか色々のもの) にすんのは (するのを)
あおそ。扇子や なんやかや、むすで有るやんない (結
んで有るでしょう)。日の丸扇子やどけ (など)、糸まつ
つて (結んで) 有んな (有るのは)、しろそ 言うて、ひ
ろい やんな (広いでしょう)。そして、あおそ 言うな
(言うのは) ほっそい (細い) よれよれ みたいんしとん
のおな (のようにしているのが)。そして見てもわかる
わい (判ります)、あおそと、しろそ。

おお (を) (尾) 【名詞】 鳥獣の尻から細く伸びた部分。尻
尾。しっぽ。(志、鳥、三、鈴郡、鈴市、一、松、多、
上、張、名、伊、北、尾)〔会話〕 しっぽのこと なあ
(です)。オオな (が) はえてきた。ちょいと (少し)
まあなあ 何ん (なに) かに慣れ きって来ると、上手ん
(に) なってくると、ちょいと オオな はえてきたな
あ 言うてな。オオ 言うのは しっぽ (尻尾) のこと なあ
(です)。

おお 【感動詞】 承諾の意。そうだ、なる程、承知した。
(志 (神明、浜島、甲賀、鵜方)、鳥 (桃取 相差 国
崎)、桑郡、員、久、松、上、張、名、度、北、尾、
南)〔会話〕 はい 言う事、いんいん (はい、はい) 標準
語でなら (ならば) はい 言うねけど (言うのだが)、此
処ら どげん (どんなに) したかてや (と云えば)、オ
オ 言うて、どげんしとけよ 言うたら (しておけ言った

ら)、オオ言うて。

おお (おほ) (大) 【接頭語】 大戸、大屋根、大雑把、大西、大風呂敷、大鋏 大 接頭語、名詞につく。数量、形、規模の大きい事を表す。状態や程度の甚だしい事を表す。

おおあきない (おほあきない) (大商) 【名詞】 手広い商売。取り引きの額の大きい商売。[会話] 商売人のこと、おおあきんどや (だ) 言うて。そして よけ (沢山) 売ると、オオアキナイして来た、沢山売ることを、オオアキナイしたよお (しました) 今日は言うて。商売人な (が) こおたり (買った) うったりすんの (するのを)、オオアキナイしたとかな、おおうりやったとか (だった) 言うてな。

おおあきんど (おほあきんど) (大商人) 【名詞】 大きな売買をする人 [会話] 商売人のこと、オオアキンドや (だ) 言うて、よけ (沢山) 売ると、おおあきないしてきた。

おおあぐら (おほあぐら) (大胡座) 【名詞】 無遠慮に大きく胡座で座る事。

おおあさり 【名詞】 ばか貝。海に住む二枚貝。貝の形は蛤に似ているが、これより少し長く、貝殻はもろくて薄い、表面は滑らかで黄色であるが、同心円状のひだがあるので蛤とすぐ見分けがつく。(志、鳥、津、伊) [会話] あさりのおっきいのを オオアサリや (だ) 言うて、ちっちゃいな (のは) こやまあ あんごあさりやなあ 言うて、ちっちゃい しおくわず 言うのを あんごあさりや 言うて。

おおあし (おほあし) (大足) 【名詞】 1) 大きな足 馬鹿のオオアシ、間抜けの小足 2) 歩幅の大きい事

おおあじ (大鰻) 【名詞】 大きな鰻 まあじ (四) [会話] 沖で釣ってくんの (くるのを) オオアジな (です)。どいらい (大きい) 鰻、おきあじ言うわい (言います) こんなのおな (約30cm以上)、オオアジや (です)。

おおあじ (おほあち) (大味) 【名詞】 味のまずいこと 単純な味 (上、阿) [会話] 味な (が) うまない。何んもあじな (少しも味が) ないなあ オオアジで 言うて、うまいとなあ 何んも うもおも、へくそおもねえわれ (無い) こや (これは) あじもしやしやらものおて (無くて) 言うて。

おおあせ (おほあせ) (大汗) 多量の汗、一生懸命に働く事。

おおあみ (おほあみ) (大網) 【名詞】 大きな漁網。えびあみに対して。[会話] オオアミしよおほい言うて、さいらぶねやとかなあ (だとか)、かいどりや (だ) とか言

うて なんぼくとも違ごて さいらあみとも違ごてな。

おおあれ (おほあれ) (大荒) 天候が非常に荒れること。
ひどい暴風雨。[会話] 海な (が) 今日は こちな (東風が) 吹いて来て、オオアレやれ (だ) 言うて。海な (が) あれんのを (荒れるのを) 風な (が) よけ (沢山) 吹いてくると、オオアレや (だ)、山もあれとられ (荒れている) 言うて、海も山もオオアレやなあ (だ) 言う。

おおい (おほい) (被) 【名詞】 物がかくれるように、上にかぶせたり、まわりを囲ったりする物。[会話] 物の上に掛けるオオイ。オオイ オイかけた。オイ言うの オオイ言わんと (言わずに) オイや (です)、オイかけた言うて。オイかけとけ (掛けておけ) そや (それ) 言うて、ちよいと (少し) 上い (に) ちよつかけてなあ ひよいとかけん (掛ける) のを、ほん ちよいと オイしとけ (しておけ) まあ 言うて。

おおい (おほい) 【形容詞】 多い、沢山 [会話] こや (これは) オイワレ 言うて、何んやかや物な (が) オオイのも (多い)、こや どいらい オイやんか (大変多いです) 言うて、オイよ (多いです) 言うて、オオイ 言うのを、オイなあ (多いです) 言うて。オオイ言わんと (言わずに) よっけやなあ (沢山だ) 言う時も有るしなあ、オオイなあ (です) こや言うて よっけもろて (沢山もらって) まあ 言うて 仰山もろたよお (沢山貰いました) 言うて、よっけもらうのを ぎよおさんに、もろた言うね (貰った言うのです)。

おおい 【感動詞】 遠くの人に向かって大きな声で呼び掛けたり、答えたりする時の言葉。きわめて親しい間柄で交わす挨拶。

おおいね、おおうお 【名詞】 鰻 (三重県全域)

おおいき (おほいき) (大息) 【名詞】 ためいき、心配した時、安心した時、疲れた時、落胆した時などに大きくする息。[会話] オイキ 言うね (言います)、オイキといき 言うね。オオイキといきやなあ (だ) 言うて、まあ くたばって (疲れて) オイキ ついとられ (ついている) 言うて、溜息や (です)。溜息 言うよおなのを オイキついとる 言うて、坂 あがってくると おおた (ああ) オオイキツイタヨオ 言うて。

おおいきつき 【名詞】 いつも溜息をしている人

おおいきつく 【大息】 疲れた後の一休み [会話] なんやかや えらい (色々大変な、困難な) 事して、えらい時や (疲れた時は)、オオイキツク言うて、ああえらかった (大変だった) 言うよおな時や (時です)。

おおいぎ (おほひぎ) 【名詞】 胡座 おおひぎ、大膝の音

便か おおひざ参照〔会話〕 オオイザかいて、だくん (楽に) 座ってくれえ (下さい)、おっきい (大きく) なって、膝もわって座ってくれえ。

おおいそど (おほいそど) (大磯人) 【名詞】 1) 大漁をする海女 2) 夫婦で海女漁をする海女 (志)〔会話〕 2) オオイソド言うな (言うのは、舟人の事なあ (です)、₁₎ 海女のえらい (大漁する) 人を、オオイソド言うわい (言います)。あや (彼女は) オオイソドやなあ (だ)。₁₎ 昔しや (昔しは)、おかずき言うて (言って)、オオイソドの事を、あや (彼女は)、おかずきやよって (だから) 言いおった (言っていました)。今しん (今に) になると、オオイソド言わんと (言わずに) 海女のえらいさん (偉い人) とか、はやり言葉で言うけど (けれど)、あや (彼女は) えらいさんや (だ)、おおふねどやたら (だとか) 言うて、舟人のえらいと (よく探ると)、あやまあ (彼女は) おおふねどやよってん 言うて、おかずきも一緒。よけ (余計、沢山)、漁 採んのを (採るのを)、おかずきや (だ) 言うて。

おおいそもん (おほいそもん) 【名詞】 海岸、岩礁にあるいそもん (貝) の大きなもの、いそもん参照 (鳥)〔会話〕 おしまい (大島、沖合にある島) 行くと どいらいのおな (大きいのが) こいなのおな (のが) 今しや (今は) みせやい (店屋に) 出とるけど、いそどなとてくると (海女が獲って来ると) みせやい 皆 おろすけど (売るが)、あいな おっきいの (あんな大きいのは) オオイソモン言う。小さいな (のは) はなくさり、はなくさりみたいなのおや (のようなのだ) 言うて 小さいと。はなくさり言うな (のは)、また ちがうんでや (違うのです) ちっそおても (小さくても) あおしたやてら (だとか) はなくさりやてら ししくだめやてら (だとか) よお (よく) 似た様なもんやわい (ものです)。

おおいど (大井戸) 【名詞】 共同井戸

おおいり (おほいり) (大入) 満員 客が一杯になる事。沢山入る事。

おおいわい 【名詞】 大変な祝い事、結婚式、初午など、大きな目出たい行事。〔会話〕 昔や (は) オオイワイすると、さかだる (酒樽) こかしたんでわれ (そうだ) 言うて、結婚式や (だ) 初午や (だ)、言うて 一週間も、しよおったやんかな (して居たで有りませんか)。

おおいん 多いの (鳥、北)

おおうけ (おほうけ) (大受) 非常に評判がよく、人気がある事。

おおうり (おほうり) 【名詞】 沢山売ること おおあきな

い参照〔会話〕 商売人な (が) こおたり (買ったり) 売ったりすんの (するのを)、おおあきな したとか オオウリやった (だった) とか 言うて。

おおおじ (おほおぢ) 【名詞】 曾祖父 (桑市)〔会話〕 オオオジ おおおば 言うのは、あんたとこで (貴方所で) 言うて、あんたな (貴方が) 孫な (が) 出来とるよって (ているから) こじじ (小爺) で、おかあさんな (が) おおばあさんで、言うときいご まあ、ひこばあさんや ひこじいさんや 言う事を、ひいばあさんになると、おれげ (俺家) の おおばば言うて ひいばあさんを そしてな、わかばば (若婆) を こばばや (だ) 言うて。

おおおて おおくて、沢山あって

おおおば (おほおば) 【名詞】 曾祖母 おおおじ参照 (桑市)

おおがかり (おほがかり) (大掛) 【形容詞】 規模の大きい事。多くの費用、日数、人手などが掛かるさま。大仕掛。(志 (布施田))〔会話〕 あしか (あそこは) 交通な (が) えらいもんで (多いので)、よさり (夜) オオガカリで 土管いけたの (埋めました)。

おおかずき (おほかづき) 【名詞】 1) 大漁をする海女 (志、鳥) 2) 海女の獲物の多いこと〔会話〕 ₁₎ オカズキ 言うの (のです)。ふねど (舟人) のことを、オカズキや (と) 言うて、物凄いよお (大変よく) 取る人を、海女の えらい人 を オカズキや (と) 言うて言よおった。オオカズキとは言わん。オカズキ、オオカズキ言うねけど (言うのだが) 意味は、そやけど (そうだが) 簡単に オカズキで言うて オカズキや (と) 言うて、今しで言うて おおいそどな (です)。上手ないそど (海女) の事を、あやまあ (彼女は) オオカズキやなあ (だ) 言うて。

おおかぜ (おほかぜ) (大風) 【名詞】 強い風 (志)〔会話〕 風な (が) よけ (多く) 吹くと、オオカゼやなあ (だ) 言うて。オオカゼに 陰なしやなあ (だ) 言うて 何処い (に) 行ても、かぜなのおて (陰が無くて) 言うて、オオカゼで 何処い行ても (へ行っても) 風が当たって、かくればしよがない 言う事を。

おおかぜ (おほかぜ) (大風邪) 【名詞】 重い風邪〔会話〕 重い風邪ひくと オオカゼひいて言うて、だいしょごしよやれ (だ) 言うて、えらいなあ (大変な) かぜひいてな ごおお言うて ねつな (熱が) して、おおた だいしょごしよやったなあ (だった) 言うて、死んだり生きたりの時 だいしょごしよのかぜ ひいて言うて。

おおかせぎ (おほかせぎ) 【名詞】 大稼ぎ 大きな利益の

有る事。沢山金儲けの有る事

おおかた (おほかた) (大方) [副詞] [名詞] 1) そのうち。間もなく。2) 大部分。おおよそ。(桑市、鈴市、北、南) 3) 多分 (三) [会話] ₂₎ オオカタ、大体言う事やなあ(です)。十分のもんな(ものが) 九分位出来た言う事やなあ。オオカタ言うな(言うのは)、大体出来上って来た言うよおな言葉やよって(だから) 八分、九分まで出来たけど(けれど) 言う事やろな。

おおがた (おほがた) (大型) [名詞] 鯉船の大きいもの 100トン以上を言う(北) [会話] オオガタな(が) 入れて来た(入港して来た) 言うて、おやふね言うたり。おやふねな(が) ほおまいて(帆上げて) 行くのな(を) あや(あれ) おやふねな(が) とおられ(通っている) 言うて、ちんちんどりの(千鳥が) 浜とおる 沖に見ゆるわおやふねや(だ) 言うて 今しみたよん(今のよう)に きかいせんやないんよって(機械舟でないから) 帆まいて 行くの あやれ(あれ) おやふねな(が) 言うて、大きいのを 帆まいて しよおったもんでな(あげてして居たので) おやふねや(だ) 言うて。

おおがない (おほがない) [名詞] 大家族 (南) [会話] よけのかないな(沢山の家族です) 7人も8人も居てオオガナイ やなあ(だ) 言うて。7人や8人言うな(のは) じよおなし(あたり前で、10人言うと ちよいと(少し) 多い方やけど(だが) まあなあ 家い(に) はばからん(入らない) 程 有るわい(有ります)。

おおがに [名詞] 大蟹 がざみ わたりがに参照

おおがね (おほがね) (大金) [名詞] 多額の金銭。たいきん。[会話] オオガネモチ かねもち 言うな(のは) 普通ののおな(のが) かねもちやし(です) どいらい(大変な) かねもちの家や(は) オオガネモチやよって(だから)、オオガネ言うのは 大金。

おおがね (おほがね) (大鉦) [名詞] 大きな鉦 [会話] おおあさんな ねんぶつん(念仏に) 行くのも、オオガネうち こがねうち言うて あるやんかい。どいらい(大きいのです) かんのんさん(観音さま) の爺さんな(が) 道、道 たたきよおった(叩いて居た) あの 鉦を オオガネや(だ) 言うて。

おおがねうち [名詞] 多数の人が念物を稱える時 大きな鉦を打つ人、指揮者。おおがね参照

おおがねもち (おほがねもち) (大金持) [名詞] 多くの財産を持っている人。財産家。金満家。富豪。おおがね参照

おおがまえ (おほがまえ) (大構) [名詞] 家族の構成する

人数の多い事。[会話] あの家や(は) こがまえ(少人数) でなあ 言うて、にげな(人間が) 二人か三人より おらせんのを(居ないのを) こがまえ 言うて、おらぎや(俺の家は) オオガマエで 言うてなあ 十人もおると(居ると)。

おおがまち (おほがまち) [名詞] 体の大きい人 (志(布施田)) [会話] オオガマチ、おつきいて(大きくて) 頑固なのおを(のを) オオガマチ言うわい(言います)。

おおかみ (おほかみ) (大神) [名詞] 伊勢神宮 [会話] オオカミ言うな(のは) 神さん(様) の事でも、オオカミ、伊勢のオオカミ(大神) 言うて。

おおかめ [名詞] 狼 おおかみ 大神の義、恐れて尊稱する(大言海) (志(浜島、磯部)、鳥(加茂)、員、三、鈴市、鈴郡、松、多、上、阿、張、名郡、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] オオカメに おおて(逢って) おおかみ言うの(のを) オオカメ 言うね(のです)。

おおがら (おほがら) (大柄) 1) 体格が普通より大きい事 2) 模様の大きい事

おおかれすくなかれ (おほかれすくなかれ) 多くても少なくても。いずれにしても。

おおかわ (大皮) [名詞] 1) 藁の一部 外側にある葉、鞘 2) 樹皮の最外側のもの [会話] ₁₎ 藁のはあな(葉が)、だれとんのな(たれているのが) 有るやがな(でしょう)。その はあ(葉) を一番オオカワを すぐつたんの(取ってやります)。それを 尻拭きにすんね(するのです)。

おおかん (おうかん) (往還) [名詞] 国道などの主要道路。大通り。(志(布施田、志島、国府)、鳥、桑市、員、四、鈴市、多) [会話] 道のオオカン、大通りの事な(です)。今し(今) で言う国道やなあ(です)。広い道やなあ。細い道は せこ道やし(ですし)、国道 おおみちやよって(大道だから)。

おおき (大気) 気性のさっぱりした物惜しみしない人。[会話] あのひた(人は) オオキで なんも(少しも) 物惜しみなしん(無しに) やって(呉れて)。

おおぎ (あふぎ、おうぎ) [名詞] 扇子。あうぎ。アフ(扇) ぐの名詞形(大言海) [会話] オオギ 扇子のことをな オオギや(だ) 言うて、オオギ 目出たい すえはんじょ(末繁生) 言うて それ 伊勢音頭 言うの、せんす(扇子) 言わんと(言わずに) オオギや 言うて。

おおぎがい (あふぎがい、おうぎがい) (扇貝) [名詞] たいらぎ ひおおぎがい。櫓扇貝 イタヤガイ科の二枚貝、潮間帯の岩礁に糸足で附着する殻長12.5殻幅3.5cmの扇形の貝で殻頂の左右に耳状突起がある。殻表には、

2 4本内外の放射肋があり肋上に多数の鱗状突起が有る。普通褐色だが、黄橙、紫など美しい色を帯びるものもある、肉は食用。(志)

おおぎだこ (扇風) 【名詞】 扇の形をした風 (津) [会話] オオギダコ言うとおおぎみたよんして、つくりおったやんかい (のようにして作って居たで有りませんか)。竹 削つといて オオギタコや (だ) 言うて、風の、のぼしん (あげに) 来て 餓鬼らな 皆 麦もふみどおらやれ (だ) 言うて。わしらげの (私の家の) 畑 峠やもんで (なので) 一番たっかいもんで (高いので) 其処い風、のぼしん 来て 畑ふみどおらんしといてく。

おおきなる 1) 生長する 大きくなる。(志、鳥 (相差)、名、桑郡、北) 2) 胡座して楽に座る [会話] 1) おおきくなるのを おおた (あ) どいらいオッキイ (大変大きく) なったなあ言うのな (言うのです)。人間な (が) おつきいても (大きくても)、大根でも 人参でも こえかけたや (肥料掛けたら) どいらい オオキナツテ来たなあ言うて。2) ちんとすわつとらんと (正しく座っていないで) オオキイナランカイ (大きくなりなさい) ひざわれ 言う事な (です) そげんせんと (そんなにせずに) オオキイナレマアエ (大きくなりなさい) 言うて。

おおきに (おほきに) 【感動詞】 有難う 感謝の言葉 おおきに、甚だしく、おほいにかからの転か きんはきにの音訛オホキ ナリの連用語から。(広辞苑) (三重県全域)

おおきにすまんだなあ 有難うすみませんでした (多)

おおきもいり (おほきもいり) (大肝煎) 【名詞】 大骨折 苦労して取り持つ事 世話をする事

おおぎよし (おほぎょうし) 【形容詞】 大仰 大行 いかにも大がかりである。なんともおおげさである。業々しい。[会話] あんげな (あんな) 男なら、さらいでかき集める程あられ (あります) 言うて、オオギヨシなあ (です)。

おおぎれ (おほぎれ) 【名詞】 気性のさっぱりしている人。[会話] あの人 オオギレやなあ (だ) 言うて さっぱりと、すばすばと なんでも (何でも) こおたり (買った)、人ん (に) も 呉れたりすると。

おおきにえ。おおきん。おおきんえ。おおきんや。おおきんよ 【感動詞】 有り難う。大きに。ひじょうに。はなはだ。大いにから変化した語 感謝やお礼の気持ちを表す言葉。に・んの音韻の変化。え・終助詞。上代語。文の末尾に付いて感動の気持ちを表す。(志 (布施田、浜島、鶴方、立神、国府、安乗)、鳥、三、久、一、多、上、

阿、張、名、伊) [会話] オオキン言うな (のは) 有難お。オオキン、オオキンエ、オオキニ、うなし (同じ) 事やけど (だけれど)。オオキンエ言うな (のは) 有難おございます言う事やけど、オオキニ言うのもそおやし (そうだし)。オオキンエ言うな (のは)、ええ (良い) 付け言葉や (です)。オオキンエの、えは言わんでもええんけど (言わなくてもよいが) 付け言葉や (です)。

おおきんすまんだなあ 有難うすみませんでした (上) [会話] おおきんなあ すみませんでした言うのを オオキン スマナンドナア言わんと (言わずに) すまんなあ言う。すまんだ言う と そやまあ てえねえな (丁寧な) 言葉で、すまんなあ 言うて。そすと 澄むも澄まんもほりぬきいどやれ (だ) 言うたり、後からにごしとけ (濁しておけ) 言うたり、すまんなあ言うよつて (言うのだから) すむも すまんも ほりぬきいどやのん (だのに) 上等やれ (だ) 言う事やろな (でしょう)。ほりぬきいどやよつてん (だから) すんだねやら (澄んだのか) にごつとんねやら (濁っているのか) 判らへんやんかい (判りません)。澄むも 澄まんも 掘抜井戸や (だ) 言うな (のは) すんどんねやら (澄んでいるのか) すんどらへんねやら (澄んでいないのか) 判らん言う意味やなあ (です)。オオキンスマナンドナア オオキンスマナンドナアも 一緒のこと、おおきにも おおきんも 一緒やけど (です) おおきん言うて くいぢぎったるよん (食い切ってしまうように) 言うてな、おおきんえ おおきんや言うのも 一緒に、おおきんの言うて言う人もあるし 男と女子との言い方もあるし。

おおきんな。おおきんなあ 有難う (志 (立神、鶴方、神明、国府、安乗)、度、伊)

おおきんの 有難う (志)

おおぐ (あぶぐ) 仰ぐ 扇子をあおぐ。あおぐ参照 [会話] あおぐ うちわで扇ぐ。オオグ。

おおぐ 仰ぐ 上を見る あおぐ参照

おおぐい (おほぐい) (大食) 【名詞】 沢山食べる事、又 その人

おおぐいし (おほぐいし) 【名詞】 大食漢 おおぐい (大食) 物を多く食べる事、し、それを行う人 [会話] オオグイシ言うのも よけ (沢山) 食べる人、よけ (沢山) 食べる言う事やわい (です)、人並はずれて食べんねやろのお (食べるのです)。

おおぐち (おほぐち) (大口) 1) 大言壮語。(阿、張) 2) おしゃべり 3) 冗談 [会話] 3) オオグチ言うて、冗談をよけ (沢山) 言う事を、オオグチこいて (を言つて) 言うやんかい (言います)。大口噛みやなあ (だ)

言うやんかい (言います)。

おおぐちかみ。おおぐちがみ (大口嚙) 【名詞】 ほら吹き
[会話] よけいなこと言うのを オオグチカム言うて、
オオグチカミや (だ) 言うて。有る事 ない事をなあ
しゃべりまくるやんない (よく喋るでしょう)、それを
オオグチカミ言うね (のです)。ほらふきや (です)。有
ること無いこと べらべらべらべらと しゃべつとんの
を (喋べっているのを) オオグチカミ言うの。大きな事
ばっか (ばかり) 言うて 自慢みたよな (のような) 話
して。

おおぐちこいて ほらを吹いて、冗談を言って

おおぐらい (おほぐらひ) (大食) 【名詞】 食物を沢山食べ
る事。又その人。(張、阿、名、南) [会話] おおぐい
しや (だ) 言うて、オオグライシ言う、よけくうのを
(沢山食べる) オオグライ。おおぐいし言うのも オオ
グライ言うのも 一緒や (です)。よけたべる (沢山食
べる) 言う事やわい (です)。人並はずれて、たべんぬ
やろの (食べるのでしょう) あやまあ (彼は) オオグ
ライシで言うて、汚い言葉やわい (です) オオグライ言う
な (のは) よけ くろて (沢山食べて) 言うやんかい
(言います)

おおぐらいし (おほぐらひし) 【名詞】 大食漢 おおぐら
い参照 (志、鳥 (答志))

おおぐわ (大鍬) 【名詞】 1) 大袈裟な事のみ言う人。大
風呂敷。2) 土方の使用する大きな鍬。[会話] 1) おお
風呂敷広げる (ほらを吹く、大袈裟にものを言う) 言う
事を、オオグワ言うね (言うのです)。2) 畠打つ (耕
す) のもオオグワ言うて (言います)、どいらい (大
変) 大きな鍬が有りよったわい (有りました)。おつ
きいもんで (大きいので) 1) それを例えて オオグワ言
うて、おつきい もの言う事を、オオグワ言うなあ (言
います)。ちょいとの事でも おつきい言うてすんの
(するのを) オオグワ言うて。ちょいと (少し) の事で
も、さも (いかに) おつきそおに言うのをなあ。2) オ
オグワ言うな (言うのは)、だいがおつきいの (大分大
きいのです)。どいらい 鍬な (が) 有りよった (有
りました)。どいらい きいのおな (木でつくった) そ
の先に鉄な (が) 付いとて (付いていて)、くわがら
(鍬柄) 言うて、きい (木) の、かね (金属鉄) だけ
鍛冶屋い (へ) 行くと 外してもろて (もらって)。く
わがら言うて 昔の鍬は木のおな (のが)、ええ
(柄) に付いとて (付いていて)、かねだけ 鍛冶屋い
(へ) 行くと叩いて貰うよお、はずすよおんなったた
(ようになっていた)。そんな (それが) どいらい鍬や

てや (です)。昔、黒鍬言うて、今し (今) の土方を、
その黒鍬の持つな (持つのは)、わしらの よお振やげ
ん (よく振りあげられない) よおな、おつきいの。そや
もんで (だから) オオグワ言うて ものおつきい 言う
と、オオグワ言う言うてなあ。言う意味やる思うね (だ
から思います)。

おおぐわゆい 【名詞】 ほら吹き [会話] オオグワユイや
(だ) 言うて、あや (彼は) まあ おおぐわで あんな
(彼の) 言う事 ちっちゃお (小さく) 聞いときゃ え
えんどお (ておけばよろしい) 言うて、大風呂敷広げて
まあ 言うやんない (言うでしょう) あや (彼は) まあ、
ゆたんやれ (大風呂敷だ) 言うてなあ、よけ (あまり)
自慢するとなあ。

おおげ (あふげ) 煽げ [会話] あおげ 言うの オオゲ。
おおがんかれ (ぎなさい) 言うて、おおがんかれ 言う
のを。

おおごつお。おおごつお 【名詞】 1) 大御馳走 (志
(布施田)) 2) 乳児が大量の排便を、おむつの中にす
る事 [会話] 1) 今日は まあ オオゴツツオやったな
あ (だった) 言うて、どいらい (大変な) ごつおやな
あ (だ) 言うてな。てこねでも ごもくでも いろいろ
のもんな (物が) 沢山有るのを おおた こやまあ (こ
れはこれは) オオゴツツオやなあ 言うの (のです)。
おおごちそお言わんと (言わずに) オオゴツツオ言うて、
ごちそお 言わせんね (言わないのです)。ごつお言
うて。

おおごと (おほごと) (大事) 【名詞】 大変、大変な事
大事件 (志 (布施田)、南)

おおごとや (騒) 大変なことだ 大争動になるぞ や、は、
だの音訛 [会話] おおた ま こや (これは) オオゴ
トヤんか (でないか) 言うて、仕事でも しのくい (難
しい) 仕事ん (に) なったりすると、おおた こやま
大仕事やれ、オオゴトヤ 言うて。大変な事やし (です
し)。もお一つ 人に聞かれたら オオゴトヤ 大変や
(だ) 言う事を、そいなこと 言うたら ま、オオゴト
ん (に) なつてくれ (くるぞ) 言うて、おおた オオ
ゴト やったなあ (だった) 言うて 風な (が) よけ
(沢山) 吹いて ま かあら (瓦) 取られたて (てしま
って) おれげや (俺家) オオゴト やったれ (だった)
言うて。

おおさおおさ ある程度の所で済ませるさま。簡略にする
さま。八分どおり。程々。(志 (布施田)) [会話] オオ
サオオサにしとけえ (しておきなさい)。そげな しち
むずかし (そんなに面倒な) 事せんと (せず)に、オオ

サオオサにしときやええねない（しておけばよいのです）。大概しときやええのん（大体して置けばよいのに）言う事やわい（です）。オオサオオサ言うたらなあ（言うのは）、大雑把んしときや ええ事に（よい事に）、あげん（あんなに）こまごまとして 大概にしとかんかい（して置きなさい）。そんな事オオサオオサに。オオサオオサに出来やせんねてや（する事は出来ないのです）、こんな（これが）。

おおさかごえ（あぶさかごえ）【名詞】 逢坂峠を越えて伊勢に行くこと [会話] 昔 山田い 行くの オオサカゴエ（逢坂越）を せんならんでなあ（しなければならなくて）。

おおさかみち【名詞】 逢坂道。伊勢へ行く道。[会話] 昔、山田い（に）行くの（のは）オオサカミチを越えな（なければ）行かれんで、オオサカミチを歩いて。

おおざけ（おほざけ）（大酒）【名詞】 酒を過分に飲む事、又その人。

おおざけくい【名詞】 大酒家 [会話] 酒呑みの 看板（名前）売っとなねやれ（売っているのだ）酒呑みでものすごを（大変）オオザケクイやでえ（です）言うのやなあ（です）

おおざけくらう 大酒する

おおざけくろて 大酒して

おおざけのみ（大酒飲）【名詞】 大酒家、過分に酒を飲む人

おおさっぱ【名詞】 大きなさっぱ船 渡し船 [会話] かつおぶねのこと さっぱや（と）言うて、オオサッパで言うて どいらい（大きい）船を。

おおざっぱ（おほざっぱ） 考え、性格が大まかで細かい所まで注意が行き届かないさま。粗雑。おおまか。細かい点にこだわらず全体を大づかみにするさま。オオタバ（大東）と同根（大言海）（志（布施田））[会話] おおさおおさとうなし（同じ）。言い方が違うけどなあ（けれど）。意味は一緒や（です）オオザッパも。

おおさら【名詞】 お手玉（志）

おおじいさん（おほぢいさん） 曾祖父（鳥、鈴市、南）

おおしお（大潮） 海の干満の差の甚だしい時。干潮の大きい時。陰暦の月の朔日と十五日を大潮の極とする。（志）[会話] オオシオ言うのは、潮のにちひき（みちひき、満干）で、ひいて潮（一日潮）、ふつか潮（二日潮）、みっか潮（三日潮）、言うやんない（言うでしょう）、いつか潮（五日潮）、むゆか潮（六日潮）になると、オオシオやよってん（だから）言うて。潮な（が）、よお（よく）干くよおん（ように）なって来た時を、一番

よお 干く時を。ついたちな（一日目、初めの日）がひいて潮、ふつか潮、みっか潮言うて（言って）勘定してくんや（して行くのです）、とおか潮ん（十日潮に）まであって、十日潮から ひいてがれ、ふつかがれ、いつかがれ（五日がれ）まであんねよって（あるのだから）、そやよって、むゆか（だから六日）、なぬかな（七日に）オオシオンなってくね（なっていくのです）。小潮言うのは、ついたち、ふつか、みっか（一日、二日、三日）が初めのうちな（間が）小潮で、中んなんと（真ん中位になると）オオシオ。しまい（終わり）十日ごろん（とうか頃に）なると、かれやよってん（だから）、十日から ひいてがれ、ふつかがれ、みっかがれ、よっかがれ、いつかがれ、それから ひいて潮、ふつか潮言うて なっくんやんかい（なっていくのです）。十日迄潮で、五日（いつか）までかれ。オオシオの時の旧（旧暦）の三月三日は、あまなきじお。淡路島へもかち（徒）渡る言うほど、潮な干き切ってく（て行くのです）。

おおしき（おほしき）（大敷）【名詞】 大敷網。大型の定置漁網。垣網とふくろ網からなり、沿岸の魚道に垣網をたて、それにより沖合から誘導した魚を袋網に入れて捕る漁法。（津、南）

おおしけ（おほしけ）（大時化）【名詞】 1）暴風雨。暴風雨のため海がひどく荒れる事。（飯、多）2）不漁。

おおじじ（おほぢぢ）【名詞】 曾祖父、祖祖父。（志（立神）、鳥、南、熊）

おおじゃくし【名詞】 釜の御飯を御櫃に移す大きな杓子 [会話] めしじゃくし オオジャクシ言うて 釜から御櫃へ移すの オオジャクシ

おおじょ（おうじょう）（往生）【名詞】 1）死亡する。2）困ること。閉口する事。（志（布施田）、張、阿、北）3）あきらめておとなしくする。観念する。[会話] 1) オオジョした言うな（言うのは）、死んでた（死んでしまった、亡くなってしまった）言うこと。オオジョした言うてなあ（言って）、2) おおた（ああ）今日は失敗して、オオジョしたよお言うてな。死んでく（死んでいく）事も オオジョやし（ですし）、最後の事な（が）オオジョやなあ（です）。仕事しても失敗するとなあ、こやまあ（これは）オオジョやなあ（だ）言うて、よお言うやんかい（よく言います）。オオジョしたよお言うて、えらかったりすると（困難であったりすると）、しにくうて（しにくくて）オオジョしたれ（しました）。

おおじょいた 1）死んだ 2）困った 3）疲れた

おおじょいたしてたら 1）困ったら 2）疲れたら

3) 死んだら
おおじょいたしとられ 1) 死んでいる 2) 疲れている
 3) 困っている
おおじょいたす 1) 死んだ 2) 困った 3) 疲れた
おおじょこいた 1) 困った 2) 疲れた 3) 死んだ
 [会話] 2) 仕事してくたばった (疲れて) オオジョコイ
 タ言うて、言うのもあるし、3) 死んでた (でいった)
 のも おおた あの人 オオジョコイタんてわい (そ
 おた) 言うて、1) 困った時なあ (です) ま あれん (彼
 に) こげな (こんな) 事言われたとか しやれて (され
 て) とか言うて、オオジョコイタまあ言うて、ものすご
お困った事をなあ、そいな事言うの (のです)。疲れた
 と 困ったと 死んだと 三つある訳や (です)。
おおじょした。おおじょする 1) 困る 閉口する (桑郡、
 鈴市、安、阿) 2) 死ぬ 3) 疲れた
おおじょたい (おほじょたい) (大所帯) 【名詞】 一軒の家
 に多くの人が生活している事
おおじょやれ 大変だ。困った。[会話] あんな (彼の)
 口ん (に) かかったら オオジョヤレ言うて、言い曲げ
られたり (言い伏せられたり)、まるけられたりすんの
を (まるめられたりするのを)。
おおじんしょ (おほじんしゃう) (大身上) 【名詞】 所有し
 ている土地、財産、資産などが多いこと。
おおすじ (おほすぢ) (大筋) 【名詞】 1) 物事の内容の大
 体の所。あらすじ。大略。2) 太い血管 [会話] 2) オ
 オスジな (が) 切れたんてわれ (切れたそおだ) 言うて。
 1) オオスジ言うので だいたい言うのを、オオスジで
ちょいと (少し) おせてもらや 判られ (教しえてもら
 えば判ります) 言うて言う時なあ (に)、2) そすと も
 お一つ オオスジ言うな (のは) このくびたま (頸) の
 このすじ オオスジな (が) 張って くびたまの、オオ
 スジな (が) 言うて 頸 よおねじるわい (よく捲ります
 す)。
おおぜ (おほぜ) (大勢) 【名詞】 沢山の人。多人数。おお
 ぜいの末尾の省略 (志 (鶴方、立神、国府、安乗)、三、
 鈴郡、鈴市、伊) [会話] オオゼ言うな (のは) おおが
ないなあ (大家内です)。人間な (が) よけ (沢山) 寄
 った時 オオゼ寄って。人を オオゼたので (頼のん
 で) 仕事した言う時もあるし、人がよおけ (沢山) 居る
 時を オオゼで言うて、おおぜい言わんと、いを言わん
 と おおた オオゼで言うて、今日は オオゼで ほん
 (本当に) どここかも、いっぱいやよお (だ) 言うてな
 あ。
おおそおじ (おほさうち) 【名詞】 大掃除 盆の前にする

掃除 [会話] 家 今日まあ すすはきや (を) したら
なはざんな (してやらなければいけない) オオソオジ
 やなあ 言う時もあるし、祝い事な (が) 有って ちょ
いと (少し) オオソオジもしとかなはざんわれ (してお
 かなければいけない) 言う時もあるし (有ります)。オ
 オソオジと すすはきとは 盆と正月で違う、すすはき
わなあ (は) しょんがつ (正月) 前ん (に) するし、盆
 は オオソオジやわいな (です)。正月の オオソオジ
すんのは (するの)は すすはきや (です)。正月迎える
 ためん (に) すすはき 13日しょんがつ (正月、十二
 月十三日)迄 すすはきしたらな (してやらなければ)
 言うて 言よおったね (言て居たのです)。13日しょ
んがつ 言うて、つぼきを作り始めたり 何んか正月の
 行事のことを しいはじめる (し始める) 12月の13
 日ん (に) になると ちょいと (少し) しょんがつの 行
 事を 初めてする言う事やなあ (です)。13日正月な
 (が) 来たよつてん (から) 言うて、それまで、すすは
 きもしたらなはざんなあ 言う。しょおったわい (して
 居ました) 13日正月までせんと (せずに) 居る家 な
いなあ (ありません)。たいがい (大体) 8日か10日
な (が) しまいごろやった (終り頃でした)。正月の
はじまり (始め) の事を ゆわよおったんやろな (祝っ
 たのでしよう) 13日正月や (だ) 言うて。そしてちょ
いと (少し) した ごっつお (御馳走) する家も あよ
おった (有りました)、いちがいの (真面目な) 家は。
 15日正月 言うのは 正月すんで (過ぎて) から 1
 5日のかゝばしら 言うてな。

おおそおど (おほさうど) (大騒動) 【名詞】 大勢の者がひ
 どくさわざたてる事。大変な事件やめごと。そうどう
 の末尾の省略 (志 (布施田))

おおぞらし 【名詞】 おおざっぱ (大雑把、前出参照) に済
 ませる事。(志 (布施田)) [会話] オオゾラシ言うて、
なんもかも頓着なし (何も彼も気にしない)、雑把なこ
 と。雑把で頓着しやせん (しない) 言う事やなあ (で
 す)。

おおぞん (おほぞん) (大損) 【名詞】 大きな損失、大きな
 損をすること。

おおた (大田) 【名詞】 大きな田 (志)

おおた (あふた) 会った 出会った 面接した (桑郡、桑
 市、員、鈴市、安、松、伊、尾、北)

おおた (あうた) 合った。合致した。一致した。(張)

おおた。おおたまあ 【感動詞】 驚いたり感心したりした時、
 発する語。まあ。これはまあ。感動の驚きの気持ちを表
 す声。おお。(志) [会話] オオタ。この子な (が) す

かん (好かぬ、嫌いだ) 見よまあ (見なさい) 言うてなあ。何や彼や、よおせんと (出来ないと)、オオタ よおせんわ、むずかして (出来ません難しくて) 言うて。オオタエレ言うて 何でも見ると オオタ言うて、オオタエレ、これ見よまあ 言うて。あれは、なんかちよいと (何か少し) ほか (他) のもん (物) と変わったよおな時に、オオタ言うよおななあ (言うようです)。ここに薩摩芋があっても、その形が変な形しとるとか言う時に オオタ言うて オオタエレ この芋、可笑しい。ちよいと (少し) 可笑しなあ思う時に 使うよおな言葉や (です)。不思議なよおな、変わった事を あんで (あれで) 言うんやろな (言うのでしょうか)。男の人はよけ使わせん (多く使わない)。おなご (女) の言葉やなあ (です)。おなごな (が) よけ使うなあ (沢山使います)。男の人ら そんな事言わせんもんなあ (言いませんから) オオタエレ、こんな しのくいねんなあ (此れがしにくいのです)。こいな (こんな) 事すんのも (するの) も、どいらい (大変) オオタエレまあ しのくいわれ (しにくいです)。ほんおとつしや (本当に嫌だ)、ほん (本当に) を幾つも。ほんおとつしや、ほんまあ言うて。

おおたいやらし 1) 嫌だ 2) 嬉しい時にも使う。

おおたいぎ (大太儀) 【名詞】 大変疲れた。大変困った。

[会話] よけ (沢山)、骨折った時ん (仕事した時に)、えらかつと (疲れると) オオタイギでござった言うて。

おおだりよ (大太漁) 【名詞】 大変な太漁

おおたえれ【感動詞】 驚いたり、感心したりする時に発する声。おおた参照 “た” 助動詞古語の完了の助動詞たりの連体形たるからの転。疑問、質問を持ち掛ける事を表す。“え” 終助詞。文の末尾に沿えて、感動の心持を表す。間投助詞。文末について質問、反問も意を表す。念を押したり、語気を強めたりする気を添える。呼びかけを強める。“れ” 助動詞れる。受け身。可能。自発尊敬完了の助動詞。“り” 動作、作用がすでに終わって、その結果が存続している事を表す。動作、作用が引き続き行われている事を表す。動作、作用が完了した事を表す。

おおたけれ【感動詞】 ああ。驚いた時、失敗した時に発する語。おおたえれに同じ [会話] びつくりして (驚いて) おおた (ああ) 器量なわり (が悪い) よお 見よ (見なさい) おもた (思った) 時ん (に)、わり言われやせんし (悪い言えないし) オオタケレ言うて。失敗した時でも言うなあ (言います) オオタケレ まあ みよおな (変な) 事 したたんよお (してしまったので) 言うてなあ。えらい (大変な) 事したたんよお 言うて、

オオタケレ言う時も有るやんかい (有ります・有るで有りませんか)。オオタケレ 此のもん (物) 見よまあ (見なさい) 言うてなあ びつくりしたおりんなあ (驚いた時に)。

おおだし【名詞】 強い西風 (志)

おおたすかん 嫌だ (志 (畔名)) [会話] オオタスカン この人な (が) すけべ (助平) で言うて。すけべな事言うて 若いときやな (時は) きろてなあ (嫌らって)、おおた この人 すかざるやわあ (嫌いな人だ) すけべで言うて、すけべな事言うて どいらいきらよおって (大変嫌らって居て)。この時に オオタスカン言うのは きらいやわあ (だ) 言うて この人な (が) すかんわあ (嫌やだ) 言うて、きらいな事を すかん言うの (です)。おおた きらいやわあ (だ) 言うて 言う時もあるけど (あるけれど) オオタスカン言うて。きすとかんすと 一度に来たや (ら) かんすとめんと きすとめた言よおったもんなあ (言っていました)。すかんのと すきなのおと (のと) 二人来たや (ら)、すかんの (のを) かやして (帰えてして) すきな (のを) とめた言うの、かんすかやして きすとめた 言うの、好きなの (のを) 泊めて 好かん (のは) 帰やした (帰えした) 言うの (のです) 反対言葉や (です)。

おおたてくれえ 1) 逢ってやって下さい 2) 追ってやって下さい

おおたてくれるかい。おおたてくれるかな 1) 会ってやってくれますか 2) 見合いますか [会話] おおたる参照

おおたてくれるかい。おおたてくれるかな 追ってやってくれますか。おおたる参照

おおたてたん 逢ってやって下さい

おおたてのけた 逢ってしまった。都合の悪い人に逢ってしまった。おおたてのける参照

おおたてのける 逢ってしまう。都合の悪い人に会合わす。

[会話] おおて (逢って) わり (悪い) もん (者) に、オオテノケルと、丁度のもん (具合の悪い人) に、オオタテノケタまあ。

おおだま (おほだま) 【名詞】 1) 大玉。真珠の大きいもの。2) 大だま。魚を捕る大きな網。たも網の大きい物 [会話] ② じょおし (漁師) の人らも、オオダマ こだま (小網)、言うて、大きなきい (木) の棒して、それい (それへ) 道具入れて、こだま言うて、ひょいと捕んのあ (捕るのです)。

おおたり 逢ったり

おおたり 追ったり 追い払ったり

おおたる 1) 追い払う (志、北) 2) 会ってやる 面接してやる 3) 麦など発芽した時に土を被せる、覆う。

[会話] 2) あの人の オオタテクレンカイ 言うやんかい (逢ってやってくれませんか言います)。見合したりする時でも あのひと よさや (夜に) オオタテクレンカイ 言うて、はしわたし (仲介) する人な (が) 言うのもあるし、あのひとに 用事な (が) あって ちょいと (少し) よさや オオタテクレルカイ (くれますか) 言うて、あう言う時は オオタル言うんなし (言うのです)。3) そして 麦 蒔いても ふたすのを 麦 オオタテくれ (下さい) 言うて、麦を、土かけんのな (掛けるのを) 種 入れ (といて (蒔いて) 土かけんの オオタル 言うの、種 いれたよって (蒔いたから) オオタテくれ (下さい) 言うて、土かぶせたれ (被せてやれ) 言うのを オオタレ言うね (言うのです)。人に逢うのは オオタル。1) 鴉 飛んで来たよって (から) はよ (早く) オオタレ 言うて、追う (の) を オオタレ 言うて。鴉 (が) とまっとられ (止まっている) オオタレ 言うて この時に オオタレ 言う時は 追い払え、そすともお一つ 逢ってやれ 人と人と逢うのをなあ、そして 麦い (へ) 土かぶせんのも (被せるのも) オオタレ 言うの な (のです)。オオタルは 逢ってやろ 追い払う 言うのも オオタル オオタレ オオタル、鴉 オオタル おうとか、犬 追うとかなあ 雀 オオタレとか言うて オオタレ 言うな 追い払え 言うの。

おおだる 1) 背負ってやる 2) 欠損などを補償してやる [会話] 1) なんやかや人の仕事な 肩代りした時も、おんな (俺が) おおだられ言うやんかい (言います) おぶのは おおだれ言うやんかい (言います)。おんだれ 言わんと (言わずに) おおだれ 言うて オオダル 言うので 2) 欠損埋める 肩代り すんのを (するのを) オオダル 肩代りしたる (してやる) おばされたよ 言うて。

おおだるわ 1) 背負ってあげます 2) 負担してあげます [会話] 1) だれ (どれ) オオダル おばれえ (負ばれなさい) 言うたり、おばれてこい言うたり。

おおたれ (追) 1) 追っ払ってやりなさい。おおたる参照 (志 (浜島、鶴方)) 2) 追い払いました

おおたれ (会、逢) 1) 会ってやりなさい。おおたる参照 2) 会いました。一致しました。

おおだれ 【名詞】 家屋の軒に差し出した庇。つけたし参照 [会話] 軒い (へ)、オオダレ みたよんして (のようにして)、ちょいと (少し) さしかけして もらおやんかれ (貰いましょう)。

おおだれ 1) 背負ってやりなさい 2) 背負いました

おおたれてや 1) 逢ってやりなさい 2) 背負ってやりなさい 3) 追ってやりなさい

おおたろ (おほたろ) (太郎) 【名詞】 大きい、大きいもの たろ: 太郎、長男の称。最もすぐれたもの。最も大なるものに敬称として添える。(志 (布施田)、度、北、尾、南、熊) [会話] オオタル 言うな (のは)、おつきい (大きいのです)。おつきい事を、ものすごいおつきいのおを (のを) オオタル。後で たろ付けんのは (付けるのは)、付け言葉。

おおたろ 1) 面会してやろう 逢ってやれ おおたる参照 2) 追い払ってやろう 追い払え 3) 背負ってやろう 背負ってやれ

おおちん 有難うの幼児語 おおきに参照 (志)

おおづかみ (おほづかみ) (大掴) 【名詞】 【形容詞】 大体の見当をつける事。大略。おうよそ [会話] オオヅカミ 言うな (のは)、物をおつきい (大きく) 掴む 言う事 やけどなあ (ですが)、ものを言う のでも、オオヅカミ 言うて、言う時 も あるけどなあ (有るが)。大雑把も よお (よく) 似た事や、一緒の意味や。そやけど (然し) この辺の人 ら (達) は、幾通り も 言うもんで (ので)。

おおづけ (おほづけ) (大付) 【名詞】 不漁。おおつけ、大付の転か。つけは味噌をつけることの意。おおしくじりをする事。失敗。[会話] オオヅケ 言うたら、ほんちょいと (ごく少し)、しるしだけ 有った言う事や。さっぱり 言うとなんも (なんにも) 無かった言う事や (です)。

おおづけななかつた 気配が無い 何も無い

おおつごも (おほつごも) 【名詞】 大晦日 (志、鳥、鈴市)

おおつごもり 【名詞】 大晦日 (上、阿、張) [会話] おつごも 言うんなあ オオツゴモリ を。おつごもに あらくさう して (豆撒く) 言うて、あらくさ せなならんの (しなればいけないうのに) おつごもやのん (だのに) 言うて、今しやまあ おかた (大部分) 節分に するやんかい (します)。そやけど、わしら じょおろくん (いつものように) する 言うて じょおく (いつも) おつごもや (です)。

おおづめ (おほづめ) (大詰) 【名詞】 1) 年末。年の暮。2) 終わり。[会話] 2) オオヅメ 言うのは、最後になつた言う事や なあ (です)。1) 年の暮も、オオヅメ ん (に) なつて言うて なあ。しまい (終わり) の事を、オオヅメ や言うて、芝居でも、オオヅメ やなあ (だ) 言うて。

おおて (おうて) 1) 追って (志) 2) 会って (あふて)

(志、伊) 3) 合いました。一致しました。4) 多くて(志)

おおで (おふで) 背負って [会話] 借金オオデ 弱ったよお言うて。子供を おぶのも、オオデ言うし、借金の肩代りしてまあ うけにん (保証人) になっとて (なっていて) 借金オオデ 弱ったよお (困った) 言うて。

おおでき (おほでき) (大出来) 【名詞】 【形容詞】 思いのほかのよい出来上がる。上等の出来上がり。

おおてく 1) 追って行く。2) 会って行く。面接して行く。3) 一致する。

おおてく 背負って行く [会話] 背負ってく (て行く) 言うのなあ (言うのです)、おんでいる事を おんだオオデク言うて。

おおてくれえ 1) 逢って下さい 2) 追って下さい、追ひ拂うと、後を追うとある

おおてくれえ 背負って下さい

おおてくれやせん 1) 逢ってくれない 2) 追ってくれない

おおてけ 追って行け。追っぱらえ。[会話] あんな (彼が) 来たけど (が) 此処い (に) 来ると 邪魔ん (に) なるよつて (から) オオテケてや 言うて。

おおてけ 会って行け。

おおでけ 背負って行け

おおててくれえ 1) 逢って行って下さい 2) 追って行って下さい、追ひ拂うと後を追うとある。

おおでてくれえ 背負って行って下さい

おおても 追っ払っても

おおても 多くても

おおでも (おふでも) 負んでも。背負っても。[会話] こお (子) オオデモ 尻 かかえなはざんわれ (支えなければ駄目だ) 言うて。

おおてや はいと言うのに。承知した ああてや参照

おおと。おおど (おほど) (大戸) 【名詞】 1) 家の表口に ある大きな戸。(張) 2) 家の入口。表口。玄関。(志 (布施田、浜島、甲賀、鶴方、神明、志島、国府、安乗)、鳥、度、北) [会話] 2) オオトへさがらかしてとけ (吊るしておけ) 言うて。魔除けん (に) になると、オオトへ下らしとけ言う (言います)。はいりくち 入口やなしん (で無くて) 座敷。昔や (昔は) 座敷のさきん (先に) 入るとこな (所が)、ありおったわい (有りました)。あがりたてな (土間から上がった所が)、オオトグチや (だ) 言うてあるでしょお。そおすると、こちらに オオト言うて、ちょっとした部屋な (が) 有って、おもて (表) 言うて、きんこ (芋煮切干) 炊くと、きん

こ置いたり、何か道具置いたり、そこの入口をなあ、オオト言いおった (言っていました)。座敷と 表の先や (先に)、あったなあ (有りました)。あしこ (あそこ) 言いよった (言っていました)。勝手 (裏口) の庭 入る時は、こにわ (小庭) 言うて、座敷の先に、オオト言うのな (のが) 有って、表な (が) あっても、昔や、あしこな (昔はあそこが) 土間やつて (であって) 芋つぼな (芋を貯える所が) 表ん (に) 掘ってあったやんない (でしょう)。あしこから入りおったもんで (入って居たので)、オオトグチ言うて、オオトへ貼つとけ 言うて、魔除けやどけ (など)、お札貰うと、オオトグチ張つとけ (張っておけ) 言うて。小庭は じょおく (いつも) 出たり入ったりするとこ (所)、オオトグチ言うのは お客さん。

おおど 終了

おおとぐち 【名詞】 玄関 (志 (鶴方)、鳥、多、阿、度、南) [会話] ちっちゃい (小さい) 庭は 小庭や (と) 言うて、玄関口や (とか) オオトグチや (だ) 言うて。そして したい (下座へ) まわると かってぐちや (です)。勝手の方から入ってくんの (くるのを) かってぐちい (へ) まわれ言うやんかい (言います)。そして今しの家、ないけど (ないが) こにわ 言うて とおな (戸が) 一枚。二枚すんのを (するのを) オオトグチや (と) 言うて そして こにわや (だ) 言うて ちっちゃい (小さい) 庭な (が) あよおったわい (有りました)。昔の家は オオトグチや (とか) 小庭や 勝手口や (だ) 言うて入って来るとこ (所) を。

おおどかい 終わりましたか。

おおどこ (おほどこ) (大所) 【名詞】 1) 大家。資産家。(志 (布施田)) 2) 大きな場所。広い場所。3) 概略あらまし [会話] 1) オオドコ言うのは、かねもちや (金持家、お金を多く持っている家) のうち (家) で、財産のよけ (多く) ある家も、あのうちや (家は) オオドコで言う意味もあるし。2) 畠でもよけあると、一斗播きも ひととこん (一か所に) 有ると、あすこ、オオドコ言うて 大きいもん (物) な有る所を、あすこあ (は)、オオドコやよつてんなあ (だから) 言うてなあ。

おおどした 病気が治った。流行がすんだ。終わった。[会話] おさまってきた 言うことやなあ (です)。風邪引きも まあ たいがい (大体) おさまってきた言う。オオドシタかして よけ (沢山) 患者な (が) 来やせん あ (来ない) 言う時に使うのなあ (のです)。おおど、流行が終った言うのな (が) 意味やなあ (です)。一人の人間が な おった言うんやなしに (言うのでなくて)

流行な (が) たいがい おさまって来た 言うことやな
あ。人で人で ごっちゃかえしとたや (混雑していた
が) それでも (それでも) オオドシタなあ 言うやんか
いな (言います)。完全に終わった言う訳やなしになあ
(でなくて) 終りかけて来た言うよおな意味やなあ。

おおどしより (おほどしより) (大年寄) 【名詞】 大変年
齢のいった人。大老人。[会話] オオドシヨリの人な
(が) 言うたの (のを) 聞いた事なあんね (が有りま
す)。オオドシヨリと、こどしより (少し老人) と、言
う事な (が) 違とて (違っていて)。

おおどて 負んで居て。背負って居て。[会話] オオドテ
重たいわれ (です) 早よ、えいえせえ (早く歩きなさい)
ひとばかり (少しばかり) 言うて。

おおとにわ (大戸庭) 【名詞】 玄関。おおと、おおとぐち
に同じ。[会話] オオトニワ言うな (のは) 二枚で、小
庭言うな (のは) 一枚戸で、小庭から おおかた (大
体) 出入りしよおったわい (して居ました)。オオトニ
ワは おつきい時やなきや (大きい時でなければ)、使
わんよおなかつた (使わないようでした)。

おおとる 1) 追っている。おわえる。追う。逐う。はな
れて行きつつあるものに行きつくべく移動する。追つか
ける。人を慕ってそのもとに行こうとする。動物などを
その場から移動させる、追いはらう、追い立てる。2)
合っている (物と物)。会っている (人と人) [会話]
2) オオトル言うのは、人間な (が) 人と人が会うとか、
きれときれ (布) が、合うの言うんやし (言うのです)。
1) オオトル (追) 言うな (のは)、おおて来る (追って
くる) 言う事。わしらよお (私はよく) 追われてなあ言
うやんかな (言います)。私ら若いこら (頃は) 男のこ
ら (男の人) に追われおった (て居た)。よっぼど (よ
ほど)、べっぴんさんやったんや (美人だったんだ)。

おおどる 背負って居る [会話] こお、おんどる (子背
負っている) おぶとる (ている) 言うのを オオドル
背中な (が) 曲がととと (ていると) 猫オオドル。

おおどろば (おほどろば) 【名詞】 大泥棒 [会話] よけ
(沢山) 盗む。おつきいもん (大きい物) 盗む ひた
(人は) オオドロボ やどよ (だ) 言うね (言うので
す)。ちよいちよいすんの (少しするのは) あや (彼
は) こそどろや (だ) 言う。

おおなか (おほなか) (大仲) 【名詞】 仲間全体。大仲間。
共有。(志 (布施田、甲賀)) [会話] オオナカ言うと、
みんな (皆) が仲間で、此処におる (居る) 人らが、み
んなで 仲間割りすんのを (するのを) オオナカで引い
とけ (ておけ) 言うて。そして、皆で分けんうちに (分

けない間に、時に)、オオナカから引き抜いとけ (てお
け) 言うやんかい (言います)。仲間の内から 分けた
らんうち (分けてやらない間) に、オオナカで引いとき
やええない (ておけば好い) 言うやんかい。おつきい
(大きい) 船で、オオナカ勘定や (だ) 言うの (の
です)。ねまかんじよおしとんのおを、オオナカから引い
とけ

おおなき (おほなき) (大泣) 【名詞】 激しい動作で泣く事。
[会話] オオナキしとんのおやなしん (しているの
でなくて)、いつ泣いしぶしぶ泣いとんのお (泣いて居るの
を) を めそめそ。

おおなきし 【名詞】 よく泣く子供

おおなはえてきた 1) 仕事になれて上手になって来た
2) 長居している。[会話] 1) しつぽの事。オオナ
ハエテキタ、ちよいと なんかに (少し何かに) 慣れて
来ると、上手ん (に) になって来ると ちよいと オオナ
ハエテキタなあ言うて。仕事な (が) 慣れきって来ると
オオナハエテキタレ 言うて。

おおなみだち (おほなみだち) 【名詞】 海が荒れて高い波
がある (志 (布施田))

おおなる 多くなる (北) [用例] かずな (数が) オオナ
ル。

おおにし (おほにし) (大西) 【名詞】 強い西風 (志) [会
話] 西の風な (が)、どんどんとわくの (吹いてくる)
オオニシ。今し (今) の風は、のわけやまおろし (野分
山下し) 言うて、厄日二百三十日、のわけやまおろし 言
うて。のわけな (が) あく頃 (終わる頃)、西の風の吹
くのを、のわけやまおろし 言うの (のです)。昔の人ら
(は) 二百三十日やよって (だから)、のわけや (だ)、
のわけな (が) 済んで、やまおろしやなあ (だ)。

おおぬき 顔や物の表面又は前面が上を向いて居る あお
ぬきの訛

おおぬく (あふぬく) 顔や物の表面又は前面が上を向く。
あおむく。あおのく。おおぬき おおぬく おおぬけ
おおむき おおむく おおむけ [会話] あおぬいとん
のな (上向いて居るのです)。あおぬいてねんね (寝る
のだ)、そやれ (それ) そのかあ (子は) あおぬいて、
ねんな好きやなあ (寝るのが好きだ) 言うて。あおぬく
言うて オオヌク言う人もあるけど あおぬく言うて
あおぬいて寝て 言うて。

おおぬけ おおぬくの命令形。上を向け。

おおぬすつと (おほぬすつと) 【名詞】 大泥棒。ぬすつと、
ぬすびとの音訛 [会話] よけ 盗むの (のを) あの人
オオヌスツとやどお (だ) 言うて、ちよいちよいすんの

(少しづつするのを)、あや(彼は) こそどろや(だ) 言う。よけぬすむ(沢山盗む) おつきいもん(大きい物) 盗むひた(人は) おおどろぼやどお(だ) 言うね(言うのです)。ぬすつと言うのは 盗人。こくらんな(ののは) ぬすつとや(だ) 言うて ぬすつとん(に) 入られて 言うて。

おおね (大寝) 【名詞】 長寝。寝返し。[会話] ねぼさく、よけ(ようけ多く) 寝る人なあ(を) オオネして言うて、あやまあ、ねぼさくで、幾らでも よお寝んねさけん(よく寝るんだから)。

おおね (大根) 【名詞】 物が多く有る事 [会話] なんやかや(何や彼か) 物な(が) よけ(沢山) 有ると、あや(あれば) オオネやなあ(だ)、ねえな(根が) 切れやせん(切れない)。よけ(沢山) 後から後から出て来ると、あや、オオネで、後な切れやせんあ(切れない) 言う事もあるけどな(有ります)。オオネかして(だと思えて) まだ続いとる(て居る) 言うて、そんな時に使うけどな(使います)。

おおね (おほね) (大根) 【名詞】 太い根。主になる根。

おおねつ (おほねつ) (大熱) 【名詞】 病気で高い熱を出す事。又その熱。高熱。[会話] 熱な(が) よけあんのを(沢山有るのを) オオネツや(だ) 言うし(言います)。だいねつ(高熱) 言うのを ここの人ら オオネツな(が) して、よんべや(昨夜は) ねやれらつたよお(寝れなかった) 言うて。ちんばあ(陰茎) だいねつ はよ かかもらえ おめか(女陰は) さいかく(犀角) ねつさまし、熱な(が) する言うて そげん言うてきよおったね(そんなに言って来たのです)。だいねつな(が) すると、もんなおこつて(熱が出て) 言うて。昔なあ、子ららを 見る時に ひたえい(額へ) てえ(手) 当ててまあ 今日は どいらい もんなおこられ 言うて、熱な有る 言う事をなあ もんなおこる 言うて。

おおのみ 【名詞】 海女が用い。鮑を獲ったりする。大型の金属製の籠。(志、鳥) [会話] 海女な オオノミ。島の下で オオノミ使わなはざんね(なければ駄目なのだ) 言うて。ちっさい(小さい) のみも あつて 島の下やもんで(なので) このみで おこさなはざん(とらなければいけない) 言うて、オノミでせな(しなければ) 言うて。おのみ言うて、ふつかあいきれと(深い狭け目)を 取んのを(取るのを) こげん ひとひろ(こんなに一尋)も あんのな(有るのが) あんねてや(あるのです)。そして普通ののみは まあ このぐらいやけどな(だが) オオノミ言うのは 鉄のおで(ので) こげな なあがいのおで(こんなに長いので) きれとの

ふつかいとこん(深い所の) のおを(のを) 手な(が) たらん(たらわない) とこんのおを取んのを(所を取るのを) オオノミ使こて 言うてな、その きれとの、ふつかいとこんのおや(深い所ののとか) 島の下の奥で、てえ(手)も かしら(頭)も 入つてても(入つていても) 取られんとこ(所) その オオノミ 使こて(使つて) おこしてくんの(取つて来るのを)、オオノミや言うて(と)言うて オオノミ 言うな(のは) 鉄の棒の、鉄ばっかでしてあんの(してあるのです)。

おおのみし (おほのみし) 【名詞】 大酒家。沢山酒を飲む人。[会話] おおのみ言うて、酒よけ飲むと あの人 オオノミシやなあ(だ) 言うて。酒を おおのみやれ(だ) 酒おおぐらいや(大喰いだ) 言う人もあるしなあ(有ります)。おた 飲むや、ひんなええのん(言えば格好がよいのに) おおぐらい言うて、べつんも(特別に) にくたらし(憎い) 様ななあ(だ) 言うて。

おおば 一般に、世間、[用例] あの人のした事、オオバに広まったなあ

おおば (おほば) (大場) 【形容詞】 気前のよいこと。鷹揚なこと。(志(布施田)、鳥、上、阿) [会話] おおよおな(だ) 言う事。あんまり(あまり) けちけちしやせん(しない) 事。あのひた(人は) おおよおやなあ(だ) 言うて。あのひた(人は)、けちけちせんと、がいな(大変) オオバやなあ 言うて。

おおばあさん 【名詞】 曾祖母(南) [会話] ひいばあさんを オオバアサン言うの。

おおばち 【名詞】 大様な罪。大罰 次項参照

おおばち 【名詞】 大きな鉢 [会話] オオバチな(が) 当たったなあ 言うのもあるし。大きなはち(鉢)のことも オオバチ 持てこい言うし(持ってこい言います) オオバチや(だ) 言うて、いちばんかぶとや(だ)、にばんかぶとや 言うて あんの、それ オオバチもてこい言うてなあ いちばんかぶとをなあ。

おおばに 1) 細かい事に気を使わず 大体の事ですますこと 2) 大様に 惜しげなく(上、阿) [会話] 1) 気のおつきい人も オオバニ 言うやんか。物にかまわん(構わない) 人を、物に かまわんと むとんじやくな(無頓着な) 人、あのひた(人は) オオバニして がいに(たいして) こまごまと しやせんよつてんなあ(しないから) 言うて。

おおはば (おほはば) (大巾) 【名詞】 【形容詞】 物量、価格などの差異が大きい事。又そのようなさま。布地の大巾から [会話] たんもん(反物)でも こはばと オオハバと有つてな。みはばと オオハバと だぶるはば

や(だ)言うて。オオハバに あがった言う時も あんな(あります)。よっけ(沢山) あがった言う事やろんな(言う事でしよう)、普通の値段より、ずうっとあがつてた言うの(上っていった言うのです)、オオハバに あがった言うて 値上りな(が) オオハバで 言うて。

おおば(大婆)【名詞】 曾祖母(志(立神)、鳥、熊)
[会話] オオババ、こばば言うて、昔や(昔は) 言いおったなあ(言って居ました)。あんたげ(貴方の家)で 言うと、(例えると) あんた(貴方)のお母さんの事や んかい(です)。あんたら(は) こじじや(小爺です)。あんたの奥さんはこばば。そして 兄貴の嫁やなしに(でなくて) 弟の嫁は こよめ言うて(言って)、こよめ言うやんかい(言います)。弟の嫁を。

おおばやり(おほはやり)(大流行)【名詞】 大いに世にも てはやされて、広く行き渡ること。又、伝染力が強くて 病気が非常に広まること。[会話] 風邪な(が) はやっても オオバヤリや(と) 言う、歌な(が) はやって来ても あの歌な(が) オオバヤリで言うて、きもん(着物)のがら(模様)でも あのがらな 今年はやりやなあ(流行だ) オオバヤリかして(と見えて) 皆 着とんなあ(着ている) 言うて、流行な(が) ひどいのを オオバヤリ。

おおはら(大腹)【名詞】 1) 妊娠末期の大きな腹、又大きな腹。(志(御座)、鳥(坂手)、多、北、南) 2) 何事も物事にこだわらず、大胆に行動すること、又その人。
[会話] 1) 妊娠しとる時も オオハラ、どんばらして あやれ言うの(のです)、おっきい(大きい) 腹しとると(していると) どんばらやなあ(だ) あの人言うて。とろい、ぼてん(木箱へ大きな竹籠) 積んだ様ななあ(だ) 言うて 腹の大きい事。あの、じゃぼばらやてら(だとか) オオハラやてら 妊娠しとると(していると) どんばらや(だ) 言うな(言います)。

おおはらこはらたて 大変、腹が立つ [会話] おおはらこはら言うて ものすごい(大変) 腹立てる時も オオハラコハラタテ言うやんかい(言います)。

おおはらもん【名詞】 大胆な人 [会話] 大胆に 後も先も 考えんと(ずに) やりきる人な(が) 有るやんかい(有ります)。あや(彼は) オオハラモンやどお(だ) 言うて、商売しても どぎつい事(大胆な事) すると オオハラモンやなあ(だ) 言うて。

おおはりこみ【名詞】 大変な出費。大変な御馳走。はりこむは、おごる。散財する 大金をかける。(志(布施田))

おおはんたい【名詞】 大きな飯櫃。[会話] おひつでもな

あ おっきいのは(大きいのは) オオハンダイ。オオハンダイや(とか)、こはんたいや(だ) 言うて おひつの事 はんたいや(だ) 言うて。

おおひ【名詞】 大変な日

おおひ【名詞】 あわび 鮑 海産食品中重要な巻貝で、数種のあわび類の総称、楕円形で殻口は広く殻表は褐色、殻口内は真珠光沢が強く、殻の背面には呼吸口の列がある。足の裏は広く岩などに吸いつくのに適している。産卵は10月から12月に行われる。あわびと称されるものは日本には次の四種がある。まだか、めがい、くろあわび、えぞあわび。和具では めだか。くろ 足の裏の黒緑色のもの。しろ 足の裏の白褐色のもの。(志(船越、片田、布施田、越賀、御座)、鳥(菅島)) [会話] 鮑の事をオオビ。くろ(黒) 言うのは、おのこの事を 黒 言うんなし(言うのです)、めだか言うのは 貝のめえな(目、呼吸口が) こまかあいんでや(小さいのです)。みい(身、肉柱) も違うんなし(違うし)、黒ののおは(のは) くうろいわい(黒いです)。ふち(縁)のへび(外套膜の縁) もなあ、ずべつとしとるし(しています)。白は、めおび言うわい(言います)。そや(それは) また 食べても、やいこいし(柔いのです)。そやけど(しかし) 食べても、味な(が) 無い。めたかとか、おのこは口のさわり(口当たり)が違う。うなし(同じ) 貝でも、めおびは、めおびやれ(です)。めおびは、めおびのつれな(連れ、相手が) あんのなし(有るのですし)、おのこは、おのこの めん(雌)と おん(雄)と あんねわい(あるのです)。あんで(あれで) 人種な違うね(違うのです)。白人と黒人 みたいなもんや(のようなものです)。

おおひかづき【名詞】 鮑を潜って獲ること(志) [会話] あわびかづき言うのを。あわびとる いそ(海女作業)のことを、オオビカヅキ。かづく言うのな(のは) 海女な潜る言うのを かづく言うの(のです)。

おおひざ(おほひざ)【名詞】 あぐら

おおひざかく 胡座で座る(桑郡) [会話] おおひざ、おひざ。オオヒザカク 言うね(のです)。ひざをわれ言うやんない(言うでしょう) それ おいざかく言うの(のです)。

おおびつ(おほびつ)(大櫃)【名詞】 大きな櫃 [会話] オオビツ 言うな(のは)、長持ち言うのを。そののちよいとちつちやい(少し小さい)のを オオビツや(だ) 言うて、櫃のおっきい(大きい)のを オオビツや(だ) 言うて。オオビツいっぱいも 持て来とんねてない(持ってきているそおだ) きもん(着物)を言うて。

結婚して 金持ちの家な (が) 長持ちするやんない (するでしょう)、普通の家なあ (は) オオビツや (だ) 言うて、ひつ持てくけど (櫃持って行くが) ひつ持てくのな (持って行くが) 普通やったわい (でした)。オオビツや (と) 言うて 木の箱を オオビツ一杯もきもんな あんねてない (あるそつだ) 言うて。

おおびづな 【名詞】海女が作業中に腰に巻く綱。こしづな。[会話] こしづな言うて オオビツナをしといて (しておいて)、そしといて (そうして) 命綱をつけんねもんで (つけるので) 今しゃだ (今は) 腰綱や (だ) 言うけど (が) オオビツナ おおびな言うて。

おおびな 【名詞】海女のする腰綱 いそなあ おおびづな おびなあ 参照 (志) [会話] オオビナ言うな、腰へして、磯なあ (綱) を、はさけんならんやんない (はさまなければならぬでしょう)。せやもんで (それで) 縄の帯しめて、のみもさしよった (挿して居ました)。オオビナ言うて、注連縄みたいな (のように) 前ふつとおして (太くして)、しおったわい (して居ました)。

おおびのはな 【名詞】鮑の行く先 かがみ 参照 [会話] 正月十一日の浜祭りん (に) になると、ホイツイヤこんこんと、こついて (叩いて) オオビノハナとめる言うて。こんこんと、こつくと (叩くと)、おおびな (鮑が) 渡りおおびしてくのを (鮑が他所へ渡っていくのが) 止まんねてわな (止まるそうです)。

おおびも 【名詞】ホンダワラ属の海藻 オオパノコギリモク 体の高さ2m以上に達す。根は円錐状、茎は円柱状、数枝の主枝を持って居る、主枝は下部円錐状上部扁平、下部の葉は、甚だ大、笹の葉状、中肋は上方に消える粗大な鋸歯を持ち、頂端鈍円、気胞は球状~稍橢円形、小さな冠葉を頂く、上部の気胞は長め、雌雄異株、漸深帯の岩上に生ず

おおびやくしよ (おほびやくしやう) (大百姓) 【名詞】広い田畑を持っている百姓 [会話] おっきい (大きい) 小屋で建てとる (建てている) 家な (が) あよおったけど (有ったけれど)、オオビヤクシヨのうちや (家は)。

おおふきぶり (大降吹) 【名詞】雨風の激しい事。暴風雨 (桑市)

おおぶしん (大普請) 【名詞】大きな建築。大がかりな建築。特に家の建築。[会話] 大きな家 建てたり、田でも畑でも ふしん (普請)。ふしんや (と) 言よおったの (言って居たのです)。家建てたり 畑をなおしたり たあ (田) をなおしたりすると、田普請や (だ)、畑普請や言うて ふしんや (と) 言よおった。それを、お

きいの (大きいのを) すると オオブシン言うて。

おおぶね (おほぶね) (大船) 【名詞】大きな船 [会話] オオブネん (に) 乗った気持で おらんかれ (居りなさい) 言うて、おおよおにしとれ (しておれ) 言う事を、オオブネん のった気持ちで おらんかれ、そいな (そんな) けちけち言わんと (言わずに) 言うてなあ。

おおふなど。おおふねど (おほふねど) (大舟人) 【名詞】夫婦で舟に乗って行き獲物の多い海女。[会話] オオフネド言うなあ (のは)、夫婦で行く人でなあ。えらい人 (よく獲る人) を オオフネドで あや (彼は) 言うて。そして、ふねどの内でも あさみかづく (浅い所潜る) ふねどと、ふかいとこかづく (深い所潜る) ふねどとあつて ふつかいとこい (深い所へ) 行く人 オオフネドや (と) 言うの (のです)。

おおぶり (おほぶり) (大降) 【名詞】雨などが激しく降る事 [会話] オオブリん (に) になると、養も着るけど (が)、小降りのうちや (間は)、もつぱだけでしとりおったやんかい (していました)。

おおぶり (おほぶり) (大振) 【形容詞】普通より少し大きいさま [会話] 鰹でも おっきいのおな (大きいのが) 来ると、ちよいと 今日のかた (鰹は) オオブリやなあ 言うて、ちっちゃい (小さい) と、こぶりやなあ (小振りだ) 今日のかた (鰹は) 言うしなあ (言います)。何んでも おっきいもんわ (大きい物は) オオブリや 言うて。

おおぶり (おほぶり) (大振) 【名詞】大振袖 [会話] きもん (着物) の袖な (が) おっきいと (大きいと) オオブリや言うて (だ言って)。オオブリソデや言うて (大振袖だ言って)。

おおぶるまい (おほぶるまひ) (大振舞) 【名詞】大散財 おおはりこみ参照 おうばんぶるまい (横腕振舞) の略か、ふるまいに單におお (大) のついたものか

おおふろしき。おおぶろしき (おほぶろしき) (大風呂敷) 【名詞】1) 大きな風呂敷 2) できそうもない大げさな計画や話、又それを言ったり計画したりする人。おおぐわ参照 (南) [会話] 1) 二反、二反な (が) オオフロシキや (です)。2) それで、何でもちっちゃい (小さい) 事でも おっきい (大きく) 言うの (のを)、おおぐわ。オオフロシキ言うてなあ (言って)。オオフロシキ 風呂敷やなあ (だ) 言うて、はつば言うと (大法螺を吹くと) オオフロシキ 広げて言うて。あやまあ (彼は) 風呂敷かれ (だろうか) あや (彼は) ゆたんやれ (だ) 言うて。ゆたん (油単) 言うのは どいらいのおを (大きいのを) 商買する人らが 風呂敷のどいらいの、

あいな おっきいの (あんな大きいのを) ゆたん風呂敷や (と) 言うの (のです)。おおぐわ (大法螺) 言うと 風呂敷広げて言うと 風呂敷ならええけど (よいが) あや (彼は) ゆたんやれ (だ) 言うて。はっぱ (法螺) 言うにげ (人間) を。

おおへちまあり 粗雑な仕事 粗い仕事をすること 又その人 [会話] ざざざとまあ 粗いとこぼっか (所ばかり) して、こまごましとるとか (している所は) 気なが 付かせんのなあ (ないので) オオヘチマアリや (だ) 言うて 粗雑な事よりせんのを (しないのを)。

おおぼおず (おほぼうず) (大坊主) 【名詞】 1) 大きな坊主 狸が化けると言う (三重県全域) 2) 先に寺に居る僧 又は自分の子供が僧になって寺に帰った時 父親の僧を言う [会話] 2) オオボオズ言うやんかい (言います)。親坊主を、おやぼおず (親坊主) や 小坊主 茶坊主や言うて 茶坊主言うな (のは) 小僧の事言うねや ろな (言うのでしょう) オオボオズのこた (事は) 親の事。

おおぼね (おほぼね) (大骨) 【名詞】 背柱 (張)

おおぼねおり 【名詞】 大変苦勞する。努力する。(志 (鶴方)) [会話] 仕事のえらい (大変な) 事すると、今日はまあ オオボネオリやったなあ (だった) 言うて。ほねおり、力仕事やなあ (とか)、えらいしごと (困難な仕事) を ほねおりや (だ) 言うて。破れ障子な (が) 二階からおちて ほんに (本当に) お前さん ほねおりほねおり言うて、そのほねおりもあるしなあ (あります)。そして えらい 仕事して ほねおりなあ (です)、おた ほねおりやったなあ 言うて、オオボネオリやったなあ 言うねんな (言うのです)。えらいしごと を したおりんなあ (した時に)。

おおぼら 【名詞】 大ほら (南)

おおぼらふき 【名詞】 大法螺ふき、法螺を吹く人。[会話] おおぼらふいて言うて、自慢したり 物をおつきい (大きい) 言うて、まあ 俺家え (に) なになにな有る言うのを ちよいと (少し) よりのおておつて (無いのに) よつけある (沢山有る) 言うよん (に) 言うのを ほらふく言うて。オオボラフキや (だ) 言う。あやまあ (彼は) ほらふきで言うて、そして おまで 付けて、オオボラフキやなあ (だ) 言うの (のです)。あんまり (あまり) ほらふくと オオボラフキやれ (だ) あやまあ (彼は) 言うて、あんな (彼の) 言う事な (が) ほんと ん出来よかれ (本当に出来ない) ほらふきで 言うて。

おおまあし。おおまし。おおまわし (おほまわし) (大廻) 【名詞】 1) 船の右旋回 2) 大きく廻ること。3) な

ぞをかける。遠廻りに言う。4) 積荷全体に大きく綱をかける。[会話] 4) オオマシかけて言うて、荷物を積んでも、あや オオマシかけとかな、かいってくど (掛けておかなければ倒れて行くぞ) 言うて、おつきい わあ (大きい輪) して しとかな そや ふけてくど (吹けて行くぞ)、オオマシかけとけ (しておけ) 言うて、風でとばされてくよつて (飛ばされて行くから) オオマシかけとかなはざんわれ (掛けておかなければいけない) 言うし、3) にげ (人間) でも、オオマシかけて あやれ (あれ) 言うて 直接 おここおやなあ (だ) 言うて、言わんとなあ (言わずに) とおまわりみたよん (遠回りのように) 言うてすんのを (するのを)、オオマシかけて言うて。2) そすと 船もこお 回わてくのもオオマシしてこな (して来なければ) そか 島な (が) あんねどお (有るのだ) 言うて、とおまわりせえ (遠回りしなさい) 言うのを、小島な (が) よけあるよつて (沢山有るから) オオマシせなはざんわれ 言うて。

おおまあしかけて 遠廻りして

おおまあり (大廻) 【名詞】 遠回り [会話] おおまあしも 一緒やわいな (です) オオマアリも おおましもなあ。

おおまか (おほまか) 【形容詞】 1) おおようなさま。細かい事に気がつかないさま。コマカ (細) に対して成る語。(大言海) (志 (布施田)) 2) あらかた。大体。[会話] 1) オオマカ言うのも、心が広いとか言うよおな意味の、オオマカやねえんかい (ないので)。あのひた (人) オオマカで、ええのんなあ (よいのに) 言うやんかい (言います)。

おおまげもん 【名詞】 曲げ物 (わっぱ) の大きいもの [会話] オオマゲモンに こまげもん かみのしまのおおたかべ、こたかべ言うて その言いのくい (言いぬくい) のを、そげん言うて (そんなに言て)、早口なあ。ちよつと いそんどる (少し急いでいる) と 言われやせんの (言えないのです)。そやもんで 早口言葉でなあ言よおつたやんかい (言て居るで有りませんか)。オオマゲモン言うのは 大きいまげもんで こまげもん言うな (のは) ちよいと (少し) ちつちやいのな あ (小さいのです)。

おおまぜ 【名詞】 強い南風 (鳥) [会話] オオマゼ な (が) 今日は よけふいとたなあ (沢山吹いていた)、オオマゼやつたなあ (だった) 言うて。よけふいたときや (沢山吹いた時は) オオマゼぶきやなあ (だ) 言うて。そして 人間でも おこつとるとなあ (怒て居ると) まぜな (が) ふいとられ (吹いて居る) 言うて 怒った顔しとると (していると) 仏頂面しとると、あやまあ、

ふいとて (彼は吹いていて) あやれ (あれ) 言うて。まぜな 今日はおおぶきや (だ)。あや (彼は) おこつとんねなあ、言わんと (怒っている言わずに) あや、ふいといて 今日と言うて。

おおまぜふき【名詞】 強い南風の吹くこと

おおみず (おほみづ) (大水)【名詞】 大雨などのため河や沼の水が増えたり、あふれたりする事。又その水。洪水 (志 (国府、志島、浜島)、鳥 (坂手、相差)、上、阿、張、名、熊)

おおみち (おほみち) (大道)【名詞】 大通り。街道。おおかん参照 (志、) [会話] おおかん、往還 やな (です) オオミチは。

おおむつ【名詞】 むつ (海魚) の大きい物

おおむろ【名詞】 魚 むろ鯨の大きいもの (尾、南) [会話] おおあじや オオムロや (だ) 言うて おおたかべ こたかべ言うて

おおめし (おほめし)【名詞】 1) 多量の飯 2) 大食 (南)

おおめしぐい (おほめしくひ)【名詞】 大食漢 おおめしぐらいに同じ おおめしぐらい (上、賀、南) [会話] よけ (沢山) 飯 食う人を オオメシグライやなあ言う (だ言います)。オオメシクイやなあ (だ) 言やええのん (言えばよいのに) オオメシグライやなあ (だ) 言うて。おおぐらいしで、おおぐいしとか、おおぐいし言うな (のは) 聞きよいけど (聞きやすいけれど) おおぐらいしや (だ) 言うて、よけ食べる人を おおぐいしや (です) 普通より よけ (沢山) 食べる人なあ (です)。

おおめしぐらい (おほめしくらひ) (大飯食)【名詞】 大量の飯を喰らう事、又その人。飯ばかり食べて少しも役に立たない人をののしって言う語。おおめしぐい参照 (阿、張)

おおもと (おほもと) (大本)【名詞】 物事の根本になるものの。

おおものいり。おおものいれ【名詞】 大変費用の要る事。大散財

おおもん (おほもん)【名詞】 1) 大きな物、非常に価値の有る物 2) すぐれた人

おおやけ (おほやけ) (公)【名詞】 1) 表むき 表沙汰表だったこと 2) 細事にこだわらぬこと。鷹揚に (鳥) [会話] ② 物を オオヤケにして しときやええけど (しておけばよいが)、こまごまと 言うて、ちよいと (少し) 物を とんちやく しいすぎる (気をつけ過ぎる) 人を、オオヤケにしとけ (しておけ) 言う。オオヤケにしとけ 言う事は、あんまり (余り) ものをこ

だわんな (こだわるな)、こだわらんと (こだわらずに) おおよおに、たいがいにしとけ (大体にしておけ)、そえん、あんまり (そんなにあまり) こまごませんと (せずに) 言う様な意味で オオヤケン (に) しときやええけど (しておけばよいが)、あんまり こまごまと 言うて 心をひろく、ゆたかに持てえ (持ちなさい) 言う事やろな (でしょう)。重箱のすま (隅) ほぜるよん (掘るように) こまごまとすると、そすと オオヤケン (に) しときやええけど 言うて あんまり、こまごまとまあ きい使こて (気使つて) すんのを オオヤケン しょおやんか (しましょう) 言うて。おおざっぱんしとこ (しておこう) 言うのを オオヤケン (に) しとこや (しておきましょう) 言うて、あんまり 爪で ひいたくよん (火焚くように) 言うのも しょなないし (仕方無いし) オオヤケにしょおやんか (しましょう) 言うて。

おおやけごと (おほやけごと) (公事)【名詞】 1) 全員に知れ渡る事 2) 全員でする仕事

おおやけにする 1) 世間一般に知らせる。公表する。

2) 大体にしておく。あまり物事にはこだわらない。鷹揚。[会話] ② いろいろの事を小言 (こごと) 言うのな (言うのを)、むづかし (むづかしい) 事ばっか (ばかり) 言うて、オオヤケニスやええけど (すればよいのに) こまごまと むづかし 事言うのを、こむづかし。

おおやね (おほやね) (大屋根)【名詞】 主屋根。主家の屋根。大きな屋根。[会話] 大きな屋根、草屋のオオヤネでなあ言うて。

おおやまい【名詞】 大病 [会話] 病気な (が) おもおて (重くて) おおやみした。オオヤマイやった (だった) 言うのを、オオヤマイして 体な (が) 弱とて (ていて) 言うて。

おおやみ 大闇【名詞】 真つ暗で月の出ない晩。やみ参照 [会話] 二十三日は真つ暗がりて、ほんとの (本当の) 闇や (です) オオヤミの時や。はつかやみ (二十闇)、月の末ん (に) になると オオヤミやよってん (だから) 言うて、二十三日は さんやばば 降らねば 曇 言うて、昔はさんち (三日) は どいらい (大変) わりひい (悪い日)で、むらくもな (が) 空から下がつて来んね (来るのだ) 言うて 二十三日はものすごい (大変な) 闇やなあ (です)。怖いひい (日) にしてあんの (有るのです) はつかやみ言うてなあ 二十日ん (に) になるとなあ 昔まあ 二十日やみやどお (だ) 言うて、二十五日頃からあんで (あれで) オオヤミなんねやろん (になるのでしょうか) 月な (が) 十時頃ん (に) になると出てくんねやろな (出てくるのでしょうか)

あんで、じゅうひちやみわ、そすと はつかやみ言うな
(のは) 大部くらごおなんねやんかい (暗がりくなるの
です) 十二時頃ん (に) なっくんやろ (なっていくの
でしょう)。

おおやみ (大病) 【名詞】 大病 [会話] 病気な (が) おも
おて (重くて) オオヤミした。おおよまいやった (だ
った) 言うのを、オオヤミしたなあとか、おおよまいし
て 体な (が) 弱つて (ていて) 言うて。おおよわら
いすんのを (するのを) オオヤミ おおよわらい
(だ) 言うな (言います)。オオヤミ言うのを おおよ
わらいして言う、あの人 おおよわらいしたもんで (し
たので) どいらいよわった (大変弱っていった) 言う
て、今しで (今で) 言うて大病や (だ)。

おおやめ (大病) 【名詞】 大変痛い事 [会話] よけやめ
ると (沢山痛むと)、ねぶとな (出来物が) 出来ると
膿むまで やめてやめて (痛くて痛くて)、ずくずくと
おた 膿持つのかして (持つとみえて) やめて よんべ
や、ねやれらった (昨夜は寝れなかった) 言うて あか
みもって そんな (赤くなってそれが) うんでくるまで、
やめんねてや (痛むのです) そして 口な (が) あいて
膿な (が) 出たや (出たら) やめなとおざかって (痛み
が軽くなって) 楽やった (だった) 言うて、口な (が)
あくまでな (が) やめんね (痛むのです) オオヤメすん
のなあ (するのです) しんぼ (辛抱) が出来ん程 やめ
んのを (痛むのを) オオヤメ言うの (のです)。

**おおよ (およう、わうやう)。おおよお (おほやう) (大
様、往洋、鷹揚) 【名詞】 【形容詞】** 太っ腹なさま。落ち
ついて居るさま。[会話] オオヨオにせえ言うんかい
(しなさい言うのですか)、あの人な (の) 心 物凄い
オオヨオやなあ (だ) 言うて、心の広い人を。どいらい
(大変) 心のひろい人なあ (です) オオヨオな人で え
え (よい) 人やなあ 言うて。

おおよき (大斧) 【名詞】 大きなまさかり (松、熊) [会
話] オオヨキ言うのは ふやげとて (振り上げとい
て) 四つ割にすんのを (するのを) オオヨキ。

おおよそ (おほよそ) (凡) 【名詞】 大体。大まかなさま
[会話] 勘でたいがい (感じて大体) する事なあ (で
す)。オオヨソでまあ しとけ (しておけ) 言うて、オ
オヨソ、まあ、その位やないかなあ (でないか) 言うの
を オオヨソ言うのなあ。このぐらいやないんかい (此
の位でないのですか) このぐらいで ええねないんかい
(よいのでないのですか) 言うて めっそおで (目分
量) する事を、オオヨソでしとかんかい (しておきな
さい) 言うんやんかい (言います)。

おおよめ (おほよめ) (大嫁) 【名詞】 兄嫁、兄の妻、こ
よめ (弟の嫁) に対する語。

おおよわり (おほよわり) (大弱) 【名詞】 1) 思う様に行
かないで大いに困ること。2) 病気などで大変に衰弱す
る事。[会話] 1) 困った事を オオヨワリやよお (だ)
言うて、何んか仕事な (が) えらい (大変な) 事か、心
配事とか、損するとか、金がいんのに (要るのに) 金が
無いとか言うて おおごとや (だ) 言うて おおごとな
(が) 出来て来て、オオヨワリやよお (だ) 言うて、言
うやんかい (言います)。

おおらい (おほらい) (往来) 【名詞】 人の行き来する道路。
往還。おおみち参照 (多) [会話] 道のこと オオライ。
道の真ん中でしとると (していると)、オオライで 立
話して 言うて、オオライは 広い道。

おおわく (おほわく) (大枠) 【名詞】 大体の範囲

おおわづらい 【名詞】 大病 [会話] あの人 オオワズラ
イしたもんで (ので) どいらいよわった (大変弱って
いった) 言うて、今しで (今で) 言うて 大病や (で
す)。

おおわた (おほわた) 【名詞】 腹部内臓。特に腸、大腸。
古くは大腸の名 オオワタと言う、小腸はホソワタ (細
腸) と言う。ワタは幡、又は綿の義 (大言海) [会話]
しび (魚、鮪) の オオワタやたら (とか)、腹のわた
(内臓) を オオワタ。しびの オオワタ みたよなな
あ (のようだ) 言う。魚のはらわた (内臓) を、オオワ
タ言うけどな (言いますが)。オオワタ言う時は 腹の
中の腸とか、かとやどけ (鯉なども) オオワタな (が)
あるやんない (あるでしょう)。

おか (をか) (陸) 【名詞】 陸地 ヲカ (峯処) の義 (大言
海) (志 (布施田)、北) [会話] 腰な (が) 痛いもんで
(ので)、オカん (に) おると、えちえち ペンギンな
(が) 歩くよおんしとや (ようにしておれば)、海い行
くと海雀で ものすごお早いねんなあ (早いのです)。

おが 【名詞】 大きな鋸 おおが (大鋸) の略 おおがは、
おほがかりの略 (大言海) (飯、上、阿、南)

おかあ 【名詞】 母、母様 (志、上、阿、南、熊)

おかあ 【名詞】 おかわ 便器 (尾)

おかい 【名詞】 粥。“お”は接頭語、かい、かゆ (粥) の
変化したもの。水分の多いご飯 (志、桑市、三、鈴市、
一、松、多、阿、張、名、度、伊、北、南) [会話] 飯
の やわこおすんのを (柔らかくするのを) オカイ、飯
な (が) やいこいと (柔らかいと) オカイやなあ (だ)
言うて。水 よけしたると (沢山してやると) オカイみ
たよななあ (のようだ) 言う。かゆ言うの (のを) オカ

イ 言うて。

おかいさん【名詞】 粥 (久、阿、張、名、南)

おかいちょお【御開帳】 女性の陰部を露出すること 性交

おかいのあね【名詞】 軟らかい御飯 [会話] オカイノアネやななあ (だ) 言うて、やいこいの (柔らかいの) ちょいとかったいと (少し固いと) オカイノアネやなあ。甘酒すんのも (するもの) オカイノアネ炊け言うて、オカイノアネみたよなの (のようなのを) 炊いて、甘酒をつきよおった (作って居ました)。おかい言うな (のは) ちょいとやいこい (少し軟らかい) それの かったいの (硬いのを) おかいと、かためし (堅飯) のあい (間) を オカイノアネや (だ) 言う。

おかいのおば【名詞】 軟らかい飯 水分の多い御飯 (飯、南)

おかいばら【名詞】 1) 力の入らないさま (阿、張、名) 2) すぐ空腹になること [会話] ② じっきん (すぐに) 腹な (が) すいてくの (減るのを) オカイバラで、おかい 食うた 後な (が) じっきん (すぐに) 腹な (が) すいてくやんない (空いていくでしょう)。そやもんで (それで) おた オカイバラで はらなへったよ お (腹が減った) 言う。

おかお【顔】【名詞】 顔のきくこと なじみ 顔なじみ [会話] あの人 じょおつく (いつも) こおて (買つて) くれるよってん (から) 言うて。顔な (が) きくのなあ (です) 顔や (だ) オカオや (だ) 言うて。

おかおめき【名詞】 植物、のぶどお (のぶだう)

おかがみ【御鏡】【名詞】 供え餅、鏡餅 (志) [会話] 鏡餅、お鏡餅、大きな餅を鏡餅、オカガミ。オカガミ。お飾りも一緒や (です)。鏡餅言うな (言うのは) 床の間えする (供する) のやんない (でしょう)。

おがくず【おがぐず】(大鋸屑)【名詞】 鋸のひきくず。(鳥) [会話] きい (木) の屑なあ オガクズ。

おかくらげ【名詞】 陸上では弱々しいが海へ行くと元気な人 [会話] 陸ん (に) おると、頭な (が) 痛い、尻な (が) 痛い言うとんねんけど (言っているのだが)、海い (へ) 行くとなつとものおて (なんともなくて)、いつて (潜つて) いって いりつぶして (潜つて) あや (彼女は) 陸ん (に) おると くらげみたよんしとんねんけど (のようにしているが) 海い (へ) 行くとしゃんとして そいな (そんな) のを オカクラゲ。

おかざり【御飾】【名詞】 神佛に供える餅。(志 (国府、甲賀)、阿、張、名) [会話] オカザリ。しょながつ (正月) の かざりすんのも (するもの) オカザリせんかれ

(しなさい) 言うて。まつりにかざると、オカザリや (と) 言うやんかい (言います) オカザリして、じっぱん (立派に) して 言うて。

おかざりおかし【名詞】 神佛に供える色のついた菓子

おかさん【名詞】 良家の妻女の尊稱。おかあさまの変化した語。

おかし(を)かし【可笑】【形容詞】 1) 面白い 2) 少々馬鹿だ。変だ。ヲコ (痴愚) と通ず (大言海)

おかしがる(を)かしがる【自ラ五】 1) 面白く思う 2) 変に思う

おかしげ(を)かしげ【形容詞】 正常でないさま、怪しげなさま。変なさま。普通の状態で無いものに対し、いぶかしさや奇異を感じるさま。(志 (国府)、鳥 (答志、坂手、志島))

おかしげな【形容詞】 怪しげなさま 変なさま 変だ (志 (布施田)、鳥 (答志)、多、阿、張、名、度) [会話] あや ちょいと (少し) オカシゲナなあ (だ)、変な事すると オカシゲナ事して言うし。人間でもちょいとたらんの (少し不足しているのを) あやまあ ちょいと (彼は少し) オカシゲナねよって (のだから) 言うて。仕事でも変な事すると オカシゲナこととして、こげなこと (こんな事) して言うて、仕事のわりとさいご (悪い時) あやまあ オカシゲナことしたたよお (してしまった) 言うて、今で言う と 変なことしたた言うの (のを) それ オカシゲナ事した言うて。

おかしな(を)かしな【形容詞】 変な。妙な。いぶかしい。(志 (国府、畔名)、鳥 (国崎)、上、阿、張、名、度) [会話] オカシナ言うのも 一緒のこと、オカシナ言うのを おかしげな言うて。

おかしな(を)かしない 面白くない

おかず【御数】【名詞】 副食 (志 (国府、畔名)、鳥 (鳥羽、国崎)) [会話] さい (菜) のこと、飯のさい。飯のさいにも 聞かしてあんのん (有るのに) 言うて、しちくどお (うるさい程) どれんも (どんなにも) せなはざんわれ (しなければ駄目だ) こげんせなはざんわれ 言う と、飯のさいにも、言うて聞かしてあるやんない (有るだろう) 言うて、例えに 飯のさい オカズのことを さいや言うのなあ (と言うのです) めしのさいにも言うて、口な (が) すいなるほど (酔くなる程) 言うて 聞かしてあんのん 言うこと聞かせん (聞かないと) 言うて。

おかずき【名詞】 とび抜けて上手な海女。熟練した海女。おほ (大) かずき。おおかずき参照 (志 (布施田、越賀、甲賀)、鳥 (国崎)) [会話] 海女のえらい人のこと

を オカズキや (です)。

おかずだけ【名詞】 不漁 [会話] じょおしな (漁師が) 何んも (全く) 大漁なのおて (がなくて)、今日は つられらって (釣れなくて) 家のおかずに 持てだけより 釣られらった (釣れなかった) 言うて 今日は、大漁 やったかい (でしたか) 言うたや (言ったら) えええ (いいえ) オカズダケやったよお (だった) 言うやんな い (言うでしょう)。不漁で なんもとれらって (全く獲れなくて) そんでも (それでも) 家のオカズダケは有るなあ 言うて。二、三匹や 五匹や 六匹釣った時今日は オカズダケやったよお 言うて。

おかずつり【名詞】 不漁のこと、さいだけ参照

おかずもん【名詞】 副食。おかず。

おかせんど 陸船頭【名詞】 その事に詳しくないのに、あれこれと指図する事 その人、お節介をする事 その人。

おかた (大方、大抵)【副詞】 次に述べる事柄に対し、細かい事はともかく、大づかみに言えばの気持ちを表す。おほかた、おかた 二母音の一音化したもの。(志、(布施田) 鳥) [会話] 夫婦で一つの舟ん (に) 乗っ んのお (ているのを)、ととかか船や (だ) 言うて、子供乗せとる (ている) 人らも有りおったけど (あったが)、オカタ 夫婦で仕事しとんのお、(しているのを)、ととかか舟。

おかって (御勝手)【名詞】 台所 (志 (布施田)、鳥、桑郡、桑市、員、四、一、飯)

おかど (をかど) (陸人)【名詞】 陸で生活の糧を得る人。おかびと

おかびと (陸人)【名詞】 漁業者に対し、陸上で生活の糧を入手する人。(度) [会話] オカビト言うな (陸人言うのは)、だんなし (旦那衆) の事を、オカビト言うけど (けれど)、漁師や (で) 無い人を オカビトや (だ) 言うけど。うちん (家で) 漁師せん (しない) 人らをオカビト言うて。

おかべた【名詞】 陸側 べた、へた、側 (度) [会話] オカベタ言うて 海から言うて 陸の方をおか オカベタい (に) あがって (上って) 言うて、陸の方を海から見て おかや (だ) 言うの (のです) オカベタ言うて。

おかまあり。おかまわり (をかまはり) (陸廻り)【名詞】 漁船に乗り込む漁夫に対し、陸に残って仕事する人。捕った魚の売買、餌の手配、会計を担当する。[会話] えさかいと一緒に (です) オカマアリは。

おがましてくれ 見せて下さい、貴重なものについて言う。

おがます (拝) 拝ませる。見せる。

おかみ (御上)【名詞】 爲政者、又は、政府、役場等

(志)

おがみ【名詞】 貴方 御上。武家で臣下がその主君や奥方を敬って言う語 (志) [会話] オガミ言う言葉は あんまり (あまり) 使わせん。あがみとおみや (です)。目上の人に、男の人には あがみ言うて、おなご (女) にや (は) おみ言うて。

おがみたおす (をがみたふす) (拝倒)【自サ五】 拝む様依頼して自分の意志を通す。懇願する。

おがみど (拝人)【名詞】 盆に初盆の佛を拝みに行く人。

おがみや【名詞】 祈祷師、巫子 (張、度、南)

おがむたのむ (拝頼) 一心に願う。懇願する。嘆願する。
[会話] いれがみほし (入髪欲しい) 言うて頼んで、オガムタノムでたので (頼んで)。

おかやん【名詞】 お母さん …さんに対し…やんが使われる。やんは親しみを込めた尊称か (志 (浜島、磯部)、鳥、三、鈴市、鈴郡、安、津、久、一、飯、松、多、阿、名、度、北、尾、南、熊) [会話] お母さんのことを オカヤン オカヤン言うて。

おから【名詞】 豆腐を作る時、豆乳をしぼり取った残りがす。うのはな。豆乳をしぼり取ったカラの意 (鳥)
[会話] 豆腐のかす。きらずの事や (です) オカラ 言うのは。

おがら (をがら) (麻幹)【名詞】 あさがら 麻の茎の皮を取り去った物。白くて稜があり、軽く折れやすい、盆の精霊の箸として用いる。おがらばし (張)

おがらばし (をがらばし) (緒殺箸)【名詞】 緒を取るため皮を剥いて残ったものを乾燥させたもので (緒殺) で箸を作り、孟蘭盆の時、精霊に供する食事に沿える。おんがらばし [会話] おんがらばし、緒のからやよって (殻だから) オガラバシ。緒を剥いた後やよって (だから)。おんがら箸でにのて (担って) 言うて、軽うて、ええんやろだ (軽くてよいのでしょう)。

おかるさん【名詞】 1) 馬鹿 2) すぐ調子づく人 [会話] 1) オカルサン言うのは 知恵な (が) 鈍い言うのをな。頭な (が) わり (悪い) 言う事をなあ。頭がいあ るい (軽い) 言うよおな訳でなあ、ちょいと オカルサン 言うわな (言います)。2) じっきん (すぐ) 調子ん (に) 乗って ちょいと (少し) オカルサンや。

おかわ (おかは) (御願)【名詞】 移動便器、木製楕円形の桶状のもの。おまる。(志 (布施田、甲賀、鶴方)、鳥、員、上、阿、張、熊) [会話] オカワは まるくたいや んない (丸いでしょう)、楕円形ん (に) なっ とるやん ない、オカワのしょんべでまるどりや言うて、何んでもわがと一人 する ことをな (です)。一人で 全部する

ことを、まるでりや（です）言う。

おかわのしょんべでまどりとや【俚語】 独占すること。一人占めにする。おかわ参照

おかんか。おかんかい。おかんかな（女性語）。おかんかれ 1) 終わらなさい やめなさい 2) 置きなさい
[会話] 2) そこい置いといてけ（そこへ置いてゆけ）言うの（のです）。そこい物、置け言うの。おいとけとかなあ、オカンカイ言うて、1) やめとけ（やめておけ）、やめる言うな（のは）、オカンカイ、今日はまあ言うて、仕事オカンカイ 言うて。まあ おこか（止めようか）言うて。置いとけ言うのは、品物の事やし（ですし）、オカンカイ 言うのは仕事の事やし。まあ オカンカレ（終わらなさい）。

おき（沖）【名詞】 沖、海、湖などで岸から遠く離れた所。
反対語：いそ、たか、ないざ 次項参照（志（布施田）、北）

おき（燵）【名詞】 灰の中の炭火。薪が燃えたあとの赤くなったもの。おき。次項参照（志（布施田、浜島、甲賀）、鳥、員、一、度、伊、北、南）

おき（置き） 仕事をやめる。おく。[会話] オキ言うのはひい（火）のオキも有るし、海のオキもあるし、仕事置くのも まあ（もう）オキやなあ（だ）。神の島 沖中にあり言うて、火鉢な（に）ひい入れといて（火入れて）、火鉢の灰を掛けたら何と解く、神の島と解くわい（解きます）言うて、解いた心は、沖中にあり（燵中にあり）言うて、火鉢の中、オキな（が）あるよって（有るから）、神の島は沖中ん（に）有るやんない（有るでしょう）、そやもんで（だから）オキ中にあり言うて、俄や（です）。

おきあい（おきあひ）（沖合）【名詞】 陸から離れた遠い方の海。沖。[会話] 沖い出てくこと オキアイや（だ）言うて。オキアイえ 今日（は）出て大漁やった（だった）

おきあがり（沖揚げ）【名詞】 一日の漁を終えて 沖から 帰って来ること 帰った時、船主が酒を飲ます事
[会話] 毎日 旦那（主人が）沖から来ると ごっつお（御馳走）して 呼んで（接待して）くれんの（くれるのを）オキアガリや（だ）言うて。

おきあじ（おきあぢ）（沖鯨）【名詞】 大鯨 アジ科の海魚 体長30cmに達す。全体に黒褐色を帯び、腹面は淡い。
[会話] 沖で 釣ってくんの（くるのは）大鯨な（です）。どいらい（大きい）鯨 オキアジ言うわい（言います）。

おきいき【名詞】 漁に出る事。漁に出ている事。

おきいく（沖行） 漁に出る。漁をする。（北）[会話] オ

キイク言うな（のは）、漁師な（が）漁に行く事をオキイク。

おきいなだ【名詞】 魚 つむぶり アジ科ツムブリ属の海魚、葉巻状の流線形、尾鰭は深く分岐する。背鰭と臀鰭の後方の2軟条からなる1小離鰭が有る。外洋の表層を遊泳し、沿岸近くでも見られる。美味、体長1mに達する。

おきいなる 1) 大きくなった。大人になった。成長した。おおきい。容積、面積、身長などが他の者より上回っている。規模がまさっている。勢力がある。数量が多い。年上である。重要である。おおげさだ。度量がまさる。包容力がある。威張っている。程度が甚だしい。なる。成る。物事が結果として実現、成立する。2) 胡座で座る [会話] 1) 大きくなった言う事。オキイナッタなあ言うて。おつきい言うのは、大きく言うの（言うのです）。

おきいほりだす 沖へ出る。沖の方で漁をする。[会話] 磯かずく（海女する）時、沖い（へ）行くか、たか行こか（陸に近いほう行こうか）おもて（思つて）迷う時や（は）とつたかみたか（一か八か）、オキイホリダシテミヨ、言うて。

おきうり 沖賣【名詞】 獲れた魚介類を沖で直接賣り渡すこと。

おきえそ【名詞】 海魚。まえそ。体は細長く、体長50cmに達する。体の背面は黄褐色、背面は白色、尾鰭の上縁に一系列の暗色点が並ぶ、口が大きく歯が鋭い

おきがかり（沖繁）（沖掛）【名詞】 1) 沖で寝泊まりして漁をする事。2) 荒天のなどのため入港せず錨をおろして沖合で停泊すること。[会話] 1) オキガカリ 言うて、沖でまあ 魚 釣る事を、オキガカリ 言うんねえんかいな（言うのでないのでしょうか）。沖で魚をとることを オキガカリ言わせんかい（言いませんか）、その沖で 寝泊りしとんのを 帰えらずに釣とるのを オキガカリ。

おきがけ（起き掛け）【名詞】 寢床から起き出してすぐの時。おきしな [会話] 朝のオキガケん（に）言うやんかい（言います）。朝起きる前に、オキガケん（に）しよんべしん（小便しに）起きたや（ら）ねやれんで（寝れなくて）とか言うて、オキガケ言うの（のは）そいな（の）（そんなのを）言うんやんかい（言うのです）。

おきがけ（沖掛け）【名詞】 沖合に網を入れること [会話] 沖い（へ）掛けんのおわ（掛けるのは）オキガケ言うし、へたい（近くに）掛けんの（掛けるのは）、じいそ言うんやろ（言うのでしょう）。

おきかぜ【名詞】 沖風 東南風（志、北）[会話] おきのかぜ 言うねやろな（言うのでしょうか）。おきのかぜ 言うな（のは）いなさもと（東南の方向）から 吹いて 来んの（来るのを）おきのかぜ言うやんかい（言います）。オキカゼな（が）吹いて言うて。そして 東から吹いてくると こちや（東風と）言うし、いなさ（南東）から吹いてくんのを（来るのを）オキカゼ言うて まぜい（南風に）まわるまでの、大島と小島の あい（間）から来んのを（来るのを）オキカゼ言うね（言います）。

おきぎたない（起汚）【形容詞】 いつ迄も寝て居ること、またその人。床の中でぐずぐずして居る事、またその人。[会話] いつ迄も寝ると（寝て居ると）オキギタナイ 言うの（のです）。朝 オキギタノオテ（なくて）幾ら起こしても起きやせんない（起きないのだ）。

おきぎもん（沖着物）【名詞】 出漁の時に漁師の着る着物

おきくさらん 起きないの卑語

おきくさらんかれ 起きろの卑語

おきくされ 起きろの卑語

おきぐすり（置薬）【名詞】 家庭に常備している薬、特にあらかじめ所定の薬を家庭に配置して、使用後代金を回収する家庭配置薬。

おきざ（置座）【名詞】 舟の櫓枕の台木、櫓床（北（須賀利）、尾）[会話] ろお（櫓）のオキザ言うんかい（言うのですか）。ろお漕ぐ台を、櫓のほお（方）、くつといてある（剔つてある）穴は いれこ、そすと オキザに ついとんのおな（付いているのが）ろおぐい（櫓杭）オキザのまんなか（中央）に 棒なあるやんない（有るでしょう）四角なおえ（のに）。

おきさき（置先） 置いた場所 さきは行きさきなどのさきと同じ

おきざった 起きなかった。

おきさわら【名詞】 かますさわら サバ科、カマスサワラ属、体は延長した紡垂形でやや側偏する。三角形の扁平な鋸歯縁を持った 両顎歯はそれぞれ一列に並ぶ。吻は長く、吻長は眼後部長と略等しい。体は小円鱗で覆われるが、胸甲の発達が悪い、鰓耙は無い。腹鰭間突起は小さく二又する全長2.2m。よこしまさわ サバ科、サワラ属。鰓耙数が少なく、総鰓耙は3～7、側線は単線で第二背鰭後端下で急に下降する。背側が濃青色で腹側は銀白色、約4、5條の白色か、灰白色の幅の狭い横縞が体側にある。表層性沿岸魚で肉は美味、全長2.3m（志、鳥）

おきしな（起）【名詞】 起きてすぐ しなは、それを始め

ようとする時、寝しな、行きしな、帰りしな。[会話] オキシナ、起きたばか（ばかり）朝 起きる前な（に）、オキシナに言うて（言って）、オキシナに寝たて（寝てしまつて）。起きよ思とんの（起きよう思っているのに）、わしら（私）も オキシナン寝たんね（寝てしまうのです）。夜中にめえあいとて（目開いていて）そして オキシナンなると、ねぶとなつて来て（眠くなつて来て）。

おきたかべ【名詞】 魚 うめいろ ハマダイ亜科アオダイ属 尾鰭が深く二又する。主上顎骨には鱗が無い。体は淡紫青色で、背鰭前部から尾鰭にかけての背側部が、幅広く黄色。食用魚で体長40cm。（津）

おきだし（沖出）【名詞】 出港 漁場へ向って行く事。

おきたて（起） 起きてすぐ。たて一すぐの意。出来たて。

（南）[会話] 朝起きて すぐんのをな（直ぐのを）朝起きて 直ぐのこと オキタテ。

おきたて 置いてすぐ

おきちがえ（おきちがへ）（置違）【名詞】 置く位置、又は物を間違える事。おきちがい。

おきつぎ（置注）【名詞】 手に取らず置いたままの位置で酒、湯茶を注ぐ事。おきもり参照

おきづみ（沖積）【名詞】 岸を離れ沖合に停泊している船に荷を積む事。[会話] おきで 網つんだのおを（網積んだのを）オキヅミして 言うて言うけどな（言います）。

おきづり（沖釣）【名詞】 沖で釣りをする事

おきて（掟）【名詞】 1）しきたり。風習。所の習慣。

2）規則。[会話] ② こんな（これが）オキテや（だ）言うの、きめや言うのを オキテや（だ）言うなあ。約束して決めたことを オキテや言うて オキテン（に）したがわんと（従わないと）言うて言うやんかい（言います・言うで有りませんか）。そや（それは）何処でも言う事かして（と見えて）乃木大将でも言うやんかい（言います）軍のオキテにしたがいて言うて、それやてや（それです）。そのオキテに従うのもなあ、オキテや（だ）言うのもあるし

おきて 仕事のし終る時 [会話] 何んやかやをして 終いに そのオキテを そやれ えごとしとけよ（完全にしておきなさい）おくときにすんのを（終わる時にするのを）オキテや（です）仕事の終わりの時に オキテ言うのも あるしなあ。

おきて【名詞】 出漁する事

おきてきやせん 起きない 起きて来ない [会話] オキテキヤセン いくら 起こしても。

おきてぶね【名詞】 四艘の船で網漁をする時、沖の方から

魚を追う舟。[会話] さいら舟や (秋刀魚舟だ) 言うと、四はい (四艘) 有るもんで (ので、まあみ (網をのせる舟)、さかあみ (網を引く舟)、オキテブネ、たかてぶね (陸の方にいるて舟) 言うて。

おきど (沖人) 【名詞】 沖に出て漁をする人、漁夫 (志、鳥 (坂手、神島)) [会話] オキド言うな (のは) 漁師の事やなあ (事です)。オキドな (が)、いとて 言うねよ (行っておって言うのだから)、此の時は漁師で、磯人さんが、いくら 沖いいとても (行っても) オキドとは言はせん (言わない)。あや (あれば) 磯人言うて、海女の事は磯人言うし (言いますし)、漁師の事はオキド。

おきどこ (置所) 【名詞】 物の置いてある場所。物を置く場所。[会話] そや (それ) そこ オキドコ きめとけ まあ (決めておきなさい) 言うて、おくところ (置く所) を ここ、そこ、おくどお (置くぞ) 言うのを、おくところ、おくどお、おくどお をきめとけ とか、そいな (そんな) 時も 使うわい (使います)。置く場所をきめえ (決めよ) 言う。オキドコきめとけ 言うて、じょおく、おくところ (いつも置く所が) あるやんない (あるでしょう)、何何のオキドコ言うて、そのおくところ (置き場所) をきめる家な (が) あるわい (有ります)。ざっぱな (乱雑な) 家、そんなりしとるけど (そのまましているが) オキドコきめといてあるやんない 言うて そして 何んやかや 物を置いても、そや (それは) オキドコな (が) わりやんか (悪いではないか) 言う時も あるしなあ。

おきとだな (置戸棚) 【名詞】 造りつけにしないで、何処へでも移動出来るようにした戸棚。[会話] みずや 言うのは、今しで (今で) 言う、オキトダナの事。

おぎない (おぎなひ) (補) 【名詞】 1) おぎなうの連用形の名詞化。不足を満たすこと。食事の後、更に食べること、又その物。2) 相手に与えた損害などを埋め合わせる。[会話] ₂) そのオギナイに どげんして (どんなに) した言うて、オギナイに言うて、しょおて こげんして (最初こんなに) して もろたよつてん (してもらったから) れえ (札) にする言う事を、オギナイなあ (です)。オギナイに、こいなもんやけど (こんな物だけど) 持て来たわい (持って来ました)。かわり言う意味や (です)、オギナイ言う事は。つぐないとか かわりに とか。₁) そすと 飯のオギナイに、これ食とけ (食べておけ) めしの オギナイに、あら茶、飲んどけ (飲んでおけ) とか いもんやばげ 食とけ (芋の煮た物食べておけ) とか 言うて。こやまあ (これは) 夕飯の、ち

よいと 足らんよつて (少し不足するから) オギナイにまあ これ食とれ (食べておれ) 言うてなあ 不足分を足す。

おぎなう (おぎなふ) (補) 【他動五】 不足物を足して十分ににする。オキヌフ (補綴) の転、オギヌフ (圧縫) の義、転じておぎなふ、縫い綴る。

おきなな (沖中) 【名詞】 海の沖合。海洋の中。[会話] さんしょびらしんさされて (くらげに刺されて)、オキナカで、なつとも (何とも) しょおないし (仕方ないので)、ちゃあ (茶) の、こおいので (濃いので) 当てて、家まで連れてきたの (のです)。

おきなつた 大きくなった [会話] 大きくなった言うのをオキナツたなあ 言うの。かぼちやな (が) しばらく見なけれや (見なければ) おおきくなつたね (なつたのだ)、こんこん 言うて こつたや (つづいたら) しるな (計が) 出て来たや (来たら) あつい 涙をこぼしやが ったなあ 言うて、また こつと こつたや ころん と落つた、かぼちやな (が)。

おきなとおい (沖遠) 漁をする場所が遠方である。魚のいるところが遠くである。[会話] オキナトオイ言うな、ずうつと、じょおく (いつも) ごり (五里) の とこ で 商売すん (するのを) 今日は オキナトオテ ぢやま いっぱい 行た言うと、十里も 沖い (へ) 行くのを オキナトオカッタ言うて。ぢやまいっぱい 行たけど (が) さいらな (が) 見やれらつた (見れなかった) 言うて、ぢやまな (が) 何んも見えんよおん (少しも見えないように) 水と たいたいん (同じに) なるまで 沖い (に) 出てく、そげん (そんなに) しても さいらな (が) 見つか たららつた (なかった) 言うて、よお言 よお つたわい (よく言っていました) 漁するところ、とおい (所が遠くて) 神の島より ずうつと まだ 沖い (に) 行か な はざんで (なければいけない) オキナトオカッタ言うて。

おきなます (沖臈) 【名詞】 沖で取った新鮮な魚を刺身にして塩をまぶしたもの。又、小さい魚は切り口を入れ、塩をまぶす事もある (きりづけ)。なます。魚や貝、或いは獣の生肉を細かく切った物。又、それを調味した酢に浸す料理。(志、度) [会話] オキナマス言うと、沖で きりづけ して 来ん (来るのを)、塩して 来ん (の) オキナマス言うわい (いいます)。刺身んし として (にして) 食うた のより (食べるのより) 塩して 来ん (の) オキナマスな (が) うまい なあ 言うて。うまい ねてや (美味しいのです) 又、沖で なあ、塩して 来ん (の) わしら (私) こどもん 時分にや (子供の時には) よお 貰い おつ

た（よく貰いました）。漁師な（が）来んの待つとて（来るのを待っていて）浜ん（に）おと（居ると）。米の餅い（握り飯へ）それすえて（据えて、乗せて）貰うの（貰うのが、うまいのな（のが）よお忘れんね（忘れられないのです）。めっぱ一杯もってもろて（よそって貰って）、そすとさいご（その後で）喰うて、残ったのおを、握って焼いて来て、子供ん（に）呉れんねやんかい（呉れるのです）。そのうまいのな（が）、沖から、そのオキナマスして握てくると、うもおて（うまくて）浜ん（で）待つとて（ていて）父やんらな（が）入れて来んね（帰港して来るのだ）。かとぶねな（鰹舟が）来る言う、浜い来て 夕方になると待つとんね（待つて居るのです）。さいら舟やてやら（秋刀魚舟だとか）、餅（おにぎり）握って焼いて、そのなます、すると、うまいね（のです）。そや（それ）言うて、舟から浜へ降りて来ん 持て来て（来るのに持って来て）、わしらな（が）待つとるもんで（ので）、ひとつつつ（ひとつつつ）呉れんねやんかい（呉れるのです）。

おきなる 大きくなる（南）【会話】 おっきいになったなあ 生長いたしやがったなあ言う。子供が 大きいなんのも（大きくなるのも）オキナツたなあ言うし、なすびでも、かぼちゃでも。きゅうりでも、オキナツたなあ言うて、こやし（肥料）やったもんで（ので）大きいになったなあ言うて。

おきぬけ（起抜）【名詞】 寝床を起き出してすぐの事。（南）

おぎのう。おぎのお（おぎのふ）（補）【他ワ五】 不足物を足して、十分にする。おぎなう。

おきのかぜ（沖の風）（おきまぜ）【名詞】 南風。南南東の風。おきかぜ参照（志、鳥（石鏡））【会話】 まぜは南から吹いて来んの（来るのです）。オキカゼ言う、こおしま（小島）から東（南南東の方にある）から吹いて来んの（来るのを）オキノカゼ言うて。いなさ風言うな（のは）、こお島とのあい（間、南東）から吹いて来んの、いなさ風。東から吹いて来んな（来るのは）こちで、南から吹いて来んな まぜ。ひつじもと（未…十二支で方向を表す）から吹いて来んな、まぜ。未もとへ雨持った言うやんかい（言います）。南へ曇って来るやんかい（来ます）。未もとへ雨持ったよってん（から）雨くんどお（来るぞ）言うて、まぜの吹いて来る事、未もと言うの（のです）。そすと、こお島のあい（間）から吹いて来んの（来るのは）いなさ。いなさもとから雨たもれ（下さい）言うて。

おきのもち（沖の餅）【名詞】 1）漁師が沖で作って来た

握り飯。2）後頭部の平な頭 【会話】 1）オキノモチ言うな（のは）沖で 飯を はかりめし（もりきりの飯）貰らうと、その食うた残りを 握って、焼いて来んのを（来るのを）オキノモチ言うて。沖で焼いて来るもんで（ので）オキノモチや（だ）言うて、さんかくん（三角に）握って。そすと 2）人間の子でも 頭な（が）後な（が）べったんこしとる（している）子な（が）あるやんない（あるでしょう）あやなあ（彼は）頭、オキノモチやんかあ（だ）言う。うしろこんぶな（後頭部が）すんとしとるのなあ、おったわい（しているのが居ました）そすと、あやなあ（すると彼は）頭 オキノモチやんか 言う。

おきのり（沖乗り）【名詞】 沖合い遠くで漁をすること 【会話】 しびなあ い（へ）行くと、オキノリしてするもんで（するので）時化な（が）して来て 海で死ぬのな（人が）おいて（多くて）。

おきはぎ【名詞】 うすはぎ カワハギ科ウスバハギ属 体は長く、強く側扁する。第一背鰭棘は、眼の上にあり、長くて弱い。尾柄は、やや長く、尾柄長は尾柄高より大。尾鰭は、頭長より長い。体長38cm。浅海に生息する。（志）

おきべた【名詞】 沖の方 沖側 べた…側（度）【会話】 沖の方、向いて（向かって）置いてあんのを（あるのを）オキベタ言うし、オキベタい（に）置き言うて、そや、そのオキベタン（に）置いてあるやんない（有だらう）言うて、その方向を言う時なあ（です）沖の方ん（に）有ると オキベタや（だ）言うて。いなさ（東南）の方に置いとると（ていると）オキベタや（だ）言うし。南側ん（に）置いとると（ていると）みなみべたにあるやんない 言うて。

おきび【名詞】 沖日 天気の良い漁をするのに適した日 【会話】 今日はオキビやなあ（だ）言うて、天気のエえ（よい）風のエえひい（よい日）を言うねわい（言うのです）。

おきびし【名詞】 魚 くろめじな めじな メジナ科の海魚、全長50cmに達する。体は楕円形で側扁する。体色は紫黒色で、クロタイに似ているがそれより濃い。メジナ科は、メジナ、クロメジナ、オキナメジナと三種あり、クロメジナはメジナより鰓蓋の後縁が黒い事と鱗が細かく、その基部に暗色点が無い事で区別する。冬に美味。

おきます【名詞】 あかめ スズキ目アカメ科の海魚 体長は体高の2.6～2.8倍。頭は尖り、その背縁は眼の上方面で僅かに窪む。口は大きく、下顎は突出する。上

顎の後端は眼の後縁を越える。各側の両鼻孔は相接する。前鰓蓋骨後縁には鋸歯が有り、隅角部に強い一棘、下縁部にはやや短い三棘は有る。成魚では、一般に灰色、眼は赤い。(志、鳥)

おきまぜ【名詞】 沖南風。南風。南東風。(志(波切、名田、鶴方)、鳥(石鏡、鈴市、尾))

おきもっぱ【名詞】 漁師が沖で着る、布をなん枚も重ねた着物。保温と風雨を防ぐために用いる。[会話] きもん(着物)を、あつつうして(厚くして)、オキモッパや(だ)言うて、どんざをこしらえおったの(厚い着物を作って居ました)。

おきもり(置盛)【名詞】 茶碗を手に取らず台上に置いたまま御飯や湯茶を入れること [会話] オキモリ。ちゃあ(茶)を汲む(注ぐ)のを オキモリ言うて、ちゃあ(茶)を、てえ(手)で持って汲んで(注いで)するとええんけど(よいのだが)、置いてあんのえ 汲む(あのへ注ぐ)と、オキモリして言うて。

おきもん(置物)【名詞】 置物。据えて置く物。実用に供するものでなくて、装飾とする物。[会話] 置き物 床(とこ)のオキモンとかな。

おきやがる 1) 起きるの卑語 2) 置くの卑語

おきやがる【自ラ五】 横になった状態から身を起こす。起き上がる。[会話] 寝とて起きんのを(寝ていて起きるのを) オキヤガッテ。病氣しとて(していて)初めて起きるよおん(ように)なって、起きたのを、よお(よく) オキヤガッタなあ、言うの(のです)。床上げする言うのを。

おきやがれ 1) 起きよ 起きなさい(志) 2) 終りなさい [会話] 1) 早よ起きよ言うのも オキヤガレ言うし、2) 仕事をなあ、おくの(終るのを) まあ オキヤガレ言う時も、にくたらし(憎く憎くしく)言う時なあ(です)、悪り(悪い) 言葉やわ(です)。オキヤガレ言うな(のは)そして 朝 おきやがらんか(起きないか) このがきや(は) 言うてなあ、腹立てとる(ている)時に言う言葉やなあ(です) オキヤガレ言うな(のは)。

おきやく(客)【名詞】 1) よそから来た人 2) 月経 [会話] 1) オキヤク言うな(言うのは)、他所から来た人をお客。2) それからなあ、生理(月経)になるやんない(なるでしょう)。それも オキヤクな来た言よおった(言って居た)。オキヤクやてら(とか)、日の丸やたら、今日は日の丸で言うてなあ。

おきやくさん【名詞】 1) 月経(志(浜島)、員。上、阿、張、名) 2) 虱 [会話] 1) 月経のことも オキヤクサン言うて 今日 は オキヤクサンで言うて 言よおった

なあ。2) そして しらめな(虱が) わいても オキヤクサンな(が) よけ(沢山) わいて言よおったんよお(言いました)。オキヤクサンな(が) よけおって(沢山居て) 煮え湯かけたんよお(かけました) 言うて言よおったん。

おきやすみ(沖休)【名詞】 荒天又は海が荒れるため漁師が出漁をとりやめる事。[会話] オキヤスミ言うのは 風な(が) 吹いたり、風な(が) 悪りいて(悪くて) 休んどんのを(でいるのを) 言わせんかい(言いませんか)。沖い(に) 行かれやん(行けない) 時や(です)。

おきやせん 起きない(志) [会話] いくらおこしても オキヤセン 言うてな、おきよ おきよ言うても(言っても) うん うん言うて オキヤセンやんない(でしょう)。そやもんで(それで) オキヤセンネ いくら起こしても言うて、これはおきてこない、オキヤセンネ言うのは おきてきやせん(起きてこない) 言うの(のです)。おきてきやせん いくら起こしても オキヤセンねない(のだ) 言うて、オキヤセンも オキヤセンネナイも 一緒。

おきやせんね。おきやせんねない 起きない。おきやせん 参照

おきやれやせん。おきやれやせんわい。おきやれやせんわな(女性語)。おきやれやせんわれ 起きられない。起きる事が出来ない。

おきやれる(おきられる) 起きることが出来る(志、員、津、一、飯、松、多、上、張、度、伊、北) [会話] オキヤレル。おきられるてんかい(と言うのですか)。

おきやん 起きない(四、一、飯、多、上、張、尾)

おきやんか。おきやんかい。おきやんかな(女性語)。おきやんかれ 起きなさい [会話] はよ(早く) オキヤンカレ言うて 起きよ言う事を。

おきよ 起きなさい(北) [会話] 早よ(早く) おきやんかれ言うて、オキヨ言う事を そすと、おや(すると俺は) まあ 今日 は おきられやせんわれ(起きられない) 言うて、悪りとさいご(その時) おきやんかい言うのも オキヨ言うのも 一緒や。

おきられる 起きる事が出来る。おきやれる参照(志、鳥、三、四、亀、安、一、飯、松、多、上、阿、張、名、北)

おきる(起)【自力上ー】 火気が盛んになる、炭に火が移る。おこる。

おきる(起)【自力上ー】 1) 起きる、立ちあがる(三重県全域) 2) 事件が起る

おきわが【名詞】 とごつとめばる カサゴ科の海魚、全

長30cmに達す。体は側扁してやや長く、目が大きい。体色は灰黒色、灰赤色などの地に、五〜六條の不明瞭な黒い横縞がある。トゴットメバルは、尾鰭の後縁は湾入形。眼窩域はわずかに突出する。頭の棘が弱く眼上棘、眼前棘、および頭頂棘とその隆起が有る。涙骨下縁に2本の鋭い棘が有る。体側に6條の横帯が有り第5條は背鰭基部の後端下に有り、第6條は尾柄に有る。

おきんかい。おきんかな (女性語) おきんかれ 起きなさい (度) [会話] オキンカレ はよまあ (早く) 言うて、おそなるやんかあ (遅くなるではないか) 言うてもなかなか 起きて 来やせん (来ません)。

おく (置く) 【自カ五】 1) やめる、そのままにする。置いた おいて参照 (志、員、桑郡、桑市、鈴市、安、上、阿、張、名) 2) 子守する (志) 3) 貯蔵する、蓄える [会話] 1) オイタで言うた (言った) 止める言う事。止める言うのと、物 オク言うのと。

おく 【名詞】 天秤棒 両端に荷を掛けて物を運ぶための棒。いく分楕円形になっている。中央を肩に当て担ぐ。(志) [会話] 担う、オク。天秤棒の事。

おくざしき (奥座敷) 【名詞】 客間 (鈴市、亀、安、飯)

おくて (奥手) 【名詞】 1) 人の成長や成熟の遅い事。馬鹿。(上、阿) 2) 青年期になっても性に無関心な者 (上、阿) [会話] 1) オクテ言うな (のは) おぶこい (うぶな) 事をなあ (です)、おぶな事を、あやまあ (彼は) オクテで 言うて。オクテ 言う人もあるし、うくて言う人も あるしなあ (有ります)、口な (が) 下手な のおを (のを) あやまあ (彼は) オクテで言うて、何んやかやの、遅れるもん (物) を オクテや (だ) 言うて。おっそいだ、まきつけて (遅く撒いて) すんのも (するの) もあるし、早よ (早く) 蒔いても オクテのもんわ (物は) 成長な (が) おっそいのおを (遅いのを)。あや オクテやなあ (だ) 言うて ちよいと (少し) 頭な (が) オクテやなあ 言うて。ちよいと、たらんのを (少し足らないのを) オクテや (です) 2) いろけづかせん (つかない) それも、あや (彼は) オクテで、おぶこおて言うて、うぶこい言うのを おぶこい言うの (のです) おぶこおて 言うて おぶこもんでまあ言うて。

おくったた 送ってやった (志、浜島)

おくのいん (奥院)。おくのえん 【名詞】 女陰 奥院 寺院にて本堂の外に其の奥に堂を設けて秘佛などを安置する所から秘めたる場所の意か (上、阿、張) [会話] オクノイン言うて お寺やどけい 行ても (などへ行っても) オクノイン言うて オクノエン言うて 本堂より奥にあるとこ (所) オクノエン言うのなあ (のです)。

本堂の奥にあんのを (有るのを) オクノエンえまで行て来た (行つて来た) 言うて。オクノインのご開帳や (だ) 言うて、女の人の持つとるもんを (持っているものを) オクノイン言うて 言うやんかい (言います)。

おくば (奥歯) 【名詞】 歯列の奥に有る歯、臼歯、物を噛み砕く歯、上下左右に五枚ある。

おくび (嘘) 【名詞】 あくび [会話] あくびの事 オクビ、おくびする言うねんなあ。

おくび (衽) 【名詞】 和服の部分の名称、おくみ、ほおくびの約、おくび、着物の前の左右の端、襟より襟まで狭く長く用いる物。

おくびょおたれ (おくびやうたれ) 【名詞】 臆病者 (志、鳥 (長岡)) [会話] おくびょおもんよ (め) 言うて おとしがる (怖がる) と オクビョオタレ言うて。

おくびょおもん (おくびやうもん) (臆病者) 【名詞】 臆病者 おくびょう (おくびやう) おくす (臆) 気後れするを活用する語。怖れる癖の病の如き意。(大言海)

おくぼら 【名詞】 穴の奥 (志 (布施田)) [会話] ごとひき、三月の水取りな (が) すむと (終わると)、たあ (田) の オクボラん (に) よけおって (沢山居て)。

おくめ (奥目) 【名詞】 引っ込んだ目。凹んだ目。(上、阿) [会話] あの人まあ、オクメで、めえい (目に) 立てれせな (しなければ) 判らせんわれ (判らない)。

おくやれ 終わりました [会話] 一服ん (休憩に) なったら 今日 は 仕事オクヤレ言うて。

おくら 【名詞】 神社 祠 (度) [会話] すばくら、またくら、オクラ言うね オクラは神さんの事。

おくらかす 【他サ五】 遅れさせる オクラス (後) の転 (大言海) おくらす参照 (志、(鵜方))

おくらご (御座子) 【名詞】 舞姫、神社の巫女、おこらご (御子良子) の訛りか。おこら参照 御子良子 かぐらする殿をみれば、鈴ふりおる人あり、・・・そこに幼き女子のあかききものきたる、おくのかたに居たり。…こはオクラ子とて、むかしよりあるものという。(五十鈴の落葉) (度 (錦)) [会話] 神社でお神楽あげるのも舞姫や (だ) 言うて、オクラゴや (だ) 言うね (言うのです)。八雲神社の オクラゴ様は 顔は白壁 目は水晶 歩く姿は 百合の花言うて。

おくらす 【他サ五】 遅れさせる。遅くする。遅らせる。オクル (後) の他動詞 (大言海) (志) [会話] おくれんのを (おくれるのを)、ちよいと (少し) 今日 は 仕事な (が) はって (手にあまって) オクラカスけど (が) こらいてよお (許して下さい) 言うて 言う時も あるなあ (あります)。おくれるけどまあ (が) 言うて、こ

とわり (許し) 言う時な (が) あるんなあ (有るので)
す。今日は はよ、おこ思たけど (早く終わろう思っ
たが) 仕事な (が) はって オクラシテ わりな (悪
いです) 言うて ことわり 言う事な (です)。

おくり (送) 【名詞】 1) 葬式 野辺送り (志、鶴方、国
府、神明、浜島、甲賀)、鳥 (桃取)、尾、熊) 2) 他の
地方へ送る魚介類 (当日獲れたものを翌日都会の魚市場
の揚立ちに間に合うよう送り出す事) かちん持ち参照。
3) 物や人を送り出す [会話] 2) オクリ。物を送ると
か、人を送る (見送る) とか、1) 葬式送り出すとか、葬
式だけでもオクリ言うし (言います)、3) よそ (他所)
行くのを、見送り言うて、見送りすんのも (するの)
オクリ言うて。

おくりじょろ 【名詞】 結婚式の後、お嫁さんを実家迄送り
とどける女性、二人一組で行う。迎える時はむかいじょ
ろ。(志、鳥、多) [会話] オクリジョロは 式な (結
婚式が) 済んでから送ってくの (て行くのです)。婿さ
んな泊まりん (に) 行きおったやんかい (行って居たで
有りませんか) その家い (へ) 来たきりやなしん (でな
くて) 又 戻ってくやんかな (て行くのです)。それを
送ってくの (て行くのを)、むかいじょろな (が) 又
送ってくの (て行くのです)、むかいんいたり (迎えに
行ったり) 送ってたりすんの (て行ったりするのです)
式の始まる前は むかいじょろ、終わって 家帰る時
は オクリジョロ 同じ人な (が) すんの (するのだ
す)。

おくりぜん (送膳) 【名詞】 宴席に招待したが出席出来な
い人、又招待したいが場所、その他の条件で招待できな
かった人に宴席と同じ膳部をその人に届ける事。(志
(浜島)、鳥、阿、張) [会話] オクリゼン言うのは、
今日 ごっつお (御馳走) して、あんた (貴方) 呼ば思
とんのを (招待しよう思っているのを)、こんと (来な
いと)、あんたのぶん (分、当たり分) を持てくのな
(持っていくのが) オクリゼン

おくりだんご (送団子) 【名詞】 盆の十五日、精霊送り
の際、精霊に持たす団子。(伊、熊) [会話] オクリダ
ンゴ、みやげ団子言うけど (言います)。しょおろさん
(精霊様) の土産団子。おそめん食うたら (食べたら)
団子も持って、爺さんも婆さんも孫らも一緒によいそら
よいそら (掛け声) 言うて、しょおろさんな (が) 帰っ
てくのな (行くのです)。

おくりど (送人) 【名詞】 送っていく人 会葬者 [会話]
葬式のオクリドや (だ) とか、よそい (に) 行くや
(と) 言う と 和具浦いまで送ってこやんかれ言よおっ

たやんかい (送って行きましよう、言っていました)。
今しや めったん (絶対) うくりむかえ無いけど (が)、
幼稚園のうくりむかえ するけど (が) おくりん (に) い
く言うて、浦い (へ) おくりん (に) 行きよおったわな
(行って居ました)。お客さんな (が) 来ると 浦い
(へ) まで、うくってくわい (送って行きます) 言うて。
おくる言わんと (言わずに) うくる。うくりん (に) い
く うくってく (送って行く) 言うて 送ることを。オ
クリドも言うし うくりども言う。

おくりば (送場) 【名詞】 葬儀の儀式を行う所。[会話] オ
クリバ言う と 与むらい ばの ことを オクリバとも言よ
おったけど (言っていました)。

おくりむかい (おくりむかひ) (送迎) 【名詞】 人を送った
り迎えたりする事。送って行ったり迎えにいたりする
事。むかえはむかえの変化した語。[会話] うくりむか
い言うの (のです)。幼稚園の子供をつれてたり (連れ
ていたり) また むかえん (に) 行たりすんのを (す
るのを) オクリムカイ言うて、幼稚園のオクリムカイせ
んならんの (しなければいけないのに) 言うて。

おくりもん (送物) (贈物) 1) 人の所へ送る品物 2)
貢物

おくりんいく 送りに行く。回葬に参加する。

おくる (送) 【他ラ五】 死者を守って墓所迄行く。回葬す
る。客などを送る [会話] オクル言うのを うくる言
うんやんかい (言うのです)。うくつといて来る言うて、
今しやったら (今だったら) オクル言うけど (が)、お
くりん (に) 行く言うのを 昔、うくりん行く言うて、
オクル言うのは お客さん送ると 死んだ人の葬式も
あるし それをな (です) オクル言わんと (言わず
に) うくる。

おくれ 下さい (志 (鶴方、甲賀、神明、片田、国府、浜
島)、鳥、桑郡、員、三、四、鈴市、津、一、松、多、
上、阿、張、名、度、南) [会話] オクレ言うの ちょ
おだい 呉れ言うことな (です)。下さい言うこと こ
れオクレ言うて。こやまあええ (これはよい) 言葉やわ
な (です) 昔の人やったら それくれ言うんけど (言
うのだが) オクレ言うこた (ことは) ちょいと (少し)
上品な言葉や (です) とつとき (取って置き)の言葉
やわい (です)。

おくれざき 1) 遅れ咲き おそざき 開花の遅れること
2) 人と同じ程度に進歩しない [会話] 1) おっそお
(遅く) 咲いてくんの (来るのを) おそざきやな
だ (だ) 言う。オクレザキ言うのも有るし 2) 結婚すんの
もおっそいと (するの遅いと) オクレザキやな

(だ)。

おくればな【名詞】 21才迄に嫁に行かない娘。

おくれる (遅)【自ラ下一】 他の者より後になる。親しい人に死なれて自分の死が後になる。

おくれる (御呉)【他ラ下一】 下さる くれる してくれる (志 (鶴方)、桑郡、桑市、員、鈴市、一、上、阿)

おくれるかな くれますか [会話] これくれるかい (呉れますか) 言うのを、オクレルカナ言うて。これ呉れるかい言うて 昔の言葉は くれるかい言わんと (言わずに) くれるかあ これを 言うて。

おけ 1) 止めよ (員、桑市) 2) 子守しなさい (志) [会話] 1) しまえ (終わりなさい) 言う事を 早よ (早く) オケまあ言うて。今しの言葉 早よしまええ (早く終わりなさい) 言う事を、オケまあ早よ (早く) 言うて。2) オケ言うと 子守せえ (しなさい) こお (子) を オケよお言うて。

おけあま (をけおま) (桶海女)【名詞】 桶につかまって海岸から泳いで漁をする海女。(志) [会話] オケアマ言うな (言うのは)、かちど (徒人、あま参照)、かち (岸) から泳いでくのなあ (泳いで行くのです)。桶持って、ふねど (舟人、あま参照) やなしん (でなしに、なくて)、桶 持って泳ぐのを (泳ぐのを)、おけどや (桶人と) 言うわい (言います)。

おけづな【名詞】 海女が桶に巻いている綱。体と桶とを結んでいる桶縄 (志) [会話] いそい (海女に) 行くのん (のに) 桶い (に) ぐるぐるなあ、いきづなをまい (巻いて) (巻いておいて)、そして ふっかい (とこい) 行て (深い所へ行って) 綱な (が) たらわんよん (ように) なる と ほどくのんなあ (のに)、よゆうなのおを (余りを) 桶い (に) 巻いとくの (巻いておくのです) これはおけに巻いてある、いそづな言うのと 一緒やわい (です)、いそづなも オケヅナもなあ。それなあ あのふっかいとこい行たおりの (行った時の) よゆう (余り) の綱を それん (それに) 巻いてあん (あるのです)、ひとひる (一尋) か、ふたひる (二尋) か みひる (三尋) か言うて つねわそんだけ (いつもわそれだけ) はなし (として) そして ふっかい (とこい) (深い所) 行くと こんだ (今度は) つなな (が) たらわん (足りない) と それひとつづつ (一つづつ) はずすの足らうまで。

おけど【名詞】 おけあまに同じ (志 (布施田)、鳥 (国崎)) [会話] オケド言うな (のは) おけづな巻いて行くのを オケド、そして 舟で 夫婦で行く人ら ふねど、オケドと かちどは一緒や (です)。

おけなあ。おけなわ (桶縄)【名詞】 おけなわ。海女の体と磯桶 (海女の獲物を入れる桶) とをつないでいる綱。(鳥) [会話] オケナアもな、あいきづなもなあ、おけづなもな みな一緒や。おおびな 言うのな 腰い 腹い 巻くのな (のを) おおびな 言うて、おおびなもせな (しなければ) 言うて、おおびなを し (として) なあ (しておいて) いそづなをひっかけんのお すっこけてくもんで (すり抜けて行くので) おおびなを し (として) くめて (締めて) 言うて。

おけのしり【名詞】 桶の底 [会話] かちど (泳いでいく海女) は くだめ (とこぶし) 採っても 今日はまだ オケノシリ よおかくさんよお (隠せない) 言うて 桶の底を。

おけのそこ【名詞】 桶の底。最も冷たい所 [会話] オケノソコ言うな (のは) 一番底 まるくたい (丸い) 底を オケノソコ、オケノソコな (が) かくれる (まで) 言うて かちどは くだめ 取っても 今日はまだ おけのしりよおかくさんよお (かくせない) 言うて。オケノソコで一番冷たい所言う意味では まあ、オケノソコやわい (です) 言うて、つめたいとこ (所) 言うやんかい (言うのです) おけのしり オケノソコを くだめ (でも) お おび (でも) それな びっしり (すると) 大漁やけど (だが) それな がら (ながら) あいと (と) あいて (いる) (と) 所々 ひつついとらせんと (ひつついていない) 今日はまだ オケノソコな (が) かくれやせんよお (かくれません) 言うて。

おけのわあ【名詞】 桶のたが

おけぶろ (をけぶろ) (桶風呂)【名詞】 大きな桶で作った置き風呂 (南) [会話] オケブロ きい (木) で こさえて、かま (釜) は、あっさあい (浅いの) (を) して それい 据えて オケブロ いらして (も) ろて (入らせて) もらって) 言うて。

おけまあ。おけまあえ 終わりにしなさい やめなさい [会話] しまえ (終われ) 言う事を 早よ (早く) オケマア言うて。

おこ (御子)【名詞】 他人の子供。おこらとも。子供。他人の子供を敬って言う語。[会話] あの オコらな (が) 言うて、ちっちゃい (小さい) のを オコらや (だ) 言うて。おれげん (俺の家に) オコらな (が) 今日 は まあなら おおぜ おって (なら) (大勢居て) 言うて、そすと ちよいと (少し) すかんのな (嫌なの) (が) 居って、のあオコな (あの子が、あのを逆に言う) 言うて。

おこ (をこ) (痴)【名詞】 馬鹿、馬鹿らしい事。馬鹿な人、

痴人、シャジマのオコ（老人をののしって言う）

おご【名詞】 海の貝 エゴオオノガイ科の二枚貝、河口付近の砂泥地に深くもぐって住む。長さ10cmの長卵形、殻は薄く、灰白色で有るが、表面は褐色の殻皮におおわれる。両方の殻が閉じた時にも、前後端は少し開いており、出入管は一本になって太く長い、肉が多く、賞味される。(志、(布施田) 2) おごのり参照 (志、松) [会話] 1) オゴや あさはり は ふごで持つ言うて、オゴは ちよいと (少し) ふっかいとこん居るなあ (深い所に居ます)。泥な (を) ふっこお (深く) かぶっとんのなあ (被って居るのです)、ちよいと だえんけえんなつとる (楕円形になっている)。そして あさはり は うえん (上に) ちよいと かいたると居るけど (掘ってやると居るが) オゴは こな (孔が) あって そのくち (孔) のとこ (所) 掘るとええんけど (よいが) くち (孔) よ お知らせんと (よく知らない)と むちゃくちやん (に) かくもな (掘る者は) だいぶ (大分) 20cm位も 掘らな 出て来やせんの (なければ出て来ないのです)。あさはり や (は) ちよいとかくと (少し掘ると) 出て来るけど (が) オゴは ちよいと 底にしとんの (しているのです) 貝やけどなあ (だが) 泥ん (の) 中に入っとなねて や (はいっているのです)。

おこし【御越】【名詞】 来る事。行く事を敬って言う語。おは接頭語、こしはこす(越)の連用形の名詞化(一、上、阿、南、熊) [会話] オコシヤス よお (よく) 来てくれました言うんけど (言うのだが)、わしらんとき やなあ (時は) そいな (そんな) オコシヤス 言うよ おなこと言をかい (言いません)、きたんかい言うとる わい (来たのですか言っています)。

おこし【名詞】 腰巻 (志、鈴市、松、上、阿、張、名、伊、尾、南、熊) [会話] オコシ 言うて、腰巻 なかぬ。

おこじ(をこじ)【名詞】 魚名 おこぜの古名。かさご科に属するおこぜ科類の総称。特に背びれに毒を持つものを言う。おこぜ参照 (志 (布施田、立神)、鳥 (国崎)、伊、北) [会話] 子供らな (が)、食べそめ (食べ始め) の時ん (に)、びんぴらはぎ (かわはぎ) や、オコジや たら (とか) 食べやしたり (食べさせたり)。

おこしえ 寄こせ (鳥)

おこす(起)【他サ五】 1) 耕す。土を掘り返す。又開墾する。(志、(布施田)) 2) 倒れたものを立てる 3) 火勢を強める(熾) [会話] 1) オコス言うな (のは) 開墾する言う事やわい (です)。畠オコス。山おこして、畠こしやえた (作った) 言うよつて (から)。2) 寝とんの (寝ているのを) オコス、たあな寝てて (稲が倒れて

いって) 起こしん、いたんてや (に行ったのです)。3) ひい (火) 吹いて 火吹竹で オコス。1) オコス言うのは たがやす 畑オコス言うのもあるし、はたけオコセ はたけうっつけ言うて、かったいの (固いのを) まぐわ で おこさなはざんわれ (耕さなければいけない) 言うて。たあ (田) は うつ言うけどな (が)、そやけど (しかし) 固いと まぐわでおこさなはざんわれ 言うて。2) たあ (稲) でも倒れとんのを (ているのを) オコス たあなねてて おこしん (起こしに) 行かなはざん (行かなければいけない) 言うて。麦な (が) ねてたれ (倒れた) おこさなはざんわれ言うて、3) ひい (火) オコス 早よまあ (早く) 火鉢い (に) ひい (火) も、オコセ さぶいのん (寒いのに) 言うて。

おこす(遺す)【致す】(寄す)【他サ五】 先方からこちらへ送って来る。よこす。(志 (浜島、布施田、志島、片田、船越、鶴方、立神、安乗)、松、上、阿、張、伊、尾) [会話] オコス。あれおこせ、あの子げ (家、あの子供の家) 此れおこしたれ (寄した) 言うのな (言うのです)。呉れたのおを (のを) あのこげから呉れたれ (呉れた) 言わんと (言わずに) オコシた。呉れる言う時もあるしなあ (有ります)。オコス言うの (のです)。

おこせ 1) よこしなさい。返しなさい。送り越せる略 (物類稱呼) (志 (浜島、鳥) 2) 耕しなさい、立てなさい

おこぜ(をこせ)【名詞】 魚。みのかさご。おこじに同じカサゴ科の海魚。全長30cmにも達する。カサゴに似ているが、背鰭、胸鰭が、ふさ状に長く伸びる。体色は淡紅色の地に、黒色の横縞が有り、各鰭に黒点列が有る。背鰭の棘に毒腺を持ち刺されると、ひどく痛む。

おごだ 拝んだ

おこつてきた 1) 火盛が盛んになってきた 火がついて来た 2) 怒りに来た 怒こつてやって来た

おこつとる 1) 火盛が盛に燃えて居る 燠が真っ赤になっている 2) 怒って居る

おごでこい 拝んで来い (志)

おごどけ 拝んでおけ

おごどる 拝んで居る。

おことわり【名詞】 断わりの言葉。門付に対する断りの言葉 (上、阿) [会話] そげなこた (そんなことは) オコトワリやれ (だ) 言うて。何んして呉れ言う そいな こた (そんなことは) オコトワリやれ 言うて。おけん (桶の) 中から、でません言うて。乞食な (が) 来て やらまい (やりたくない) 思うと でません言うて お つてもなあ (居ても) 言う と行くの (帰るのです)。で

ません言うたれ（言ってやれ）、こまかいぜんな（小銭が）ないときや（無い時は）こまかいぜんのおて（小銭無くて）まあ やろにも やられんときや（時は）でません言うたれ言う と でません言う と 行くの（帰るのです）。

おこない（おこなひ）（行）【名詞】 行う事。行動。ふるまい。

おこないすます（おこなひすます）（行澄）【自サ五】 悪事でも、平気な態度で行なって居るのを言う。

おごり【名詞】 海草 おごに同じ 紅藻類のおごり科の海藻。各地干潟深い波の静かな所や淡水などに生える。体は叢生し軟骨質の円柱形で紫褐色、緑色黄色を帯び、径1～3mm、長さ20～60cm、湯がいて緑色になったものを食用にし、又寒天の原料にもする。（志）

おこまいか 終わりにしましょう

おこや。おこやんかい。おこやんかな（女性語）。おこやんかれ 終わりにしましょう。仕事をやめましょう。おいて参照

おこら（御子良）【名詞】 子供。子供達。おこの複数。こらはモノイミ（物忌）の子供の上略 物忌みたる少女の義、子等は單数にも複数にも使用。子良の子は子良の職たる子の意。女の神職物忌の子等を伊勢神宮にて、主略して稱する語。神宮に仕へミケ（御饗）の調達 御神樂の事に従事する神官の未婚の女を選んでまかせる。又物忌の子、子良の子、敬稱して御子良、オコラゴ（御子良子）（神の御蔭の日記）[会話] オコラ言うな（のは）子供らを言うの オコラ言うて あしこの オコラな言うて ちっさい子供らをなあ オコラや言う。

おこらかす 怒らせる。怒るようにしむける。[会話] わざとん（故意に）、あいな（あんな）オコラカスよおな事して。

おこり（癪）【名詞】 発熱で振う事。マラリア（桑市、南）[会話] オコリ。マナリヤ（マラリヤ）、今しやあいな（今はあのような）オコリ振るわせんけどなあ（振るはないが）。昔や（は）おこりぶね（船）言うてなあ、麦藁でこさえて（作って）、ひとがたこさえて（人型作って）おこりぶね流す言うて、オコリ振るて（ふるえて）、いつまで（いつまでも）オコリな（が）、おちんと（治らないと）流しん行きよった（しに行きました）。麦藁で おこり船こさえて 流しといてこい（流してこい）言うて。はよ（早く）、オコリな（が）おちるよおん（治るように）言うてな。流しん行きよった。そすと（そうすると）、おら（俺）、しおあびんいて

も（海水浴いっても）麦藁な寄ってくると、おこりぶねな寄って来た言うてなあ（言うて）。あたる（さわる）と、オコリふるうど（ぞ）言うて、よお にげおったてや（よく逃げて居ました）。おこり船や（だ）言うて。

おごり（奢）【名詞】 響応すること。

おこりけ【名詞】 1) そのものが生じる気配である。2) 発熱しそうである。病気の始めの時で体調がすぐれないさま。[会話] 1) ごおなわいて（腹が立って）ぶんぶんしとると（していると）あやまあ（彼は）今日は オコリケでまあ、ふいとられ（吹いている）言うて。天気でもな、わりなつて（悪くなつて）来ると 今日は オコリケやなあ（だ）言うて。今日は 波な（が）オコリケや（だ）言うて、こちな（東風が）吹いて来ると うねって来ると うねりな（が）して来たよつて（から）波な（が）オコリケやなあ 言うて。これは 何か、ものが始まる言う事やなあ 2) そすと もお一つ オコリケで 病気の時も。

おこりたがりや【名詞】 すぐ怒って来る人 よく怒る人

おこりはれとられ 非常に怒って居るぞ

おこりはれとる 非常に怒って居る [会話] 怒こつとんのおも（ているんのも）あやれ（あれ）オコリハレトル言うて。

おこりはれる（怒張） 非常に怒っているさま。（志（布施田））[会話] めえ（目）三角ん（に）して怒って、オコリハレトンネヨオ（て居る）。ものすごお（ものすごく）怒つとんの（て居るのを）。オコリハレル 言うて。

おこりぶね【名詞】 発熱でふるえる時、それを除くために流す、麦藁で作り人型を乗せて流す船。悪霊除け。おこり参照 [会話] 麦藁でこさえて（作って）人型乗せて、オコリブネ流す。

おこりんちょ【名詞】 怒りっぽい人、又その人。おこりんぼう。[会話] オコリンチョ言うな、じっさん（すぐ、じきに）怒って来んの（来るのを）、あや（彼は）オコリンチョで言うて、ちょいと（少し）言う事も、怒って来んのを、怒ってばっかおんのを（ばかり居るのを）オコリンチョ。

おこる（起）（熾）（興）【自ラ五】 1) 動作が活発になる。2) 怒る。叱る。（志（御座、布施田、片田、畔名、国府、越賀、浜島、鶴方）、鳥（相差、桃取、坂手）、桑郡、員、上、阿、張、名、尾、南）3) 火が盛んに燃える 4) 波が高くなる 5) 熱が出る（伊）6) 風が強くなる [会話] 4) 波な（が）オコルやたら（とか）、5) もんな（病気、発熱）オコル、3) ひいな（火が）オコル。2) にげな（人間が）オコルたら（とか）。3) ひいの（火

が) かんかんして来て、ひいな おこつて来とんのん
(来ているのに)、茶、はよ掛けな (早く湯を沸かさなければいけない)、どびん (土瓶) 掛けな (なければ) 言うて。波がなくなると おさまる、波なへつた (減った) 言うね (言うのです)、すいたなあ言うて。波なだいぶ (だいぶん) すいたり、へつたり言うて。³⁾ ひいな オコットルうちん (ている間に) 餅 焼かなはざん (なければいけない)。

おごる (騒る) 【自ラ五】 1) 御馳走する 2) 贅沢する。
(名、南) 3) 自分の金で品物や飲食を他人に振る舞う
(志 (浜島)) [会話] ²⁾ オゴル言うのは、じえたく
(贅沢) する言う事や (です)。³⁾ 私な (が) あんた
(あなた) にオゴルわ言うて。何んか、こおて (何か買
つて) じえん取らんと (金銭取らずに) 私の驕りにしと
くわい (して置きます) 言うて、言う時をオゴル言うの
なあ (のです)。

おこわ (おこは) (強飯) 【名詞】 こしき、或は蒸籠で蒸した飯で、煮たきした軟らかい飯に対しての名称と思われる。日本の最も古い炊飯法は水につけた玄米又は粗搗き米をこしきに入れ蒸したものと思われるが、これが、かしきいである。祝儀用に小豆、ささげを混ぜて赤飯とし、黒豆を混ぜて不祝儀用とする。赤飯を御強 (オコワ)、菜を御廻 (オマワリ) と言う事ひさし。内宮年中行事にてたり。今の世、女の言に強飯 (コワイイ) を、オコワといへり。大神宮年中行事に御強と見ゆ。又、菜をマワリといふこと同じ書に御廻八種あり (玉かつま)。オマワリ (日本国語大辞典) マワリ 御回 御巡 名詞
お、は接頭語 主食のまわりの物の意で、おかずを言う女房詞、食盤の中央に大きな飯椀を置きそのマハリに数種の菜を小器にもって置く事から。(志 (布施田、鶴方)、鳥、桑市、桑郡、三、四、松、多、上、阿、伊、南)
[会話] もちまいで炊いた御飯でええ (よい) オコワ言うのは。

おさ あおさ 【名詞】 浅海に生ずる緑藻類。あおさ属の総称。緑色、膜状で二層の細胞層からなり遊走子及び配偶子で増殖膜面に穴がなく、縁にひだが多くボタン花のようになっているのをボタンあおさ、大型の葉状で膜面に大小の穴のある種類をアナあおさ、穴と穴との間の部分が細かく網状になって居るのをアミあおさと言う。粉末として又はすいて食用として、又肥料として用いる。
(志、(越賀、布施田))

おさ (をさ) (箴) 【名詞】 機織り用の遊走させる用具
[会話] 機 おんのも (織るのも) オサや (です)。機、織るちゃんがらを、オサや言うやんかい (言います)。

ちゃんがら言うのは、銭がこおして (並べて) 有って、ちゃんらんちゃんらん言うもんで (言うので、ちゃんがらばた言うやんかい)。機 織んのん (るのに) 昔、こおや
つて、とんとん、こつちや (こちら) からやつて、とんとんとするやんな (するでしょう)。そすと (そうすると) オサに、ぜにな じえにがた平次のじえにな (銭が)、車の中ん (に) はいつとんねてや (入っているのです)。そやもんで (それだから) がつちやんがつちやん言うもんで (ので) ちゃんがらばた 織つとる (て居る) 言うやんかい。車のかわりに銭形平次のぶんきゅう
じえん (文久銭) な、車ん (車に) はいつとんねてや
(はいって居るのです)、そやもんで (それで) じゃらんじゃらん言うて あつちややつて、こつちやい (こちらへ) やつてするもんで (するので) そんで ちゃんがらばた言うて。

おさうり 【名詞】 怠け者 (名) [会話] なまけもんや (怠け者だ) 仕事せんと (せずに) 友達のとこい (所へ) 行て、しゃべつとるやんない (喋っているでしょう) そすと (すると) オサウリん行て (に)行つて) 言うて。怠まけとる (ている) オサウリん (に) 行た (行つた) 言うて、あそびん (遊びこ)。仕事しとても (していても) ちよいとやすで (少し休んで) あすこい行て (へ行つて) 見てこお言うて 行くやんない (行くでしょう) また オサウリん行てまあ (に)行つて) 言うて あそびん 行くと。

おさうる 暇つぶしをする、怠ける。長話をする。(志 (鶴方)、多、上、阿、張、名) [会話] オサウル言うのは、遊びに行つて喋つとんと (て居ると)、オサウツトラント (売っていないで) はよいかな (早く行かなければ) 言うて、いなん (いらない、不要な) 口たいて、しゃべつとんのを (喋っているのを) オサウリや (と) 言うやんかい (言います)。怠けとも違う、あんまり (余り) 喋らんでもええ (喋らなくてもよい) 時に喋つて、わがた (自分は) 家に行くと、忙しておつて (忙しいのに)。よその家で喋つとんのおを (のを) オサウル言うね (言うのです)。オサウリや (だ) 言うて、オサ売つとんのかして (売っていると思えて)、きやへんわれ (来ない) 此の忙しいのに言うて、家な (が) 怒つとる (怒って居る) わけやわい (です)。

おさえ (おさへ) (抑) 【名詞】 1) 最後の一口。おそい。
2) 櫓を押して舳先を右へ回す舟の漕ぎ方。(志、(布施田) 桑市) 3) 押さえつける (上、阿) [会話] ³⁾ 押さえる言うのは、肩を押さえるとか、痛いとこ (所) 押さえるとか、物を押さえるとか言うな。³⁾ そやけど、あん

まり（しかし余り）えらっそおな事を言うて 人の気持ちを害するよおな事を言うやんな（でしょう）、その時はオサエル言うなあ（言います）。人の頭、オサエテ言うて。¹⁾ 腹一杯食べといて（食べて）最後に一口食べるのおを（のを）使う時も有る。そうめん喰うと、オサエに言うて（言って）飯、後で一膳喰うの（のです）、オサエに言うて。おさえる言わせん（言わない）。素麺だけでは、おなかがふくれやへん（満腹にならない）。ぼた餅だけでは、おなかふくらん人もおるんてや（ふくれない人もおるのです）。そのたし（足し、不足分を補う）に、喰うのを、よおそげん（よくそんなに）言うわい（言います）。そおめん喰うても、オサエに喰わな（食べなければ）言うて。オサエに喰わな、腹よおふくらさん（よく満腹にならない）言うて。²⁾ どお（樽）漕ぐ時にもひかえ、オサエ。ひかえオサエのど（樽）の手は習た娘引く手はまだ知らん言うて、ひかえ、オサエ言うて、どお（樽）の手は、誰でも教えて呉れるけど、娘引く手はまだ知らん言うて。まんたの男な（が）言う事や（です）。まんた言うのは色気知らずの事。

おさえぎり 上から押しつけて切る切り方 [会話] すさ（藁）切んの（切るのに）おしぎりで切よおった（切って居ました）。こいな（こんな）台な（が）あつて 上からはあ（刃）で オサエギリすんのなあ（するので）そやもんで（それで）おしぎり言うの（のです）。

おさえまあし 【名詞】 櫓を押して船を右旋回させる漕ぎ方 [会話] 舟を ひかえ おさえ。櫓こんどて（漕いでいて）オサエマシ言うて 舟な（が）おもてなこっちや（船首がこちら）向いて、ひかえと おもてな（船首が）わが前（自分の前）向いてくんの（来ます）ひかえ言うて わが前向いて来るし おさえると 後 むいて行くし（向かって行きます）。

おさえる（おさへる）（抑）（押）【他ア下一】 1）止めさせる 止める（熊） 2）舟を右旋回させる。 3）強姦する。同食する。[会話] とんぼ オサエルしなあ（捕らえる）、³⁾ 女を こおするやんない（でしょう）、それも おなご（女）オサエンイテ（に）行って）言うて 言うのなあ（のです）。嫌なのおを（のを）にげとんのを（逃がっているのを）そや（それ）オサエラレンナヨオ（押さえられるな）言うて。あの人 すけべやよつて（助平だから）オサエラレンナヨオ、あのおなが（女は）オサエラレタんでわれ（たそうだ）言うて。¹⁾ オサエルで 止めさせる 喧嘩したり 何んやかやして しゃべつとんの（喋っているのを）まあ、おさえなはざんわれ（えなければ駄目だ）言うて。腹の虫をオサエル、腹の虫 よ

おおさえんで かあつとして わがと（自分）思もとる（思っている）事、たけりきつて（興奮して）言うたる（てやる）人もあるし、それを 言うて来た時に、おさえなはざんわ 言うて あんたも（貴方も）おさえなはざんわい 言うたり。腹の虫な（が）たつとる（立っている）時 おさえて、この際だまつてくれ（黙っていてくれ）言うて言うのなあ（のです）。

おさげ（御下）【名詞】 おさげ髪の略。さががみ。少女の髪型、髪を左右に分け編んで垂らしたもの。

おさじる（汁）【名詞】 あおさを実にした味噌汁（志（布施田））[会話] オサジル。あおさのおつけなあ（味噌汁です）。いとこ えんかい オサジルか言うてなあ。こい（濃い）言う事やわい（です）。オサジルは 水で洗ろたの（のが）干してあんのを（あるのを）入れるもんで（ので）おつけな（が）うつつうならせんやんない（薄くならないでしょう）、他のもな（物は）洗ろて（洗って）直ぐすると みずけ（水分）だけで、おつけな ちよいと うつつう（少し薄く）なるし オサジルは 乾燥したもんで すぐん（すぐに）ちぎつて ほりこむもんで（入れるので）こいもんで（濃いので）言うんやろ（思うわい）（言うのだろうと思います）。いとこえんかい オサジルか言うてな 他人やないねよつてん（で無いのだから）濃い言う訳やわい（です）。

おさせ【名詞】 誰とでも一緒に寝る女。誰とでも性交する女。[会話] オサセ言うのは 誰でもさすのを（性交させるのを）オサセとか、かんのんさん（観音様）で御利益な（が）有ったとか。

おさない（をさない）（幼）【形容詞】 考えが未熟である。しっかりした思慮分別がない。[会話] 大人ん（に）なっても 子供みたよおなのおを（のようなのを）、オサナイぶりしとんのおを（子供のようにしているのを）おぼこい。いつもかも（いつも）、子供みたいんしとんのおを（のようにしているのを）、オサナイナア、あや（彼は）。

おさないぶり 子供のような言語、行動を大人になってもしている事。おさない、おさないぶる参照

おさないぶる 幼稚なふるまいをする。[会話] オサナブリする言うな（のは）、おぶこい（幼い）な、おぶこい事、おぶこい人な（が）あるわい（有ります）。そいな（そんなのを）おぶこいなあ おぶこぶつとて 大人数ないこと言わんと（言わずに）、何んやら、おさない（何か幼稚な）よおな事 言う人間な（が）あるやん なあ（有るでしょう）、おとなげない言うな（のは）わろべし（幼稚な）事を言う オサナイブル おぶこいこ

とを言うて。

おさなぶり 幼稚である

おさまり (をさまり) (治) 【名詞】 物事が進んで行って最後に落ちつく所。決着。結末。物のすわり具合。物と物の釣り合い (志、(布施田))

おさまりなええ 落ち着きがよい。物の置かれた状態がよい。よく似合う。

おさまりなわり 落ち着きがわるい。似合わない。

おさまる (をさまる) (治まる) 【自ラ五】 1) 一定の結論が出る。物が有るべき所に位置する。2) かたづく。

3) 荒波が静かになる。風が止む。[会話] ₃₎ 風がオサマルとか、₂₎ 喧嘩しとんのが (して居るのが) オサマルとか、₁₎ 出戻りしとて (していて)、又 家に、オサマルとか言うて、そうゆう時は使うけど (が)。離婚する言うとなあ (言っていたが)、元 オサマッタンてわれ (納まったそうす) 言うて。

おさめる (をさめる) (治) 【他マ下一】 1) かたづける (志 (布施田)) 2) 一定の決論を出して終わりにする

3) 納入する [会話] おさめるも一緒にの事やなあ (です)。₁₎ そやけど (しかし) オサメル言う時には、片付ける、そこら おさめとけよ (ておきなさい) 言う。片付けとけ (ておけ) 言うの (のを)、おさめとけ。₃₎ じえきん (税金) オサメル言うのも言うやる (でしょう)。

おさら. おっさら 【名詞】 お手玉。一寸〜一寸五分角の砂袋数ケを用い、一ケを上にはうり上げ落ちてくる時間に下に撒かれた他の袋をさらって集める遊び。落ちてくる袋を空中で受け止められないと交替する。さらい集めるからか。(志 (片田、布施田、越賀、御座、波切)、鳥、鈴市、一、松、多、度、飯) [会話] オッサラ。おひとつ落として、オッサラ言うんよってんなあ (言うのだから)。おふたつ落としてオッサラ、とお (十) 迄勘定 (数える) しとやええ (して居ればよいのです)。“おひとつ (一) 落としてオッサラ おふたつ (二) 落としてオッサラ おみん (三) でオッサラ おて (手) のしえ (乗せ) おてのしえ オッサラ おつかみ (掴む) おつかみ おつかみ オッサラ、おひだり (左) おひだり おひだり こんぐりかえして なかば (中) こんぐらかして (くぐる、潜らせて) なかば、なかよ つまよ さざりこよ きをつけ やっちゃんめ やっちゃんめ やっちゃんめ やっちゃんめ やっちゃんめ やっちゃんめ オッサアラ おってぷうし おってぷうし オッサラ ちっさいはし (小さい橋) こんぐれ (くぐれ) ちっさい橋 こんぐれ こんぐつて オッサラ、おおはし (大橋) こんぐれ おおはし こんぐれ こんぐつてオッサラ なかよ つまよ

さざりこよ きをつけ (気を付け) やっちゃんめ おさえ (押さえ)” 言うてそんでしまいや (それで終わりです)。

おさらえ (おさらへ) 【名詞】 復習 おさらいの訛 [会話] オサラエ 何んやかや練習する事を オサラエ。なるて (習って) 有るけど (が) なるとても (習っていても) また それを 稽古すんのを (するのを) さらえ、オサラエや (だ) 言うて。がっこい (学校へ) 行く時、さらいよみや (だ) 言うて 言よおった (言っていました)。それを 何回も習え言う事をなあ さらいよみして言うて よお言よおった (よく言っていました)。

おし 【名詞】 味噌汁 おし (食) 貴人の食うこと、飲むこと、着ることの尊稱 (広辞苑) からか。(志、鳥 (全城)、員、鈴市、津、一、松、阿、張、名、度) [会話] おつけ (味噌汁) のことも、オシ言うなあ (言います)。オシを炊いて言うて 言うなあ。オシな (が) うまいなあ言うて、よお言うやんかい (よく言います)。オシノミイ言うとおつけのみに、おつけのみになあ (を) しんのみに言うて、しんのみにも 取つとかなはざんわれ (取らなければ駄目だ) 言うて、しんのみに言うのをしんのみや (と) 言うて。

おし (をし) (惜) 【形容詞】 惜しい。事物を愛する余り、手放しにくい。思い切って手放しぬくい。よすぎる。もったいない。[会話] オシで、おいしい もったいないおいしいことしたなあ言うの (のを)、オシことしたなあ言うて。勿体ない事した言うのん (のに)。

おし (唾) 【名詞】 1) 口のきけない人 2) 雄の蟬

おし (押し) 【名詞】 1) 重し 2) 自分を強く主張する [会話] ₁₎ おもし言うんかな (言うのですか) 大根漬のオシ おそい言うね (言うのです) おもしのことをおそいし言うの (のです)。おそいの石や (と) 言う事を 大根漬の おそい言うて、おそいな (の) おもたいのしとけよお (重いのをしておけ) 言うて おそいな (が) かあるいと、うまないよって (軽いと美味くないから) おそい しっかりしとけよお 言うね (言うのです)。₂₎ オシがつよいとか むこおいきな (が) 強いのおも (の) オシがつよい、オシで やりきった言うて。オシなつよい 人の言う事聞かんと (聞かずに) わがことばつか (自分の事ばかり) 言うて すんの (するのを) あや (彼は) オンな (が) つよおて (強くて) 言うて。

おじ 【名詞】 海魚 ほおせききんとき キントキダイ科、体は卵円形で側扁し、粗雑な櫛鱗で覆われる。眼は大きい、背鰭は一基で十棘を持つ。体色は赤い。尾鰭後縁は

湾入し、成長と共に両葉先端部の伸びる、各鱗に顕著な斑紋は無い。前鰓蓋骨棘は成長と共に短くなる。

おじ【名詞】 おばと共に近縁種を言う

おじ (おぢ) (小父)【名詞】 1) 男性の大人一般を言う (志) 2) 独身の男性を言う いつ迄も結婚せず、生家に居る者を言う (志、(鵜方、神明、立神、甲賀、国府、安乗) 鳥、一、北) 3) 情夫 (志 (鵜方、立神、神明、甲賀、国府、安乗)、度)

おじいさん【名詞】 祖父 (鈴市、鈴郡、多、阿)

おしいり (押入)【名詞】 他人の家へ無理に入り込む事。又そのようにして金品を強奪する事。[会話] どこそこで オシイリな (の) 入る 手引きした。

おしいれ (押入)【名詞】 1) 穀物などを入れておく部屋 (鳥) 2) 布団などを入れる部屋 [会話] ₂₎ オシイレ言うて 布団入れたり 何んやかや入れんのなあ (入れるのです) オシイレ。そすと 米や麦入れるとこ (所) は、ものおきなあ。ものおき言うのを ものき言うねやんかい (言うのです)。ものきえ一杯入れて言うて、つぶもん (穀類) を入れるとこ (所) は ものきで、布団入れや きるもん (着る物) 入れるとこわ オシイレ。うちんなかんあんねけど (家の中にあるのだが) ものき (物置) まあ つぶもんばっか (穀類ばかり) 入れて、座敷の とこのまあい、なるどる (床の間に並んでいる) 時もあるし、すると 寝間にや (には) オシイレな (が) あよおったけど (ありました)。錠戸棚や言うて 寝間には お金がいっとる (入っている) 引出しもあつて、それは、じよおな (錠が) かかんねやんかな (掛かるのです)。そして その上、布団や何か 入れるよん (ように) してあつて そやよつて 昔 それ寝間い (に) たからもん (宝物) を、おくもんで (置くので) そして 寝間は、たいしょおさんな (主人が) 寝るもんで じよおとだなが あつて、そして 引出しん (に) じよおかけて (錠かけて) そして その上に オシイレな (が) あつてなあ。その上い (に) は 着物入れる櫃やとか 布団をたたんだのおを (のを) 入れて、寝間は そげんしょおった (そんなに居ました)。

おしえ (をしえ) (教)【名詞】 教育 (特に家庭教育)。しつけ。動詞おしえるの連用形の名詞化したもの。

おしえ 押しなさい (志)

おしえごと。おしえごと おせごと (をしえごと) (教事)

【名詞】 差し出口。おせっかい。おしえたた参照

おしえたた。おしえたた 教えてやった [会話] おせて (教えて) 言うのは、オシエタタ 言う事や。オシエゴト言うのは、人がしとる (して居る) と自分がべつんも

(特別に) 知ったかぶりして、オシエゴトする。あげん (あんなに) オシエゴトばっか (ばかり) して言うて (言つて)。私らな (が) 話しとるとこへ (所へ) 途中から言うて来るやんな (でしょう)。あいな (あのような) 時の場合 (時) を、これ、しえなはざん (しなければいけない)、あれ、しえなはざん 言う時に。それで、あの、これも、しとけよお (して置け)。あれも、しとけよお言うて、オシエゴトして、おら (俺) しょお思 とんのん (思っているのに)、オシエゴトとして。

おしえて。おしえて (教) 1) 教えて下さい (北) 2) 教えてやって [会話] ₁₎ オシエてくれ言うのを おせて、先生 これオシエテ下さい言うの (のを) おせてえ 言うて、あんたらさん (貴方達) これおせてえ言うて あんたらさんならええけど (よいが) のらよ (お前達よ) おせてくれ、わいらよお (お前達) これおせてくれとか言うて。

おしえていえ。おしえていえ。おしえてえ。おしえてえ 教えて下さい

おしえてくれ。おしえてくれ。おしえてくれえ。おしえてくれえ 教えて下さい

おしえたる。おしえたる。おしえたるわ。おしえたるわ。おしえたるわい。おしえたるわい。おしえたるわな (女性語)。おしえたるわな (女性語)。おしえたるわれ。おしえたるわれ 教えてあげます

おしえたるろん。おしえたるろん 1) 教えてあげます 2) 他の人に教えてやる 告げ口をしてやる

おしえまあ 教えて下さい。

おしえよ。おしえよ 教えなさい (三重県全域)

おしえる (をしへる) (教) 教える。おせる参照。(三重県全域) [会話] オシエル言うのを オシエル言うて。おせたるわ言うて オシエル言う事やんか (です)。そいなまん (そんな物は) おや (俺は) よお知つとられ (よく知っている) おしえたるろん 来い言うて おせる言うのは こちらが 教しえる方で、おせては 教えて下さい。

おじおじ (おぢおぢ) (怖怖)【副詞】 びくつくさま。落ち着きのないさま。おずおず [会話] おじけとる (怖けて居る) 言う事や (です)。おどおどしとる。オジオジと、おそろし (恐ろしい) よおにして (して居て)、今で言うて おどおどしとる 言う事やろなあ (事でしよう)。おそろおそろ 何かしとる言うよおなときん (に)、オジオジいいもて (しながら) しとるとか。こわがりもて 言う事やろなあ。

おしがる (をしがる)【他ラ五】 惜む (名)

おじき (をぢき) (伯父貴) 【名詞】 きは接尾語。おじを尊敬し、また親しんで言う語。(志、松、上、阿、尾、南、熊) [会話] おじさんの事、オジキ。おばき言うな (のは) おばさん、あねき言うな (のは) 姉、あにき言うな (のは) 兄なあ (です)。

おしぎり (押切) 【名詞】 物を一定の長さ又は巾に切る道具。(上、阿) [会話] オシギリ言うて 百姓する時あれで いもがらを。うね (畝) をあげるやんない (作るでしょう) その畝の中 はさこえ (間へ) しくんやんかい (敷くのです) 麦のこやしん (肥料に) 芋ほったた (掘ってやった) いものから (芋の茎) を、オシギリで切って そすと まんべん (満遍、平均) 敷かれるもんで (ので) そんなり (そのまま) 敷くと 一人押さえとて (ていて) 一人ひつぱり番せなはざんね (しなければ駄目なのです)、そすと (すると) オシギリで切ったると 一人で まんべん やられる。それか 土こねて すさ (藁の小片) にきんの (切るのに) オシギリで切よおった (切って居ました) 藁を そすと あや こいな台なあって 上からはあ (刃) で おさえぎりすんのな あそやもんで (それで) オシギリ言うの (のです)。壁塗る すさ 切る時あれやなけなはざん (あれでなければ駄目です)。

おじくそ (をぢくそ) (怖糞) 【名詞】 臆病者 (志、(甲賀、片田、浜島、鶴方、布施田、的矢、立神、神明、国府、安乗)、鳥 (桃取、相差、答志、坂手)、松、度、伊、北) [会話] オジクソ、なんでも無い事をおとしがって (怖がって、おそろしがって)。猫な (が) おっても (居ても) わあ おとしよお (怖い) 言うの (のを)、おおた (ああ、感動詞) オジクソタレやなあ (だ) 言うて。なんに (何に) でも、おどけてすんのを (驚いてするのを) オジクソたりや (垂れは)。なんでも怖がる人を オジクソタレ。

おじくそたれ (怖糞垂れ) 【名詞】 臆病者 (志 (志島、船越、布施田 御座、越賀、片田)、鳥、北、尾、南、熊) [会話] オジクソタレやなあ (だ) 言うと、おとし がる (怖がる) 事。何んでもこわがんのな あ (怖がるのを)。そやそこい (それそこへ) 狐な (が) 来たれ (来た) 言うと、ああおとしよ (怖い) 言うて おとしがる ことを こわがる 事を、おとしがりや や (だ) 言う。オジクソタレ言うと こわがり でなあ 怖いのおも (のも) 度をこしとんのを (越しているのを) オジクソタレ、こわいよ、思う な (思うのは) 誰でも思う けど (が) それ以上に なつと言うても (なんと言っても) こおて (怖くて) こおて ま しやないの (を) (しかたないの

を) オジクソタレ。おとし 時な 糞な (が) しとなつて 来んね (したくなって来るのです) そやもんで (それで) オジクソタレ言うの (のです)。おとし 思う と 糞や しよんべな その時ん限 つて しとなつて 来て。

おしくた (唾) 【名詞】 口のきけない人 (志 (片田、布施田))

おしげ (をしげ) (惜気) 【名詞】 惜しいと言う気持。

おじけ (おぢけ) (怖気) 【名詞】 こわがる気持ち、そのさま。恐怖心。おぞけ (桑郡、安) [会話] オジケづいた オジケづいて 言うて。今日は 何それ せんならんし (しなければいけない) 何処い行かんならんし 言うと、それ聞いただけで オジケづいて た 言うてなあ。おどける (驚く) 言う事やわい (です)。オジケづいて 言うてな あ (です)、何か まあ えらい (困難な) 仕事でも 先い 話 聞いた とな あ (てやると) まああや オジケづいた たよ お (てしまった) 話 聞いた や (たら) 言うて、オジケづいた 言うのは 怖がる言う事やな (です) オジケは こわがるよおな気持。

おじけつく (おぢけつく) (怖気付) 【自カ五】。おじける (おぢける) (怖) 【自カ下一】 恐ろしさのため、びくびくして尻ごみする。怖がる。ひるむ。オジケ (怖気) を活用した語。[会話] オジケル言うのは 怖がる、怖がるなあ オジケづいた 言うね よつて な あ (言うのだから)。オジケづいて おじく そな (が) しとなつて (したくなって) 来た 言うと。

おしこ (押粉) 【名詞】 餅米をつぶし、粉にした物へ砂糖、蜜などを加入、押し菓子の材料にするもの。[会話] かしん (菓子) の 落雁の こお (粉) をなあ オシコ や (だ) 言うな (言います)。オシコで 落雁 こさえて (作って) 言うやんかい (言います)、米のこお (粉) をひいた、のお を (のを) オシコ や (だ)。

おじこ (小父子) 【名詞】 1) 二、三男以下を言う (志、鳥 (国崎)) 2) 独身の男性 3) 伯、叔父 おじごとも [会話] ③ おじさんのことを おじきとか、オジコ。① おれげ (俺の家) の オジコ ななれ (が) 言う人も有るしなあ。② そして よめもらわんと (嫁貰わずに) 一人者の人を あや オジコ や なあ (だ) 言うて、おじば おや なあ 言うて。

おしこみ (押込み) 【名詞】 1) 強盗 (志 (浜島、鶴方)、桑郡、員、上、阿、名) 2) 漁船が大漁で櫓声をそろえて帰港する 3) 物置き (桑市、上、阿、張、名、南) 4) 言い負かす。[会話] 押し込まれる言うのは、どっかい (何処かへ) 押し込まれるとか、何々を押し込んど け (でおけ) 言うて。④ 言い込められた時でも言うやん

かい (言います)。言いまげられたとか、言い込められたとか言うて、人なこげん (自分がこんなに) 言うとん (ておる) のに、言うて言うて言い込められる事を、オシコメラレテ言うやんか (言います)。¹⁾ 泥棒にはいんのも (入るのも) オシコミ言うけど (けれど)、オシコミに入られて言うて。押入へ押し込むのおとか、納屋へオシコンドケ (押し込んでおけ) とか。子供らな (が) 言う事聞かへんと (聞かないと)、物置にオシコンドケ言うて、物置にへしこんだり (押し込んだり) するのもあるし。押し込むも、へし込むも一緒やけど (けれど)、この言う事聞かざ (聞かずに) 言うて。²⁾ 今日は大漁でオシコンデ来たれ (来た) 言うて。昔は大漁の時は旗立てて、ロノ島から中へ入れる時は、はらえや、はらえや言うて、押し込んで来んの (来るのです)。今日は鯉舟な (が) 大漁で、オシコミやよお言うて。

おしこみやい 混雑している状態

おしこむ【他マ五】 1) 大漁をして勢よく帰港する 櫓を漕ぐ事を押すと言う事から出た語。(志 (片田)、度) 2) 詰め込む 押さえ込む (南) [会話] ²⁾ オシコム何もかも 皆 オシコム 人間でもおしこんで 入いられやへんのを (入いられないのを) オシコムやんかな (ではありませんか)。バスイ (に) 乗んのでも (乗るのでも) 今日は バスでおしこまれて言うて。¹⁾ 大漁して 船な オシコンデ 来た。かとぶねな (鯉舟が) オシコンデ来たれ (来ました) 今日は まあ 大漁で言うて 船な こんでくんのもなあ (漕いで来るのも) オシコム言うねんなあ (言うのです) いっしょけんめ (一生懸命) そや おせよお言うて。早よ (早く) おせよお言うて 漕げよお言うのを 早よそや (早くそれ) 波な (が) して来るよって (荒くなって来るから) 早よ オシコンデ言うて、早よ櫓を漕げ言うのを はよおせ はよおせ言うて言うのな (言うのです)。まあ オシコンデ来たれ (来ました) しけなしてくんで (時化がしてくるので) 言うて。台風な (が) してくんの (してくるのを) おおじけ言うし おおじけなしてくんど (してくるぞ) 言うて。

おしごろ (唾五郎)【名詞】 1) 口の利けない人 (三、四) 2) 口数の少ない人

おじごろし【名詞】 はまもっこ しやりんばい、バラ科の常緑低木。中国地方、九州、奄美諸島の海岸に生え、庭木とされる。高さ2～4m。上部に葉を密生。葉は枝先に密に互生して輪生状に見え、短柄をもち、長さ5～8cmの楕円形または倒卵形で先はとがり、縁に鈍鋸歯がある。分枝も葉と同様に輪生状。初夏、枝先に長さ10

cm内外の円錐形の花序を立て、径約2cmの白い五弁花を集めてつける。果実は径約1cmの球形で黒紫色に熟し白粉をふく。高さ約1m。

たちしやりんばいの変種、基本種に較べると葉の長さが短く巾が広く、広楕円形、先はとがらず縁にはほとんど鋸歯が無い (鈴市、鈴郡、度)

おしずかに (おしづかに)【感動詞】 先に帰る時に 他の人に対する挨拶 ごゆっくりと (志 (布施田)、鳥) [会話] 人な (が) 寄ととる (寄っている) 時に 自分が先に帰る時に あんたらさん オシズカニ言うけど (言うが) 昔は ゆっくりしてけえ (していきなさい) わしや (私は) まあ行くわい (もう行きます) 言うて、わしや まあちよいと (もう少し) 先い (に) 行くよって (から) お前らゆっくりしてけえ (していきなさい) 言うて しずかん (に) してけ (していけ) 言うて。

おしたくる 1) 強く押す。2) 力を入れて櫓を漕ぐ。[会話] オシタクル。²⁾ 舟な (に) 乗って櫓を漕ぐのを、一生懸命で漕ぐ言うのを、早よ (早く) オシタクル言うてすんの (するの) も有るし、¹⁾ 何か物を オシタクル言うのも有るし (有ります)、押して押して押しまくれ。人を押す言うのもあるし、しえなか (背中) を押したれ (てやれ)。肩な (が) 張ととる (張って居る) と、力を入れてオシタクッて呉れまあ (下さい) 言うて。

おしだし【名詞】 1) 物を喰べた後、すぐ便所に行く事 (南) 2) 人なかに出た時の態度 風采 風格 貫禄 [会話] ²⁾ でだちなええ (よい) 言う事やるな (でしよう)、オシダシよおて言うて。体の格好よおして (よくして) 出る時かっこよおしてくの (格好よくしていくのを) でだちなよおて おしたてよおて言うてな。おしたてな (が) ええ (よい) 言うて よお言よおったてや (よく言っていました)。¹⁾ ご飯たべてすぐに 便所え行くと オシダシ、もちで おしだす きょねんぐそ言うてな オシダシたんなあ (押し出したのだ) 言うてな 元日は 雑煮食うやんない (食べるでしょう) そすとなあ 餅で押し出す去年糞 言うて がんじつや もちで おしだす、きょねんぐそ言うて。

おしだしなええ 1) 勢よく舟を漕いで居る。 2) 貫禄がある 人なかに出ても他の人に勝るとも劣らない。(員) [会話] ¹⁾ 舟 漕んでく (漕いでいく) 時も オシダシナ (が) エエ (よくて) 言うて、勢いよお (よく) 行くと 言うしなあ (言います)。²⁾ そして よおして (よくして) 出てくときん (出て行く時に) 出んのを (出るのを) オシダシナエエ 言うて 格好ええ (よい) 言うことを おしたてよおて言うて。

おしだす (押出) 【他サ五】 押しつける (南)

おしたて (押立) 【名詞】 押し出し 外観 みなり

おしたてよおて 外観がよい みなりがよい [会話] オシタテヨオテ。出立ちな (が) ええ (よい) 言う事やろなあ (でしょう)、体の格好 よおして (よくして) 出る時 格好よおしてくの (よくしていくのを) オシタテヨオテ 言うて。

おしたる 1) 押してやる (尾) 2) 教えてやる (志 (浜島)、尾) 3) 後楯になってやる。4) 舟の櫓を漕ぐ。[会話] 1) 後 オシタルわ (押してやる) とか、坂を押すの しりおしや (尻押しだ) 言うて、おしてもらうと、だくなやんかい (楽です)、しりおししてもらうと。できもんな (出来物が) 出来ても 膿 取んのん (取るのに) オシタルわ言うて、おしおったの (押して居たのです)。そして 膿な (が) 飛び出して来て ああ痛い痛い言うても まあ その仇や (だ) 言うて 仇に押させ言うんどお (言うのだ) 言うて ねぶとな (が) うんどののを、おすよん (膿んでいるのを押すように) になると痛い言うとおた痛いか言うて てえ (手) 引くやんない (でしょう)、すと 仇は もおその言うので そすと ねぶとわ 仇ん (に) おさせえ言うんどお 言うて 芯な (が) 出るまで、おさな (なければ) いかんもんで (ので)、そすと 仇や (だ) 言うて 力一杯おしきったると (てやると) 芯な (が) 飛び出して来て、なおつてくねけど (治っていくのだから)。2) しにくい (困難な) 事が有ると おんな (俺が) オシタルやんか (教えてやるではないか) 言うて 言うともあるなあ (有ります)。そげな (そんな) 事言うて、しりごみしらんでも (してなくても) おんなオシタルよつてに (俺が教しえてやるから) せんかれ (しなさい) 言うて、そお言う場合も言うなあ。ま 言うて 力ん (に) なつたるよつてん 心配せんでも (しなくても) おんな オシタルやんか (教しえてやるではないか) 言うて 言うな (のは) 力ん (に) なつたる 言う事や (です)。

おしつ (おひつ) 【名詞】 御櫃 (阿、名) [会話] オシツ言うて、ご飯入れるはんたいや (だ) 言うて。はんたいえ 飯 移せ言うて、はんたいに 一杯飯たいとて (炊いていて) 言うて。今しや (今は) くだるほどけ (食べる程) より炊かせんけど (が)。

おしつけ (押付) 【名詞】 無理じいするさま。むりやり。[会話] こげんしてしてもらおかもなあ (こんなにしてもらおうか) 思う時ん (に)、相談して、オシツケン (に) してくれ言わんと (して下さい言わずに) 相談。

おしつまる。おしづまる (押詰) 【自ラ五】 年の暮が近く

なる。年末が近づく。事態がさしせまって居る。(上、阿) [会話] 節季な (が) オシツマル言うて、オシツマルタのお言うて 節季ん (に) になると、おつごもな (大晦日が) 近かよつて来ると まあ おつづめてのおとかな。

おじなおばからげた 【俚諺】 縛り方がゆるい 手ぬるいさま [会話] やいこお (柔かく) だらだらと きちんと よお締めんと (よく締めない) ゆるゆるにしとんのおを (しているのを) オジナオバカラゲタよおん (ように) 言うわい (言います)。やいこおな ぐしゃぐしゃみたよんして (のようにして) からげると (絡ると)、おおた (ああ) オジナオバカラゲタよおななあ (ようだ) よお使うわい (よく使います)。

おじの 【名詞】 独身の男性 おじば参照

おしのみい 【名詞】 味噌汁の具 [会話] オシノミイ言うて おつけのみい (具)。しんのみい言うて、しんのみいも取つとかなはざんわれ (取っておかなければ駄目だ) 言うて、汁のみい 言うのを しんのみいや (だ) 言うて、おさ (あおさ) を 乾かして、呷に一杯も入れときおつたね (入れて置いたのです)。

おしびん 【名詞】 画鋏

おしべ 【名詞】 口の利けない人 (志、(浜島、鶴方)、度)

おしべえ 【名詞】 口の利けない人 (志、(片田))

おじば。おじばお 【名詞】 1) 独身の男性 (度、一) 2) 次男以下の男 (三重県全域) [会話] 1) 嫁を貰わんと一人でおる男の人は オジボオ、オジノヤ おばのや言うて、おじさんのこと おじのやなあ (だ) 言うて、おばさんのこと おばのや (と) 言うて。オジボは 結婚せんとおるもん (者) を言うの 一人もん (者) のことをなあ、オジボオや (だ) ぼお言うて オジボオ、あやまあ (彼は) 嫁 貰わんと (貰わずに) オジボオ 言うて。

おじばし 【名詞】 独身の男性。おじ、おじば参照。[会話] 結婚しとらせんと (して居ないと) オジボシ。

おしまくる (押捲) 【自ラ五】 1) 一方的に押す。(南)

2) 一生懸命に櫓を漕ぐ。[会話] 2) 舟ん (に) 乗って、一生懸命で櫓を漕げ言うのもオシマクル、1) 何か物をオシマクル言うのも有るし、人を押す言うのも有るし (有ります)。

おしまど (大島人) 【名詞】 1) 大島 (沖合約4kmにある大きな島) で作業する海女。2) 大島で浜遊びをする人 [会話] 2) 三月三日は大島い (へ) 行くと、オシマドな (が) 一杯や (です)、うごうご (ざわざわ) する程にげな (人間が) おりおつた (居ました)。

おしみ (をしみ) (惜) 【名詞】 惜しむ事。おしむの連用形

の名詞化。おしむ、残り惜しく思う、愛惜がかかる。
[会話] オシミなかつて クレオシミな (が) する言
うて、くれたない (呉れたくない) 勿体ながんの (なが
るを) くれたがらせん (呉れたくない) のを、くれたな
いよん (くれたくないように) しとんの (しているの
を) クレオシミするてやら (とか)。

おしみなかる 惜しいと言う気持ちがある。勿体ない気
持ちが強い。[会話] やりたないのを やりたないねけ
ど (のだが) やらなはざんで (やらなければいけなく
て) やんのを (やるのを) オシミナカクタんけど (の
だが) 言うの (のです)。オシミカケテ言うて くれん
のをなあ (くれるのを)、呉れのくいと (ぬくいと) さ
いご (その時) オシミカケテ おとっしや言うてなあ。

おしむぎ 【名詞】押し潰した麦 [会話] びしゃきむぎの
事を オシムギやし (です)。そして 搗いてすんのを
(するのを) まるむぎや (だ) 言うて。昔 まるむぎば
っか (ばかり) 食よおったや (食べてたが) 今しや (今
は) びしゃむぎ オシムギばっか (ばかり) 食うて。

おしめ (御湿) 【名詞】乳幼児、病人が尻に当てて大小便
を受けて汚れを防ぐ布や紙。むつき。オは接頭語。シメ
はしめし (湿布) の略。(志 (浜島)) [会話] おむつの
ことを 昔 むつき言うて、オシメ 言わらった (言い
ませんでした)。むつきも そや、あるとけ (それ洗っ
ておけ) 言うて、今しや (今は) はいからに そで
(袖) にしてしよおったけど (して居たが) わしらな子
供のじぶんにや (頃には) さいて (刺して) はんぼみた
よんして、むつきや (です)、そやよって、つんで (だ
からついで) あると むつきみたよななあ (のようだ)
言うて、はんぼ言うな (のは) 紙え いくつも貼って
何枚も貼るもんで はんぼ。むつきを きりし (敷布)
当てて 糸で へんばん (蜘蛛の巣に) さいて (刺し
て)。むつきや (だ) 言うて そんなりしとるかい (そ
のまましていません) 皆 さしこん (刺子に) つんでし
とるもんで (縫ってしているので) むつきみたよななあ
言うて、つんであると (縫ってあると)。私ら 子供う
むよん (産むように) なってから、そで (袖) になっ
たけど (なりました)、ゆかたを切って ええので (よい
ので) しよおったけどなあ (して居ましたが)。わしら
な (私の) 子供のじぶんわ (頃は) はんぼみたよなの
(のようなのを) 当てよおったんやろんなあ (当てて居
たのでしょうか)。わしらな、もおけるよん (産むよう
に) なってから そでむつきになっただけど (が) その
そでむつき言うて 今しのわあ (輪) になっとんの (て
いるのを) あれ、そでむつきや (だ) 言うて。

おじめ (緒締) 【名詞】袋類の口を締めるもの。[会話]
ねつけは玉な (が) ついて、呷 (煙草入れ) と筒 (煙管
入れ) のあい (間) にしてあんの (あるのです)。そし
て 呷の上ん (に) ぱちんとすんのい (するのに)、つ
いとんのお (ついているのを) をオジメ。

おじもち 【名詞】情夫を持って居る女性

おしもり 【名詞】御飯を押さえつけてよそう事。

おしもりはんじょ 【俚諺】御飯を押しつけてよそうこ
と 又、それだけ 生活が豊かであること [会話] 飯
を てっこもやげて (高く盛りあげて)、そすと 貧乏
な家 押し盛りしよおや (しよう) 言うたてて無いやん
かい (言っても有りません)。そやけど (しかし) 金持
家やったら (だったら) 御飯も米も有るもんで (ので)
もやげて (盛り上げて) するもんで、そんで (それで)
オシモリハジヨ言うて 山盛ん (に) すんねよって (す
るのだから) 金持屋や (だ) 言う意味やろな (でしょ
う)。

おしもりはんぜん よそった御飯を少しに見せる。少しに
見えても充分に有る事。

おしもん 【名詞】押物。干菓子の一種。いりだねの代表的
製品で木枠によって打ち出した菓子と言う。(干菓子)
おしもんは干菓子と同様、木型によって打ち出すが原料
は砂糖に水飴、又は水をたらし、しとりを付け微塵粉
(おしこ、糯米の細かくした物) を加え、よく混ぜ合わ
せこれを木型 (鯛、祝、蓮花…不祝儀) に入れて押し出
したもので表面を着色する。近時、内にあんこを入れる
のが主流になって居る。(上、阿、張、名) [会話] 干
菓子、オシモン作るときに、おしこ (押し粉) でこさ
える (作る)。もちね (餅米) のこお (粉) で、おしこで、
米のこおや (粉です)。あやなあ (あれは)。押し粉や言
うて (言って)、なつがしすんの (夏菓子作る)。押し粉
でこしらえたもん言うやんかい (言うのです)。らくが
ん (落雁) のかしん (菓子) も、オシモン、米の粉やろ
のお (でしょう)。昔は落雁言うのな (が)、すわりもん
(引出物) で、にんじ (人参) や、ごんぼ (牛蒡)、鶴
や亀にしてあって、オシモンにして、年忌や、よめど
りや (嫁取、結婚式だ) 言うて、落雁やったね (でした・
だったのです)、すわりもんな (が)。そすと (すると)
手拭 持てといて (持って居て)、両端しばって (結ん
で)、それへ かしん (菓子) 包んで、すわりもんや
(だ) 言うて。すわりもんな (が) 目出度いときや (時
は)、鶴や亀すんのなし (するのです)。年忌やどけ (な
ど) になると、人参、ごんぼ (牛蒡)、れえこん (蓮根)、
蓮華やとか (だとか)、そいなもん (そんな物) を。す

えるもんな (据える物が) 又 違うやんかい (違います)。祝と年忌とは。祝いの時は鶴、亀、たばね (束) 菊やたら (だとか)。

おじや【名詞】 雑炊。味や具の入った粥。じやは、煮える音。(大言海 広辞苑) (志、(布施田、片田、畔名、浜島、志島、甲賀、国府、鶴方、越賀、船越、立神)、鳥(国崎、答志)、桑市、員、三、鈴市、安、津、久、松、多、上、阿、張、名、度、北、南、熊) [会話] オジヤは 雑炊や (です)。

おじや【名詞】 肥料にするため、大、小便を水で薄めた物 [会話] せせげな (下水) も放らんと、水みたよな (ような) のおでも (のでも) 皆 畑い、持ちおったの (持って居ました) それを こやし (肥料、大、小便) の中に入れて 掛けんのおを (のを) オジヤ。

おしやい (押合)【名詞】 1) 押し合う事。互いに押す事。押し合い。(松、多、伊、尾) 2) 舟を漕ぐ競争。[会話] ② 櫓 漕んでくと (で行くと)、オシヤイン (に)、なんねやんかい (なるのです)。櫓 漕ぎやいで (あいで) 磯場を取りやい (あい) すんね (するのです)。

おしやいへしやい (押合圧合)【名詞】 狭い所で大勢がひしめく事。おしあいへし合い。[会話] 芝居な (が)、よおつんで (よく混んで) 今日は オシアイヘシヤイや った (だった)。我先に言う事やなあ (です)。我先にいこてて (行こうとして) オシアイヘシヤイすんねなあ (するのです) 言うやんか (言います)。よけ (多い) 人ごみ (混み合う) の時に オシヤイヘシヤイ。

おしやう【他ワ五】 押し合う。

おしかかなやね【俚語】 鼻でふく事。鼻を花にかける。馬鹿にする事。[会話] オシヤカナヤネで、はなぶさしとられ (鼻=花、茸=吹きして居る) 言うて、ふうん言うて返事すると。

おしゃげる【他ガ下一】 押して上へあげる。ひとまともにして積んである。舟が岩に乗り上げる。[会話] オシヤゲルと、おしゃげといた (ておいた) とか、つみやげといた (積み上げておいた) とか。

おしゃべ【名詞】 よく喋る人。饒舌家。おしゃべり (多弁) の末尾の省略 (志、(船越、御座、浜島、神明、的矢)、鳥 (坂手、相差、菅島、神島)、桑郡) [会話] よけ (沢山) 喋るのを、オシヤベ言うの (言うのです)。あや (彼) オシヤベやよってん (だから) 言うて、わしら (私は) どこいても (どこへ行っても) 喋るほおい (側へ) まわるもんで (ので)、オシヤベや (だ) 言われんね (言われるのです)。よお (よく) しゃべろくや ら (とか) はちやら言うのが、あとい (へ) 付いて来る。

おしゃべえ【名詞】 べえは兵衛で擬人化した語か。ものの言えない人

おしま【名詞】 子供が人前をはばからないで、ませた振る舞いをする事。又そのようにする人、特に女の子、おします。おっしゃいますの略。しゃべる (多弁) の意 (志 (浜島)、南、張) [会話] オシヤマ言うな ひねこし (大人びている) 事をなあ ひねとる (古びている) 事をな オシヤマやなあ (だ) 言うの (のです)。何んでも、ものにひいでとる 何んでも知つとる (ている) よおな子があるやろ (あるでしょう)、それを オシヤマやな (と) 言うねんなあ (言うのです)。男の子は言わせんな (言いません)、女の子に よお使うな (よく使います) オシヤマや (と) 言うのは、お母さんな (が) 化粧しとると (していると) くちべん (口紅) でも、盗んだよおんして (ようにして) 付けたりするこお (子) が、有るやんかい (有ります) と あやまあ (彼女は) オシヤマやなあ (だ) 言うのなあ (のです)。

おじやん【名詞】 小父さん 伯父さん 叔父さん 親しみを込めて言う語 (志 (的矢)、鳥 (加茂)、松、阿、上、張、名、伊、南) [会話] おじさん言うの (のを) オジヤン、おばやん言うてなあ やんや (だ) 言うて。

おじやん【名詞】 失敗 終了した。終わった。ジャンは鎮火を知らせる半鐘の音と言う。[会話] しまいや (終だ) 言う事やなあ (事です)。今日は こんで (これで) オジヤンにしよおや (しましよう) 言うけど (けれど)。今日はまあ よけ (多く、沢山) したよってん (から)、こんで オジヤンにしよおやんか (しましよう)。こんでしまいんしよおや (終にしましよう)、しまおや (終りにしましよう) 言う時に、オジヤンにしよおや。

おしよおじ【名詞】 祭り 御精進 富士詣りに行った人が身を海水で清め、無事息災を祈る行事 [会話] 富士山え登る時 おやまする 言うて おはち回る時は 家でひまち (祈願) してなあ どいらい (大変) 緊張しよおったねんなあ (して居たのです)。山よかれ言うて ぶう言うて ほら吹いて そや (それは) 行とる人らがな (行っている人たちが) 山がよおて (よくて) 何事もなしに来やれるよおに (帰れるように) 山よかれ言う歌をうたうねんなあ (歌うのです)。オショオジは その歌うたうねけど (歌うのだが) 昔なあ 行て来た人らなかんならず (必ず) あらめさんえまいりよおったやんかい (参って居ました) オショオジん (に) なんと。あらめさんは、りよおがみさんや (漁神様です) あらめさんえ まいってな そして その帰りに言うてなあ 28

日な オショオジやもんでなあ (なので) 百姓しとる
個人えなあ ざある (箆) 持ってな、そすと、きゅうり
やとか (だとか)、なすびやとか、かぼちややとかな
みんななあ そなえんねやんかい (供えるのです) そす
とさいご (その時) こんだ (今度は) それを せえしろ
屋な 宿やってなあ (集会所であって)、あしこでしよ
おってなあ (あそこですて居ました)。その みんな
あつめん行くんやんかい (集めに行くのです)、そすと
おもさま (充分に) なすびや (だ)、きゅうりや、かぼ
ちやや言うて、やさいもん (野菜物) を 集めて来てし
よおったの (して居たのです)。そして 麦藁焚いて
煙かぶりん (被りに) 行て それを ずず (数珠) を、
いただきして (頂かして) もらうと 物凄ありがと
(有難くて) ずずいただきしてくれ いただきしてくれ
言うて ずずでこついてもろて (叩いて貰って) 頭を、
おやまい行て来た人らな (が) そげんすると (そんなに
すると) どいらい有難おてなあ (大変有難くて)。悪事
災難のがしてもおて (逃がさせて貰って) 1年中 病氣
せんとする (せずに居る) 言うて、それを いただきし
てもらえんと (貰わないと) 何かえんぎなわりいて
(縁起が悪くて)。

おしょか 教えようか 教えてあげましょうか (鳥) [会
話] おせたる (教えてやろう) 言うのをな オショカ。
そげなこた (そんな事は) わしや知つとるよつて (私は
知っているから) おしょかい言うてなあ。教えたろかい
(か) 言う事を この場合は オショカだけでなく お
しょかい言うね (言うのです)。わしな (私が) おしょ
かい言うてなあ おせたるかい言うのを。

おしょかい。おしょかな 1) 教えてあげようか おしょ
か参照 2) 教えない [会話] 1) そげなこた (そんな
事は) わしな (私が) 知つとるよつて (知っているから) オ
ショカイ言うて。教えたろかい (てやろうか) おせたる
かい言うのを。

おしょかれ 教えない

おしょさん (和尚) 【名詞】 和尚さま [会話] おっさんの
こと 坊主のこと おっさんぶうを、今しや (今は) オ
ショサン言うけどなあ。

おしろいくさい (白粉臭) 【形容詞】 白粉の匂いがする。
なまめかしい匂いがする。なまめかしい。[会話] おし
ろいな (が) ついとる (ついている) 人間は オシロイ
クサイ言うて。昔、おしろいする人間は そげんないも
んで (そんなに無いので)、そやもんで (それで) お父
さんらな (が) 浮気してくると おしろいの匂なするも
んで (ので) オシロイクサイ言うて、浮気した言うて、

おくさんな (が) やきもちやいて。おやまさんを はし
りがねや (だ) 言うて、はしりがねのとこい行て (所へ
行つて) はしりがねおて (買って) 言うて言よおった
ね (言つて居たのです)。オシロイクサイは、化粧しと
る (している) 昔 おやまさんこおて (女郎買つて) 来
ると、におうやんかい、からだな (匂います体が)。そ
れやよつて (それだから) オシロイクサイね (のだ) 言
よおったんなあ (言つて居たのです)。

おしろいのきい 【名詞】 おしろいばな。オシロイバナ科の
多年草。茎は高さ80cm位になり、卵形で先がとがり、
長さ3~10cmの葉を対生する。夏から秋の夕方に紅、
白、黄、紫の花が咲く。花は花弁状の房が癒合した漏斗
状で先が浅く五つに裂ける。実は円状で黒く熟し球形の
種子の胚乳は白粉質。[会話] オシロイノキイ言うな
(のは) ラッパみたいな (のような) 牡丹色の花な
(が) 咲いて。そんな おつてくと (それが落ちて行く
と) ちっちゃあい (小さい) 大豆ほどけ (程) のみいな
(実が) くろいのな (黒いのが) なつて それ割つた
ると (てやると) しりいい (白い) 粉な (が) 出て来て。

おしろえ (白粉) 【名詞】 白粉 (鳥) [会話] おしろいの
事、オシロエ 言うんなあ。

おしわける (押分) 【他カ下一】 押しのける 押し割る
無理に入り込むようにする (南) [会話] おしわけ ひ
きわけ言うて、ぶえとるもんで (ので) オシワケケカナ、
いいられやへんねやんか (いかなければ入られないで
はないか) 言うて、ぶえとる しげつとんの (繁つてい
るのを) 物凄 草な (が) ぶえとるもん (から) オシワ
ケケイカナ 行かれやへんねやんかい 言うて。

おしわり (押割) 【名詞】 押しつけて割った物。特に伊
勢海老を頭から尾まで左右二つに分けた料理。

おしわる (押割) 【他ラ五】 1) 大勢の中へ力づくで入り
込む。少しの隙間に入り込む。2) 力を込めて上から割
る。

おじんこ 【名詞】 情夫

おす (押す) 【他サ五】 船を漕ぐ。櫓を押す。おしたくる
参照 (志)

おすまし (御澄) 【名詞】 1) 眞面目な顔をして 気取つ
て居る事 又その人 (伊賀地方) 2) 吸物 [会話] 1)
人間も 眞面目しとると (していると) オスマシして言
うて。知らん顔してしとると オスマシして言うて。お
ちよぼぐちしてまあ、すましこんで言うて。口すぼげて
(すぼめて) 上品にしとると おちよぼぐちしてまあ
すましこんどねよお言うて おちよぼぐちは ちっさ
い口。

おすら【名詞】とぼける。知らぬ振りをする。またその人。すら…そら、空、地上をとりまく広がりある空間、人がぼんやりしてしっかりした意識が持てないさま。根拠がない。実体がない。外見だけ、見せかけだけ、そらとぼける。そらを使う。しらない振りをする。嘘をつく。(名、度、伊、尾) [会話] オスラ言うのは、人の言う事を耳に入れんと (入れずに)、知らん顔しとる (している)。オスラ すらばこや (です)。すらばこして言うて、よお言うなあ (よく言います)。人な、なん (何を) 言うても 聞いたねやら (聞いたのか)、聞かしえんねやら (聞かないのか)、判らんよおにして、オスラみたいにしとる (のようになっている) 言うて、すらばこやなあ (だ)。

おせ(教)【名詞】教える [会話] おしえて呉れんのを (呉れるのを) オセ、何んでも あの人、わしん (私に) オセゴトして言うて。わたしな (私が) 知つとて も (ていても) その人な (が) べつんも知つとるよんして (特に知っているようにして) オセルやんない (教えるでしょう)。そすと (すると) あの人 何時でも オセゴトして言うて わしらなオセゴタ、えつぼどのもんやわい (余程の者だ) 言うて。

おせ 樽を漕げ

おせきしよ【名詞】晩酌(志) [会話] オセキシヨやるかい (やりますか) 言うて、晩酌の事なあ (です)。

おせごと(おしえごと)(教事)【名詞】説明。おしえごと。忠告。おせ参照

おせた(おしえた) 教えた

おせたた(おしえたた) 教えてやった [会話] おんな (俺が) オセタタ、あげん (あんなに) 言うて、書いたてて (ても) おらな (俺が) 皆 オセタタのん (のに)。

おせたね(おしえたね) 教えたのだ

おせたねえ(おしえたねえ) 教えたくない

おせたらせん(おしえたらしえん) 教えてやらない

おせたらんかい。おせたらんかな(女性語)。**おせたらんかれ(おしえたらんかれ)** 教えてあげなさい

おせたるわ(おしえたるわ) 教えてあげます [会話] オセタルフ言うて 教えたる (てやる) 言う事やんかい (です)。

おせたれ(おしえたれ) 教えてやれ

おせたら(おしえたら) 1) 教えてあげましょう 教えてあげます 2) 教えてやりなさい。[会話] ₁₎ オセタルフ言うのを おしよか (教えようか) おしよかい (教えようか) 言うて。

おせたらかい(おしえたらかい) おせたらかな(おしえたらかな)(女性語) 1) 教えてあげましょうか 2) 教えません

おせたらかれ(おしえたらかれ) 教えない

おせたらん(おしえたらん) 教えてやろう [会話] 教えたるわ言うて 教えたる (てやる) 言う事やんかい (です)。オセタロン来い言うねやんか (言うのです) そいなもん (そんなものは) おや (俺は) よお知つとられ (よく知っている) オシエタロン来い言うて。

おせて(おしえて) 1) 教えて下さい 2) 教えて 教えた(鈴市、鈴郡、津、久、一、度、伊) [会話] ₂₎ オセテになると 教えてやって。₁₎ オセテ言う時は、教えて下さい、₂₎ オセテ言うのは おしえたた (てやった) 言うことや (です)。おんな (俺が) おせたた (教えてやった) あげん 言うて 書いたてて (て居ても) おらな (俺が) 皆、おせたのんのお (教えてやったのに) 言うて、おら (私は) オセテもろて (貰って) 言うて。

おせてえ(おしえてえ) 教えて下さい [会話] 教えてくれ言うのを おせて、教えて下さい言うの オセテエ、これ オセテエ言うて。あんたらさん (貴方方) これ オセテエ言うて。

おせてくれやせん(おしえてくれやしえん) 教えてくれない おせてやらせん参照

おせてもおた(おしえてもおた) 教えて貰った。

おせてもおて(おしえてもおて) 教えてもらって おせてもらって参照

おせてもらう(おしえてもらう) 教えて貰う [会話] おおすじ 大体言う事を 予め言う事を 大筋で ちょいとオセテモラヤ (少し教えてもらえば) 判られ (判る) 言うて。

おせてもらや(おしえてもらや) 教えて貰えば

おせてもろて(おしえてもろて) 教えて貰って [会話] おら (私は) オセテモロテ 言うて。

おせてやらせん(おしえてやらしえん) 教えない 教えてあげません [会話] おせやせん オセテヤラセンのを おれん (俺に) オセテクレヤセン言うて、知つとて も (ていても) オセテクレヤセン言うて。

おせとる(おしえとる) 教えて居る。

おせやせん(おしえやしえん) 1) 教えない 2) 教えてくれない

おせやん(おしえやん) 教えない(久)

おせる(おしえる)(教) 教える。おしえごと参照。(志、(布施田、鶴方、立神、国府、安乗)、三、四、鈴市、

久、一、松、多、上、阿、張) [会話] 知らん事を教えんのを (教えるのを) オセル 言うんけど (言うけれど)。

おせん (おしえん) 教へない (久) [会話] おせやせん (教へない) おせてやらせん (教へてやらない) のを、おれん (俺に) オセン言うて。

おぜんりょお (おじえんりょお おぜんれう) 【名詞】

法事、葬式などで仏前に供える物品の代わりに出す金銭、又その時に僧を接待する代わりに出す金銭。 [会話] お寺のときまいん (に) になると 重箱い (に) 入れて 米も入れて 銭も入れて ときまいや (だ) 言うて 年忌の時ん (に) 持って参ってくんやんかい (参って行くのです)。そやもんで (それで) お寺のときまいで もってまいった。米をなあ持って それまた お寺で炊いて 先祖さんえ供えてくれんのを (呉れるのを) 米と野菜やなあ (とか) それい (に) ぜん (銭) も そえて持ってくんやんかい (持って行くのです) 千円でも 二千円でも。昔なあ (は) 重箱一杯入れて こんにやくや、人参や、牛蒡や言うて 供えて貰うもん (物) を 持って行きよおったの (行ったのです) それを ときまい、お寺な (が) 家な (の) 先祖さんを お寺え 本堂さんえ (に) まつつとるやんない (祭っているでしょう)、それい (へ) そのときまいを おしよおさんらな (が) 炊いて供えてくれんねやんかな (くれるのです)。そやけど 今は ぜん (今は銭) で持てこい言うの (のです)、野菜やどけ (など) よけもろても (沢山貰っても) よけくわせんし (あまり食べない) するもんで (するので) ぜん (銭) で呉れ言うね (言うのです)。それを オゼンリョオ言うの。

おそい (おそひ) (襲) 【名詞】 1) 漬物などの重し。

2) 最後の一口、又は軽食の後で一口食べる米飯。おさえ。 [会話] 素麺喰うと (食べると) 飯、後で一膳喰うの (食べるのを)、オソイに言うて。

おそいことならねこでもする 【俚諺】 動作の緩慢なる事、又命令された事を早くしない者を罵して言う。(員)

おそいし 【名詞】 漬け物などのおそいにする石 [会話] だいこづけ (大根漬) のおそい言うね (重し言うのです)。重しの事を オソイシ言うの (のです) おそいの石や (だ) 言う事を。

おそいりさんばい 【俚諺】 宴席に遅くなって入って来た人に早急に盃を推める。(員) [会話] オソイリサンバイや (だ) 言うて、おそお (遅く) から来るとなあ、盃でもさすやんかい (差し出します) おそいりや

(だ) 言うて、おそお来たもん (遅く来た者) は 飯、腹一杯よお食わん (食べられない) 言う訳で、三杯言うねやろな (言うのでしょうか)。早よ来たもな (者は) 早よたべとんのおに (食べているのに) おそいりする と 人はまあ 二膳もたべとるとこい (食べている所へ) 来たら、一杯より食べられやへんねよって (食べられないのだから) えんりよしとると (遠慮している) と、あんた (貴方) オソイリサンバイやよって (だから) 食べんかい (食べなさい) 言うて、こちらがなあすすめることを言う。

おそう (おそふ) (圧) (襲) 【他ワ五】 1) 押し込む、上から圧力を加える。上から押しつける。おそたる。積み重ねる。オス (圧) の延 (大言海) (志) 2) 犯す。強姦する [会話] 上からオソウ、寒いよってん (から) 布団おそとけ (被せておけ) 言うのも有るし、きしえとけ (着せておけ) 言うのを。おそわれた言うのも有るし、なんやかや (いろんな物が)、やつからかえって来て、おそわれた言う事もなあ (です)。やつからかえったてやら (とか)、ひっくり返ったてやら 倒れた言うの (言うのを)、やつからかえった言うの (のです)。やつからかえって来て、どんでんがえりしたてやら 言うて、その時におそわれるやんかな (おそわれます)。やつからかえって来て、おそわれた。

おそうまれ (遅生) 【名詞】 四月二日から十二月末日迄に生まれた人。同じ年の一月一日から四月一日迄に生まれた早生まれの子供が数え年七歳で小学校に入学するのに対し、一年遅れの八歳で入学する事から生まれた語。 [会話] ななつあがり (七才で入学する子) は 早生まれ。やつつな (八才が) オソウマレや (です)。

おそおても 遅くても (北) [会話] おっそおても来てくれるかい (来てくれますか) とか、オソオテモ行くよってん (行くから) とか言うて。

おそがけ (遅延) 【名詞】 1) 時刻に遅れるさま (安、鈴市、北) 2) 遅い時刻 (志、鵜方、神明、立神、国府、安乗) [会話] 夕方遅いん (のに)、日な (が) 暮れてく (暮れて行く) のを、オソガケン (に) やつて来てとか、仕事な (が) 終わって来たのを、オソガケン (に) 来たとか。

おそかつて 遅くて (北) [会話] こんな (此の人が) おっそいやんな (遅いでしょう)、わしらより来んのな (私達より来るのが)。あや (彼は) オソカッテ 言うて。オソカッテ おらなごつとお (俺等が御馳走) 皆くたて (食べてしまつて) 言うて。

おそかれはやかれ 【副詞】 1) 遅くても、早くても。結

果は同じだ 2) そのうちに [用例] 2) オソカレハ
ヤカレ 来るやろん (だろう)。

おそくさい (遅臭) 【形容詞】 遅い。のろまだ。(飯、三、
鈴市、鈴郡、安、松、上、阿) [会話] オソクサイ言
うのは、ごてごてしとる (している) 言う事やなあ
(事です)。なんでも、はよせんならん (早くしなければ
いけない) 事を、のっそりやとる (している)。

おそくたい 【形容詞】 遅い。のろま。おそくさいに同じ。
(志、飯)

おそくち (遅口) 【名詞】 会合に遅れてくる事。後から来
る事。又その人。

おぞげ (怖気) 【名詞】 1) 恐ろしく思う気持ち。おじけ。
不気味な様。ぞっとする気持ち。おぞ毛と誤用される。

(志、(甲賀、神明、立神、志島、国府、安乗) 2) 腹
立たしいさま。(志 (布施田) 鳥 (石鏡)) [会話] 2)
オゾゲミゾゲな (が) たたれ (立つ)。ものすごお (す
ごく) 嫌な事やなあ (です)。オゾゲやれ (だ)、あの
ひた (人は) 言うて、オゾゲなよおな人や (だ) 言う
て。ものすごお すかん人を言うのなあ (のです)。す
かん事を オゾゲやなあ (だ)。オゾゲなたつ言うのは、
オゾゲミゾゲな (が) よだつよおなれ言うて、ものす
ごお 腹な立つ言う事を。よだつ言うのも立つ。ごお
なわく (腹が立つ) のを しんによお (部首のしんに
ゅう) 付けて、ものずごお ごおなわいて、ごおなわ
いてすんのを (するのを)、オゾゲミゾゲなよだつよお
なれ 言うの (のです)。オゾゲなのおも (のも) みぞ
げなのおも、同じよおな意味やろ (でしょう)。それを
しんによお付けて言う訳やわ (です)。しんによお付け
る言うのは、あんごしのおに (馬鹿のに) しんによお
かけとんねやれ (かけているのだ) 言うて、よお言い
おった (よく言いました)。ものすご、あんごし言う事
やろな。簡単に言うと。

おぞげたつ (怖気立) 【自タ五】 恐ろしさや腹立たしさの
ため体がふるえ身の毛がよだつ。おぞげ参照 (志 (布
施田、鶴方、神明、立神、志島、国府)、上、阿) [会
話] オゾゲダツ言うな (のは) おた (ああ) あの人な
(が) すかんわ おもても (嫌だ思っても)、おぞげみ
ぞげな (が) 立つ言うて。何んか (何か) すかんこと
な (嫌な事が) あると、ぞっと寒気な (が) するよお
な、いやらし (嫌な)、きらいな (嫌な) 時な (が) あ
るやんない (有るでしょう)、そお言う時 オゾゲミゾ
ゲナタツ言うて。

おぞげなかつた いやだった

おぞげみぞげ 【名詞】 おぞげに同じ。[会話] 背中にぞ

おとして来る時、オゾケミゾゲな (が) 立つ。

おそざき (遅咲) 【名詞】 人より遅れて世に知られる事。
遅くなってから出世する事。[会話] おっそおさいて
来んの (遅く咲いて来るのを) こやまあ (これは) オ
ソザキやなあ (だ) 言う、おくれざきや (だ) 言うの
もあるしなあ (有ります)。人間でも、ちよいと おぼ
こいとなあ (少し幼稚だと) あやまあ (彼は) オソザ
キや (だ) 言うて。結婚すんのも、おっそい (するの
も遅い) と おくれざきやなあ (だ) 言うて おくれ
ざきも一緒やわい (です)。

おそそ 【名詞】 女陰。おは接頭語。スソ (裾) と同語源
おたべ参照 (志、鳥 (坂手)、員、上、阿、張、尾)
[会話] 女の人の前、おたべ言う人な (が) 有るし、
オソソ言う人も有る。

おそて (遅) 【形容詞】 遅くて [会話] おそくて言うの
を おおた オソテ言うのなあ (のです)。

おそて 押えて

おそとし。おそとろし (怖) 【形容詞】 1) 怖い。いやだ。
怖ろしい。2) 大変に。えらい。[会話] 1) おおた
(ああ)、オソトロシ。おら (俺) 畑でひきごとな
(が) 出て来るとおとして (怖くて)。

おそなえ (おそなへ) (御供) 【名詞】 供餅 (志 (布施
田、片田)、鳥 (神島)、南)

おそなられ 遅くなります おくれるぞ [会話] はよこ
いまあ (早く来なさい) まあ 船な出てかれ (が) 出て
行く) オソナラレ はよ来いまあ 言うて

おそなる おそくなる。遅刻する。(志 (布施田、鶴方、
神明、立神、国府、安乗)、鈴市、安、津、久、松、上、
阿、張、度、北、南、熊) [会話] オソナル言うて
おくれてく (おくれて行く) 言うことを。オソナル言
うのは 遅く行きます、オソナルけど (が) 言うて、
行く言う事やわいな (です)。オソナルけど 言うてな
あ、おそくなるけど 言うて 行くこた (事は) 行く
言う訳やわいな (です)。

おそなるやんかあ 遅くなる。遅刻するではないか。
[会話] おきんかれ はよまあ (起きなさい早く) 言
うて、オソナルヤンカア 言うても、なかなか 起き
てきやせん (来ません)。

おそなんど 遅くなるぞ。遅刻するぞ。[会話] はよい
かな (早く行かなければ) 遅れる言わへんね (言いま
せん)、オソナンド言うて。

おぞまし 【形容詞】 1) 馬鹿馬鹿しい。押すと活用した
語。おずし、おずまし (強悍) 強情にて、勝気の転
(大言海) 2) 羨ましい。3) 嫌だ [会話] 2) オゾ

マシがる言うけど (が)、羨やむ言う事やわいな (です)。オゾマシがる言うな (のは) 羨やましがる言う言い方やわいな (です)。¹⁾ オゾマシいうな (のは) いやや (嫌だ) 言うような感じやなあ (です) オゾマシ言うねよってなあ (言うのだから) そいな (そんな) 綺麗な言葉やないね (で無いのです)。³⁾ なんか すかんわなあ (好ましくない) あの人な (が) 言うて人を恨むよおな そお言うよおな意味やなあ オゾマシ言うな (のは)。いやなよおな あの人な (が) すかんわ (嫌だ) あの人な (が) いややけどなあ (嫌だが) おもいもて、せな (思いながらしなければ) いかんよおな事やないいかな (ではありませんか) オゾマシ言う事は いやなかんじな (感じが) する言葉やな (です)。

おそまで 遅く迄 (志、上、阿、張、名、南)

おそろし (恐) 【形容詞】 1) 身に危険を感じて不安である。こわい。(鈴市、亀、伊) 2) 大変に。えらい。³⁾ 驚きあきれることである。ひどい。はなはだしい。[会話] ¹⁾ あの人 ちよいと なんか (少し何か) 言うて 怒って来て オソロシよおな人やなあ (だ) 言うやんかい (言います)。ちよいと 何んか言うても、かんすじたててくるとなあ、あの人まあ じっくん (すぐに) かんすじたてて オソロシよおな人やなあ。

おそろしさぶい 【形容詞】 大変寒い。[会話] どいらいさぶいなあ (大変寒い) 言うこと。ものすごいさぶい 言うことを 大変寒いなあ、言うのを。おおた 今日 はまあ、オソロシサブイ ひいやなあ (日だ) 言うやんかい (言います)。おとろし、おそろしは 大変言うことやなあ (です)。

おそわれる (おそはれる) (襲) 【自ラ下ー】 1) 襲われる。泥棒に入られる。強姦される。押さえつけられる。おそう参照。2) うなされる (志、鳥、南、熊) [会話] ¹⁾ オソワレル。上からおそてこしたの (おそっておこしたのを) おそわれた。泥棒におおととか (逢った、あったのを)、おなご (女) の人が 男にオソワレとか言うの (のです)。

おた 【名詞】 魚を追う石、竹、棒などを言う。[会話] うちあみの、オタつくとか なんぼくのオタつくとか言うてな 魚を追うのを きい (木) のオタも有るし、石のオタも有るし 石、綱つけといて (つけておいて) ほりこむのも 有るし。

おた 音はの訛 (南)

おだ 【名詞】 むだ口。冗談。気炎。うだぐち うだ: 無益な事。空しい事。うそ。

おだいかん (御代官) 【名詞】 えらぶった行動をする人、又は自我を強く主張する人に対する罵詈。

おだいく (大工) 【名詞】 大工の棟梁。建築の最高責任を持つ大工。(志 (甲賀、国府)) [会話] オダイクのかな (妻が)、ゆり持ちすんね オダイクは大工の棟梁

おだいしこ 【名詞】 旧十一月二十四日の祝い 御大師講の訛 [会話] ふろふきして、そばをうじこん (団子に) して、小豆飯炊いて、オダイシコや (だ) 言うて、萩の木を箒ん (に) して、祭りおった (ました)。

おだいじん (御大臣) 【名詞】 偉い人、資産家の主人 (員) [会話] えらい人も、あの人、オダイジンやよってん (だから)。だいじん言うてな。大臣はえらいのんきまっとるわいな (偉いのに決まっています) オダイジンや (だ) 言うて、お付けてな べつんも (特に) えらっそおにしとるもんで (偉そうにしているの) で あの人 オダイジンやよってん なあ 言うて。

おだいじん (御大事) 大切にして下さい 病気見舞いの挨拶 別れの挨拶 [会話] オダイジン言うて 病人見舞ん (に) いても、かえりん (帰りに) になると、オダイジン言うて来るやんかい。だいじんせえええ (大事にして下さい) 昔なら、だいじんせえええ まあ行くわい (もう帰ります) 言うてなあ かえりことばん (帰る時の挨拶に)。

おだしこ 【名詞】 おだいしこに同じ。

おたずねもん (おたづねもん) 【名詞】 御尋者、犯罪者、指名手配の犯人

おたつき 【名詞】 舟の上から魚群を網の張ってある方に追い込む人。おたつく参照

おたつく 【他カ五】 舟の上から魚群を網の張ってある内に追い込む。[会話] オタツク言うのは、魚の (を) 追うので、石に綱つけといて (つけておいて)、表から (舳から) パアッとほんのも (ほるのも) 有るし、桐のきい (木) ですんのも (するのも) 有るし。オタツキは、なんもよおせんもん な (なにも出来ない者が)。オタツキせなしよおないね (しなければ仕方が無いのです)。

おだて (煽) 【名詞】 おだてる事。そそのかす事。煽動。動詞おだてるの連用形の名詞化

おだてもっこ (煽) 【名詞】 おだてあげる。調子良くおだてる事。もっこ 舂縄を網のように四角に編み、石や土を入れ四隅をまとめる様にして担いで運ぶ道具。

おだてもっこんのりもっこ 【俚諺】 煽てる人の言葉に乗る人を罵りて言う。次項参照

おだてもっこんのりもっこ そのまた **もっこをかつぐ**

ひと【**俚諺**】煽てられて調子に乗って居る人を更にけしかける第三者の人【会話】 オダデモッコニノリモッコ言う。おばやんえらいわのお、おばやん言うて。私な 言うやんない (言うでしょう) あやまあ、おだててまあ 俺を言うて。オダデモッコニノリモッコ言うて もっこい (に) 乗った言うて、おだてんな (てるのは) わかっとなるけど (判っているが) まあなあ、したらないかんもんでな (してやらなければいけないので) おだてもっこん (に) のったんよお (乗ったのです) 言うてな、オダデモッコニノリモッコ言うてな。

おだてる (煽てる)【**他タ下一**】或る事をさせようとする意図をもって、人を盛んにほめあげて、いい気にさせる。気持ち乱すように廻りであり立てる。廻りで囃し立てる。(南)【会話】 知らん (知らない) 事でも言うて (言って)、オダデテ、たきつけて、いしぐら (石垣) えも 火 付けて。あんごしのおに (馬鹿なのに) オダテルと、いしぐらえでも、火 付けて来んねどお (火を付けて来るのだぞ)、よけおだてんな (あまりおだてるな) 言う事や (です)。オダデモッコニノリモッコ言うて、オダテルとさいご (その時)、調子にのつて、よおしえん (よく出来ない、しない) 事でもして (行つて)、おだてられてまあ言うて、よおしえん とおつて、おだてられてしとんねどお (しているのだ) 言うて、そんなのを、もっこに乗る言うんやんかい (言います)。

おたふく (御多福)【**名詞**】 1) 不美人。下ぶくれの顔をした女の人。どたふくとも (志 (布施田)) 2) 髪を結い方 (鳥)【会話】 ₁₎ オタフク、みふく、風な (が) 吹いたらよお (よく) 吹く。顔な (が) ふくれとんの (ているの) オタフク。

おたふくかぜ【**名詞**】 耳下腺がはれて、おたふくのような顔になる。流行性耳下腺炎。

おたふくにしゃみせん 金を持っていること。金銭的に余裕の有ること。【会話】 オタフクニシャミセン (三味線) 持つとて (ていて) ピンピン 言うやんない (でしょう)。そすと ふくつんや (だ) 言うて。豊ん (に) なって来るとなあ、あの家や (は) 金 みんな (皆が) 稼んで (稼いで) 今しや (今は) ふくつんやれ (だ) 言うてな。そやよつて (だから) オタフクニシャミセン 言うて。オタフクニシャミセン 言う時は 金持つとる (ている)、金みんな (皆が) 稼んで 来て、親に渡すもんで (ので) 親はまあ 豊ん (に) なって来た事をなあ、ふくつんや (だ) 言うて。ふくつんやなあ (だ) あの家や (は) 言うて。

おたふく、みふく、かぜなふいてよふく【**俚諺**】 太って居る人をからかう語 (上、阿)

おだぶつ【**名詞**】 死ぬ

おたべ【**名詞**】 女性外性器 恥丘から後方に向かう一對の皮膚のひだ。(大陰唇。男子の陰囊の相当) があり、これに挟まれた裂け目を陰裂という。陰裂の内には大陰唇に平行して小陰唇と言う小さな皮膚のひだがあり、それが前方で相合する所に陰核 (陰茎に相当) があり、左右の小陰唇に囲まれた部を膣前庭と言う。てっこう。つび。しゃね。いれしゃね。性交。物と物との間に他のものを入れる事。福井方言におちゃんべが有る (国語語源辞典) おたべ、ちべ、ちょんこ、との関係は？ ちょんこ、ちんこ、ちんぼ (男性器) の移行も考えられる。尚おちゃんべはアイヌ語 ochiupashte (性交する) の略の訛 (国語語源辞典) (志 (布施田、甲賀、安乗))【会話】 女の人の前、オタバ言う人な (が) あるし。おそ 言う人らも有るけど (けれど)、ここの人ら (は) おおかた (大体) オタバやなあ (です)。御座はちべ、越賀はごぼに、和具のオタバ、せだのちょんこに 片田のこんぼ 言うね (言うのです)。男のもん (物) は、よけねえけど (無いが) ちんこ言うのと、ちんぼ言うのとこんぐらい (此の位)、わしら子供の時分 (時) は ちんこ 言いよつた (言つて居た)。ちんこや (です)、大人になると、ちんぼや (だ) 言うけど (けれど)、ちんこや言うて、ちっさい (小さい) 時分にや (には) 言いおつたわい (言っていました)。ちんこ干してなんどお (なんですか) 言うて、ちんちんぶらぶらみつとみない、あつかい (赤い) 褌こおたるか (買つてやろうか) 言うて、言いおつた (言つて居た)。男のもん (物) は ちんこと、ちんぼとそんだけ (それだけ) やなあ。ちんた、そや (それ) ちんた干しとる (下着をつけて居ない、日に当てる) 言うのも、言いおつた (言つて居た)、のおの (お前の) ちんた見よまあ (見よ) 言いおつた。ほつたら (そうしたら) きんだま (睾丸) の目方知つとるんかい (重さ知っているのですか)。きんだまの目方、昔はなあ 三百二十匁有る言うたねんなあ (言いました)。きんだま二金あるやんない (二つ有るでしょう)。一均二均言うて、それで 一均は百六十匁やんない (でしょう) そやよつて (それで) にきんやよつて (だから) 三百二十匁。

おたべし【**名詞**】 性交を好む女性の蔑称。【会話】 そん な (それが) 好きで、ものすごお (大変) 好きで、そんなことばっか (ばかり) しとんのを (しているのを) オタバシ言うんやんかい (言うのです)。しごとし

言うな (のは) 仕事すんの (するのが) えらい人を
しごとし言うしなあ (言います)。

おたべする【自サ変】性交する(志) [会話] 今しや
(今は) こいな (こんな) こと言わせんけど (言わな
いが) 昔は オタバスル言うてな 昔は そげな言葉
よりほかん (他に)。今しや (今は) セックスやんかい
(です)。

おたべのけえさんまたんする 成人する。大人になる。
陰毛が生えて居る。[会話] オタバノケエナ (毛が)
サンマタン言うのは、けえな (毛が) 生えて来たじぶ
んに (頃に)、けえな あっちゃからとこっちゃからと
こおすんのを言うねえんかい (言うのではありません
か)。さんまたん (三又に) 言うねよってん (言うの
だから)、じょおほ (両方) のふちくた (縁) からして
来てすんのを (するのを) 言うねやろ思うわい (言う
のだと思います)。娘時代に何んか (何にか) 言う
とオタバノケエサンマタンしておって (していながら)
そいなこと (そんな事) 言うて 言うんよってん (言
うのだから)、まだ 生えはじめじぶん (頃) のことを
言うんやろな (言うのでしょう)。はえたての、のおを
(生え始めのを) こべりな (大陰唇が) われとるよ
って (割れているから) じょおほな (両方が) 生えて
さんまたん (に) なるもんで (ので) 言うんやろ。そ
おやなけな (それでなければ) さんまた言うて そえ
んなって (そんなにどうして) さんまたん (に) なる
や、やんない (なるでしょうか) 娘の時代になあ、な
んやかやすると オタバノケサンマタンシてお
って そいな こと言うたり、したりして 言うてなあ。
男の人らな (が) よお言うんやんかい (よく言います)。
色気づく言うのと、大人の世界になじんで来た言うの
と一緒やわい (です)。娘らが、こららみたよな (子供
のような) 事すると、オタバノケサンマタンシて
おって (していながら)、こららみたよな 遊びしとる
(している) 言うて。

おたま【名詞】 魚、あかたまがしら あかいさぎ、スズ
キ科の海魚、形は鯛に似て、やや細長く、全長50cm
に達する。体色は赤色でやや黄味を帯び背鰭に黒い斑
紋が有る。

おたまじゃくし (和玉杓子)【名詞】 一本の木で作って、
汁物または汁気の多いものを掬う杓。柄のついた丸い
汁杓子。(志、鳥) [会話] きい (木) を削って、ええ
(柄) も一本のきい (木) でしてあんのを (してある
のを) オタマジヤクシ。

おたやん【名詞】 不美人 おたふくの転じた語。(津、一、

松、多、上、阿、張、尾)

おだれ(尾垂)【名詞】 屋根の庇 (志、(鶴方、神明、立
神) [会話] 家の庇もだれ。オダレ言うて、倉のオダ
レやとか (だとか) 家のだれ。

おち(落)【名詞】 1) 天気が悪くなる事。おちる。ひよ
りはオチや。(志 (布施田、甲賀、鶴方、立神、国府、
安乗)) 2) 商売の不振。3) 手落ち。落度。[会話]
1) 天気な (が) 落ちる。日和な (が) オチやなあ
(だ) 言うのも有るし、2) 何やかや商売しとても (し
ていても) おもわし (思うように) 行かへんと、まあ
オチやなあ言う事もあるし (あります)。

おぢ。おぢの。おぢばお。おぢんこ【名詞】 おじ参照
1) 情夫。(志、度) 2) 小父。他人である年輩の男子。
(志 (越賀)) 3) いつまでも独身で居る男。(志 (浜
島、布施田)、鳥、一、北、員、阿) 4) 伯父、叔父。
父母の兄弟 [会話] 1) オヂンコ言うと一緒になってて
(なっていて)、彼氏 (情夫) の事や(です)。不義しと
る (している) 人や (です)。おぢさん言うのは 普通
の伯叔父さん やけど (ですが)。おばんこは、おなご
(女) の事やなあ (です)。彼女やし (ですし)。4) オヂ
の言うのは、伯叔父の事。オヂノや、おばのや言うて本
当の伯父さん叔母さん。オヂや (とか) おば言うのは彼
女と彼氏の事言うてなあ (事を言います)。3) 嫁さん貰
わんと (貰わずに) 自分のうち (家) におるな (居るの
は)、オジボオ言うて (言って)、あや (彼) オジでおん
ねてわれ (居るそうだ) 言うて、やもめ (寡夫) 言う事
なあ。

おちあい (おちあひ) (落合)【名詞】 夕暮。日の沈む頃。
[会話] 夕方ちろちろ (薄明るい) の、日な (太陽
が) オチアイの時、いなだな (魚名が) 乗んねやろ
(網に入るのでしょう)。

おちあう (おちあふ) (落合) 出逢う。相談して一定の所
で逢うようにする。

**おちあお。おちあおや。おちあおやんか。おちあおやん
かい。おちあおやんかな (女性語)。おちあおやんかれ**
出合いましょう [会話] あしこで (あすこで) オチ
アオヤンカ 言う時も有るしなあ (有ります)。不動さ
んえいて (行つて) 不動さんで、まっとるわい (待っ
ています) 言うのと、一緒ん (に) なるや (なりましょ
う) 言うのを オチアオヤ言う時な (が) 有るな (有
ります)。

おちいし【名詞】 海底の砂原に有る石 [会話] オチイ
シ言うななあ (のは)、砂原い (に) 一つつつ 石な
(が) おつとる (落ちてい) 時な (が) あんねてや

(有るのです)。そいなのおを(そんなのを)砂原ん
(に)オチイシな(が)有って言うて。

おちいってく(落入)【自ラ五】死にそうになる。好ましくない状態になる。おちいる参照

おちいる【自ラ五】 1) 息絶え絶えになる。死にそうになる。死ぬ。(南、熊) 2) 気がめいる[会話] ₁₎ ねぶとおて(寝むくて)オチイッテく様なわ(様だ)言うて、しんでくよおな(死んで行くようだ)言う意味やろな(でしよう)。だるうて オチイッテく様なんよお(様です)言うて、オチイッテ言うことは 死ぬ様な気持や(だ)言う事やろんな(でしよう)。死んでたこた(死んで行った事は)ないけど(が)オチイッテくな言うねよつて(言うのだから) 死んでくよおな気持。かいだりて(疲れて)かいだりて まあ、オチイッテくよおな(だ)言うやんかいだ(言います)。かいだりて かいだりて 何つとあんねやら(何んと有るのか) わからせん(判らない)言うて言う時もあるんな(有ります)。まあ オチイッテくほど かいだりんよお言うて 言うやんかい(言います)。₂₎ 気持が沈んどる(でいる)様な時も、オチイットル おちいっとなあ言うて。心配して何んか(何か)心配事な(が)あつて オチイッテく様なわ(だ) 思て(思つて)思う そいな時も使うもんな(使います)。

おちおち【副詞】ろくろく 落ちついているさま 下に打消しの語ができる

おちかぜ【名詞】 1) 突然に吹く強風(志、(神明、立神)、鳥(管島、答志、相差)) 2) 天気が悪くなる前に吹く西風 [会話] ₁₎ オチカゼ言うのは、朝はじつばな(立派な) 日和やったのん(天候だったのに)、急にまぜ(南風)とか、西な(西風が) おとして来た(吹いて来た)とか言うて、日和な(が)急に、俄に風な(が) よけ(多く)吹いてくん(来るのを)オチカゼ言うて。オチカゼな(が) して来た(吹いてきた)。

おちこぼれとた 1) 今にも死にそうだ、大病をしていた 2) 大損していた [会話] ₁₎ 人な死んでも、あのひた(人は)オチコボレトタもんなあ(ていたから)言うて。ぐあいなわりて(調子が悪くて) どいらいわりかった(大変悪かった)大病しとた(していた)事を オチコボレトタ。

おちこむ【自マ五】気が減入る。元気をなくす。

おちこんでいく 1) 気がめいる。 2) 沈んで行く。

おちつき【名詞】盆に初めて佛に供える御飯 [会話] 水向けんいて(に行つて)、しょおろさん むこて(精

霊さま迎えて)来て、わがうち(自分の家)のほとくさんえ(仏壇に) しょおろさんな(が)入った訳や(です)。寺の水向けすると わがうちい 帰つて来て、すると、オチツキや言うて、水 供えて、こんだ(今度)は ささげめしと、もみなとして、十三日ん(に) 供えんの(供えるのを)オチツキや(だ)言うのな(です)。

おちつきかえつとる 悠然としている [会話] あやなあ(彼は) なん言うたてて(何を言つても)、オチツキカエツトネ言うて

おちてた 1) 落ちていた 2) 落つて行つた

おちど(落度)(越度)【名詞】過失、あやまち、オチド(越度)の訛(大言海)。チツドの転(広辞苑)

おちとた 落ちていた

おちとる 落ちて居る [会話] 物がオチトル。

おちばな【名詞】風の吹き始め。[会話] まぜ(南風)の オチバナ舟をだせ。西(西風)のオチバナ舟出すな。

おちび(落日)【名詞】天候が悪くなる日。天候の悪い日。[会話] ひよりな(日和、天候が) おちる。悪くなる言うのを オチビや(です)。

おちびれる。おちぶれる【自ラ下一】高い地位より落ちる。金持ちが貧しくなる。落ち、アフル(放浪)の約(大言海)

おちめ 落目【名詞】おちぶれる様になる時期。おちぶれかかった状態

おちやい【名詞】夕暮。おちあい参照。[会話] ひなくれてく(日が暮れて行く)事を、オチアイに言うて。日没ん(に)なる言う事を オチヤイに、日のオチヤイにまで、かかった 言う時な(が) あるんな(有るのです)。

おちやちや【名詞】よく騒ぐ人。よく喋る人。特に女、子供。(志(布施田)) [会話] ほん、オチャチャ やなあ(だ)言うて、よけさおぐと(沢山騒ぐと)。

おちやづけ、ちやづけ(御茶漬)【名詞】冷飯に熱い湯、又は茶をかける食事で粗食の代名詞であるが、これから発展して、好みの魚菜に茶をかける風味豊かな食事である。[会話] ご飯へいろんな物入れて。大根漬けで チャヅケで喰うとか、菜漬けでチャヅケするとか。鯉の刺し身でチャヅケするとか、オチャヅケ言わんと(言わずに) チャヅケや(です)。ちゃんちゃも一緒みたいやけど(のようだが)、ちゃんちゃじる(汁)言うのは、なまみそなあ(生味噌を)、めし入れといて(飯入れて) あたたい(熱い)茶を入れん(入れる

のを) ちゃんちゃ。ちゃんちゃんしとる (している)
茶を入れるもんで (ので) ちゃんちゃ汁言うの (ので
す)。うまいねんなあ (美味しいです)、あのちゃんちゃ
汁は。

おちゃと、ちゃと (おちゃたう) 【御茶湯】 【名詞】 仏前
に供える茶と湯。湯 (とう) の長音部が落とされ三音
節になったもの。(志 (神明、立神、安乗)、阿、張、
名、南、熊) [会話] につばいがつばい (日拝月拝)
あげる (供する) 事を こちら (この辺り) チャート
(茶、湯) する言うの (のです)。

おちゃのこ (御茶子) 【名詞】 1) 茶菓子 (阿) 2) 苦勞
せず容易に出来ること (上、阿) [会話] オチャノコ
さいさい言うけど (けれど)、オチャノコ、つけも
ん (漬物) でもなんでも、チャノコな (が)、のおて
(なくて) 言うんやんかい (言うのです)。茶、のみも
て (飲みながら)、はさんで喰うの (間に食べるのを)
チャノコな (が)、のおて (なくて) 言うて。昔は茶菓
子言うよおなことはしやへんし (しないし)、だいこず
けや (大根漬けだ) とか、そんな物しいよったもんで
(して居たので)、なんも (何も) 無い時は、オチャノ
コ のおてなあ (無くて) 言うて。めえ (若布) の葉、
干しといて (干しておいて)、塩ふいとんのおを (塩が
表面に付いているのを) 茶漬けんして喰うたなあ (食
べました)。梅のしそ、干しときや (干しておけば)、
ええのん (よいのに)、よれやのん (沢山だのに) 言う
て。それを茶へ、あつつうい (熱い) 茶へ、ひとはつ
(一葉づつ) 入れて飲むと、しおおて (塩辛くて)、う
まいの (のです)。すいうもおて (酸味があって美味)
そいなのを (そんなのを) チャノコにするけど (が)。

おちゃのこさいさい 物事が極めて簡単に出来るさま
さいさいは俗謡の囃子言葉 のんのこさいさいから
[会話] オチャノコサイサイ言う事は、なんもかも
(何でも)、ちょいちょいとしたり (簡単にしてやる)
言う事を、オチャノコサイサイ言うね (言うのです)。
手早よお (手早く)、ちゃっちゃと そいな事 (そん
な事) は、オチャノコサイサイや (だ) 言うて。

おちゃま 【名詞】 よくふざける女の子 [会話] オチャマ
おしやまも よお似たよおなもんやなあ (ものです)。
オチャマ言うのはな ちょおけん (ふざける) のをな
あ、ちょおけると最後 オチャマ言うて。オチャマ言
うな ちゃあちゃあ ちゃあちゃあ言うとるやんない
(言っているでしょう) 人ん (に) ふざけて、ちょお
けてなあ あちゃけたこととなあ、あや オチャ
マやなあ言うて 女子の子になあ。

おちゃもやのふきも 【俚諺】 お茶の席と屋根の葺き替え、
よい席も悪い所も、味噌も糞も、いつも [会話] オ
チャモ、ヤノフキモ言うてな、お茶の会へ行くのも
それ着て、やのふきい (屋根葺き) 行くも それ着て
言う訳や (です)。どこい (へ) でも おなし (同じ)
様に、じつばなもん (立派な物) を 着てく (着て行
く) 言うて。ええ (よい) ときん (に) きやんならん
のにお (着なければいけないのに) ちょいとした
(少しの) 時でも、それ着てく (着て行く) 言う意味
やなあ (です)。やのふきすんな (屋根葺きするのは)
汚いのん (に) やのふきん 行くのもそれ着て、オチ
ャモヤノフキニモ着たらしもたられ (悪くしてしま
う) 言うて。

おちょくる 【他ラ五】 からかう。馬鹿にする。馴れ親し
む。ふざける。(志 (鶴方、立神、国府、安乗)、上、
阿、張、名、南、熊) [会話] オチョクル。人あやか
して (からかつて)、人ちよっからかしとる (からかつ
て居る)。あんまり気やすう (余り気やすく) 言うのを、
ちよっからかしとる (て居る)。ちよっと、からかつと
る言うのなあ。侮る言う意味とちょいと似とるけど
(少し似ているが)、侮るでも無いけど (無いが)、
よお (よく) 意味な (が) 似とんねけど (似ているの
だが)、侮る言うて、特別悪いけど (が)、まあ、人お
めしとらんと (人おじして居なくて)、心安うく (気安
く) 言うのを、なんも遠慮無しに言うとる事を言うん
やるな (言うのでしょうか)。ちよっからかしとんね (て
居るのだ) 言うて。

おちょけ 【名詞】 よくふざける人。お調子者。ちょおけ
もん ちょおける参照 (志 (鶴方、神明、立神、国府)、
鳥、一、松、伊) [会話] オチョケと、ちょおけもん、
一緒やけどなあ (です)。ここの人は オチョケ言う
なあ (言います)。ちょおけて (ふざけて) まあ言うて、
オチョケや (だ) あや (彼)。

おちょげのはな 【名詞】 大事にする事 まぶい参照
[会話] オチョゲノハナで育って言うて、ちょおはい
(重拝、大切に) して、大事にして言うのを。

おちょぼぐち 【名詞】 女、子供などの小さくて、かわい
らしい口。又すばめた口。ちょぼ小さい意 (大言海)
おすまし参照

おちる (落) 【自タ上一】 天気が悪くなる。おち参照 (志
(鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥)

おちるとこやった 落ちるところだった

おつ 【名詞】 唄の声や音の調子 [用例] あのひた (人
は) 歌 うとても (歌っても) オツなわりね (悪いの

だ。

おづ【名詞】 魚の尾の付根の部分 おづつ [会話] しつぽ (尻尾) のとこ (所) を オツ言うなあ (言います)。鰹をさげる (持つ) みつんなってさげんのを (三つになって持つのを) オツツ言うなあ。尾のこおしたとこ (所) オツツ言うてな、おおな (尾が) さんぼひらいとて (三本開いていて) そこをさげるやんかい (持ちます)、鰹 こおてくると (買って来ると) 誰でも。

おつい【汁】【名詞】 お汁。おつゆ、お汁の変化した語。(三、鈴市、上、阿、張、名、南) [会話] おつけ (味噌汁) のこと、オツイ言うな (言います)。おつけとも言うし。昔 味噌汁を、しるや (だ) 言うて。味噌汁言わんと (言わずに) しるたこや (炊きましよう) 言うて、朝しるでくやええわれ (食べればよろしい) 言うて、そすと 昼も残りのしるでくとけ (食べておけ) 言うて、しるばつか (味噌汁ばかり) くとりよおったんよお (食べて居ました) オツイ言うな 上品な言葉で。

おっかかり【名詞】 飽きやすい人 粗惚者 (志 (甲賀、安乗)) [会話] ながしまのオッカカリで、ちよいと (少し) して じっきん (すぐに) 飽きる事を オッカカリ言うのな (です)。飽きて来る人を あや オッカカリで、じっきん なんでもたんのしてきて (飽きて来て) 言うて 飽きる人を オッカカリや言うて。

おっきい【形容詞】 1) 大きい。全部。大きいの変化した語。(志摩市全域、鳥、桑郡、桑市、員、三、鈴市、安、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) 2) 年上である (上、阿) [会話] ₁₎ 大きい言うのを オッキイ。

おっきいじいさん【名詞】 曾祖父

おっきいばあさん【名詞】 曾祖母

おっきいなった 大きくなった。成長した。おっきいな参照

おっきいなる 1) 大きくなる。成長する。(志 (浜島、国府、布施田、鶴方、立神、安乗)、伊) 2) 胡座で座る。(志) [会話] ₁₎ オッキイなッタなあ。大きくなる言うのを どいらい (大変) オッキイなッタなあ 言うて、生長することを 一緒のことやわいな オッキイなッタのも、ナルのもな。₂₎ ちんとすわつとる (正座しているのを) のを ひざわれ言うことを オッキイなッてくれえ (下さい) 言うて。ちんと すわつとると 足な (が) 痛いのん (のに) オッキイなッてくれえ言うな (のは)、ひざわってだくに (楽に) す

わってくれえ 言うて。ひざわれは あぐらかけ おいざかけ言うね (言うのです) 昔は おいざや (です)。

おっきさ 大きさ [会話] オッキサも はかつとけ (計っておけ) 言うて。

おつきさん【名詞】 月 (志、鳥、桑郡、桑市、員、四、鈴市、鈴郡、亀、津、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、熊)

おっきな【連体詞】 大きな (志、三、安、一、阿、伊、北) [会話] おおきい言うて言うの オッキナ。どいらい (大変) おおきいわれ (です) 言うて。

おっきなる 1) 大きくなる。成長する。(志 (神明、御座、志島)、鈴市、安、多、上、阿、張、名、伊、北、南) 2) 胡座で座る。[会話] ₁₎ 子供でも、おおき (大きく) なって来ると オッキナなあ言うし。南瓜でも、なつとて (なっていて) おおた こなんだ (此の前) ちつさかつたや (小さかったら) こんど行たや (行ったら) どいろおなつとたてやら (大きくなっていたとか) 言う。オッキナッた言うのを どいろおなつとたなあ言うね (言うのです) “い” を “い” わ おかた入れやせんな (大体入れません) おおきいなあ言うて、いも 入れんねけどな (入れるのです) が オッキナなッたなあ、どいろおなつとたなあ言うのも 一緒やけどな (ですが) おおきいなあ言う。その時ん (に) よつて 昔は おかた (大体) どいろおなつとたなあ言うんな (言います) オッキナなッたより どいろおなつとたなあ言う方が 多いのな (です)。

おづきよおか【名詞】 四月八日 (上、阿、張、名) [会話] ここらん (の) 人は おづき言うねなあ (言うのです) 卯月言わんと (言わずに) オツキヨオカは花より団子言うて。

おつくね【名詞】 お手玉 [会話] お手玉のことや (です) オツクネこつくね つくねかしてちよん言うて 言うんけどな (言うのです)。

おつけ【御付】【名詞】 味噌汁。御汁、つけは動詞つけるの連用形。本膳で飯に並べて付ける意味から、吸物の汁。おつゆ。特に味噌汁。(志 (片田、国府、鶴方)、鳥 (国崎)、桑市、員、三、安、津、上、阿、張、名、南、熊) [会話] 味噌汁の事をオツケ。オツケの実言うのは 葱やたら (とか)、だいこ (大根) とか、菜つ葉。オツケ言うのは味噌汁だけで、すいもん (吸物) は醬油でするよつて (から)。豆腐入れると、昔は、とふはち言うてなあ、醬油でするの。すいもんを 豆腐入れて、豆腐のはちはい言うてなあ。今日はとふはちでやるや (食べましょう) 言うて、豆腐と葱入れて。

昔は葬式になると、必ず とふはちな (が) 出おった (でて居ました)。なのかん (七日、初七日) になると、とふはちと、ささげめして、なのかに墓参り行くと、じえんぎり (全部) とふはちや (です)。つけもん (漬物) と、とふはちで軽い食事を朝なあ、なんもないけど (何もないが)、とふのはちはいで、やってくれ (食べて下さい) 言うて。そやけど (それだが)、昔は、その とふのはちはいな (が) 又 どえらい (大変な) ごっつおやったんやんかい (御馳走でした)。それしか、なかつたんやんかい (それより無かったのです)。うまかりおったんなあ (美味しかったです)。葬式で今しは (今は)、なのかや (七日だ) 言うて、しやしえんけど (しないけれど)、昔はなのかん (に) になると濃い人ら (血の濃い人、親類) へ、香資よけ (多く) 貰う人らに、なのかのぜん (七日の膳) や言うのな (のが) ささげを一つつつ (一つつつ) とばしとして (飯の中に入れておいて)、豆腐のはちはい、葱と豆腐入れとして それ いっぱい (一杯つつ) と、つけもんで、ほんかあるい (本当に軽い) 食事やけど (だけれど)、どいらい (大変な) ごっつおや 思いよったの (思って居たのです)、昔はなあ。いつも 芋ばっか (ばかり) の飯で、御飯食べると、いしぐらぐわそや (石垣壊しました) 言うて、御飯食べんのん (食べるのに) 言いおったの (言っていたのです)。

おつげ (御告) 【名詞】 神佛の宣託

おつけいちんびん 【俚諺】 ふくれ面をしている。ぷんとしている。【会話】 ぷんとして 気に触ってなあ まあ あや (彼は) オツケイ チンビンで、ぷんときたれ (来た) 言うてな。昔なあ おつけ (味噌汁) 食うと ちんびんや (だ) 言うて 密柑のかあ きぞだの (皮刻んだのを) 入れるとなあ、匂な (が) ぷんとするもんで (ので) そんで (それで) 怒ってぷんとしてくと (して行くと) あや (彼は) まあ オツケイ (に) チンビンやれ (だ) 言うて ぷんとしたれ (した) 言うの (のです)。

おつけのみ 【名詞】 味噌汁の中に入れる野菜や肉。中身、内容。み、実、汁の中に入れる野菜や肉など。

おつごも 【名詞】 おおつごもり。大晦日。一年最後の日。(志 (神明、浜島、布施田、鶴方、立神、国府、安乗)、鳥、松、多、度、伊、北、尾、南、熊) 【会話】 大晦日をなあ オツゴモ。

おっさら 【名詞】 お手玉 (志 (片田、布施田、越賀)、安、津、度) 【会話】 オッサラ お手玉のことを オッサラ言うの (のです)。

おっさん 【名詞】 小父さん。他人の男。大人の男の人。(広辞苑) 小父さんの転 中年の男を親しんで呼ぶ称。小父、叔父、伯父に関係なし。(張、津、一、多、上、阿、張、名、北)

おっさん (をっさん) 【名詞】 和尚さまの転。和尚、僧侶を親しんで言う語。オシ (師) さんの転 (広辞苑) (志 (浜島、布施田、立神、甲賀、鶴方、国府、安乗)、鳥、桑市、員、鈴市、鈴郡、安、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) 【会話】 和尚さんの事やなあ (です)。血脉言うのは、死んだ時ん (に)、オッサンな (が) 書いてくれんの (くれるのです)。

おっそい 【形容詞】 遅い (志、鳥、度、伊、北) 【会話】 オッソイ言うなあ。遅い、おた (ああ) 今日は ○○さんな (が) どいらい (大変) オッソイなあ言うて待つとるとさいご (ている時に)。

おっそいことは、ねこでもする 【俚諺】 愚図々々しているのを叱り罵る言葉

おっそおて 遅くて 【会話】 遅くて言うのを おおた (ああ) オッソオテ 言うのなあ (のです)。

おっそおても 遅くても

おっそろし (恐) 【形容詞】 1) 大変 2) 怖い 【会話】
1) 今日は おとろしさぶい (寒い) オッソロシ 言うて。

おった 1) 居た (志、安) 2) していたものだ (志 (布施田)、度、北) 【会話】 1) ここん (此处に) オッタんのん (のに)、どこんいたんやあか (何処へ行ったのらうか) 居らせんなあ (居ません)。オッタんのん ま いたたよお (行ってしまった) 言うてな。そすここに誰も居らせん思もて (居ない思って) 来んのん (来るのに) ここに人が居るでしょ そしたや (そうしたら) おおたえれ あんた (貴方) オッタンかい 言うて 言うの、ここに居たんですか 言うの (のを) おおた オッタンかい 言うの (のです)。

おったのん 居たのに 【会話】 ここん (に) オッタノン どこい (へ) いたんやあか (行たのか) 居らせんなあ (居ません) オッタノンまあ いたたよお (行っていました) 言うて。

おったる 1) 折ってやる 2) 居てやる

おったんかい 居たのですか 【会話】 誰も人な (が) おらせんおもて (居ない思って) くんのん (来るのに) 人が居ると おおたえれ (ああ) あんた (貴方) オッタンカイ言うて、居たんですか言うの (のを) オッタンカイ言うの (のです)。

おっち 恐ろしい、怖い 幼児語 (南、熊) 【会話】 お

とし (怖い)。ああ オッチよ言うて、恐い事。怖い言う。おとし、おとし言うやんな (言うでしょう)。その意味やんなあ (意味です)。オッチ言うのは。ああ怖い言うのを、ああ オッチよ言うて。子供の言葉や (です)。

おっちゃく (横着) 【名詞】 押しが強く、ずうずうしい事、ずるい事。怠けてすべき事をしない事。乱暴 おうちやくの音訛。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、桑市、阿、張、名) [会話] のぶとものはてなしよ言うて、オッチャくな事すると。

おっちゃくい (おっちゃくい) 【形容詞】 横着だ 乱暴だ (鳥、員、鈴市、安)

おっちゃくする 乱暴する (志 (神明、鶴方、立神、甲賀、国府、安乗)) [会話] おっちゃくな (だ) 言うのは、おてんばのことを オッチャクスル言うねな (のです)。おっちゃくばおずや (だ) 言うね (のです)。

おっちゃくな。おっちゃくななあ 横着だ。乱暴だ。(志 (畔名、神明、鶴方、立神、甲賀、国府、安乗)) [会話] オッチャクナナア (だなあ)、なあ (お前は) 言うのも、乱暴なこおやなあ (子だなあ) 言うのもな、オッチャクナナア、なあ (お前は) 言うて。おっちゃくよも言うねなあ (のです)。おっちゃくもんよ (者よ) 言うのを おっちゃくよま言うて、おっちゃくよもやなあ (だ) 言う時もあるしなあ (有ります) おっちゃくばおずと おっちゃくもと おっちゃくよまと おっちゃくよもと 有るわけやな。

おっちゃくばおず 【名詞】 横着な男の子 おっちゃくする参照 (志 (神明、鶴方、国府、安乗))

おっちゃくもん。おっちゃくよま。おっちゃくよも 【名詞】 横着者、いたずらな者、おてんばな女性 おっちゃくな参照 横着 すべき事を怠けてしないさま。図々しくずるいさま。(志 (甲賀、浜島、鶴方、神明、立神、国府) 伊賀地方) [会話] オッチャクヨモ言うし、オッチャクモン (者) 言うのも一緒の意味。横着な (だ) 言う意味。男でも女でも、横着なのを、オッチャクヨモ言うなあ (言います)。

おつちよこちよい 【名詞】 落ち着きがなく、すぐ軽率な事をする事。また、そのさまや人。(尾) [会話] オッチョコチョイ言うな (言うのは)、とりしまりな (取締り、けじめが) 無いよおな、ちよけちよけ (ふざける) した事を言うて、ちよかちよかしとる (調子に乗って動き回っている) 事を。掴み所の、とりとめのない、ちよかすかの事を、オッチョコチョイやなあ (だなあ)、あや (彼) 言うて。ちよかすか言うな (のは)、ふわら

ふわらしとる事なあ (です)。ふわらふわらと しまりの無い事を、ほんと (本当に) ちよかすかやなあ (だ)、あや (彼) 言うやがな (言うでしょう)。ちよかすかで人の言う事聞くねなし (聞かないのだ)。ちよいと (少し) あんごしのおを (馬鹿のを)。人の言う事聞かんと (聞かずに)、ちよかすかやよってん (だから)、なんでも からおけや (空受だ) 言うて。からおけで ちよかすかと言うて、なんでも (何でも) 引き受けて、鼻の先で引き受けて、ふんふんふん言うて言うのなあ (のです)。

おつちよこねのくすりうり 【名詞】 薬の行商人。異様な姿をして手風琴を鳴らしながら、売り口上を述べ人集めをした。[会話] オッチョコネノクスリウリやなあ (です)。“おつちよこねの薬をかいたまえ ああ おつちよこね” アコデオンをなあ ひいて オッチョコネノクスリをかいたまえ言うてな、あるいとて (歩いていて) おつちよこねのくすりをかいたまえ言うて、めずらしので (珍しいので) 付いて 村中おわえやあるいとよおったね (追わえ歩いて居ました)。おつちよこねな (が) 村中そげんしてな (そんなににして) アコデオンひいて来ると、その人な (が) おどんねてや (踊るのです) “嫁をいじめる欲く婆が いくら信心したとて 神や佛わ知らぬ顔” 言うて その人な (が) すんねてや (するのです) そげんしてな (そんなににして) 踊ってなあ、余興してな見せて呉れよおったの (見せて呉れて居たのです)。そんなめずらしので (それが珍しいので) それい (へ) おわえやあるいてなあ (追わえて)。

おつちら 【副詞】 1) よちよちしている 2) 落ちついている (志、(国府)、鳥) [会話] 1) えつちらオッチラ言う。えつちらオッチラと歩くのをだ (歩くのを)、えつちらオッチラしとるなあ (している)、言うやんか (言います)。ちっさいこな (小さい子供が) 歩きかけて (始めて) 来ると、えつちらオッチラ、今し (今) 歩きかけやなあ (だ)。よちよちしとんのを (しているのを)。

おつちり 【副詞】 落ちついて居る様子 (松) [会話] オッチリしとる (している)。あのかあ (子は) 静かん (に) おちついとる (落ちついている)。わりことば (悪い言葉) で言うたら、うとんぼみたよおな (間抜けのような) こおやなあ (子だ) 言うて 言うのをなあ、オッチリしとる言うの (のです)。うとい (間が抜けている) のをなあ、単に 落ち着いとるだけやなしに (でなくて) 何処か 間な (が) ぬけとるもんでな

あ (抜けているので)。

おっちゃん【名詞】 座ること。行儀よく座ること。正座。
幼児語 (上、阿) [会話] ちんせえ言うて 座れ言う
こと オッチンセエ言うてな。

おづつ【尾筒】【名詞】 尾びれの前の部分。尾筒。丸く膨
れて居るので言う。おづ参照 [会話] 鰻のオツツ。
尾っぽの事。

おっつきさん【月】【名詞】 お月さま。(桑郡、北)

おっつけ【追付】【副詞】 そのうち、間もなく、
今すぐ、直ちに おしつけの音便 (大言海) [会話]
1) オツツケ言うのは、後でついてする言う事やなあ
(です)。オツツケて、もお来るやろ (来るでしょう)
言うて、あの人も オツツケて、すぐに来るやろ。オ
ツツケて来るに (来るでしょう) 言うて、すぐに来る
に言うよおな時に、オツツケ言うんな (言うのです)。
じっき (すぐ) に来る言う事。

おっつまる 押しつまる。年末になる。

おっつめ【追詰】【名詞】 1) 年の暮れ、年末 2) 最後
[会話] 1) オツツメ言うたら (言ったら)、しよんが
つな (正月が) オツツメたなあ。年の瀬のオツツメた
事を、オツツメとか、ごくずめとか言うし (言います)。
節季ん (に)、あした (明日) おつごもや (だ)、こつ
ごも (三十日) や言うよおになって来ると、オツツメ
て 年の瀬の事を言うのなあ (のです)。

おっつめる【追詰】【他マ下一】 年末になった。押し迫っ
た。

おって【追手】【名詞】 追い風

おって 居て [会話] ここん (此处に) オツテ、どげ
んして (どんなにして) なん (何) 言うて 言うてな。

おって 1) 落ちて (阿、南) 2) 折って [会話] 1)
物がおちとる (落ちている) 時にもオツテ言うし、2)
物を折る時もなあ オツテ、紙やどけ (など) こして
ふたつん (二つに) おっとけ言うてな、みつつん (三
つに) おっとけとか、へしよっつけ (折っておけ) 言
うねんな (言うのです)。昔 ふたつん へしよってな
れ (です) 言うて、たたんどけ (でおけ) 言うのもな、
へしよっつけ 言う。へしおっとけやなしに (でなくて)。
へしよっつけ 言うたら、ま 紙を こお へしおる言
う事をなあ へしよっつけ言うの。そして 箸をふた
つん (二つに) へしよっつけ言うて 言う時もあるし
なあ 折るのをなあ

…**おって【副詞】** だのに、でありながら オッテン参照
(志、津、尾)

おってきた 1) 風が吹いて来た 2) 落ちて来た

おってく 1) 沈んで行く 2) 落ちて行く (志、(布施
田)、北) [会話] 1) 沈んでく (行く)、とごつてく
(て行く) 事を オツテく、あやあれ (あれあれ)、お
ぶれて (溺れて) アップアップして、とごつてかれ
(沈んで行く) 言うて、沈んでく事を。

おってくよおん 落ちて行くように、落ちいっていくよ
うに (北、尾)

おってくる 落ちてくる (鈴市、安、伊) [会話] てん
じよ (天井) から 物な (が) オツテクルとかな、く
だもんな (果物が) オツテクル とかなあ。まあ、あ
かるで おってきたれ (赤くなって落ちて来た) ま
こやれ (これ) 言うて。

おってこよおな 落ちて行く様だ。体のだるいのを表す
語。(志、(布施田))

おってた 1) 落ちていった 2) 沈んでいった [会話]
1) 崖から下い (へ) オツテた、海い (へ) オツテた、
井戸い (へ) オツテた、川い (へ) オツテた言うて。
落ちてた言う意味と、2) しずんでく (沈んでいく) こ
と言うのなあ (のです)。とごつてく言うね (のです)。
沈んでく (沈んで行く) 言うのを とごつてた言うの
(のです)。ういとるうちん (浮いている間に) とやえ
えけど (取ればよいが) まあそや とごつてたない
(沈んでしまった) 言うてな、しずんでく (沈んでい
く) ことをなあ とごつてた言うの。オツテた言うの
も 沈んでた。オツテタレ言うて、しずんでくことを。

おってに …だのに、で有るのに。(北)

おってみよ 居てみろ 居るな [会話] そこらここら
ん (に) オツテミヨ、どづき (叩き) 殺したんど (て
やるぞ) 言うて。そこらん (に) 居てみよ (みろ)。

おってもおて。おってもろて 居てもらって

おってもおて。おってもろて 建具を作ってもらう事
織るのに関係あるのか [会話] 障子こさえる (作る、
こしらえる) 事をなあ 障子オツテモロテ言うの。ガ
ラス戸も あの建具屋ん (に) オツテモロテ言うて。

おってん のに (北) [会話] あいなこと言うてオツテ
ン。あいなこと (あんな事) 言うてオツテ、オツテデ
まあ 下はないぬ (無いのです) あいなこと言うてオ
ツテ、来たない (来た) 言うてなあ、行かせん (行か
ない) 言うてオツテ、また来たない。

おっとけ 1) 作っておけ 作りなさい 2) 折ってお
きなさい。[会話] 2) 物を 作る時もなあ 紙やどけ
(など) 二つん (に) オツツケ言うて。

おっとた 落ちていた

おっとた 折って居た

おとらしとる ぼんやりしている のんびりしている
おとりの変化した語

おっとり【副詞】 1) 人柄や態度がゆったり落ちついて居るさま。こせこせしないさま。おおよう。(志(布施田)、鳥、上、阿) 2) 沈んで居る。行動が活発でない 3) 馬鹿 少し足りない(痴呆)(上、阿) [会話] 2) おとなしいんけど (のだが)、おとなしいのが過ぎとるのおやなあ (ていのです) オットリシトル。おとなしいのが、昂じて (ひどくなって)、おとなし過ぎんね (過ぎるのです)。オットリしとんの (して居るの) で、勾配が言うのなあ (のは) 勾配な (が) めるい言うて。うとおこおはい言うて、うとおよ言うとるうち (言っている間) は、まだええんやけど (よいのだが)、ものすごい、どん (鈍い、へま) なこととして、なんか どまこましとる (どもこもしている) 言う時に、こちらがいらいらして来ると、うとおこおはい言うやんか (言います)。

おとる 1) 落ちて居る おってく参照(志、北)

2) 沈んで居る(志(布施田)、北)

おとろし【恐】【形容詞】 1) 大変 驚いたような時の気持ちを表す 2) 怖い(一) [会話] 1) 今日は、おとろしさぶい (大変寒い)。オットロシ言うて、ものすごいさぶい (大変寒い) と。

おつなええ 声や節廻がよい

おつなわり 声や節廻しが下手だ

おっぱ【名詞】 船の通った跡に生ずる波、航跡。尾端、折端からか。尻の事をおっぱと言う地方(北海道)も有る。追波も考えられる。オリハ(折端)の訛。(広辞苑) [会話] 巡航船な (が) 来ると、オッパな (が) 来ると、ほやげといてくの (放り上げておいて行くのです)。

おっぱるい 軽い。馬鹿。[会話] 頭のかあるい (軽い) 人。あや (彼は) 瓢箪やよって (だから) オッパルいねよって (だから) 言うて。

おっぱ【名詞】 鼻 ふくろう(志(越賀)) [会話] オッポ、ごろつけとおせ言うて。八幡さんの糞ほじり言い おった (言っている) 居た。八幡さんにな、きいななあ (木が)、よっけ (沢山) 生えとりおってなあ (生えて居て)、そこい (え) 皆 垂れに来いおって (大便をしに来て居て)、そやもんで (だから) オツポな、ほじえり おったんやろな (ほぜって居たのでしょう)、八幡さんの糞ほじえり。"じやまのほっぱな鳴いてきた じい じ (爺) も、ばあば (婆) も、早よ起きよ おらげのとと (父) らは網くりに行たわいなあ 行たわいなあ

(古謡)

おっぱ【名詞】 子供などを背負う事(員、鈴木、安、津、多、伊) [会話] 子供の言葉やんな (です)。おんでくれ (背負って呉れ)、オッポせえ (しなさい) 言うね (言うのです)。

おっぱい【形容詞】 小さい。幼い。

おつや【通夜】【名詞】 死者を墓場に送り出すまでの間、家族縁者などが夜通し棺の側で過ごすこと。夜とぎ(桑郡、員、多、伊) [会話] オツヤ言うな 夜伽。昔 よとぎ 言よおったな (言っていました)。人な (が) 死んで、オツヤに行くのを よとぎ 言よおった (言っていました)。よとぎん (に) いかなはざん (行かなければいけない) 言うね (のです)。今しや (今は) オツヤや (だ) 言うけど (が)、昔 よとぎや (だ) 言うて。

おつり【名詞】 1) 大便をした時の跳ね返り(上、阿) 2) 釣銭(亀、津、上、松) [会話] 2) 昔の人ら オツリ言うよおなこと言わらったの (言いませんでした)。そやれ (それ) つりもてかんかれ (持って行きなさい) 言うてな、つりも、もたんと行て (持たずに行つて) 言うて。つりもらわんと (貰わずに) 来たよお言うてな。1) 昔の あの二重橋の便所の時に はねかいて (跳ね返って) 来ると、つりもろてまあ (貰って) 言うてなあ その時も オツリ言わずに、つりや (です)。

おでき【御出来】【名詞】 腫物。腫れもの。できもん(でき物) [会話] できもん (出来物) の事、オデキ。

おてらのときまいでもってまいとられ【俚諺】 手段が不十分でも仕上がり都合よく行くこと。[会話] これしたと (してやると) 丁度ええねなあ (よいのだ) 言うて、あてことんなつてくと (想像になっていく) と 丁度まいつとるやんか (当たっているのではない) か そや (それわ) 言うて。なにげなしに、しとんね けど (しているのだが) それ仕上ると あてはまってくと (て行くと) オテラノトキマイやなあ (だ) 言うて。

おてり【名詞】 日射し、日の照るさま [会話] 干したのな (のが) 今日は オテリな、あんもおて (日差しが少なくて) かわかせんわれ (乾きません) 言うて 今日はよお (よく) 照つて よおかわいたれ (よく乾いた) 言うて。

おてりなあんまい 日射しが弱い

おてんきや【御天気屋】 気分のすぐ変わる人。気まぐれな人。

おてんとさん【名詞】 太陽 お日様 (志 (鶴方)、鳥 (神島)、上、阿、張、名、度)

おてんば (御転婆)【名詞】 慎みのない活発な娘

おとおさん (御父様)【名詞】 主人。夫。父親 [会話] オトオサン、とおさん、とと言うて。とと、かか言うてな、親になあ、おなご (女) の 親は かかあ言うてな、男の親にや (には) ととお言うて オトオサン言う時に 自分の本当の親と、旦那さんのことも 家のオトオサンな (が)。寝るとと (情夫) も おれげ (俺家の) ととな (が) 言うてなあ。うんでくれたととと、寝るととと一緒にや (です) 言う言葉な (が) 一緒にや (です) 寝る ととも。

おどおど【副詞】 恐くて、落ちつきのない様。おずおずの変化したもの

おとおめよおしめす 御燈明を消す [会話] しょうが つやどけ (正月など)、三ケ日お燈明必ずあげて、オトオミヨオンシメシケいうて、消すのをシメシケ言うて。

おどかかしたる 驚かせてやる。恐がらせる。[会話] オドカカシタル 言よおった。

おどかかしたろ 驚ろかしてやろう

おどかかす おどろかす。おどかすに同じ (志 (御座))

おどかされた 驚された。

おどかされる 驚される おどされるに同じ [会話] なんか (何か) 来るやら (とか)、して来るやら 言うて オドカサレル事を。

おどかしたれ 驚かせてやれ

おどかしたる 驚かす 驚かせてやる 怖がらせる (志) [会話] びっくりさしたる (させてやる) 言うのをな、人な (が) あしこい (あすこへ) 来たよって (から) オドカシタル オドカカシタロヤ (でないか) 言うて、かくれとて (隠れていて) わん言うてそすと わあ おどけた (驚いた)。

おどかしたる。おどかしたるん 驚かせてやろう

おどかす【他サ五】 驚かす。強迫する。おどすの転 (大言海) (志、(神明、志島、国府、甲賀、浜島)、桑市、鈴市、松、多、上、阿、張、伊、北、尾) [会話] オドカス言うのは、こちらな (が) オドカスけど (けれど)、おどける言うおは (のは)、そっちの人がおどけんね (驚くのです)。オドカス言うのは こっちが、オドカスとそっちがおどけて (驚いて)。

おどかすな。おどかすなまあ 驚かせるな [会話] オドカスナマア 言うて おどかしした時ん

おとぎき【名詞】 世話の評判

おどけた。おどけたない 驚いた おどかしたる参照 (志 (立神))

おどけたよおん 驚いた様に [会話] なんか (何か) 変わったもん (物)、気持ちのわり (悪い) もん 掘んだりすると びっくりして オドケタヨオン言うて。

おどけられ 驚きます [会話] オドケラレ (驚きます) 言うの オドケラレ そいな (そんな) 事すると。

おどける【自カ下一】 驚く、びっくりする おどかすの受け身。おどけた (過去形) 思いがけない事にあつて落ちつきを失う。はっとする。びっくりする。オホドクル (性緩) の約、おどくるの口語。(志、(神明、浜島、御座、志島、布施田、鶴方、立神、国府、安乗))

おとこ (をとこ) (雄)【名詞】 雄性のもの。雄。(三重県全域) [会話] かいぞろでも、貝の殻な (が)、わりん (比較的) とんがつとて (ていて)、拳固みたよおな (のように)、あや (あれば) オトコかいなあ (雄でしょうか)。そして、つのもおっきいし (角も大きいです)。そして ほっそいなあ (細いのは) おなごやろなあ (雌でしょう)。

おとご (乙子) (弟子)【名詞】 すえっ子。おとんぼ。(志摩市全域、鳥、桑郡、員、四、鈴市、津、多、上、阿、張、名、南、熊) [会話] オトゴ言うのは、下の子。一番末っ子。オトゴで、かおおて (可愛くて) かおお と言うのを、オトゴちいな (血の) あまりや (だ) 言うて。そいで (そうして) おなご (女) のこお (子) を、おやまのこおよ (子) 言うて、おやまの子よ早よ 来いよ (早く来なさい) 言うて、可愛のおで (ので)。オトゴ、おとんぼ一緒やなあ (です)。あやまあ (彼は) おとんぼやよってん (だから)。オトゴ言うのをだ、おとんぼやとか、おとべえ言うたりやんない (でしょう)。言い方な (が) いろいろなあ、あっちゃ (あっち) 言い、こっちゃ (こっち) 言いするわい (します)。

おとこあま (をとこあま)【名詞】 おてんば娘 (志 (片田、布施田、越賀)、桑郡、員) [会話] お転婆娘、おっちゃんくよも (横着者) のはてなしよ (際限なし) 言うのを、オトコアマ言うて、あんまり おっちゃんく (余り横着) な事すると、オトコアマやよってん (だから) 言うて。おなござい (女の分際) で、おっちゃんくなると (になると)、あやまあ (彼女は)、オトコアマやよってん、男みたいな (のようだ) 言う事やわい (事です)。おなございで、おなご (女) のくせに (でありながら) おっちゃんく で言う言葉やろなあ (でしょう)。おなございで言うな (言うのは)、幾らでも使うわい (使います)。おなございでこしゃく (生意気) な

事ばっか (ばかり) 言うて。オトコアマ、ちんぽあまやなあ (だ) 言うて。

おとこあるき【名詞】 足先を外側に向けて歩く歩き方 [会話] そとあるきの にげや (人間は) あや (あれば) 特別やてや (です) オトコアルキやなあ (です) あやなあ (あれば)。

おとこおや (をとこおや) (男親)【名詞】 父親

おとこおなご (をとこをなご)【名詞】 1) お転婆娘 男性のように活動的に行動する女性 (志 (波切)) 2) 男性の女々しい者 (尾) [会話] ₁₎ おなご (女) でおつてな (ありながら)、男みたよん (のように) おとこすつば (項参照) みたよん しとるものな オトコオナゴみたよななあ言うし (言います)。おとこあまや (だ) 言うて言うし、₂₎ 男でも おなごみたよな (女のような) 人な (が) おるやんか (居ます)。そすとさいご (するとその時) オトコオナゴみたよな人やなあ (だ) 言うて。

おとこかぜ (をとこかぜ)【名詞】 西風。強い西風 [会話] オトコカゼ 言うな (のは) 西の風の事をなあ。きつついやんない (きついでしょう) 西の風は、そやもんで (それで) オトコカゼや (です)。

おとこぎらい (をとこぎらい) (男嫌)【名詞】 女が男に接するのを嫌う事。又その女性。

おとこぐい (をとこぐい) (男喰)【名詞】 多数の人と性交渉を持つ女性 [会話] 男よけ (沢山) する道楽もん (者) や (だ) 言うて、あれしい、これしい (あの人も、この人とも性交して) して、あや (彼女は) オトコグイや (だ)。

おとこくさい (をとこくさい)【形容詞】 周囲に男性の臭いがある。男らしい。

おとこぐるい (をとこぐるい) (男狂)【名詞】 女が男との情事にふける事。またその女。[会話] オトコグレイしたり、おなご狂いしたりすると、身持ちな (が) わり (悪い) 人やなあ (だ)。

おとこごかり (をとこごかり) (男盛)【名詞】 男として最も血気の時、壮年期

おとこし (をとこし) (男衆)【名詞】 下男。召使の男。男衆 おとこしゅう おとこし 女性から男性を呼んで言う言葉。男の人達 (おとこのしゅう) 男の奉行人、下男、役者、芸者などの身の回りの世話をする人。(志摩市全域、鳥、桑郡、員、三、鈴市、安、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] オトコシ 男の人やとて (雇って) 弟子につこたりしとんのを (使ったりして居るのを)、オトコシや (と) 言

うやんかい (言います)。

おとこし【名詞】 性交を多くする女性、女性の浮気者 (おたべし) [会話] オトコシ言うて、男をよけする人を (多くの男性と性交渉を待つ人) オトコシ言う。うわきもんで (浮気者で)、オトコシと、オトコシと違うわけや。男よけする道楽もんや (者だ) 言う訳や。あれしい、これしい (あの人も、この人とも性交渉を持って) して、あや (彼女) 男喰いやなあ (だ)。あやまあ (彼女は)、オトコシやれ (だ) 言うて、よけ (多く) 浮気する人を。

おとこずき (をとこずき) (男好)【名詞】 女が多情で男を好く事。おなごあそび参照

おとこすつば【名詞】 男性のように行動する女性 [会話] オトコスツバ 言うな (のは)、おつちやくな (横着な) おなごらし (女らしい) とこのない、男みたよおな (のような) 事ばっか (ばかり) 言うたり、したりすんのをなあ (するのを) オトコスツバや (だ) 言うの (のです) 今しでも言うやんかい (今でも言います) あや (彼女は) スツバやなあ (だ) 言うて。たいがい (大体) まあ 若いうちだけ言われるだけで、としとつてたら (年を取ったら) 言わせんなあ (言いません)。若いうちなあ (若い間)、あや (彼女は) スツバやなあ (だ) 言うて、青年時代やわな (です) だいたいな (大体が)。

おとこする 性交する。女性側から多数の男性と性交渉を持つ。[会話] 早い時ん (年齢が若い時に) オトコスルと、あやまあ (彼女は) 青菜の双葉からなじんだ (若い時からなじんだ) 縁や (だ)。

おとこずわり【名詞】 胡座。胡座で座ること。おとこむかい。(桑郡) [会話] オトコズワリ 言うな (のは)、おいざかくのなあ (胡座で座るのを)、今しの (今の) 子ら (は) 皆 オトコズワリやなあ (です)。ほんとん、そいなこと (本当にそんな事) したら 昔なあ おなございで (女の分際で) おいざかいて (胡座で座って) 言うて、あの座った ざまみよまあ (格好見なさい) 言うて、人間のよおん (ように) 言われらったねんな (言われ無かったのです)。昔はなあ そいなこと すると、きらよおって (嫌っていました)、今しの若いこら (今の若い子は) ひっちゃけやあるいて (開けさがして) まあ、ズボンはいとるよってんなあ (から) あげんしとんねやろけどなあ (あんなにしているのだろうが)。

おとこだけ (男竹)【名詞】 真竹 [会話] 竹で節な (が)、たつかい (高い) のを、オトコダケ言うし、お

なごだけ言うな (女竹言うのは)、節な すべつとしとる (して居る)、すべ (すべり) なええ (よい) のな (が) 有るやんない (有るでしょう)。あいなの (あのようなの) おなごだけ。オトコダケと、おなご竹と見ても、オトコダケや (は) 節な (が) 男みたよん (男のように) しとるやんない (ででしょう)、そやよつて (だから) オトコダケ言うんやろん (言うのでしょうか)。オトコダケ言う人も有るし、真竹言う人も有るし (有ります)。

おとごちのあまり 末っ子は可愛い。[会話] オトゴノチノあまりや (だ) 言うて、すえっこ (末子) を 血のあまりや言うて。子も、あばえるし (甘えるし) 親もあまえかすもんでなあ (甘えさせるので)、オトゴチノあまりやもんで (なので) 言うてなあ 一番末っ子で可愛い言う意味やわいな (です)。

おとことおなごとああそんで、ねねさんもおけておおそおど 男と女と遊んで、ねねさん (赤ん坊) 産けて大騒動。子供の戯歌。

おとこどおらく 【名詞】多くの男性と情を結ぶこと。又その女性。(志(布施田)) [会話] オトコドオラクすんのを (するのを)、何んもせんと (何もせずに) 男ん (に) つきあるいたり、追わえて、あっちゃい (あちらへ) 行き、こっちゃい (こちらへ) 行きしとんのおを (しているのを) あやまあ (彼女は) 極道やれ (だ) おなごの (女) 言うて。

おとこはち (男八) 【名詞】おてんば、おとこあま。男が八分(8/10)と言う意味から。(志(浜島、越賀、布施田)、伊) [会話] 男あま言うのと一緒やろなあ (でしょう) オトコハチも。そや (それ)、そこの ハチヨ言うて、よお言うやんかい (よく言います)。

おとこばら (男腹) 【名詞】1) 不妊症の女性 2) 男子を多く出産する嫁。反対語：おなごばら、ぐんかん腹 [会話] ① こお (子) の無い人をオトコバラや (と) 言うけど (言うけれど)、子のはらまん (妊娠しない) 人を オトコバラや (だ) 言うて。② 男の子ばっかもおける (ばか、のみ出産する) 人も、オトコバラや言うけど (言います)。わしらな (私の) はや (腹は) オトコバラ、家の嫁さん おなご腹や (だ)、軍艦腹や (です)。軍艦腹言うなだ (言うのは)、おなごばっかもおけると (女ばかり産むと) 軍艦マーチャ (だ) 言うやんかい (言います・言うで有りませんか)。軍艦もおけた (産んだ) 又 軍艦やええ (ですか) 言うて、軍艦マーチャ言う人ら有るんなあ (有るのです)。おなごもおけると (女産むと) 軍艦マーチャもおけたんてわ

れ (産んだそうだ)。

おとこまい (をとこまひ、おとこまへ) (男前) 【名詞】男としてのなりふり、容姿。美男子。色男。おとこまえの変化した語。おなごまい参照 [会話] オトコマイ、おなごまい言うて、別嬪さん。オトコマイには惚れるな娘。

おとこまさり (をとこまさり) (男勝) 【名詞】1) おてんば娘。2) 男性より賢い女。非常に賢い女。よく働く女性。[会話] ① 男みたよおに (男のように) えらい言う事やなあ (です)。何んでもえらい人を、あや (彼女は) オトコマサリ やなあ (だ)。

おとこまつ (をとこまつ) (男松) 【名詞】黒松。樹皮の褐色の強い松。(桑郡、鈴市、安) [会話] おまつ (雄松) めまつ (雌松) 言うのな (が) あるやんかい (有ります) かあ (皮の) くろい (黒い) のを、オトコマツ。

おとこまむし (雄蝮) 【名詞】蝮の雄 [会話] 蝮はおなごまむし言うし、オトコマムシの事言わせんのかい (言わないのですか)、ひばかりは。

おとこむかい 【名詞】あぐらをかく事。むかう。座る。(志(志島、甲賀)、鳥、度) [会話] おいざかくの、胡座かくの オトコムカイ。むかう言うのは座る言う事。其処いじす (其処に待す) 言うて、おだいしさんみたよん (大師様のように) はいからやもんで (なので)、そこへ座れ言うの (のを)。そこいじす (待す) 言うて、じす言うのは座れ言うの (のです)。むことれ (座っておれ) 言うて、おらまあ、むことろか (俺は座っていようか) 言うて、正座してむことろ (座っていよう) 言うの (のです)。お大師さんな (が)、こおぶんなもんで (高文、学問があるので)、そこいじす言うて、はやりおったわい (流行しました)。

おとこむすび (男結) 【名詞】紐の結び方の一つ。右端を左端の下に廻して反した輪に左端を通して結ぶ解けぬくい。蝶結びに対し、一端を引いても解けないように結ぶ結び方。かきむすび。(志(布施田)、鳥(菅島)) [会話] オトコムスビ 言うな (言うのは)、きちんと結んだのを、オトコムスビ 言うし。蝶結びん (びに) すんのを (するのを) おなご結び言うやんかい (言います)。きちんと結ぶの (のを)、きっちゃ結び。

おとこめかけ (をとこめかけ) (男妾) 女に養われて居る男 情夫

おとこもん (をとこもん) 【名詞】男物、男が使う様に作られた物 [用例] オトコモンと、おなごもん言うて 男な使うのな (が使うのが) オトコモン。

おとこやまめ (をとこやまめ) 【名詞】 寡夫 やもめの
訛 (志、越賀) [会話] オトコヤマメにや (には)
蛆が湧く言うて、かか (妻) のないな (無いのは) お
じばおや (です)。かか (妻) に 早よはなれんの (早
く離れるのは) やまめ。オトコヤマメにや うじがわ
く 言うてな、おなごな (女な) ついとらせんもんで
なあ (ついていないので) 汚いやんない (でしょう)、
かざわ (匂いは) するしなあ そやもんで (それで)
オトコヤマメにや うじがわく 言うの (のです) 死
別れたのおだけ (のだけ) オトコヤマメ、そして よ
めもらわんと (結婚せずに) まあ いちばん (初め)
から もらわんと居んな (居るのは) おじばおやけど
(だが) 死別れたり 離婚したり すんななあ (する
のは) やまめなあ (です)。

おどされて 驚かされて 怖がらされて

おどされる 怖がられる。驚かされる。

おとし 【形容詞】 こわい。おそろしい。(志 (御座、越賀、
国府、甲賀、立神、鵜方、安乗)、鳥 (答志)、度、
南) [会話] オトシ 言うな (のは) 怖い 言うこと、
怖くて怖くて 言うのを オトシて オトシて 言う
の (のです)。オトシ言うのを 今しでも言うなあ (今
でも言います) おた オトシわなあ、あの先生 オト
シわなあ 言うてな。

おとし (落) 【名詞】 落し藁。液体が跳ね返らないよう
に入れる藁 [会話] 昔こえ (肥) 持ったときん (時
に) オトシワラ言うて (言って)、藁を肥が、たごたご
せんよおに (揺れないように) オトシワラいれよった
(入れて居ました)。たご (担桶) の中え、にのてくの
に (担って行くのに)、たごらかさん (揺れさせない)
よおに、それも オトシやんかい (です)。

おとし 【名詞】 かがし 農作物を害する鳥獣を遠ざけ或
いは追い払うため、田畑にもうけるもの大別して、
(1) 人形や神札を立てる物 (2) 悪臭を放つもの
(3) 色、形など視覚に訴えるもの (4) 音を発して
おどすものが有る。(志 (片田、立神、浜島、布施田、
甲賀、鵜方、神明、国府、安乗)、鳥、桑郡、鈴市、鈴
郡、員、三、安、一、飯、松、多、上、阿、張、名、
度、伊、北、尾、南) [会話] オドシは案山子。

おとしかった 怖かった (三重県全域)

おとしかったんよお 怖かったのです [会話] 怖かつ
た言う事を、オトシカッタンヨオ

おとしかよおった 怖かった [会話] 監獄から出て来る
と、あや (彼は) ぜんかもん (前科者) やよって (だ
から) おとしんどお (怖いぞ)、かまうなよお (相手に

なるな) 言うて オトシカヨオッタ

おとしがり。おとしがりや 【代名詞】 臆病者。怖がり。

おとし おじくそたれ参照 (志 (船越))

おとしがる 【他ラ五】 恐しがる。怖がる。おとし参照。

(志 (立神、鵜方、国府、安乗)) [会話] こころの言
葉は オトシガル 怖がる事。

おとしたた 落してしまった 失なった

おどしたた 驚ろかせてやった 怖がらせてやった

おとしたる 落す

おどしたる おどす (鳥)

おとして 怖くて

おとしてきた 風が立つ。波が高くなる [会話] 風な
(が) オトシテキタだ (ぞ)。大きな 波な (が) おっ
てきて (落ちて来て) 言うて 言うけどなあ (言うが)。
おちかせな (が) して 風な (が) オトシテキタ 言
うけど (けれど)。今日は こや (これは) じょおびや
おもたや (上等の日だ思ったら) まあ 西の風な
(が) オトシテキタ 言うて、吹いて来た言うのを
西の風な (が) 急に吹いて来ると にしな (西風が)
オトシテキタ 言うて、まぜな (南風が) オトシテキ
テ まあ 言うて。風な (が) 吹いて来ることを オ
トシテキタ 言うて。

おとしど 怖いぞ (志) [会話] オトシド 言うな こ
わいど (怖いぞ)、言うの (のです)。あの先生 怖い
に 言うのを、あの先生 オトシド言うて。あの先生
な (が) 怒って来ると オトシンドオ 言うて、あげ
んしとても (あんなにしていても) 怒って来たら オ
トシド、オトシンドオ 言うて。オトシド言う時も
あるし オトシンドオ 言う時も あるし。

おとしもん 【名詞】 落し物 気が付かずに誤って落した
物

おとしもん 怖いです 怖いから

おどしやい 【名詞】 怖がらせあい。驚かせあい。[会話]
わしらな (私の) 子供の時分にや (頃には)、電気もお
えし (無いし)、便所い (へ) 行くや (行く) 言うと、
そや (それ) ゆうれんなでんど (幽霊が出るぞ) 言う
て 兄弟同志でオドイヤイして。

おとしよ 怖い [会話] おおた (ああ) オトシヨ 言
うて、わがと、おとしかった (自分が怖かった) おと
しとなあ (怖いと) 此処い (へ) 虫な (が)、嫌いな
もんな (物が) 来るとなあ ああ オトシヨ。

おとしよおな 恐い様だ (志)

おとしわい。おとしわな (女性語) 怖いです

おとしわら (落藁) 【名詞】 便所へ敷き落したり、肥桶

に入れたりして、便をした時、また大小便を運ぶ時、はね返りを防いだり、こぼれるのを防いだりする藁。おとし参照 (上、阿) [会話] 昔、こえ (肥料) 持った時ん (に) オトシワラや (だ) 言うて、藁をこえな (肥が) たごたごせんよおん (揺れない様に) 入れおった (入れて居ました)。

おとしわら。おとしわれ 怖いです

おとしんど。おとしんどお 怖いのだ。怖いぞ。[会話] あ せんしや (先生は) 怖いに (です) 言うのを、あの先生 おとしど 言うて あの先生な (が) 怒って来ると オトシンドオ 言うて。

おとす (落) 【他サ五】 1) 持って居る物を紛失する。(南) 2) 屠殺、畜類を殺す。(上、阿) 3) 落札する。4) 洗う 5) 強い風が吹く 6) 高い波が立つ 7) 施錠する 8) 厄拂いをする [会話] ₁₎ 物をオトス、₈₎ 厄 (厄年の厄) をオトス。₇₎ 錠 (鍵) を、おろすのもオトス言いおった (言っていました)。錠オトス言うて、錠もおとさんと、そや (おとさずにそれ) 言うて。₂₎ 豚や牛を殺すのを、豚一頭 オトス言うて、一頭オトシテ、みんなな (皆が) 分けて喰うた。₃₎ オトス言うのは、札入れて (入札して) オトス言う事やんかい (です)。入札して落札すると ふだ (札) 落とした言うて (言って)。

おどす (威) 【他サ五】 おどかす 脅かす おそれさせる。こわがらせる。脅迫する。おどろかす。びっくりさせる。[会話] オドサレテ 言うて、先生な (が) まあ ばあやん (お婆さん) まあ 血圧な (が) たかいど (高いです) こころえよお (注意しなさい) 言うて、オドス 言うて そいな (そんな) 時なあ (です)。

おとすな 落としてはいけない すな、するなの訛 [会話] 何か物を落とさんよお (落とさないように)、しっかり持とれ (ておれ)、オトスナ言うて。

おとち。おとちよ (怖い) 怖い 幼児語 (度) [会話] おっちど、そや (怖いぞそれ) 言うて。それ なぶつたら とおやんな (お父さんが) おっちど 言うて、こわいどお (怖いぞ) 言うのを おっちど 言うの (のです)。オトチ 言うのも 一緒や (です)。子供らは オトチ言うわなあ (言います)。オトチど (ぞ) 言うてな、オトチヨ言うやんかい (言います) 子供らは。

おとつい (をとつひ) 【名詞】 一昨日、おとつ日 (遠い日の転) おと、遠い おととい参照 (志、鳥、鈴市、安津、久、一、多、上、阿、張、度、伊、尾、南) [会話] オトツイ言うのを、おととい言うて、オトツイ言

う人も有るし。おととい言う人も有んの (有るのです)。

おとついのよさ 【名詞】 一昨々晩 (志)

おとつしや。おとつしやまあ。おとつしやよお。おとつしやれ 【感動詞】 おやおや、やれやれ 感嘆したり意外に思ったりした時に発する語。驚くさま。怖い。面倒だ。失敗した時の語 (志 (磯部、浜島、甲賀、鶴方、国府、安乗)、鳥 (安楽島、加茂)) [会話] オトツシヤ、オトツシヤマア言うのは、何か失敗したた (してしまった) 時に、しもたなあ (しまった) 言うよおな意味や (です)。オトツシヤ、失敗したよお言うやんかい (言います)。オトツシヤマア、こいな事したたれ (こんな事してしまった) 言うんよって (言うのだから)、失敗した時の事を言うんやろ (言うのでしょう)。

おとつしよ 怖いです (度)

おとつちよ 怖いです 幼児語 (尾)

おとて 【名詞】 兄弟。姉妹。(志 (浜島、布施田、甲賀、志島)、度、伊) [会話] 兄弟の事。オトテ

おととい 【名詞】 一昨日。おとつい参照。(志、鳥 (国崎)、鈴市、一、多、上、阿、張、名、度、北、尾) [会話] きんによおとつい 言うて 昨日 一昨日 言う事は オトトイ 言うのな (のです)。きのお、おとつい 言うの (のを)、オトトイ 言うて。オトトイなれ (です) 言うて、きのお おとつい 言うねけど (言うのだから) それを きんによオトトイ言うね (のです)。

おとといのばん 【名詞】 一昨晩 (志 (浜島)、鳥 (相差)、鈴市、津、一、阿、張、名、度、尾)

おとといのよさ 【名詞】 さきおとつい (一昨昨日) の夜。きんによ (昨日) のよさ。一昨晩 よさ。夜。晩。(志、南)

おとし (をととし) 【名詞】 一昨年。昨年の前の年。[会話] きよねん オトトシ。

おととじんしよ 【名詞】 新しく分家した世帯。金銭的に余裕の無い時を表す (志 (布施田)) [用例] オトトジンショで、やりぬくいわい (生活が困難だ)。

おとなあし 【形容詞】 おとなしい。非常におとなしい [会話] 静かん (に) して、オトナアシしとると (おとなしくしていると)、あの人 おんと (穏当) で ええ (よい) 人やなあ (だ) 言うて。

おとない (おとなひ) 【名詞】 音信、便り、消息

おとなげ 【名詞】 大人っぽいさま 大人らしさ [会話] 大人のくせんおって (でありながら)、わろべしみたよな (子供のような) 事言うのを言うんやろな (言うのでしょう)。オトナゲない言うて。大人のくせ

に 子供みたよな事、あどけないよおな事、言うたりすんのを（言ったりするのを）オトナゲない言うやんかい（言います）。わるべし言うの（のは）、子供みたよおに（のように）、おさない（幼稚な）よおな事を言うのを、わるべし言うやんかい（言うのです）。

おとなげない（大人気無）【形容詞】 大人らしい思慮分別がない。子供のように。大人らしくない、おとなげ参照 [会話] 大人のくせんおって（大人でありながら）、子供みたよな（のような）事言うたりすんの（するのを）、オトナゲない言うやんかい（言うではありませんか）。オトナゲない 言うのを、わるべし（幼稚）言うて、ほん（本当に）わるべし まあ あげん、ちっさいもんと（あんなに小さい者と）喧嘩して 言うて。おっきいもんな（大きい者が）ちっさいのおと（小さいのと）喧嘩すると、ほんとん（本当に）オトナゲないなあ 言うて。

おとなし（大人）【形容詞】 1）従順。温和である。穏やかである。落ちついて居る。静かである。オトナ（大人）を活用した語（大言海）（員、尾）2）着物の柄などが地味で落ちついて居る。[会話] ₁₎ オトナシ まあ 静かに しとる（している）言うことやなあ（です）。おとなしい いを付けんと オトナシ、オトナシ 静かにしとる（している）ことを かしこおしとる、こお（賢しくしている子）の ことをなあ。あのかあ（子は）オトナシ子やなあ（だ） 言うて。

おとななぶり（大人ぶ）【名詞】 子供が大人をからかう事（上、阿）[会話] 大人をちょらかす（からかう）言う事やかな（でしょうか）。オトナナブリ言うのなあ（のは）大人をちょっからかしとる（からかって居る）事 言うんやろなあ（言うのでしょうか）。

おとなびる【自バ上一】 大人振る おとならしくなる。おとなぶ（大人振）の口語 オキナオブ（翁帯）の約、オブは感じる意（大言海）大人 十分に成生して一人前になった人。大人らしくなる。びる 接尾語。名詞又はそれに準ずる語について、動作を作る。そのものらしく振る舞う そのものらしい様子をする。それに近い状態になる。[会話] オトナビル。子供のくせにおって（であるのに）、ませた（生長した）大人のするよおな事が、しとおて（したくて）、大人みたよおな（のような）事を言うたり（言ったり）したりするもん（者）。オトナビル言うんや（言うのです）。

おとべえ。おとぼお【名詞】 末子 末っ子（志）[会話] オトベエ 言うな、一番 おとと（弟）末っ子のこと、オトベエ やなあ（だ） 言うて、オトボオ も 一緒

のこと。

おどらす（をぐらす）【他サ五】 後ろで人を操っている人を手先として行動させる

おどりがみ【名詞】 泉門。幼児の前頭部の骨と骨との間のまだ接合していない部分。ひよめき。（一）[会話] 頭へつこんどるとこ（で居る所）オドリガミ、胎毒な（が）有ると、毒取んのん（取るのに）オトリガミの此処いなあ（これへ）、こんだけばか（これ位の約8cm、直径）の黒いのを張りおった。

おどりこ（をどりこ）（踊子）【名詞】 盆踊りに踊る人。特に少女。[会話] オドリコな（が）しゅんで（熱が入って来て）言うて、おんどさん（音頭さん）よ オドリコよ 言うて 言うやんない（言うでしょう）。盆の おどっとる（踊っている）人 オドリコや（です）。

おどりと（をどりと）（踊手）【名詞】 盆踊りをおどる人。踊りをする人。[会話] 今年 オドリテな（が）よけあつて（沢山有って）言うて オドリテも、おどりこも 一緒やな（です）。

おどりは（をどりは）（踊場）【名詞】 1）盆踊りをする浜辺の広い所。2）階段の上下或は曲がって居る階段の中間の広い所。[会話] ₁₎ オドリバ言うな（言うのは）、盆のオドリバ、盆踊りするとこなあ（所です）オドリバ。₂₎ 二階へ上ってすぐのとこ（所）、オドリバ言わせんかい（言いませんか）。階段のとこや（所とか）言うけど（言います）。

おどりや おのれ 相手をののしって言う語（北）[会話] オドリヤ 言うな（のは）子供らな（が）わりことすると（悪いことすると）オドリヤ 言うて、おどれ 言うのを オドリヤ言うて おどれ めえみよ（目を見よ）とおやんな（お父さんの）言うて。子どもらん（に）おどすのん（叱るのに）、したや（したら）うみなでとんど（膿が出ている）言うて。

おどりやあ おのれ（北）

おどる（をどる）【自ラ五】 1）跳ねる ボール 魚など（南）2）人の言うままに行動する 操られる 3）踊りをする [会話] ₃₎ 盆にオドルんか（のか）、伊勢音頭 オドルとか。₁₎ 市場で魚なオドル 魚な（が）おどっとられ（おどっている）言うて、魚な（が）はねとると（跳ねていると）生きて おどっとられ 言うて。₂₎ 人に後で 操られとると（していると）あれん（彼に）オドラサレトシネド（踊らされているのだ）言うて、おだてたりな（煽てたり）そやしたり（誉めたり）すると、あれん（彼に）オドラサレテ。

おどれ おのれの転。相手をののしって言う言葉。(志(浜島)、上、阿、度、南) [会話] オドレ そこらん おってみよ (その辺りに居て見ろ)。オドレそのがき (男の子をののしって言う語) 其処ら此処らん (周囲に、近くに) おって見よ。オドレ、どいらいめえしたろん (大変な目に合わせてやる) 言うて。まあ (もう) 其処ら此処らんおらせんねない (に居ないのだ)。こおばいな (行動、要領が) 早よおて (早くて、良く) 言うて。其処ら此処らんおらせん (居ない)、けつからせん (居ない)。ごおなわいとる時 (腹の立って居る時)、すっごく腹が立つとるときん (て居る時に)、おらせん言うのを、けつからせんねない (いないのだ)。昔の人は ほんどん (本当に) 悪い言葉やなあ (です)。其処ら此処らん (に)、けつからせんねない。オドレ、どぐらしたろん (叩いてやる)、おった (居た) 事なら。ものすごお (ものすごく) 叩かれる時にどぐらされたよ言うね (言うのです)。力入れて叩くのをなあ、どぐらしたろん (叩いてやる) 言うて。くらわす (叩く) 言うのに、も一つ ど がついて、どぐらしたろん、どぐらして、おのれ (貴様、野郎) どぎつい目したろん (ひどい目にしてやろう) 言うて。

おどれそどれ おのれ、おどれそのに同じ、おのれ 怒りの言葉 [会話] オドレソノ、其処らん (に) おって見よ、おのれ さわ (竿) で、かっつろん (叩いてやるぞ) 言う事聞かずの果て無しよ、言うて、オドレソドレ言うて。

おどれその【感動詞】 相手をののしたり 叱ったりする時の言葉 おどれを強めた語 (鳥) [会話] オドレソノ そこらんおってみよ (そこらに居っておれ) 言うて、わりこと (悪い事) すると 子供ら おこんのん (を怒るのに) オドレソノ そこらん おってみよ、おのれ、さわで (竿で) かちわつろん (叩き割ってやる) 言う事聞かずのはてなしよ、言うて、オドレソドレ言うて。

おどろごと 恐い事。おろおろ [会話] オドロゴトを、おろおろしとる (して居る) 言うやんかい (言います)。

おどろし【形容詞】 1) 怖い 恐ろしい おどろくの語源を活用した語 (大言海) (志(浜島、布施田、志島、片田、鶴方、国府、安乗)、鳥(菅島)、松、度、伊、北、尾、南、熊) 2) 大変な 大変に (志) [会話] 1) 怖い言うことを オトロシ言うのなあ (のです) さっきの おそろしも一緒に 怖い言うのと、2) おそろしさぶいとか おそろしあついと 言う時に 今日は オトロシさぶい (寒い) おっそろし言うて も

のすごいさぶいと (大変寒いと) おっとろしさぶいなあ 言うて この時は 大変。

おどろしがり。おどろしがりや【名詞】 臆病者 怖がり (志、鳥(菅島)) [会話] こわがりやを 何んでも怖い怖い言うて 言うのを、ちょいと (少し) したことでも 怖がるのを、オトロシガリヤやなあ (だ) 言うの (のです)。

おとんぼ【名詞】 一番末の子 おとご参照 (上、阿、張、名、南、熊) [会話] オトンボ言うな (のは) すえっこ (末子)、おとごのこと。あや (彼は) オトンボや (だ) とか おとべえとか 言うて あやま あ (彼は) 一番 おとべやもんで (なので) 言うて。

おないどし【同年】【名詞】 生まれた年が一緒の者。おなじとしの音便 (大言海) (志、鳥、員、鈴市、津、上、伊、北、南) [会話] 一緒の年に生まれた言う事。うなん年のもん (者)、オナイドシ言うやんか (言います)。

おなが【名詞】 はまだい フェダイ科の海魚 全長1mに達し、体は紡錘形で、尾鰭の上下両葉が著しく伸びる。体色は淡紅色で背面は濃い。美味

おなご【女】【名詞】 1) おんな 女性 おなごを使用し、おんなは殆ど使用しない。従って、女を接頭語とする語は殆どおなごに代わって居る。以下おなごは代表的なものだけを記す。(鳥、桑市、三、鈴市、津、久、一、松、多、張、度、伊、北、尾、南) 2) 情婦 (志(畔名)、鳥) 3) 末尾にアクセントをつけ雌性を表す [会話] おとご参照

おなごあそび【をなごあそび】(女子遊)【名詞】 女色に耽る事。女狂いを楽しみとする事。[会話] おなごかい (女郎買い) したり、おば (妾) 持ったり すんのを (するのを)、オナゴアソビな (が) 好きで 言うて言うやんかい (言います)。主人な (が) 死んでくと (で行くと) 直ぐに結婚する人な (が) あって 何回でも結婚する人な (が) あるやんかい (あります)。あいなな (あんなのは) おとこずき言うんやろな (言うのでしょうか)。とおさんな (主人が) 死んでても (でいっても) じっきん (すぐに) 結婚する人な (が) あるやんかい。にしよかぶりや さんじよかぶりや (だ) 言うて、ふたあくら (二度) 結婚すると にしよかぶりや (だ) 言うて、みいくら (三度) 結婚すんの (するのを) さんじよかぶりや (と) 言うねやんない (言うのでしょうか)。ひとくらん、いっしょおつなあ (一度に一升づつ) えんばやいねやろ (のでしょうか)。

おなごいも【名詞】 裂目の有る芋 裂目を女陰に見立て

て言う

おなごうん (女子運) 【名詞】 男の女性に関しての巡り合わせ。[会話] オナゴウンな (が) わりな あ (悪い) 言うて、かかな (妻が) 死んでてばっか (死んでいつてばかり) おる。かかな 一人 もろて (貰って) 死んで、またもろても、死んでくやんない (死んでいくでしょう) そいな の な あ (そんなのです) おなごさい な (が) わり (悪い) 言うのや な (のです)。おなごぶさい な わり 言うてな ふさ わせん の な あ (そなわらないのを) ふさう 言うのは 一緒になる いっしよ なる ね (一緒になるのです) 結婚する相手 な (が) ない の (のを) おなごぶさい な わり 言うし、結婚しても 病氣して死んでたりすんのを (でいつたりするのを) おなごぶさい な わり 言うの な (のです)。あや おなご くい や な あ (だ) おん なく い や な あ 言うな おなご くい や、おとこ くい や 言うて 言う わ い (言います) 男 な (が) 死んでく と (で行くと) あ や (あれば) おとこ くい や な あ (だ) 言うて。

おなごえん (女子縁) 【名詞】 女性とのつながりを持つ事。又その機会。[会話] オナゴエンな (が) ない ん な あ (無いのだ) 言うて。

おなごおや (女親) 【名詞】 母親。母。[会話] 女の親 母親のことを オナゴオヤ 言うの な (のです)。

おなごかい 【名詞】 女郎買い [会話] オナゴカイ し たり、おば (妾) 持ったりすんのを (するのを)、おなご (女) 遊び な (が) 好き で 言う やん かい (言います)。

おなごがお 【名詞】 女の顔 女のような顔 [会話] 首見ると、男 や (だ) おなご や (女だ) 言うの 判 る け ど な あ (判ります)。によ ぼん とし た (滑らかな) 顔で オナゴカオ し と ても (していても)、男 や ど お (だぞ)、の ど ぶ え な (喉佛) た か ば つ と ん ない (高く なっている) 言う時な (が) 有 る ん な あ (有ります)

おなごかぜ 【名詞】 ゆっくり吹く南風

おなごがら (女柄) 1) 女性向きの模様 2) 女性としての性格

おなごきょうだい (女姉妹) 【名詞】 姉妹 (鈴市) [会話] 男兄弟。オナゴキョウダイ

おなござらい 【名詞】 男の女に接するのを嫌ふ事。又その男。

おなごくい 【名詞】 何度結婚しても女性と死別する男性 おなごうん参照 [会話] 結婚しても、病氣して死んだ り すん のを (するのを) おなごぶさい な (が) わり 言うの な あ (のです)、あ や (彼は) オナゴクイや な あ

(だ) 言うて。

おなごくさい 【形容詞】 1) 女性特有の匂いがある。又 女の気配がする。 2) めめしい [用例] 2) オナゴクサイ男や な あ (だ)

おなごぐるい (女狂) 【名詞】 女との情事に溺れる事、又はその男 [会話] オナゴグルイ言うな お ば (妾) 持ったり、お や ま こ お た り (女郎買ったり) お や ま か う な え え け ど (買うのはよいが)、人 の か か ち よ つ か け た り (妻ひっかけたり)、後 家 の お な ご ね つ ろ た り (女狙ったり) する 人 を な あ、そ い な の お を お な ご ど お ら く し 言うてな あ の 人 お な ご ど お ら く で な あ 言うて。

おなごけ (女気) 【名詞】 女が居る事を人に感じさせる雰囲気、様子、女の気配。[会話] オナゴケな (が) ない 家 や な あ (だ) 言うな (のは)、男 ば っ か (ばかり) 居って お な ご な (女が) 居らせん家をなあ あ の 家 ま オ ナ ゴ ケ の ない 家 で な あ 言うて。男 ば っ か 居る家な (が) あ る や ん か な (有ります) お な ご な 死 ん で た り (女が死んでいつたり)、お な ご の こ お な (女の子が) 出 来 ら っ た り (なかったり) して す る と、な ん も (全く) オナゴケな (が) ない 家 や な あ あ の 家 や (は)。お な ご な 入 っ と ら ん 家 を な あ。い え じ ゆう (家中) で お な ご な は い っ と ら ん と な あ (女が入っていないと) オナゴケな (が) 無い う ち や な あ 言うて。

おなござい (女際) 【名詞】 女の分際。女でありながら。サイ (際) 分際の上略。分際。身の程。[会話] オナゴザイで、お お い ざ (胡座) か い て。

おなござかり (女盛) 【名詞】 女の年。若くして最もはなやかな頃

おなござんまい 女色に溺れる事。

おなごし (をなごし) 【名詞】 下女。女中。女衆。(志摩市全域、鳥、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、安、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] 女中や な あ (です)。今 し の (今の) 家 政 婦、お 手 伝 い さん を、オ ナ ゴ シ。昔 し や (しは)、け ご、ゆ よ っ た ん な あ (言いました)。

おなごじょたい (をなごじょたい) (女所帯) おなごじんしょ (女身上) 【名詞】 女が苦勞して支配する家 [会話] ご け じ ょ た い。後家の世帯 オナゴジョタイ。オナゴジョタイで あ の 家 え ら い な あ 言うや ん ない (大変だ言うでしょう)。と と な (主人が) 死 ん で て (でしまつて) 無 か っ た り、も ど っ て た り (戻っていつたり) す る と、今 し で (今で) 言うと 母子家庭を言うね な あ

(言うのです)。

おなごずき (をなごずき) (女好) 【名詞】 女色を好む事。

又その人 (張) [会話] おなごな 好きで、あしこい
ごけな (後家が) 出来た、こい後家な 出来た言う
て、ま おなごの (女の) ことばっか かんがえとる
(考えている) 言うな (のが) オナゴズキや (です)。

おなごする 1) 妾を持つ 2) 多数の女性と性交渉を
持つ

おなごだけ (女竹) 【名詞】 女竹。おとこ竹参照 イネ科、
タケササ類、稈は高さ3～6m、径1～3cm、節間
は長く、枝は節に五～七本づつ付く、葉は楕円状、被
針状で長さ10～25cm、3～5ヶが、枝先から斜
めに掌状に出る。(志 (立神)、四、員、鈴市、安、上、
阿、張) [会話] オナゴダケは ふし (節) がひつく
い (低い) し、男竹や (は) 節なたつかい わい (高い
です)。

おなごだてらに (をなごだてら) 【副詞】 女に似つかわし
くない事をするさま。女らしくないさま。多くは非難
の意を含む。おなごのくせん、おなございと同義。
(松) [会話] オナゴダテラニ おっちゃくな (横着
だ) 言うやんか い (言います)。おなごで (女で) 居
って 男みたよな (のような) ことをすると オナゴ
ダテラニ あのこと 見よま あ (見なさい) 言うて
な。

おなごだまし 【名詞】 女をだますのが上手な人 [会
話] おなご (女) 好きで、口は (が) 上手で、おなご
ちよるまかして (女誤魔化して)、初めや (は) なんや
かやこおて (いろいろ買って) 釣って、何処い (へ)
連れてく (て行く)、此処い (へ) 連れてくてやら (て
行くとか) 言うて、そげんして たぶらかして (そん
なにしまして) わがもん (自分の物) にして な
ぶりもん (者) にして そいなのを、オナゴダマシ。

おなごたらし (女誑) 【名詞】 女を誘惑して もて遊ぶ事。
又それに巧みな男。おなごどおらく参照

おなごでいり (女出入) 【名詞】 多数の女性と交渉の有る
事

おなごどおらく (女道楽) 【名詞】 女色に耽ること。女狂
いを楽しみとする事。女遊び。[会話] オナゴタラシ
言う おなご (女) をよけ (沢山) くどいて、まあ
あれしい これしい すんのを (するのを) オナゴタラ
シ言うてな 何人でも すんのおな あ (するのを) あや
(彼は) オナゴタラシやてや (だ) 言うて オナゴド
オラクも オナゴタラシも 一緒や (です)。

おなごどおらくし 【名詞】 女道楽をする人 [会話]

人のかか (妻) ちよっかけたり (ひっかけたり)、後家
のおなご (女) ねつろたり (狙ったり) する人を オ
ナゴドオラクシ 言うて。

おなごのどおらくしゅっせのはじまり 【俚諺】 男と数多
く交情する内に良い縁に結ばれる事もある。

おなごばら (女腹) 【名詞】 女の子ばかり産む女性 [会
話] おなごのこおぼっか (女の子ばかり) もおけると
なあ (産むと)、おとこな (男が) 腹い (へ) はいらん
のおな あ (入らないのを) オナゴバラやたら (だと
か) おとこばら や (だ) 言うてな 男ばっか もおける
と (ばかり産むと)。

おなごひでり (女旱) 【名詞】 好きな女の少ない男。女に
もてない男。

おなごぶさい 【名詞】 女性運 妻にする人との運 ふさ
い、ふさう 相応。フレスフ (触添) 意 (大言海) よ
くかなふ義。[会話] おなご (女) 運な (が) わりな
あ (悪い) 言うて、かかな (妻が) 死んでてばっか お
る (でいってばかりいる) かかな 一人もろて (貰っ
て) 死んでて (で行って)、またもろても (貰っても)
死んでくやんない (で行くでしょう)、そいなの (そん
なのを) オナゴブサイな (が) わり 言うのや な (の
です)。

おなごぶり (女振) 【名詞】 女の顔形、女としての風彩。

おなごまい。おなごまえ 【名詞】 女性の容姿について言
う。美人。[会話] オナゴマエやなあ (だ) 言うて
格好もよおて (よくて)、器量もよおて オナゴマエや
なあ 言うて。男は きりょ おなよおて (器量がよく
て) すると おとこまい やなあ 言うて、おなが (女
は) まあ どこもかも とのおて (整って) 別嬪さ
んで しとんのを (しているのを) オナゴマエな え
えなあ (よい) 言うの (のです)。

おなごまつ (女松) 【名詞】 あかまつ 赤松 おとこまつ
参照

おなごまむし (雌蝮) 【名詞】 1) 雌の蝮 2) 図々しい
人 [会話] 1) オナゴマムシ 頭な (が) 三角ん
(に) なつとんね (なっているのです) みじこおて な
あ (短くて) どんぼで (丸くて)、そして 毒もつて な
あ (持って) そんで (それで) オナゴマムシ どくま
むし。2) そすと のぶとい (図々しい) 様なおなご
(女) 見るとな オナゴマムシみたよな こおや なあ
(のような子だ) 言うやんか い (言います)。のぶとい
のを まあ 男したりなあ 何んやかや ぬすだり
(盗んだり) してまあ、わりことばっか (悪いことば
かり) しとるこお (している子) を、オナゴマムシみ

たよななあ 言うて。人の言うこた（事は）聞かんと
わがと（自分が）好きなことする人間を オナゴママ
シミたよななあ 言うて。

おなごむき 女性に適する物

おなごむすび（をなごむすび）（女結び）【名詞】 蝶結び
〔会話〕 蝶結びみたよん（のように）、男結びは きつ
ちや結び。きちつと、しち結びん（きつく結ぶに）す
んのを（するのを）男結び。オナゴムスビヤ（は）、蝶
結びんすんのを（にするのを）オナゴムスビヤ（だ）。

おなごもん（女物）【名詞】 着物や携帯用に女の身にふさ
わしく作った物 〔会話〕 オナゴモン 言うな（のは）、
おなごの（女の）みにつけるもん（身につける物）を
なあ、皆 オナゴモン 言う。着物のことでもなあ
オナゴモン言うしな、履物でも オナゴモンやなあ
（だ）この はきまん（履物）は 言うて、傘でも何で
も おなごの 身に つけるもんを（つける物を）み
な オナゴモン 言うの（のです）。

おなごやもめ【名詞】 未亡人。夫を亡くし再婚しない女
性

おなごゆ（女湯）【名詞】 銭湯、温泉などで女性のみ入浴
する湯

おなごらし（をなごらし）【形容詞】 如何にも女と思える
様子で有る。女にふさわしい。しとやかである。やさ
しい等。

おなごんなる 1）月経が初まる 2）処女でなくな
る

おなし（同） 二つ或いはそれ以上の物、又は事柄が別の
物でない、同一である。二つ以上の物がそれらの性質、
種類、状態程度など問題にして居る点に関し全く等し
い。同様である。変わらない。おなじの清音化（多）
〔会話〕 こぬけとる（少し抜けている）言うて、抜け
とんのおを（て居るのを）、こぬけとんねよって（馬鹿
なのだから）言うて、オナシ意味やけど（だが）。

おなじなかまのめしく【俚諺】 仲のよい間柄 同一の
所で生活をして居る（上、阿）〔会話〕 一軒の家では
いっとて（入っていて）ひとかまのめしくうたもんや
のんなあ（食べた者だのに）言うて 一軒の家い
（へ）すんどる（住んでいる）と、女中さんに行て
一緒に御飯食べて居ると ひとかまの めしたべた仲
間やのん（のに）言うやんかな（言います）。他人でも
下宿してな いっしょのもん（一緒の物）食事すると
ひとかまのめし くうたねのん（食べたのに）言うて、
オナジカマノメシクウ言うて その仲間同士。船ん
（に）乗つとても（ていても）ひとかまのめしやわな

あ（です）仲間同士やなあ（です）。何処でも、工場で
もな 一緒のすまいしとるとのお（住まいしている
と）ひとかまのめし くうねよってなあ（のだから）。

おなめ（をなめ）（妾）【名詞】 ラムナメの略。婢妻（ラ
ムナメ）の義。女性をののしって言う、うなめ参照

おなんどし（同年）【名詞】 同年令の者。同年に生まれ
た者。おなじとし（同年）の訛。うなんどし参照 〔会
話〕 同級生のもん（者）を、オナンドシや（だ）。お
ら（俺）と、オナンドシや（だ）あの人言うて。おな
いどし言うのをな オナンドシ言うのな（のです）。オ
ナンドシ言う時もあるし うなんどしや（だ）言う人
間もあるし。

おに【名詞】 うに。海胆。雲丹。（志（船越）、度）〔会
話〕 うに言うのを、オニ言うの。

おに（鬼）【名詞】 両親に似ない子供 〔会話〕 おにご、
親んにやん（親に似ない）子、オニやれ（だ）。よお以
とんなあ（よく似ているのは）親似言うて。鬼ん
（に）似よより（似るより）親ん（に）似よ言うて。

おにがわら（おにがはら）【名詞】 怖い顔（上、阿）

おにぐさ【名詞】 天草属の一種。おにくさ、体高は数c
mから10cm、巾3mmに達す。潮間帯下部から潮
深帯の岩上に生ず。（志）

おにご【名詞】 親に似ない子供 〔会話〕 親んにやんか
（親に似ない子は）おにやれ（鬼だ）言うて、鬼ん
（に）によより（似るより）親んによ（に似よ）言う
て、よお言うやんかい（よく言います）。オニゴ言わん
と おに言うね（言うのです）親ん にやんか 鬼や
れ（だ）言うて。

おにごち【名詞】 わにごち コチ科の海魚 頭側の骨質
隆起線は一本。前鰓蓋棘は三本。鱗は大きく、はげに
くい。前方2～4枚の各側線鱗上に1棘が有る。腹鰭
は短くて、その先端は第2背鰭の始部下に達する。腹
鰭に数本の暗色横線が有る。

おにころし【名詞】 喋るだけで実行の伴わない人 〔会
話〕 口な（が）がんがん言うて、口ばっか（ばかり）
なつとでも、よお（なんとでもよく）言うてなあ、た
けつて（勇んで）なんもはざんの（全く駄目なのを）
オニコロシ。

おにしだ（鬼羊歯）【名詞】 うらじろ。シダ類ウラボコ科
の常緑草本。暖地に群生する、根茎は針金状で長く地
中をはう。葉は褐色の太い柄を持ち、長さ50～10
0cmの二回羽状複葉で櫛の歯状に深く裂け、表面は
鮮緑色、裏面は白色、胞子囊群は中脉と縁の中間につ
き包膜は無い。葉は新年の飾りにする。〔会話〕 オニ

シダ言うな (のは)、うらじろの事。都会へ行くと、正月に、おおとい (大戸、玄関の戸) 注連縄えしとる (つけている)、あれを、オニシダ言うね (言うのです)。人間の裏表な (が) 無いよおん (ように) あれすんね (するのです)。人間も うらじろみたよん (のように) 裏表せん (しない) 言う事やろなあ (でしょう)。しょながつ (正月) の飾りや (です)。和具ではしやせん (しません)。都会へ行くと、オニシダを飾つとるわい (飾って居ます)。和具では橙と、ししと、竹と、松そんだけや (それだけです)。

おにせんびき (鬼千匹) 【名詞】 小姑 [会話] しゅうと こじゅうと オニセンビキ。意味もあるなあ (有ります)。しゅうとめ (姑) も こじゅうとめ (小姑) も よけ (沢山) あると、あの家なあ (は) おおぜで (大勢で) オニセンビキやれ (だ) 言うて。昔は べつんも (特に) 嫁と こじゅうとめ しゅうとめと なかなわりいてなあ (仲が悪くて)。

おにのげんこつ (鬼拳固) 【名詞】 栄螺 [会話] オノゲンコツ なな (七) やつ (八) 言うて、よお言よおったの (よく言って居たのです)。あやな (あれば) 熊野い (に) 親類な (が) あって その熊野から 海老と、さざい (栄螺) となあ 送ておこしたんてわい (よこしたそうです)。そしてしたやなあ (そうしたら) そのとおさんな (主人が) 手紙な (が) それんは いつとんのんなあ (それに入っているのに) よおよまんやんない (読めないでしょう)。さざいや海老や 言うの。と こやなあ (此は) オノゲンコツや、おもて (と思つて) つのな出とんの (角が出て居るのを) オノゲンコツやなあ思て そんな、ななつ (それが七ヶ) か、やつ (八ヶ) 入つとたね (入っていたのです)。オノゲンコツ ななやつ (七、八)、それから えびなはいつとたんてわい (海老が入っていたそうです) したや (そうしたら) 海老言うこた (事は) 知らんしなあ (知らないの)、あつかいよつて (赤いから) しゅうぬり (朱塗り) の魚 とお (十ヶ) 言うて とおやんな (父さんが) あてよみによんで (想像で読んで) オノゲンコツ言うな (のは) さざえ (栄螺)、そして しゅうぬりのさかな 言うな (のは) 海老。

おにばば (鬼婆) 【名詞】 老婆の性質、やさしさの無いのを言う。[用例] あの家の婆、オニバアやれ (だ)。

おにもじゅうはちじやもはたち 【俚諺】 若くて、元氣盛りを言う 娘ざかり [会話] てつびき (元氣盛) や言うね 血氣の、てつびきやんかい (です) オニモジ

ユウハチジャモハタチ言うて。

おにわ 【名詞】 庭 玄関 [会話] 庭 入って来るとこ (所) 庭や (だ) 言うの (のです)。おつきい (大きい) 庭は オニワ、こにわ言うて ちつちやい (小さい) 庭は。オニワ おおと (大戸、玄関)、おおにわ (大庭) こにわ (小庭) 言うて、おおとぐち おもてのとこ (表の所) で しめなあすとこ (注連縄する所)、そすと こにわ言うとなあ 一枚戸で 戸箱と一枚戸で そして開けるとなあ しょんべたごな (小便壺が) あつて、今日は言うて そつから (そこから) 入つてくんの (来ます)、おおとからは 入いらんと (入らずに) こにわからな。

おぬけぼら 【名詞】 腰巻などをせずに居る事。ぼら ぼら、洞、中がうつろな穴。ほらな。この時は女陰を示す。[会話] オヌケボラ。腰巻も何んもせんと (何にもせずに) 居る事。昔しや (昔は) 皆 オヌケボラでおりおつた (いました)。オヌケボラでしおあびん (潮浴び、海水浴に) 行きおつて (行つて居て)、学校 あがる (卒業する)迄 ほんと (本当)、オヌケボラでおりおつた (居ました)。

おのこ (をのこ) 【名詞】 鮑の一種。貝肉の青黒い色をしたもの。オ (男) のコ (子) の義 (志) [会話] オノコを、黒言うて、くうろいわい (黒いです)。縁のへび もすべつとしとる (外套膜も滑らかにして居ます)。

おのみ 【名詞】 海女の持つ大きいのみ (鳥 (神島))

おのれ、おのれその、おのれそのれ 【感動詞】 【代名詞】 怒りの言葉。おどれ参照 おどれ そのれ (志、(甲賀、国府、安乗)、一、張、伊、鈴市、上、阿) [会話] オノレソノレ そこらんおつてみよ (その辺りに居て見よ)、どぐらしたろん (強く叩いてやるぞ)。ものすごお (大変) 腹な (が) 立つた時ん (に) 子供らを叱る言葉や (です)、だれえ (どれ)、どぐらしたろん、業なわいて (腹が立って)、わるう (叱る) 時。此の言葉は、オノレソノレ言うて 子供らな (が) 言う事聞かんで (聞かなくて)。

おば、おばの、おばんこ 【名詞】 1) 情婦。妾。(志 (国府、甲賀、志島、畔名、船越、片田、布施田、越賀、浜島、鶴方、神明、立神、安乗)、鳥 (相差)、度) 2) 小母、他人である年上の女性 (志 (越賀、浜島)) 3) 伯叔母 (志 (志島)、鳥 (相差、坂手、答志、加茂)) 4) 適齡期を過ぎた独身女性 (志 (浜島、片田、布施田)、鳥 (相差)、員、飯、一、北、南) 5) 若年者が年配者を呼ぶ時に、その名の下につける。〇〇おば。[会話] 3) オバンコ言うな (のは)、わしら、伯

(叔) 母さんにも、オバンコ言よおった (言って居ました)。おばさん言わんと (言わずに) オバンコや (です)。¹⁾ オバンコ言うな (のは) 彼氏、彼女のも有るし (有ります)。妾。⁴⁾ オバ 言うな よめん行かん と (嫁に行かずに) 居んのを (居るのを) オバ、おばくた 言うて、あの家 オバな (が) よけあつて (沢山有って) よめん行ても (嫁に行っても) あいな (あんな) 家 しんぼなえらいわれ (辛抱が大変だ) 言うて、あの おばくたな (の) しんぼしよおことなら (辛抱することなら) 言うて。

おば【名詞】 近縁のもの 似て非なるもの [会話] 天草のオバ、オバ 言う時は ちょいとちごとるけど (少し違っているが) よお (よく) 似たもん (物) 言うんやろな (言うのでしょうか) てぐさも きぬてぐさは ええし (よいし) オバは やすいんやんかい (安いのです)。

おば【名詞】 天草の一種。おばくさ。体高は10～20cm、体形は種々変化に富む。潮間帯から漸深帯に到る岩上に生ず。

おば【名詞】 かすみあじ しまあじのおば アジ科の海魚 体は高く、主上顎骨は眼の中央下に達しない。成魚は緑色で黒色斑が散在する。

おばかずき【名詞】 天草の類縁のもの おばくさの採取 [会話] オバカズキ 言うのは ふかりい行くねてや (深みへ行くのです) どいらいふつかいとこい (大変深い所に) おばは はえんので (生えるので) 今日はオバカズキで ふっこおて (深くて) 言うて ふねどの ひとら (人) 言よおったわい (言いました)。

おばき (をばき) (伯叔母)【名詞】 伯、叔母をうやまうて言う語。(志)

おばくた【名詞】 1) 情婦を卑しめて言う 2) 未婚の女性を卑しめて言う語。(志 (布施田)) [会話] ¹⁾ かくしおなごしとんね (妾、情婦しているのだ) 言うて、かくしおなご言うのならええけど (よいが)、俺家ん (の) ととな (夫が)、オバクタ 持つとて (ていて) 毎日オバクタな (の) とこいいて (所へ行つて) 言うて ごおなわいた (腹の立った) 時 言う言葉やなあ (です)。オバクタ言うの (のは)。²⁾ 嫁ん (に) 行かんとおんのを (行かずに居るのを)、おば、オバクタ 言うて あの家 オバクタな (が) よけ (沢山) 有って、嫁ん (に) いても (行っても) あいな (あんな) 家 しんぼなえらいわれ (辛抱が大変だ) あのオバクタのしんぼしよおことなら (辛抱することなら) 言うて。

おばこ (大葉子)【名詞】 いたる所にある雑草。大葉子の義。おおばこ科。葉は株立て茎がなく、根生する。葉柄は長く葉面は卵形又は楕円形である。数本の縦の葉脈がある。夏数本の花茎を出し、小花を穂状につける。四顎片、四花弁及び、四本の雄蕊がある。葉は食用になり種子は車前子と言われ咳止め、利尿剤に利用する。

(志 (片田、鶴方、神明、立神、国府)、鳥、員、三、鈴市、鈴郡、上、阿、張、名、度、伊、熊) [会話] オバコ言うとそこらん (その辺に) はえとる (て居る) 草。がにつつとき (蟹釣る時)、オバコやに (だ) くうわんか (食べなさい) 言うて、あれを、てぐすの 先いしといて (につけて)、がに釣りん (に) 行きよった (行つて居た)。喰わんか 喰わんか (食べないか)、オバコやに 喰わんか 言うて、そすと (すると) 喰わえて来て、あつ釣った言うて、喜びおったなあ (嬉んで居ました)。いしぐら (石垣) のあわい (あいだ、間) 出て来んのを (来るのを)、いしぐらい (へ) 突っ込んだんね (でやるのです)。オバコ、てぐすい 縛つていて。

おばさん (をばさん)【名詞】 寺の主婦 アクセントはオに有る (志) [会話] 寺のオバサン。ばあさん (婆さま) でも おば (独身) で 居る人らな (が) あつて、そすとさいご (すると) 閑居に、オバサンな (が) 居つて 言うて、閑居言うな (のは) 本家と隠居と、それからまた 別れてくの (て行くのを) 閑居 お寺のオバサンや言うてな おっさん (和尚さん) の奥さん。

おばず (帯)【他サ五】 1) 他人になすりつける (責任、金銭的負担、仕事等) 2) 余分に割り当てる 3) 上に乗せる まぶず (鈴市) 4) 背負わせる (志、南) [会話] ⁴⁾ 子をオバス (背負わす) とか、³⁾ 御飯にオバシテ喰えええ言うんかい (食べなさい言います)。飯 喰うのも 煮染もんやどけ (にしめ物など) でも、なあ漬 (菜漬) でも 御飯へオバシテ、喰うとうまいわい (うまい) 言うてなあ。²⁾ 何やかや縛つてあるのに 又 それえ、オバシトケ (ておけ) 言うて足すのもあるし、⁴⁾ 子供をオバスのを オバス言うし。菜漬 オバシテ喰をやんかれ (食べましょう)。にみそや (煮味噌だ) とか、そいなのおを (そんなのを) 御飯にかけて喰うの (のを)、オバシトケ。¹⁾ あの人に責任オバス言うて、自分でもまあ責任おばされて言うしなあ。

おはち【名詞】 おてんば娘 シ (爲) ベエ、シベエが重なつてはちベえになり、その訛 (志 (国府、御座、浜島、片田)、鳥 (鳥羽、坂手、答志、長岡、菅島)、南) [会話] よお喋んのをな (よく喋るのを) オハチや (だ) 言うて、オハチの人間だ (は) しやしやしき

しとるけどなあ (しています)。がいん (たいして) ものに こたわらんとなあ (こたわらずに) まあ しゃっきりとしとんのを (しているのを) あやまあ (彼女は) オハチやよって (だから) 言うて、ひととおめとらせんのなあ (人に恐れていないのです)。

おはち【名詞】 順番 オハチが廻って来た

おはつ【名詞】 1) 初物 (上、阿) 2) 刈ったばかりの頭を叩く時に言う [会話] オハツに おめんかかって 言うのもあるし、¹⁾ そして たあ (田) の米でも出来ると オハツな (が) 出来たよって (から) はつもん (初物) を はなのもん (最初の物) を オハツやなあ (だ) 言うてな。一番に、はなになあ (最初初めに)、はしりのもんを オハツや (だ) 言うてな。オハツを頂いて 言うて よお言うやんかい (よく言うで有りませんか)。

おばでいる 適齢期を過ぎても嫁に行かず居る (熊)

おはね【御馳】【名詞】 お車婆 (名) [会話] お車婆のことを オハネや言うんなあ (と言います)。おっちゃくなのおを (横着なのを) オハネやなあ (だ) あや (彼女は) 言うて。おはちと、オハネは違うのなあ (です)。おはちや (は) 口でさえずったり (喋ったり) やんない、しゃっきりしとんのをな (しているのを) あやまあ (彼女は) おはちやなあ (だ) 言うて、人をおめんとなあ (怖がらずに) さえずっとる (喋っている) となあ、おはちやなあ (だ) 言うて。

おばの【名詞】 1) 情婦 2) 他人で有る年上の女性 3) 伯叔母 4) 適齢期を過ぎた女性

おはば【名詞】 1) おおっぱら。公然。オハバでもてく (持って行く) 2) 多く 3) 巾の広いこと [会話] こはば オハバ 言うて。³⁾ 反物でもなあ こはばは一尺位やしなあ (ですし)、オハバは二尺位やしなあ ¹⁾ 何んでも おつきい (大きい) ことを オハバん (に) して言うてなあ、オハバに広げてまあ言うて よお言うけどな (よく言いますが)。¹⁾ 世間一般に知らしたる (知られる) オハバに知れ渡って言う時も あんなあ (有ります)。言いちらしたとなあ (言いふらすと) おおたまあ オハバに 何んかも ひろがってたなあ (広がって行った) 言うて、なんしよんしとよ (内緒にしていよう) おもとんのん (思っているのに) まあ広がって言う時も オハバに言う意味やな (です)。

おばば【名詞】 お婆さん (志、桑) [会話] しゅうとばば (姑婆) のことを言うんなあ (言うのです)、オハバどこいきやある (何処へ行くのか) さんじよだるさあ

げて (三升樽提げて) よめ (嫁) の ざいしよえ (在所へ) まご (孫) 抱きに、言うやんない (言うでしょう) それやよって (だから) しゅうとばあさん (姑婆さん) のことを 言うんやろな。

おばもち【名詞】 妾を持って居る人。おば参照 (志) [会話] 妾持ち。妾を持つ オバモチ。

おばやん【名詞】 小母さん 伯叔母さん 親しみを込めて言う語 (志 (浜島)、三、鈴市、安、久、一、松、上、阿、張、名、度、北、南) [会話] おばさんのことを オバヤン言うの (のです) オバヤン オバヤン言うて。

おはよおさん 朝の挨拶、御早ようございます

おはらい (おはらひ)【御祓】【名詞】 祈祷 (志、伊) [会話] オハライカズキや (だ) 言うてな、何んやかや氣にする人を。今日はまあ 何んの日やよって (だから) わり (悪い)、今日は大安やよって ええひい (よい日) 言うて、縁起をはずく人なあ オハライカズキや (だ) 言うて。祈祷したりすんのも (するもの) 祢宜さんにまあオハライして貰うて言うてな その、オハライもあるしなあ (有ります)。

おはらいかずき。おはらいかぶり【名詞】 迷信家。御幣担ぎ。縁起を氣にする人。おはらい参照 (阿) [会話] なんやかや (何か彼か) 神さんの事なあ (です)。あんして (あんなにして) すると罰金当たるとか、こげんして (こんなにして) すると、祟りな (が) 有るとか言うて、きびよお (氣病、氣にする)、病む人なあ (です) オハライカズキ。

おはりこ【御針子】【名詞】 裁縫の稽古に通う娘。(上、阿、張、名) [会話] 裁縫習いん (いに) 行くのを オハリコや (だ)。オハリコおいて言うて。

おばれえ 背負われなさい

おばれてこい 背負われに来なさい

おばれやだかりよ 親切にしてやれば更にその上を求める (志 (布施田))

おばれる 負ぶわれる。背負われる。負う。背におう。おんぶする。仕事 責任を引き受けさせる。(志 (布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥、桑市)

おばれよ 1) 背負われなさい 2) 背負って貰おう

おばんこ (伯母)【名詞】 1) 情婦 (志) 2) 伯、叔、小母さん [会話] ¹⁾ 寝る オバンコもあるし、²⁾ 母親と姉妹のオバンコ、伯母さんやけどな (だが)、おれげの (俺の家の) オバンコな (が) 言うてな、おばさんのことをオバンコや (だ) 言うて。そすと かあさん (妻) より以外のおなご (女) とすると、それを オバンコや (だ) 言うて。

おひいさん【名詞】 太陽 おひさんの延訛（志（畔名、志島、浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗）、鳥（坂手、相差、答志）、北）[会話] オヒイサン、オヒイサンな（が）出て来た。

おひえる（佐）【自ア下ー】 1) 怖がる 驚く（度）2) 悪夢にうなされる [会話] 1) オビエル言うな（のは）、おとしがる（怖がる）ことやけどな（です）。今日なんか来るやら、して来るやら言うて、オビエル。おどける（驚く）事をなあ。オビエル おびやかされて 今日は地震な（が）して来る言うね（のだ）言うて、怖い怖い思も思もとんのを（思っ、思っているのを）オビエル言うのな（です）。おどける（驚く）言う事を、オビエル言うんな（言うのです）。地震な（が）よってくんね（揺って来るのだ）言うて おどかされて 仕事も何んも せらったよお言うて。

おひき（御引）【名詞】 贈り物のお礼 オは接頭語。ヒキは引出物の略。（志（布施田、浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗）、鳥、員、津、松、多、伊、北）[会話] 何やかや、もろたもんで（貰ったので）、礼をかやし（返し）にやると、オヒキ。オヒキに何かやらななあ（やらなければ）言うて。

おひさん（御日様）【名詞】 太陽（志（畔名、志島）、桑郡、桑市、員、鈴市、安、一、松、上、阿、張、名、度、伊、北、南）[会話] オヒサンのことかい（ですか）、おひいさま オヒサンな（が）言う。オヒサンな（が）出て来たれ（来た）言うてな。オヒサンな、いってかれ（が入って行く）言うてな。朝、しや（それ）オヒサンな出て来たのん（のに）ねとて（寝ていて）言うて、オヒサンや（と）言う。オヒサン言うてオヒサンな（が）出て来たのん まああやれ、ねとんねない（あれ寝ているのだ）まあそや オヒサンな（が）いってくねどお（入って行くのだ）言うて 日な（が）暮れてくとなあ（いくと）。

おひつ（御櫃）【名詞】 釜から御飯を移し入れる木製の容器。飯櫃。桶のような形で蓋がある。オは接頭語（員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、松、多、上、阿、張、名、伊、尾、南）[会話] オヒツの事を はんだい言よおったんなあ（言っていました）。釜から御飯を入れる はんだいえ移して言うて、オヒツい（へ）移す言うのなあ（のを）はんだいえ 飯 うつさなはざんわれ（移さなければ駄目だ）その釜でくわんと（食べずに）言うて。はんだいに 一杯も 飯たいとんねない（炊いているのだ）言うてな 大きなはんだいえ いっばいつ（一杯も）芋飯も 麦飯も しよおったや

んない（して居たでしょう）、そやもんで（それで）はんだいえいっばいつ ま 飯もたいてあんねよって（炊いてあるのだから）早よくえてや（早く食べなさい）言うと はい よばよかいね（頂きましょうか）言うて。

おひついれ（御櫃入）【名詞】 御櫃の御飯がさめないように、御櫃を入れておく藁製の器 [会話] オヒツイレ。藁をこお ほっそおしといて（細くしておいて）それを組んで ぐるぐるとして 蓋もびちとして うちおいにしとくと（しておくと）飯な（が）ぬくとおて（温かくて）、今しの、ジャアと一緒にやてや（です）。昔 ジャアそいな（そんな）気の利いたもな（物）はない、藁で編んで それい（へ）飯入れとくと（ておくと）ぬくとおてな あほほことなあ 食われよおった（食べられました）。ジャアのかわりや（代わりです）。そすと そのあがりえ（古くなったのへ）赤ちゃん入れてするとなあ 丁度ええんてや（よいのです）また ゆさおけ（揺り籠）の代わりになあ しよおったのな（して居たのです）。

おびとけひろげ（帯解広）【名詞】 おびとりひろげに同じ（志、（布施田、甲賀、立神、国府、安乗））

おびとりひろげ 衣服を着て帯を結ばないで前を広げただらしない姿。地方に依っては、おびときひろげ、おびしろはだか、おびときまえ、おびとりまえ、おびしめはだかと言う。（志、鳥）[会話] 帯せんとおる（せずに居る）事。オビトリヒログ言うて、帯せんと あけつばなして。オビトリヒログであやあれ（あれ）言うて、朝起きて来て オビトリヒログでおりおった（居ました）。男の人らな（が）オビトリヒログで、あやあれ言うて。今はそいな事しとる（そんな事して居る）人ないけどなあ（無いが）。皆 服着て、きちんとしとるけど（して居るが）。せだ（布施田）の若い衆、オビトケヒログ、モス（モスリン織物）の巾広、尻こけにゆうて（結んで）、和具い（に）遊びに来るよおん（ように）なると、モスの巾広を尻こけん（に）して、煙草入れを挿して、ヒヨッコヒヨッコ歩いてなあ、あんで（あれで）和具はおなごな（女が）器量がよかつたんか（のか）、何か知らんけど（けれど）布施田男に和具女言よおったなあ（言っていました）。尻こけ、尻とんがり おつてくよおん（落ちて行くように）して、普通の人ら帯を腰いするやんない（するでしょう）。せだの人ら これえ（骨盤の下、大腿の付着部より少し上）して、せだの若い衆モスの巾広尻こけん言うな（言うのは）、それを言うやんかい（言うのです）。ず

らかしとんね (ずらして居るのです)、下へおってくよ
おんして 結んどんの (結んで居るのです)。そやもん
で (それで) モスの巾広尻こけん言うて、せだの若い
衆や (だ) 言うたら (言ったら)、それんきまっとりお
った (きまって居ました)。あけっぱなしで、広げてオ
ビトリヒログテみたよんして (のようにして)。

おびなあ。おびなわ【名詞】海女がのみを刺したり腰縄
をつけたりするため腰に巻く綱 帯縄か (志、鳥 (国
崎))

おひねり【名詞】少額の金銭又は米を白紙に包んだもの
神佛に供えたり芝居の役者などに渡す (志 (越賀)、員、
鈴市、安) [会話] 米をひねって 神さんえあげたり
(供えたり) 浜い (へ) まつりん (祭に) 行たりすん
のん (行ったりするのに) オヒネリしてけ (して行
け) 言うて。かみい (紙へ) 米つめこんで、ひねって
(包んで捻って) ひねり、参って来た言うてなあ 賽
銭せんとなあ (せずに) 米をひねってくの (包んで行
くのです)。はな入れる時も オヒネリしてけ (して行
け) 言うて、芝居みいんたり (見に行ったり) して
な (した) 時でも オヒネリ言うやんかい (言います)。
神さんえ ヒネリで そなえとけ (供えておけ) 言う
てな、紙なあ、ふたあつん (二つに) 折って ひねっ
てなあ そなえとくなあ (供えておきます)。

おびひぼ【名詞】おびひも 子供を背負う時に用いる帯
または紐 (松) [会話] こおおぶ (子背負う) 帯言う
て オビヒボを こお おぶ おびな (が) ない、や
ぶれてたれ (破れてしまった) 言うて。子おぶ 時は
子おぶ帯や (だ) 言うてなあ、縞の布をなあ 切って
しよおった (して居ました)。

おびや (産屋)【名詞】うぶや。産屋。お、と、うの音の
変化 出産する部屋。特に出産のための母屋と別に作
られる小屋をさして居る。産をする部屋はおおよそ定
まっており、大体は平素の寝室、納屋が使われた。総
じて表の後側の附属室で家内の生活からへだてられた
部屋を呼んで居る。産小屋を別に設けて産婦が別居す
る風習は現在でも残っている地方がある。産小屋を別
に設けるのは産は火を穢すので別火にして穢をさける
ためであった。かりや参照 (志 (布施田、浜島、甲賀、
鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)、鳥 (国崎、長
岡)、桑市、多、度、南、熊) [会話] オビヤ言うな
(のは)、お産しとる (している) 事なあ (です)。オ
ビヤい (へ)、いた言うて (行った言って)。

おびやあげく【名詞】産後 (志 (神明、鶴方) [会話]
オビヤアゲク言うとお産したあとをなあ オビヤア

ゲクや (と) 言うの (のです)。今年まあ あのこおな
(子が) おびやい、いくねもんで (お産するので) 言
うて。わりなも こさえとかなはざん (作らなければ
ならない)。わりなじるなあ 昔 子もおけるとなあ
古血な (が) 降りる 言うて、わりなの 汁 (味噌
汁) をなあ くわしよおったの (食べさせて居たので
す)。ふるちなおるすのん (古血を降ろすのに) そのわ
りなじるな (が) ええね (よいのです)。

おびやいわい【名詞】出産祝。よろこび祝い。(志 (鶴
方)、松、張) [会話] 子供な (が) 生まれるとなあ、
そのよさ (夜) 喜び祝い言うのを言うんやろなあ (言
うのでしょうか)。子供な (が) 生まれると、そのよさ
(晩)、よろこび祝い言うて、家族な (が) 親、兄弟、
寄って小豆飯炊いて たいしたごっつお (大変な御馳
走) は、しやせんけど (しないが)、軽いごっつおな
(御馳走を) して くよおったわ (食べて居ました)。
生まれたよさん (晩に)。そげんみんな (そんなに皆)
を、呼ばせんけど (ないが)、濃い人 (血縁の近い人)
だけ、洗いもん (物) してもろたり (して貰ったり)
する人らと呼びおったわい。よろこび祝い言うて、そ
れを オビヤイワイ 言うんやろなあ (でしょう)。子、
もおけて (生んで) そのよさに喜びの祝い。まあなあ
無事で生んだ言う祝いに、よろこび祝い言うて、かあ
るい (軽い) 祝いすんね (するのです)。親兄弟だけや
けど (だが)、そんな (それが) よろこび祝い。

おびやえいく 出産のため産屋へ行く。(志 (布施田)、
多) [会話] オビヤエイク言うのな (言うのが)、お産
する言う事やなあ (です)。昔や (は) オビヤイ (に)
イクねさけん (行くのだから) 言うて、オビヤエイク
ねてない (そうです)。こお、もおけんねてない (子出
産するそうだ) あの家の嫁な (が) 言うて。

おびやかす【他サ五】怖がらせる。恐れる気持を相手に
与える。オビヤスの転、オビユ (怯) の他動詞。

おひやくどふむ たびたび訪問する (上、阿) [会話]
お百度参り言うて ぼおもっとて (棒持っていて) こ
お、一遍 参って いっぽそなえてな (一本供えて)
おがんでな (拝んでは) またもどって来てな (戻って
来ては) 門えまで 来といて (来ておいて) また行
て (行つて) いっぽそなえてなあ (一本供えて) おが
んで そえんしてすん (そんなににしてするのを) オヒ
ャクドフム言うのな (です)。よその (他所の) 家え行
て 留守やと 何べんもたずねると (訪問すると) ひ
やくどまいりも したない (しました) 言うて、何回
も行て、おらへんとな (居ないと) おたまあ いくく

ら行ても(幾度行っても) おらんで (居なくて) オヒ
ャクドフンダヨオ 言うて。

おびやご(産屋子)【名詞】生まれてすぐの子供(志(船
越、志島、布施田、国府)、鈴)[会話] おびやん居る
内の こお(子)を オビヤゴ言うね(言うのです)。
ねとるうち(寝ている間)を こお(子)産んで 越
賀はなあ おびや言うて あるけど、和具は わがう
ちで(自分の家) しよおった(産みました)。一月位
おびやんおって そのうちを(間を) オビヤゴ 言う
んやろな(言うのでしょうか)。

おびやど(産屋人)【名詞】産婦。おびや参照(志(浜島、
布施田、立神、鶴方、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、
島(国崎))[会話] 子供産んだ人。お産しとる(して
いる)人 オビヤド言うね(のです)。

おびやばら(産屋腹)【名詞】産後の食飲の進む様子。産
後いくらでも食べられる様子。[会話] オビヤバラ、
お産した後の腹、後をオビヤバラ言うわい(言います)。
その時や(は) よお(よく)食べる。よけ喰いたいん
やんかい(沢山食べたいのです)、飲むねよって(赤ん
坊が乳を飲むから) 食べたいねけど(のだが) よけ
(多く) 食べられやせんねてや(ないのです)。ひとく
らん(一度に)、よけ喰わんと(沢山食べず)、いく
くらんも喰え(何度も食べよ)言うて、夜食もしよお
ったねけど(して居たのだが)。子もおけて(出産し
た)すると、ここの人ら(は)、オビヤバラやよって
(だから) 喰うなよ(食べるなよ)言うて、一杯か二
杯なあ(です)、まだ喰いたいなあ思ても(食べたい思
っても)、後で喰うよおん(ように)して、ひとくらん
よけ(一度に沢山) 喰わなかつたわい(食べなかった
のです)。わしらは(私ら)、そげん(そんなに) ひと
くらん よけ喰うたら(一度に沢山食べたら) はざん
(いけない)言うもんで(ので)、一膳か二膳喰うて
又、ゆざけん(昼食と夜の食事中間に) 喰うとか、夜
食とか言うて、喰うけど。

おびやみまい(出産見舞)【名詞】産婦の肉親が出産後、
産婦のお祝いへ行き、話し相手になる事。(度)[会話]
見舞いに行かなはざん(なければいけない)。病氣見舞
にとか、オビヤミマイや(とか)言うて。昔や(昔
は) オビヤミマイや言うて。こおもおけると(子供産
むと)二、三日は行かな(なければ)言うて、親や兄
弟な(が) 夜伽ん(に) いかな言うて、行きおつた
わい(行って居きました)。

おびる【他バ下一】背負う(志(鶴方、神明、立神、志
島、甲賀、国府、安乗))[会話] こおおぶ(子負ぶ)。

こおおばしてくれ(子負わして下さい)とか、だれお
おだるわ(どれ負んであげよう) おばれえ(負ばれな
さい)言うたり、おばれてこい 言うたり オビル
言うのは背負う。

おぶ(初)。うぶ。性格なすなおなさま。世慣れぬさま。
特に男女の情に通じないさま。[会話] わかご(若
子)臭い言うて、オブなもんを(の者を)、オブこいと
(幼児じみて居ると)。

おぶ(負)【他バ五】背負う。負担する。(志摩市全域、
鳥、桑郡、桑市、員、津、上、阿、北、南)

おぶぎ(初衣)【名詞】産衣。うぶぎ。初衣。生まれた赤
ん坊に初めて着せる着物。うぶぎ参照。(志(浜島、片
田、志島、国府、神明、菅島、甲賀、布施田、越賀)、
桑郡、安、上、阿、張、名、北、南、熊)[会話] 産
着のことを オブギや言うね(と言うのです)。はつぎ
や言うのを(初着と言うのを) オブギや(だ)言うて、
オブギ きせなはざんわれ(着せなければいけない)
言うて。そして あの前は 生まれた時は 黄直な
(が) 軽くなるよおん(ように)言うて、うこん(鬱
金)を 生まれると直ぐん(に) きせよおつたね(着
せて居たのです) きいよい(黄色い)のを 着せると
黄直な(が) 軽い言うて。私らな(の) 時や(は) あ
つかいの着せよおつたんよお(赤いのを着せて居まし
た) あつかいのお 着せるもんや(ものだ)言うて、
男の子でも あつかいのな 一枚 こしらえといて着
せよおつたね(作って居て着せて居たのです)。

おぶげ【名詞】1) 産毛 子供が生まれた時すでに生え
ている毛(志(神明)) 2) 頬や項などに生えているご
く柔らかい毛 [会話] おぶげ言うのは 生まれた
ばかりののおを(ばかりののを) うぶげ言うやんかい
(初毛言います) 初毛を オブゲ 言うの(のです)。
オブゲを すらんとおいとくと(剃らずに置いておく
と)それを 筆ん(に)すると ええね(よいのだ)
言うて。

おぶこい【形容詞】世慣れして居なくて、幼稚である。
大人気がない。男女の情事にうとい。おぶ。おぼこい
参照(志(布施田、甲賀、安乗))[会話] いつとも、
子ららみたいん(子供のように) オブコオテ。

おぶこくさい【形容詞】幼いようである。幼い。子供ら
しい。[会話] 子供らでも 子供らししとると(しく
していると)可愛らしけど(しいが)、あんまり大人げ
みたよな(あまり大人のような)事言うと 憎らしな
あ(しい)言うのも 一緒に、可愛げな(が) 無い
な(のです)。オブコクサイしとると(していると)可

愛げな (が) さすけど (するが)。

おぶこもん【名詞】 幼いような者 世間知らずの者、うぶこもん [会話] オブコモンでまあ 言うて、うぶなこと、オブコモン言うの。うぶこもん言うの おぶこい言うて。

おぶし (をぶし) (雄節)【名詞】 鯉の背肉で作った鯉節。

おぶしな【名詞】 産土 氏神 うぶすなの訛 (松、多、度、伊) [会話] オブシナさん 八雲神社 オブシナさん 和具のオブシナさんえ まいって 言うて。土地のなあ 氏神さんのこと オブシナさんや (です)。

おぶせる (負)【他サ下一】 1) 背負わせる。2) 負担させる。[会話] ₁₎ おいなかす言うな (言います)。おいなかす 言うの (のを)。オブセル。おいなかしたれ (てやれ) 言うて 言うけど (が) おいなかされたとか おいなかしたれ言うて。

おぶとい【形容詞】 太い。どぶとい お、ど、は接頭語。名詞、形容詞についてまさにそれに相当する意である事を表す。(志、度) [会話] ふっとおい (太い) のも、オブトイ言うけどなあ (言うが)。

おぶね【名詞】 大きな舟 [会話] いそど (海女) 舟でも、こぶね (小さい舟) で行く言うて。ちっさい (小さい) 舟で行くのなあ (です) こぶね (小さい舟) で言うて、おら (俺は) オブネやよお (だ) 言うて、オブネや (だ) こぶねや 言うて。

おぶらかされた。おぶれかされた 溺れさされた 溺れされた おぶらかす参照

おぶらかす。おぶれかす 溺れさせる。おぶれる参照。(志) [会話] オブレカス (させる) 言うのを、オブラカス言うね (言うのです)。オブラカサレタ (溺れさせられた) 言うて、おら、泳えんどたら (俺は泳いで居たら)、あのこん (あの子に) オブラカサレタ言うて、よお (よく) オブラカシン (しに) 来よおったもんなあ (来て居たものです)。男の子らな (が) わざ (いたずら) して、おさえん (おさえに) 来て、足引っ張ったりすると、泳がれやせんもんで (ないので) オブラカサレタ。

おぶれた 溺れた

おぶれとる 1) 溺れている (志 (布施田)) 2) 熱中している 3) 着物が大きくて余裕が有り過ぎる

おぶれる【自ラ下一】 おぼれる。溺れる。1) 泳げない状態で水中でもがいたり沈みそうになったりする、又その結果死にそうになったり死んだりする。(志 (甲賀、志島、国府、安乗)) 2) 着物が大きくて多分に余裕のある状態。(志、(志島、国府)) 3) ある事に夢中

になる。(志 (浜島)、鳥) [会話] ₁₎ 海でなあ、オブレル言うのを、オブレル言うて。あや (あれ) オブレテアップアップ言うて、とごってたんてな (沈んで行ったそうです) 言うて。そんでも (それでも) すぐん (に) 引き揚げると 水吹いて来んねけど (来るのだが)、いつまでもほっとくと (放っておく) 死んでくねけど (死んで行くのだが)。とごってて (て行って)、とごってく迄 (沈んで行く迄) 知らんとおったねえ (知らずに居たのだ) 言うて、よお言うてや (よく言います)。そんでも 時間な (が) 短い時は助かんねけど、時間なあごおほつとや (長く放っておけば) はざんねけど (だめだのだが)。とごっとたけど (沈んで居たけれど)、そんでも (それでも) 助かった言うて、よお (よく) 言う時な有るわい (が有ります)。アップアップしとるうちや (間は) 助けてもらと、ええんけど (よいけれど)、人な (が) 知らんと (知らずに) おると、とごってくんやんかい (沈んで行きます)。アップアップな (が) すむと。

おべっか【名詞】 上の人のご機嫌を取ったり、へつらったりする。おべんちゃら。ごまする。[会話] オベッカ言うな (のは)、上手言い。上手言うて、まいすこいて (言って) 上手言う事を、オベッカ。あやまあ、オベッカイイで言うて。

おべっかい【名詞】 上手を言って人の機嫌をとる人。おべっか参照

おぼ。おぼお【代名詞】 年上の女性。おぼさん (志 (布施田)) [会話] おぼ。おなご (女) の人の、大人の人に、わしらな (が) オボ言うて、かあさん (母さま) 伯 (叔) 母さんとか言うよおなやけど (だが)、他人の人は、オボオ言うわい (言います)。身内 (家族、親類) の人は、おぼさんとか姉さんとか言うけど (が)。大人の人にはなあ、オボ言うてなあ。はっちえのオボ (初枝のおぼ)、八重のオボ言うて、子供の言う言葉目下のもんのなあ (者が) 言う言葉 オボオ。

おぼえ (覚)【名詞】 1) 感じられる事。知覚。感覚。2) 記憶。心当たり。[会話] ₁₎ てえな冷たおと (手が冷たくて)、オボエな (が) のおて (なくて)。

おぼえてから 記憶に有る限り 若い時から

おぼえる【自ア下一】 記憶する。暗記する。意識に上らせる。思い出す。[会話] 何かを身に付ける言う事やなあ (です)。オボエル言うな (のは) 今しも (今も) 一緒やなあ (です)。物をオボエル。

おぼえん 知らない (志 (布施田))

おぼぎ (初着)【名詞】 生まれた赤ん坊に初めて着せる

着物。うぶぎ、おぶぎに同じ。[会話] うぶぎ (初着) も 一緒や (です) オボギも。

おぼこい【形容詞】 世慣れしなで、子供っぽい。幼稚だ。うぶこい。(志 (浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (国崎)、松、多、上、阿、張、名、北、尾、南) [会話] オボコイ言うな (のは)、いくら大人ん (に) なくても、子供みたよおなのおを (みたいな、のようなのを)、おさないぶりしとんのを (幼いぶり、幼い様子しているのを)、オボコイ言うんやんかい (言います)。いづもかも (いつも) 子供みたよんしとんのを、おさないなあ、あや (彼、あれは) 言うて オボコイなあ言うて、オボコオテ (幼稚で) いづもかも、こららみたよん (子供のように) オボコオテ。

おぼこもん【名詞】 思春期になっても、色気の無い者、うぶこもん参照 [会話] 色気づかせん あや (彼は) おくてで うぶこおて オボコモンや (だ)

おぼそい【細】 細い。大変細い。(志)

おぼたい【重】 重い (志 (御座、浜島、立神、甲賀、鶴方、神明、国府、安乗)、鳥 (神島、加茂)、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、安、津、久、一、松、多、上、阿、張、度、伊、北、南、熊) [会話] 荷物な (が) オボタイ。オボタイ、よっちょい言うて、舂つりすると (を担ぐと)。はあ、よっちょい、はあ オボタイ言うて、声してしよおったわい (出してして居ました)。土方い (へ) 行ても 掛声して 先のもんな (先を担ぐ人が)、よっちょい言うて、後のもんな、オボタイ言うて、掛け声して、はりあいんなるもんで (張合、が入るので) 軽いんてや (軽いのです)。そげん (そんなに) 言いもて (ながら) 持っと。ものすごい、オボタイもん (物) でも よっちょい、ああおもたい言うて、調子かけて (つけて) 言うとなあ。かるうい (軽い) よおに、おもよおったんやろなあ (思ってたのでしよう)。そやもんで (それで) 先のもんな、よっちょい言うて、後、つつとる (担いで居る) 人な、オボタイ言うて。そやよって (それで) 子供らん (に) でも、そや (それ) よっちょいしよおや 言うて、つろや言うのんなあ (吊りましよう言うのを) よっちょいしよおや (しましよう)、婆やんと言うて、よっちょいおもたい言うて。

おぼとおて 重たくて [用例] 此の石な (が) オボトオテ よお持たん (持てない)。

おぼやい【感動詞】 人にあった時の最初の言葉。挨拶。おぼ 参照 (鳥) [会話] おっきい (大きい) 人らをあの おぼな (が) 言うて、かづうえのひとらなあ

(年上の人をです)。小母さんとか お婆さんとか 言うのを、おぼらな (が) よけおって 言うね (言うのです)。おぼらな 言うて 大人の人を。そして わしら (私) には 子供らななあ (が) あの おぼらや (だ) 言うて、男は あのおじな (が) 言うてな、おじらな (が) よけおって 言うて。オボヤイ言うのはお婆さん言うよおな、おなご (女) の ことを 言う ね (言うのです)。男には あの おじな (が) 言うて子供の時はなあ 大人の人らな (が) よけ 居るとなあ、おぼら ばっか (ばかり) よけおって 言うてな。

おぼゆ【名詞】 初湯。産湯。ゆう参照 [会話] 赤ちゃんが生まれた時、湯あびせる (浴ぶせる)、盥で、オボユ 浴びせる (浴ぶせる)。

おぼよ【覚】 おぼえよう [用例] いくら おせても (教えても) オボヨとしやせん (しない)。

おぼよ【感動詞】 年配の女性に対する挨拶

おぼらかされた 溺れさせられた [会話] 海い (に) 突っこんで オボラカサレタ 言うて、オボラカサレタヨオ あの 男のこお (子) に。

おぼらかす。おぼらさす。おぼれかす。おぼれさす 溺れさせる。オボホルの約のオボル (溺) の他動詞 (大言海) おぶれかす参照。(志) [会話] 海い (へ) つつこんで (突っこんで) オボラカス言うてな。しおあびん行とても (海水浴に行っている) 突っこんでおこして オボラス 言うてな。おぼらかされたよおまああの男の子に。男の子な おしこんで (上から押さえて) おこした 言うて、しおあびしとるとな (海水浴していると)、ちよおけてしよおったんなあ (ふざけてして居たのです)。おぶれると (溺れると) おぶれて (溺れて) ひよおたんうけんしたんてない (したそうだ) 言うてなあ、あおぬいとると (仰向いていると) まあ およぎよおかかん (泳げない) しとると (していると)、まあ ひよおたんうけ しとたんてない (していたそうだ)、あや、おぶれて (彼は溺れて) 言うてなあ ほかんと ういとるもんでなあ (浮いているので)。

おぼれじに【名詞】 溺死 水中に落ちて死ぬ事

おぼれる【自ラ下一】 1) 溺れる。2) ある事に熱中する。おぼるの口語。おぶれる参照。[会話] 1) 僅か二尺のまいかけ (前掛け) の下に、心中するような池が有る。余り深くはないけれど時々 息子がオボレテク。

おぼろ【名詞】 魚類の身をすり潰して味付けし、いり煮した物。おほほろの略 (大言海) [会話] 魚のみ (身) をなあ、碎いて すりばち (摺り鉢) で す

ってなあ (摺って) 鯨の こおんすんのを (具にするのを) オボロ 言うしな (言います)。

おまい (御前) 【代名詞】 (対称) おまえの変化した語。
貴方。元は敬稱、後に同輩より下に用いる おまえ参照 (志、(布施田) 鳥、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、久、一、飯、松、多、張、度、伊、北、尾)

おまいげ 【名詞】 貴方の家 おまえげ参照

おまいら 【代名詞】 お前達、おまいの複数 おまえら参照 (志、鈴市、多、伊、尾)

おまえ (御前) 【代名詞】 1) 貴方。対等、若しくは下位者に用いる。江戸後半期に生じた語。(三重県全域)
2) 間接詞化して話の途中に入る [会話] 1) そんでも (それでも)、オマエ、こげん (こんなに) 言うたやんかい (言ったではありませんか)。

おまえげ (御前家) 【名詞】 お前の家 [会話] オマエゲの、ととな (父が) 言うて。

おまえとこ 【名詞】 貴方の所 家 (久、一)

おまえら 【代名詞】 お前達、おまえの複数 おまいらに同じ (三、鈴市、久、多、阿、度、伊、南) [会話] あんたら (貴方方) 言うのを、オマエラ言うてな。あんたがた (貴方方) 言うのを、オマエラ 言うて。オマエラ なとしとんねどい (何をしていますか) 言うてな、オマイ 言う言葉は よけ (あまり) 使わん、オマエラ言うてな、オマイラも あんまり言わへんな (あまり言いません) オマエラ 言うのな (のです)。

おまえんとこ 【名詞】 貴方の家

おまけに その上に

おませ 【名詞】 年齢の割りに大人ぶって居る子供。ませ参照 [会話] 年の割になんでも、しっとて (知って居て) する事もするし、それを、ませとる、オマセや (です)。

おまつ (をまつ) (雄松) 【名詞】 黒松。樹皮の色の褐色の濃いもの。(志、鳥、桑郡、員、三、鈴市、鈴郡、亀、安、一、上、阿、張、度、伊、北、尾、南) [会話] オマツ、めまつ (雌松) オマツの方は 皮な (が) 黒い、そして はりなな、かったいし (針が堅いです)、はあもかったいしな (葉も堅い)、そして はりないたいし (針が痛い)、めまつ (雌松) はな あ やわらこ おて (柔らかくて) そして 皮も あつかあいな (赤い)。そのめまつの とこやなけな (所でなければ) たけな (茸が) はえやせん (生えませんが) 松茸は。

おまつでこ 【名詞】 市松人形 ひなでこ参照 [会話] わしらな (私の)、孫の時や (は)、オマツデコやった

けど (だったが)、わしらな時や (は) ひなでこ。

おまや 【代名詞】 お前は (志) [会話] オマヤ言うてな、オマヤなんしとんねどい (何をしていますか) 言うて。仕事しとると (していると)。オマヤなとしとんねどい (何としていますか) 言うて、おまえわ 言う意味やけどな (だが)、そやけど (しかし) 簡単に まあなオマヤ言うてな 今しやったらな、あんた (今だったら貴方) なにしとんやな (していますか) 言うのをな、オマヤなとしとんねどい 言うてな。

おまる 【名詞】 便器

おみ 【代名詞】 特に敬意を込めて女性を指す。母をさして呼ぶ称。おみなの転 ヲミナは、ヲミハ (小身) の義、ナはオトナ (大人) のナの如し (大言海) 日本語ヲミナ (女) は朝鮮語 omi (婦) に愛稱ナをつけたもの (方言国語語源辞典) (志 (布施田)) [会話] 年上の人に、女の人に、オミ言よおったけど (言って居たけれど)、今しや (今は) 使いかたな (方、方法) 判らんで (判らなくて)、男の親にも、オミ、オミ、言うとな (言って居るのです)。男には あがみ言うて、女は オミ言え (言いなさい) 言うて、おせてもらえおったけど (教えて貰って居たが)。私らは男の人には、あがみ言よおったな (言っていました)。

おみ 【名詞】 海 (志 (片田、畔名、浜島、布施田、甲賀、安乗)、鳥 (浦村、答志)、度、尾、南、熊) [会話] 海の事もオミ言うね (言うのです)、オミい (へ)、行てこおや (行きましょう、行って来ましょう) 言うてな。海 言やええことん (言ええよ事なの) に、オミ言うて、オミで洗ってこい言うて、オミ行てこい言うて。

おみあかし 【名詞】 灯明 (津)

おみき (御神酒) 【名詞】 1) 祝事に送る進物 2) その年初めて出漁する船にする祝い 3) 酒

おみきすず。みきすず 【名詞】 神に供える神酒の徳利に入れる木片製の飾り。(尾) [会話] ミキスズだけで、ええんや (よいのです)。ミキスズ言うやんかい (言います)。オミキスズ言わせん (言わない)。

おみきどっくり 【名詞】 二人連れだって仲良く歩く事。御神酒徳利は同型一対で有る所から。[会話] オミキドクリ 言うな (のは) 銚子みたよなのお (のような物)、昔 そげん (そんなに) 銚子 言うな (のは) ないしな あ オミキドクリ言うて うずまきん (渦巻きに) してあんのを (あるのを) あいなのおいな (あんなのに)、おみきこおてきて (御神酒買って来て) 入れて、節句やどけや (など) みんな、ちよいち

よい (皆が少しづつ) いただく (頂く) のを そんで、つぎまわんの (それで注ぎ廻るのは)、しよおったけど (して居ましたが)。神さんえ あげんのも (供えるのも) みきすず言うて、みきすず みきぐち言うて くちなほっそおて (口が細くて) ちよいと なあごおてあれ みきすずや (だ) 言うてな。みきすずのくちや (だ) 言うてな、檜うっすう (薄く) 削って 組んで 親戚中や したしうちい (親しい家へ) みつつ (三つ) か いつつ (五つ) かして こばよおったの (配って居たのです)。みきすずのくち。それを みきすずい (に) さいて (差して) おみき、ちよいと (御神酒少し) いれて 神さんえ (に)。仲良しの 二人連れ オミキドッキリ みたよな (のようだ) 言うな (のは) そげん (そんなに) 言う人らも あんねやるな (有るのでしょうか)。

おみげ【名詞】 貴女の家 [会話] オミゲ (家) 言うと、貴女の所。

おみた【御御田】【名詞】 伊勢神宮、磯部阿伊雑宮の神田の田植え (志、度、伊) [会話] オミタ、磯部の。六月の にじゅうよっかな (二十四日が) オミタやなあ (です)、その米を あしこで (あすこで) 作ったのおを (のを) はつほまいや 言うて 神さんえ あげんのなあ (供えるのです)。何やら (なにか) 笹とりやい (奪い合い) して 泥んこん (に) なる 言うたやんかい (言いました)。じょおしの (漁師の) 人ら 泥まみれん (に) なってなあ、その竹を取ると どいらい、じょおしな (大変漁業が) えんぎなええので (縁起がよいので) じょおしの人な (が) 裸んなって たあんなかで (田の中で) 泥まめぐりんななって 笹 とりやいすんの (奪いあいするのです) いそべさん (磯部さん) 言うの (のです)。

おみな【代名詞】 貴女が (志、鳥、伊) [会話] かあさん (母さん) オミナ言うて、女子の人には おみ言うて、男の人は あがみ言うてな、今しの (今の) 若い子ら 言葉の使い方な (が) 判らへんの。とおやん (父さん) オミナのお 言うてな ほんとわなあ (本当は) とおやん あがみな言うて、かあさん オミナ言うね (言うのです)。

おみやかし【御御明】【名詞】 神仏にそなえる燈火。みあかし おは接頭語 しょうじあぶら参照 (上、阿) [会話] しょうじ油 (精進油) を、オミヤカシや (だ) 言うて、仏さんへすんの (するのです)。

おみら【代名詞】 貴女達 おみの複数 (志、久、阿) [会話] 貴女達 これも 女の人に、男の人らにや (に

は) あがみら 言うて、女の人がおおぜえ (大勢) おる時に 一人やなしに (でなくて) おるときに (居る時に) オミラな 言うて 言うのなあ (のです)。おばさん オミラなのお言うて 言うし、男の人らん (に) あがみらなのお 言うてな。よけ人な おるとな、オミラとか あがみらとか言うて 一人の人に言うのは おみな あがみな言うて らな (が) 付くと ちよいと (少し) 人間な (が) 多いね (のです)。

おみんとこ【名詞】 貴女の所 貴女の家 (志、久) [会話] あなたのとこ (所)、家言うのをなあ おみげの家なのお (が) オミントコ言うてな。此処ら おみげいのお (へ) おみげい 行たやのお (行ったら) 居らんでのお 言うてな、あしこん (あすこへ) おいて来たわ (来ました) とか 言うてな おみげやてね (と言うのです)。

おむかえ【おむかへ】(御迎)【名詞】 仏の御迎。死亡する。死ぬ事。[会話] オムカエ 言うな (のは) むかえに 行くことで、しんでくのも (死んで行くも) オムカエな (が) きた 言うし。オムカエ来るまで 元気でいたい言うて。死んでく (で行く) 時でも オムカエな (が) くる 言うのな (のです) オムカエな (が) 来たかして (来たと見えて) まあ 言うて。

おむかえがくる 1) 死んで行く 2) 眠むくなる (員) [会話] ₁₎ あの世界から オムカエクルまで 元気で居たい言うて。オムカエガクル 言うのは、死んでくことや (で行く事です) 死んでたこた (死んでいった事は) ないけど (が) 言うて。

おめきあるく 1) 大声を出す 2) 激しく叱る [会話] ₂₎ 物凄く怒って 大きな声で オメキアルク人な (が) 有るやんかな (有ります) 人叱ったりして。

おめきすえられた 大声で叱られた。怒鳴られた。大変叱られた。[会話] おめきすえるは 自分で言うので、オメキスエラレタ言うな、おめかれるよって (から) オメキスエラレタ 言うて。

おめきすえられる 大声で激しく叱られる。大声で叫ばれる。おめきすえられた参照 (北) [会話] はよ来いまあ (早く来なさい) まあ はよ (早く) 船な (が) 出てかあれ (出て行く) はよこいまあ言うて おめきすえる言うて 大きな声でなあ 何回も言うのなあ (のを) おめきすえる 言うて、大きな声でなあ 何回でも呼ぶのを オメキスエラレル 言うて。

おめきすえる 1) 大声で叫ぶ 2) となりつける (熊) [会話] ₁₎ オメキスエルは 自分で言うので オメキスエラレル言うな (のは) おめかれるよって

(から) おめきすえられた 言うてな。

おめきまくった 大声で叫んでやった。叱ってやった。

おめく (喚く) 【自カ五】 大声をあげる。声高かに叫ぶ。

わめく。(志 (鶴方、越賀、船越、志島、国府、甲賀、御座、浜島、布施田、片田、立神、神明、安乗)、鳥 (相差、国崎、坂手、神島)、鈴市、安、上、阿、度、北、尾、南、熊) [会話] 大きな声でおおい ○○よ おい言うて、オメク おおい○○よい言うて おめいたれ (てやれ) 言うて。

おめこ 【名詞】 女陰 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、員、鈴市、津、安、上、阿、張、名、伊、北、尾) [会話] おなご (女) のもん (物) オメコヤ (です)。

おめこする 【自サ変】 性交する (張) [会話] 今して (今で) 言う と 夫婦関係なあ (です)。性交とか セックスとか。そして 夫婦生活とかなあ 言うのを、今しのもんら (今の者は) なあ 直接 オメコスルとか そいなこた (そんな事は) 言わせんのなあ (言わないのです)。

おめさん 【名詞】 女陰 (志、上、阿、張) [会話] オメサン言うのも おたべや (です)。よおなあ (沢山名) の あるもんやなあ (有るものです) よけあるやんか (沢山有ります) 御座は ちべ 越賀の ぼぼ 和具の おたべ 布施田の ちょんこに 片田の こんぼ 志摩町でも そんだけちがうねんな (それだけ違うのです) 呼び方な (が) なあな (名が) よけあるもんや。

おめしのたね 【名詞】 収入の手段 仕事 めしのたね [会話] 婆らな (が) こお預かって (子守して) その賃に 食わしてもらうもんで (食べさせて貰うので) オメシノタネ 言うね

おめでた 【名詞】 めでたい事を言う丁寧語。特に結婚、妊娠、出産など よろこびいわい参照 [会話] よろこび言うとお産やとか (だとか)、オメデタや (だ) 言うて、めぎんでくると (妊娠すると)、オメデタや (だ) 言うやんかい (言うで有りませんか)。

おめとらせん 怖がっていない、人おじしない、負けていない おめる参照 [会話] おはちの にげや (人は) 人ん (に) オメトラセンのなあ (怖がって居ません)。

おめる (怖) 【自マ下一】 憶する。はにかむ。気おくれする。ひるむ。怖れる。(志 (鶴方、立神、神明、志島、国府、安乗)、鳥、員、鈴市、安、津、阿、張、北) [会話] 人をオメル。人な (が) オメル 言うな (のは)、恥ずかしがり言う事やわい (です)。あのひた

(人は) 恥ずかしがって、オメトンネナア言うて、あやまあ、おっちゃくなよって (横着だから)、なんも (何も) オメトンネナイシ (居ない) 言うて。

おめれた 【名詞】 祝い事、結婚、妊娠を特に言う ラ行とダ行の変化。(志、員) [会話] 妊娠すると オメレタやてない (そうだ)、あや (彼女は) 言うたり。結婚すると あの家まあ おめでたやてわい (そうだ) 言うてな。あの家まあ 今日はおめでたで 言うてな たるいれしたりなあ おやこなり すると な 今で言う 結納おさめるよん (納めるように) になると、オメレタで ま 今日はよばれてくねよお (招待されて行くのだ) 言うて。おめでたの で を 発音よおせんで (出来なくて) オメレタ だらどろでれ を よお言わん (言えない) 人が そお言う事 言うんやんかな (言うのです) そやよって、ほんとわ (だから本当は) おめでた 言うねんなあ (言うのです)。そやけど (しかし) オメレタ 言う にげな居るんなあ (人間が居るのです)。

おめれたい 【形容詞】 1) めでたいことを丁寧に言う語。お祝いをすべきである。(志、鳥、員、鈴市、鈴郡、一、張、名、伊) 2) お人よしである。愚かである。とろい参照 [会話] ₂) しょながつ (正月) に生まれると、オメレタイねなあ (のだ) 言うて、ちょいとあんごし (少し馬鹿な) のを おめでたい 言うやんない (言うでしょう)。

おめんと 怖がらずに、負けて居なくて おめる参照 [会話] 人をオメント (怖がらずに)、さえずつとると (囁いていると)、おはちやなあ (だ) 言うて。

おも (主) 1) 主要な部分 2) 本家 3) 仲間の中心、或いは責任を持つ事 [会話] ₂) オモ言うな (のは)、おもや (主家、主屋) の事、言よおったけど (言って居たが)。隠居、本家 (ほんや) のあんのを (有るのを) オモや言うて (言って)、オモや言うけどなあ (言うが)。ほんけ (本家) の事を。₁) 大事なところ (所) も、オモどこ、オモなところ (所)、ききめの (効き目、肝心の所) 所をなあ、オモなところ言うなあ (所、言っ居ます)。₃) 中心になるよおな人も、オモな人言うて、オモだった人に頼め言うて。

おもい (おもひ) (思) 【名詞】 1) 考え方 2) 恋しいと思う気持 [会話] ₂) 人に 恋こがれとる (ている) 恋いしとる 言うことも オモイやろ (でしょう)。おもいつめた 言うて ₁) 思うとか 考えるとか わいと (貴方の) オモイ どいなんどい (どんなのですか) 言うのもあるし。

おもい (重湯) 【名詞】 水分を多くした粥の上澄み液。おもゆ。飯の炊き汁。病人、幼児の主食にする。[会話] 重湯は 米の ぬいといた (抜いておいた) のを 重湯なあ (です)。それを しぼった飲ますの (のを) 重湯。病人な (が) おもなると (重くなると) 重湯のましとけ (飲ましておけ) 言うて。おかゆやなしん (ではなくて)、おもゆ 言うのは まあ つぶもんなしんなあ (粒物無しに) この時に おもゆ よお言わんで (言えなくて) オモイ 言う人が あんねんなあ (有るのです) よお言わん (言えない) 人な (が) あんねてや (有るのです)。

おもいり (おもひり) (思入) 【副詞】 思い込む事

おもいおもい (思思) 【名詞】 人、めいめいが思っている事。思う様に。[会話] オモイオモイ 言うな (が)、わがとな (自分が) すきなよん (ように) すること。わしら こげん (私はこんなに) しょおおもとんね (思っているのです)、そしたや (そしたら) また 他のひた (人は) わしら こげんおもとんねけど 言うて、そんなら わがとおもたよん (自分が思ったように) オモイオモイに しょおやんか (しましよう) 言うて、わがとな (自分が) したいことをする 言うことな (が) オモイオモイ めんめん (各自) が したいことをする。めんめんころびん まあ すやええわれ (すればよろしい)。

おもいおもいに 【副詞】 各人が思っている様に。てんで。銘銘で。

おもいきって (おもひきって) (思切) 【副詞】 1) かたく心に定めて [用例] オモイキッテ 沖い (に) いた (行った)。2) カ一杯、徹底的に

おもいきった (おもひきった) 確信して居た。思い込んで居た。[会話] こや (これは) 赤や (だ) おもとんのおに (思っているのに)、ピンクやったんなあ (だったんです) わたしや (私は) 赤や (だ) オモイキッたんよお (のです) 言うて。

おもいきっとる (おもひきっとる) 【動詞】 徹底的に信じて居る。他を考える余裕がない。思いこんでいる。思いつめる。[会話] オモイキットル 言うて あの人な (が) 好きで好きで そんして (そんなにして) オモイキッテ (ていて) それより 他の人知らんで、だな (誰が) なと言うても (何と言っても) はざん (駄目だ) 言うの (のを)、あのひた (人は) まあ オモイキッンネナア (ているのだ) おもいつめたんなあ (のだ) とかな。オモイキル 言うのは 別れる言うことやけどな (だが) オモイキットル 言うのは

信じこんどる (でいる) 信じこんでまあ この人やなけな (でなければ) 言うてな。

おもいきり (おもひきり) (思切) 【名詞】 1) 徹底的に。思う存分に (志 (布施田) 2) 決断 [会話] 1) オモイキリ 言うな (のは) 抱くのでも オモイキリだいたれ (抱いてやれ) 言うて、カ一杯 抱いたれ 言うことを オモイキリだいたれとか オモイキリ拳むくったた (撲ってやった) 言うたり。2) そしてまあ オモイキリよおせんかれ (よくしなさい) とか、言うのな (です)。オモイキリ 言うのは あきらめよ言うことやな (です) オモイキリなよおて (がよくて) 言うてな、決断つける 言うんか 決断力がある 言うことやるな (でしょう)。

おもいきりよおせえ あきらめなさい 決断を早くしなさい。おもりき参照

おもいきる (おもひきる) (思切) 【他ラ五】 1) 思いあきらめる 2) 確く思っている 信じきって居る

おもいごと (おもひごと) (思事) 【名詞】 心の中で思っている事。心配事。願い事。思案 (志 (布施田)) [会話] ああ 今日は なとしよおかいな (どうしようか)、あの子ななあ (が) 心配やわあ (だ) 言うてな、心配事な (が) 有って オモイゴトしととな (していると) 病気な、なおるやかな (が治るだろうか) これより おもなってくや (重くなってくれば) なとするやか、おもてな (どうしよう思っ) わがと (自分) 一人で 悩んどる (でいる) オモイゴトしとて (していて) 言うて。

おもいこむ (おもひこむ) 【自マ五】 1) 信んじきって居る 2) その事のみに思いを集め他を顧り見ない

おもいし (重石) 【名詞】 漬物などの重しにする石。釣り糸などがふけない様、重りにする石。こつぶれ参照 [会話] 石を一つ、オモイシを 鉛の代わりに 石しばって (くくりつけて)。

おもいちがえ (おもひちがへ) (思違) 【名詞】 物事を間違って考える事。又その考え、思いちがひ。[会話] こげんしておもとたけど (こんなに思っていたが) ほん (本当に) オモイチガエやったんなあ (だったのです) あやまあ (あれは) 言うて。ちごととななあ (違っている)。こや (これは) 赤や (だ) おもとんのおに (思っているのに) ピンクやったんなあ わたしや (私は) まあ 赤や (だ) おもいきつとたんよお (ていました) 言うのをな オモイチガエやったんな (でした) わしな (私が) 言うて。

おもいなし (おもひなし) 【副詞】 比較的 少し [用例]

オモイナシすけない (少ない)。

おもいもて【副詞】思いながら [会話] あの人な
(が) すかんわ (嫌だ)、あの人な (が) 嫌やけど (嫌
だが) オモイモテ せな (しなければ) いかんよおな
事やねえんかい (でないのですか) おぞまし言う事は。
おもいもん (おもひもん)【名詞】思者。情人。恋人。心
に思つて居る人。

おもうぞんぶ【副詞】思うだけ 充分に おもうぞんぶ
ん (志 (布施田))

おもかじ (おもかぢ) (面舵)【名詞】船の右舷 また右
の方向に廻ること (志、度、北、熊) [会話] オモカ
ジ言うのは 後の方で とりかじ言うな (のは) わが
(自分の) 前の方。オモカジ とりかじ言うやんない
(言うでしょう)。そすと とりかじ言うのは わがと
な (自分の) 前で どおこんどる (樽漕いでいる) 時
ん (に)、とりかじで 後ろん (に) なる方は オモカ
ジ、どおこぐ (樽を漕ぐ) ともおしな (後ろの樽を漕
ぐ人) オモカジ とりかじを どおで、あっちゃむ
け (樽であちら向けたり) こっちゃむけ出来んね (こ
ちら向けたり出来るのです) ほおまくと (帆を揚げる
と) かじさいて (舵を入れて) 舵であ オモカジ と
りかじを かじづか (舵を操作する柄) 持つとて (て
いて)、わが (自分の) 前い (に) 引くと とりかじい
(に) 行くんなし (行くのですし) 向おえ 押すと
オモカジい (に) 行くんなし。

おもかじかたぎ 船が右舷へ傾く事。かたぐ参照 [会話]
舟な (が) かたぐ (傾く)、オモカジカタギ (右舷へ傾
く) 寝とても (て居ても) 三百言うて、オモカジい
(へ) かたぐとええね (傾くとよいのです)。

おもがわり (おもがはり)【名詞】顔つきや様子の変る
事

おもがんこ【名詞】舟に作られた生簀で一番の大きい
もの。(志) [会話] 魚入れるかんこ、オモガンコとへ
がんこ言うて、オモガンコ言うな (のは)、おっきいの
で (大きい) へがんこ言うな (のは)、ちっちゃいの
お (小さいのです)。

おもくろし (重苦)【形容詞】1) 晴々としない、陰うつ
である、おもくろし 2) 押さえつけられる様で苦し
い [会話] 2) オモクロシ。今日は 頭な (が) わり
いて (悪くて) オモクルシ、1) 天気は うっとしな
あ (うっとおしい) オモクロシ ひいやな
あ (日だ) 言
うてな、曇つて うっとしよおなひいやな
あとかな、
オモクロシよおな ひいやな
あ。オモクロシも オモ
クルシも 一緒やわな (です)。言う人によって オモ

クロシ言ううにげもあや (人間もあれば) オモクルシ言
ううにげもあ
んねんなあ (有るのです)。

おもくれとる 顔が瞞れている

おもくれる【自ラ下一】顔がはれる。面ふくれるの転か。
[会話] 顔な (が) はれてきた。顔な (が) オモクレ
タやな
あ (です)。足は、はれて来た言ううけど (けれ
ど)、顔は オモクレル言うな
あ (言います)。顔な
(が) はれて来んのを (来るのを)、オモクレル言うや
んかい (言います)。顔な (が) おもくれて来て。

おもくろい (面黒)【形容詞】面白いをもじった語。面白
い。白と黒と反して言う戯言 (大言海) (員、鈴市、上、
阿、伊) [会話] 面白い言うのを オモクロイ。

おもくろし (重苦)【形容詞】押さえつけられるようで苦
しい。陰うつである。晴々しない。おもくろし参照

おもざし (面差)【名詞】顔つき 顔の様子

おもさま (思様)【名詞】【副詞】1) 思う存分。十分に。
したたかに。(志 (御座、浜島、布施田、甲賀、鶴方、
国府、安乗)、度、北) 2) 沢山 (志(御座) 名) [会
話] 1) 2) オモサマ言うう (のは)、よつけ (よけい、
余計) 沢山言う事やな
あ (事です)。オモサマもろて
(貰つて)、オモサマ持てけ (持って行け) とか、よお
け持てけ、どっさり持てけ言うのを
な
あ、ほし (欲し
い) 程持てけ言う事を、オモサマ持てけ言うね (言う
のです)。ほんま
あ (本当に) オモサマもろて 言うて、
オモサマもろて来たわい (貰つて来ました) 言うて。

おもし (重)【名詞】漬物石 押さえつけるもの おも
り 終止形を名詞に用いたもの (大言海) (志 (布施
田)、鈴市、津、伊、北、熊)

おもしよい【形容詞】面白い (員、三、四、鈴市、鈴郡、
伊)

おもしろい【形容詞】変だ 変わつて居る。面白い。(志
(立神、鶴方、国府、安乗)、鳥羽全城、鈴市、一、松、
多、上、阿、張、名、度、伊) [会話] おもしろい
言うのを
な オモシライ。おもしろかったな
あ 言う
のを オモシラカッタナア 言うう (の
です)。そん人
ん (に) よつて、おなし (同じ) 意味やけど
な (だが)、
言い方な、オモシラカッタ 言うのと おもしろかつ
た 言うのと
な (です)。おもしろかつた言うのは あ
や ちよいと (彼は少し) おもしろいど (ぞ) はちぶ
んのおを
な (馬鹿ののを)、そすと 変わつとる (てい
る) 言うんか (のか)、ちよいと おもしろい、頭な
(が) ちよいと へんやな
あ (少し変だ) 言うと
な
あ 頭 ちよいと おもしろいな あや (彼は) 言うて。
お菓子なんかも ちよいと腐りかけたりしとると (し

ていると) ちよいと おもしろいやんか (ではないか) こやまあ 味な悪りて (が悪くて) とか。

おもしろ。おもしろ (面白) 【名詞】 白い顔 [会話] オモジロやなあ 言うな、色の白い人を 言うけど (が)、あんまり使わへんけどな (あまり使わないが)、顔な (が) なあがい (長い) 人 おもながで 器量な (が) ええなあ (いい) とか 言うけど。

おもしろのひょおたんや 【俚諺】 家の新築時、基礎を固める時の囃し

おもしろはんぶ 【名詞】 冗談半分。本気でないのに好奇心から 面白半分 (志 (布施田))

おもた 思った (志、桑郡、三、鈴市、一、阿、度、伊、尾) [会話] オモタ。おもう、おもいました 言う事を、オモタ言うね (言うのです)。今日はまあ 誰々な (が) 来る オモタけど (が) こらったなあ (来なかった) とかな、そして 来ると 来るオモタてや (のだ) 言うて、今日は 土曜日、にっちよやよって (日曜だから) 早よ (早く) 来るオモタや (思ったら) かくのごとく 早よ 来たな 言うてなあ、早よ来るやろ オモタてや (思いました) 言うて。

おもたい (重) 【形容詞】 1) 重たい。目方がある。(志 (布施田)、鳥、員、三、鈴郡、一、多、上、阿、張、名、南、熊) 2) 働きがにぶい。[会話] ¹⁾ オモタイ もん (物) 持つと、おもとおて (重くて)、しりごな (痔が) 出た。

おもだつ (主立) 【自タ五】 集団の中で主要な人物で有る。中心になる。かしらだつ。

おもだつた 中心になる。中心人物である。重要な地位。支配的な地位にある。おも参照 [会話] 中心になるよおな人も、おもな人言うて、オモダツタ人に頼め言うて。

おもたてや 思いました。[会話] 今日は 誰誰な来る おもたけど、こらったなあ (思ったが来なかった) とか、そして来ると 来る オモタてや言うて。にっちよやよって (日曜だから) 早よ (早く) くるおもたや、かくのごとく (思ったらその通り) 早よ (早く) 来たなあ言うて。

おもたま 思ったまま、思い通りに

おもたや 思ったら [会話] 其所ん (に) おつた (居た) オモタヤ おらんよおんなつて (居なくなつていつて)

おもて (表) 【名詞】 1) 正面。玄関すぐの部屋。玄関。(南) 2) 舟のへさき。船首の部。(志 (布施田)、鳥 (鳥羽)、北、桑市、鈴市、度、伊、尾、熊) 3) 舟の

左櫓 (志 (浜島)) 4) 大平洋 5) 家の外、屋外、おもてで遊んで来い [会話] 裏、オモテの表も有るし (有ります)。¹⁾ 座敷の並びを、オモテ言う、うち (家) も有るし、オモテや (だ) 言うて、座敷よりちよいとちごとこ (少し違った所) に有って、座敷となるどんねけど (並んで居るが)、部屋な (が)、ちつそおて (小さくて)、オモテや言よおつたなあ (言っていました)。そこに庭な (が) 有って、おもてぐち言よおつた。そして 芋つぼ掘ったりして有って、オモテの芋つぼ言うて、言よおつたわい。⁵⁾ オモテ (外) 言うのも あるしなあ、此処のオモテい行てこい (外に行つてこい) 言うのもあるしなあ (有ります)。外のことを 鬼門の裏のオモテ (表) もあるしなあ (有ります)。そすと オモテ言うて 前の事をなあ オモテうら 言うてな オモテ 言うて表面に うらオモテうらオモテなあ、⁴⁾ 大平洋は オモテうみ 英虞湾はうらうみ。

おもて 思つて (志、三、鈴市、安、津、上、阿、度、伊、北) [会話] オモテ 言うのも おもた (思つた) のおも 一緒やわいな (です)。こげん (こんなに) 言う オモテ わしらも (私達も) やつて来た言うてな。

おもてぐち (表口) 【名詞】 正面の出入口。表に面した出入口。(上、阿) [会話] 座敷となるどんねけど (並んで居るが) オモテグチは、部屋なちつそおて (小さくて)、表や言よおつたなあ (言いました)。そこに庭な (が) 有ってオモテグチ。

おもてざしき (表座敷) 【名詞】 正面の出入口すぐにある畳を敷いた部屋。簡単な用件はそこで済ます。奥に座敷 (奥座敷) 有る。[会話] オモテザシキ言うななあ (のは、そとん (外に) 近いとこ (所) を言うんかい (言うのですか)、おもて言うて あよおつたな (有りました)。座敷の次に 座敷 八畳の間なあ (です)。座敷 床の間 付けてあるやんない (あるでしょう)、その次い おとおぐちい (玄関口に) 近いとこ (所) を おもてや (だ) 言うて 八畳の次ぎを おもて、おもてのいもつぽ 言うて そこの下ん (に) いもつぽな (が) 掘つてあつて おもての いもつぽい 入れとけ (ておけ) 言うてな。おもてちかい 言うな (のは) 外い (に) 近い方を言うんやろな (言うのでしょうか)。外を、おもて言うよつてなあ (言うのだから)。奥の方に あんのを (有るのを) 奥座敷言うて、次ぎな (を) おもて 言うてなあ、そやよつてん (だから) 外に近い部屋を オモテザシキ言うんやろな

そすと 奥の方に あんの (あるのを) 奥座敷 言う
よつてな。

おもてざた (表沙汰) 【名詞】 世間に公然と知れ渡る事。
公になる事。[会話] オモテザタん (に) せんとまあ
(せず)に なんしょんしとこや (内緒にしておきまし
ょう) 言うのを オモテザタん (に) せんと 言うて
言うやんかいなあ (言うのです)。オモテザタん (に)
せんと、内内に おさめとけ (ておけ) 言うてな。内
内におさめんのを (治めるのを)、オモテザタん (に)
せんと 秘密でしとこや (しておこう) 言うのをなあ
(です)。世間え知られたないことやわ (知られたくな
い事です) オモテザタ言う と 人らん (に) 知られと
んねけど (知られているのだが) オモテザタん なっ
たんてない (になったそうだ) 言う と、まあ あらわ
れになった 言う事で。

おもてし 【名詞】 船頭を助ける相棒 [会話] オモテシ
言うのは、片相手なあ (です)、せんと (船頭) となあ、
二人乗んねやんかい (乗って行くのです) 男な (が)。
そすとなあ (すると) 責任持って行く人は せんと
でなあ それい (それに) つられて (連なって) 行く
人は オモテシ言うてなあ。オモテシは 言う と 片
腕やんかい (です) せんとの。

おもてづな 【名詞】 船首にある綱 錨をつけたり 隣の船
と連らねたりするための綱 [会話] オモテヅナ言うて
おもて (船首部) で すんな (するのは) オモテヅナ
言うて。錨やつて (入れて) かんぬきい (へ) 巻きつ
ける そして 隣の舟と 離れてかんよん (行かな
いように) もやい (連ねる) 取つて。

おもてむき (表向) 【名詞】 1) 世間に対する事。うわべ。
表面上の事。2) 前向き 南向き [会話] 1) オモテ
ムキはええけど (よいが) 言うて、人の見たのおにや、
ええけど わが、うちまじや (自分の家の中では) こ
おや (だ) 言うて わり (悪い) 言うこと。オモテム
キや (は) ええけど 言うて。二重人格の人間の事を
なあ。人にや (には) どいらいよおて (大変よくて)
おつてなあ うちまでわりかったりなあ (家庭では悪
かったり) そいなのおを オモテムキ、ばっかよお
て (ばかりよくて) 言うて。2) オモテムキで 南向
いとる (ている) 太平洋の方を 向いとるのも オモ
テムキの家。東向きや (だ) とか、南向きやとかな
家の向き。

おもても 思つても [会話] 幾ら オモテモ 帰つて
きやせん (来ない) とか オモテモかなわん (かなわ
ぬ) 事やなあ (だ) とかなあ そげん (そんなに) わ

がとばか おもたてて (自分ばかり思つても) 向おな
(が) そげん (そんなに) とつてくれやええけど (取
つてくれればよいが) 言うたりな。

おもとた 思つて居た [会話] こげんして (こんなに
して) オモトたけど (が)、ほん (本当に) おもいちが
えやったんなあ (思い違ひでした) あやまあ (あれは)。

おもとる 思つて居る (安、北) [会話] オモトル言う と、
おもています言うの、オモトル言うのな (のです)。今
日は あれを しょお (しよう) オモトルとか、これ
をしょお オモトルとかな、思つています 言うの
(のです)。

おもとんど。おもとんねど 思っているのだ [会話]
いくか (幾日) かかつたんど (のです) こや (此は)
言うて、何日かかつたか 言う事をなあ (です)、いく
か掛かつた、オモトんど言うて、よけ (沢山) ひにち
(日数) が掛かると、こんだけすのん (これだけす
るのに)、いくか掛かつたオモトんど 言うて。こやな
あ (此は) しのくうて (しにくくて) しのくうてなあ
ほん (本当に) いくか掛かつたオモトんど 言うて

おもなが (面長) 【名詞】 長い顔

おもに (重荷) 【名詞】 1) 責任の有る仕事。能力以上の
仕事。2) 担うのに重い荷 [会話] 1) オモニ、オモ
ニになって、頼まれると、ものすごオモニになるな
あ言う。しにくい (むずかしい) 事を言うんやろなあ
(言うのでしょう)。息子らな (が) オモニん (に) な
んので (なるので)、言うんやんかい (言います)。婆ら
な (が) オモニん (に) なつてまあ。

おもにいこづけ (俚諺) 1) 負担の上に更に負担をかけ
る (志 (布施田)) 2) 重いので困るが小さいので加え
ても負担にならない

おもぶくれる (面膨) 1) 顔の膨れる事。顔に浮腫が生
じる事。2) 両頬がふくよかに張つて居る様。

おもぼ 【名詞】 主帆 [会話] オモボと、やほ (弼帆)
とあるやんかな (有ります)。やほは ちっちよおて
(小さくて) ちよいとした (少しの) 風の時 は やほ
だけで行くし、風な (が) よお (よく) 吹いてしとる
と オモボもまいて (掲げて) そらかせ (早く走れ)
言うて

おもみ (重) 【名詞】 目方。重量。又重い感じ。形容詞
オモイの語幹にミの付いたもの。[会話] きしろやも
んで (小鼠なので、登つても オモミな (が) 無いも
んで (ので)、パネな (が) 利かせんの (利かないで
す)。

おもむき (趣) 【名詞】 思う心。心の動き。

おもむき **したい** 思うだけ。寄付などを集める時。オモムキシダイでええわい (よろしい)

おももち (面持) **【名詞】** 顔の様子。顔つき。(志(布施田)) [会話] オモモチ言うな (のは) 顔のことな (です)、オモモチな (が) わりなあ (悪るい) 言うて、顔色な (が) わりいて (悪るくて) 気分な (が) わりよおな顔しとると (していると) オモモチなわり言うやんかい (言います)。ごおなわく (腹が立つ) 事があつた時でも かおつきがわり とかな、病気の時でも かおつきがわりとか言う時に オモモチやな (です)。

おもや (母家) **【名詞】** 本家。本宅。(志、鳥(答志)、桑市、員、四、鈴市、安、津、多、上、阿、張、名、伊、北、尾) [会話] ほんけ (本家) の事。はなれ (離) と、オモヤと言うの (のです)。離な (が) 有ると、はなれ言うし、はなれな (が) 無いうちや (家は)、オモヤだけ (のみ) 言うやんかい (言います)。オモヤと、はなれと、いんきよじよ (隠居所)。しんや (新屋) 言うのを、はなれを、しんや言ううち (家) も有るし (有ります)。あたらし (新しく) 家建てると、新屋言う家もあるし、はよからあんな (早くからあるのは)、はなれや言うて言うし (言います)。隠居言うな (言うのは)、弟らとか、婆さんとかな (が)、別れてく (別れて行く) のを隠居言うし。

おもや 思えば (三重県全域) [用例] 有るオモヤ、なんも無いね (少しも有りません)。

おもやがる 思い上がる [会話] かさ張つとる事なあ (威張っている事です)。オモヤガツトル事。かさな (が) たつかい (高い) 言うて。

おもやつれ (面婁) **【名詞】** 病気や疲れなどのため、顔がやせ衰える事。以前より顔がやせ衰えて見える事。[会話] オモヤツレな (が) しとんな (している) 言うな (のは)、顔色なわりいて (悪くて) ちょいと (少し) 痩せて 来たのを オモヤツレしとんな 言うて。なんか心配事な (が) あるかして (有るのか) あの人のオモヤツレな (が) してたなあ (してしまった) 言うて、体が悪りかして (悪いと見えて) オモヤツレがしとんな とかな。

おもゆ (重湯) **【名詞】** 水分を多くした粥の上澄み汁。飯の炊き汁。おもい参照 (伊、南) [会話] オモユ おもい 言うな (のは) オモユや (です)。おおたまあのどないとおて (喉が痛くて) オモユもとおらせんない (通らない) 言うて。

おもろい **【形容詞】** 面白い。(鈴市、一、上、阿、張、名、伊) [会話] 面白い、面白い言うけど (言うが)、面白

い言う事を、オモロイ言うねなあ (言うのです)。オモロイ言うのは 此処ら 昔 言わらつたのん (言わなかったのに)。今し (今の) あの映画やどけ (など) で聞いて、オモロいなあ言うて、言うけど (けれど)、昔や (は) そいな (そんな) 事 言わらつた。

おもろない 面白くない

おもわく (おもはく) (思惑) **【名詞】** 考え方。計画の立て方。考。(志(布施田)) [会話] オモワク言うな (のは)、“しよんべしよと言や (小便しようと言えは)、糞が出る。おらな (俺の) オモワクあ (は) 立つでなし” 言うて わがと (自分の) しょお思う事な (が) 出来ん (ぬ、ない) 事。オモワクなたたん言う事やろなあ (事でしよう)。考え方とか、計画とかそいな (そのような) 意味やろ (でしよう)。俺な (の) オモワク立つでなし言うんよって (言うのだから)。わがと思うよおにならん事やなあ (事です)。

おもわし (おもはし) **【形容詞】** 思う様に。おもわしく。思ふの未然形のおもはを活用した語 (大言海) [会話] 商売しとてても (していても)、オモワシ行かん (ないと) おちやなあ (だ)。

おもわしない 思う様に行かない 感心しない

おや (親) **【名詞】** 1) 親。2) 魚などの大きいもの (志、飯) [会話] ₁₎ オヤの事を親。芋のオヤとか、里芋な (の) オヤも言うし、親の事を。₂₎ 魚のおつきい (大きい) のも、オヤ。おつきいとさいご (その時)、こや (これは) オヤやなあ (だ) 言うて言うけど (けれど)、こやまあ、オヤかして (と思えて、だと見えて)、おつきいわれ (です) 言うて。

おや 俺は (志、(甲賀、安樂)

おや 時は [用例] あのオヤ やつかいんなつてのお

おやいび (親指) **【名詞】** 1) 親指。指 (ゆび) はいびと発音される。(志、鳥、員、鈴市、鈴郡、一、多、阿、張、伊、北、南、熊) 2) 主人。夫。(度) 3) ばくち打ち [会話] ₁₎ 指 言うのをオヤイビ。なかいび (中指)、人さしいび (示指)、みんな (皆) 指 言うのを、オヤイビ、こやいび (小指)、なかいび。₂₎ その時、親父とか親方とか言うてなあ、偉い人を、上の人をこげん (こんなにして、親指を立てる) して、おらげ (俺の) の親方な (が) 言うの。こげんしてするする人もあるしなあ (有ります)。₃₎ あの人は、オヤイビないごいて (働いて)、博打打つと、あや (彼) オヤイビいごくね (動くのだ) 言うて (言つて)。

おやおもい (おやおもひ) (親思) **【名詞】** 親を心配する事 親孝行

おやがかり【名詞】 生活の面倒を親にしてもらって居る事 又はその人 (上、阿)

おやかた(親方)【名詞】 1) 船員が船主を呼ぶ語。(度) 2) 漁の網主。3) 仕事の責任者 [会話] 3) オヤカタ言うのは、仕事い(に、へ) 行く人の、大将をオヤカタ言うけどなあ。“オヤカタ はりかた 味噌 こしや、かたくち ぎっちゃんちゃん” 言よおった (言って居ました)。

おやかたひのまる ひのまるは日本国の事、支拂いの確かなこと、心配の要らないこと

おやこ【名詞】 1) 親と子。もともになるものと、そこから派生したもの。2) 親類。親族。肉親。血筋(ちすじ)(志(国府、船越、越賀、片田、浜島、布施田)、鳥(桃取、坂手、神島)、度)[会話] 2) オヤコ言うな (のは)、親戚の事。あのうちや (家は)、わしらげ (家) と、オヤコや (だ)、おらげ (俺家) と、オヤコやれ (だ)。

おやことび【名詞】 縄跳びの一種。二人して同時に飛び飛び方。

おやこどんぶり(親子丼)【名詞】 1) 鶏肉と玉子の丼 2) 一人の男性がある女性とその母親の両方に情交を持つこと [会話] 1) うどんえ 卵も入れてな かしわ (鶏肉) も入れて それ、おやこどんやけどなあ (ですが)。2) あや オヤコドンブリやよって (だから) 言うて、親もくい (性交し)、子もくいしとんのも (性交しているのも) あって、母親とも関係してそして その家の娘とも関係しとんのな (しているのが) 有って あや (あれば) オヤコドンブリや (だ) 言よおったんなあ (言っていました)。自分の母親と息子と いっしょん (一緒に) なつとたりなあ (ていたり) 爺さんと娘と、父さんと娘といっしょん (一緒に) なつとたりすんのを (ていたりするのを)、そすと (すると) これん (に) 嫁さんや、婿さん貰おても (貰らっても) ま おられやせん (居れません) そいなのおは (そんなのは) そやもんでな (それで) じっきんもどってくんでや (すぐに戻って行くのです)。

おやこなり。おやこなれ(親子成)【名詞】 結婚の時に嫁又は婿が相手方の家族、親類と小宴を設け、顔合わせする事。結婚式の前に行われる事もあり、この宴の後には事実上の夫婦と認められた。(志(布施田、国府)) [会話] 結婚式して、みんな (皆) 親戚な (が) 顔合わせするやんない (でしょう)。それを オヤコナレ言うね (のです)。濃いもんな (血縁の濃い人が)、樽入れ (結納) して、結婚式する迄、ちょいと (少し)

顔合わせしよおや (しましょう) 言うのを、オヤコナレ言うて (言って)、今でも言うの (言います)。オヤコナレせななあ (しなければ) 言うて。親子の名乗する、親戚の名乗りをする言うのなあ (のです)。あいな事 (あんな事) 都会で言うと、顔合わせ言う事やけど (だが)。皆んな 新しい親戚ん (に) なんねもんで (なるので) 顔合わせして、結婚式までん (までに) 顔合わせしとこや (しておきましょう) 言う事を、オヤコナレ言うてや (言うのです)。オヤコナレ言うのは、嫁さんの主なとこと (所と)、こっちや (こちら) の主なとこと、結婚式する迄に初顔合わせ言うのを、オヤコナレ言うてな。

おやこぼし(親子星)【名詞】 星座。おりおん座。(志)

おやさと(親里)【名詞】 自分の両親の住む所 人妻 奉公人 学生などが言う

おやじ(おやぢ)(親父)【名詞】 1) 船の舵取り(志) 2) 主人 夫(志(浜島)、鳥(相差)、張、度、尾) 3) 父(志、鳥、桑郡、桑市、員、多、阿、張、名、度、尾、南、熊)

おやじむかい【名詞】 あぐら(志)[会話] オヤジムカイ。おいざかく 言うのな (のです)、あぐらかく (胡座で座る) のを おいざや (だ) 言うて、そして 今しゃ (今は) ひざわってくれ 言うのなあ (のです)、ちんとすわつとると (正座していると) 足な (が) 痛いやんない (でしょう) ひざわっておっきいなつてえ (大きくなって下さい) 言うて。

おやすみ(御休)【名詞】 夜の別れの挨拶(上、阿、張、尾)[会話] オヤスミ言うな (のは) はよ (早く) 寝よう言うことやわい (です)。何処やかやい (に) 行くと、よさり(夜) いて、くるよん (行つて帰るように) なると、やすめえ言うて やすめやあ言うといてな (言っておいて) くんの (来るのです)、かいりことばな (帰りの挨拶です) やすめやあ 言うて。今しの (今の) オヤスミ 言うことやけどなあ (ですが) それを やすめえ 言うて。

おやだのみ【名詞】 すね囃り(上、阿)[会話] 親の脛かじつとんね (囃っているのだ) オヤダノミ しとんね (して居るのだ)、言うて。遊んで仕事せんとおつて (せずに居て) どじもんくさで (怠け者で) 親の脛囃つて あげんしてまあ どろどろしとんね (しているのだ) 言うて、あやまあ (彼は) どろすばやれ (だ) 言うて どろすば 言うたら なまけもんのこと。

おやだま【名詞】 1) 親 2) 先祖の魂 [会話] 2) オヤダマさん言うのは、親の家の、みたまん (御霊様、先祖) の事を言うの (のです)。親もと (本、元、許) へ、オヤダママツリこもち (小さい餅、直径6~7cm) の姉 (少し大きい) 言うてなあ。昔や (は)、こもちな (が) このぐらいやんない (此の位直径6~7cmでしょう)。そすと、こもちの姉言うて このぐらい (直径10~15cm) になんの (なるのです)。オヤダママツリこもちの姉言うて、そして とよおったのなあ (訪う、訪れる 訪れた)。親の有るうち (間) は、どいらい (大きい) のなあ しゅうぎ (祝儀) 持ってくやんない (でしょう)。そやけど (それだが) 親な (が) 無いよおんなってくと (亡くなると)、行かんと (行かずに) オヤダママツリ 言うて、餅をひとかさねつつ (一重、大小二ヶづつ宛) しよおったけど (して居ましたが)、今しや品もん (今は品物) 何でもしやええけど (すればよいが)、昔や (しは) 餅を、オヤダママツリの餅とっけ言よおったわい (取って置け言っていました)。鏡餅え (ですか)、ひとくぼすんねやろ (一臼分にするのでしょうか)。ちっちゃい (小さい) の、上いすえて (に置いて)。

おやだままいり。おやだままつり【名詞】 死んだ実家の父母を正月に訪れて供養する事。おやだま参照 (志) [会話] オヤダママツリ言うて、親な (が) 亡いよお なつてくと (ようになって行くと)、餅をひとかさねえ つしよおった (づつしました)。

おやどり【名詞】 親代り (飯) [会話] オヤドリ 言うて 親代りなあ (です) 厄のこお (子) 菅笠あおのけ といて (仰向けておいて) その上へ こお (子) 乗せ といて 三つ辻のとこい (所に) 捨てといて 来ると、人な (が) いて (行つて) おおたまあ 言うて それ拾ろてくんのなあ (来るのです) それ オヤドリ。

おやなしご(親無子)【名詞】 私生児 (四、安) [会話] ててなしご 言うのなあ (のです) オヤナシゴを、結婚せんと (せずに) 子供うむと ててなしごもお けて (産んで) 言うて。

おやなたずねてくる 獲った魚が小さい時 (志 (布施田))

おやに (親似)【名詞】 子供が親に似ていること (熊) [会話] 親に 似とんねやれ (似ているのだ) 言うねんな (言うのです)、親に 似とる (ている) ことを オヤニやなあ (だ) 言うて。あや、おやん (彼は親に) にとんねなあ (似ているのだ) どおらくもんで (道楽者で) 言うて 親な (が) 道楽して 子も道楽

すると あやまあ、オヤニやなあ 言うて。

おやにこおてもおとる 親に生活の面倒を見てもらっている

おやにしょおや 親に非常によく似て居る (熊)

おやにみつけれたらしまいやれ 親にしている内密のこと 特に女性の情事 [会話] 親らな (が) くれまい (やらない) 言うとこい (所へ)、その男とひつつい とて (一緒になつて) それこそ オヤニミツケラレタラ シマイヤレ (大変なことだ) 言うて。くれまい 言うて ねじばつとんのん (頑固にして居るのに) 言うてな、その男のとこい (所へ) くれまい言うねけど (やらない言うのだが) 二人は 好きで いっしょん (一緒に) なつて (ていて) すんねけど (するのだが)、親 反対しとるもんで (しているのに) 隠れてしのんどんねけど (逢っているのだが) それまあ 見や れたら (見られたら) それこそそやれ (だ) 言うて。

おやにもたれる 親に依存している

おやのばあさん。おやのばあやん【名詞】 祖母。曾祖母 [会話] あんたとこ (貴方の所) で言うて あんたの (貴方の) おかあさんな (が) オヤノバアサンで、あんたは こじじ (小爺) で、奥さんは こばば (小婆)。おおばば こばば 言うてな まごばばは こばばや んかい (です)。おおばば 言うたら ひまごや (です)、ひいばあさんやんない (でしょう)。何んやら (何か) 腰曲げて 若いねやら (のだが) 年寄りやら (か) わからんよんしとると (判らないようにしていると) こじじみたよなあ (のようだ) こばばみたよ なあ 言うて。

おやのれえ(親の礼)【名詞】 1) 嫁の実家へ正月又は節句に訪ねて行く事 2) 仲人の家に正月の年始に訪ねること (熊) [会話] 1) オヤノレエは、しょんが つ (正月) も 行くしなあ、節句に行きよおったけど (行つて居ましたが) 今しや けえもなあ (今は少しもです)。3月と9月の節句と 5月の節句にや (には) 親のとこい (所へ) 重箱い (に) 米入れて 礼や (だ) 言うて、れえん (礼に) 来たわい (来ました) 言うて 必ず行きよおった (行つて居ました)。おやもといなあ (親元へ) 節句節句に。ついたち (元旦) は祝儀で 年始するので 礼や (だ) 言うて行くけどな (行きます) 正月のなぬかん (七日に) となると、また なぬかのなあがい (七日の菜粥) や 言うて 礼に行て、餅もひとかさね (一重ね) 入れて 重箱ん (の) 中いな (入れて) そして また 15日なると 15日のかいばしらや (だ) 言うて 重箱ん (に) 一杯 米

入れて、餅ひとかさね ちっちゃい、こもち (小さい小餅) 入れて 必ずれえん行きよおった (札に行って居きました)。そすと 親な (が) ないよな 行ってくと (無いようになって行くと) おやだまつり こもち のあね 言うて、おやだまつり言うて しょんがつん なんと お金は 祝儀はしやせんねけどなあ (しないが)、こもちのあねやもんで (なので) このぐらいのひとかさね (此の位ののを一重ね) して こや (これは) おやだまつりやどお (だぞ) 言うて とつとくの (取っておくのです)。1日はおやな (親が) ある内なあ 祝儀 持って 子供らも連れて行て 年始すんねけど (するのですが)、そすと 2日のひいん (日に) おやだまつりする。正月だけやなしに 節句も行きよおった (行って居ました) そやけど (しかし) 今は そお言うこたしやせん (事はしません)。

おやのわん (親茶碗) 【名詞】 大きな飯碗 (北) [会話] 目出度い時は どえらい (大きい) 碗を、オヤノワンや (だ) 言うて。オヤノワン言うな (のは) どいらあ (大きい) そや (それは) 飯 喰うの (食べるのです)。結婚式ん (に) なんと オヤノワン 姑婆さんな (が) 飯 もって くれて (よそって くれて)、親に給仕してもらうな (貰うのは) その時だけや (だ) 言うて。オヤノワンへ もって もろて (よそって もらって) 食べる時な (が) いっち (一番) 恥ずかしいわい (です)。ちょいと (少し) すやええんけど (すれば・よそえば いいが) きい利かんと (気が利かないと) よっけ (沢山) もっておこして、そえん (そんなに) すると 嫁さん 恥かしのん (に) よお食べんやんない (食べられないでしょう)。それん (に) いっ迄 くどらんならんやんない (食べて居なければいけけないでしょう)。気な (が) 利いとると (て居ると) ちょいと (少しづつ) くたる (食べてやる) よおん すんねけど (にするのだが) 気の利かん (利かない) 慣れんもん (慣れない者) は よっけ (沢山) もったて (よそってしまつて) 嫁さんな (が) 弱る (困る) 言うて。あれ (親の碗) 一杯 もられたら どげな、にげやてて (どんな人間でも) げんとするわい (飽きて当惑します)。

おやぶね 【名詞】 大きな帆船 (志) [会話] 大形な (が) 入れて来た 言うて、オヤブネ言うたり。オヤブネな (が) ほおまいて (帆上げて) 行くのな (です) あや (あれ) オヤブネな (が) 通られ (通って行く) 言うて。ほまえせん (帆かけ船) ほおまいて (帆上げて) とおりよおったの (通って居たのです) それ オヤブネや (だ) 言うて。ちんちんどりな (浜千鳥)

浜通る 沖え見えるは オヤブネや (だ) 金襴緞子のほおまいて いかしやれ いかしやれ ずうずうと 言うて、おつきい (大きい) 船ん (に) ほまえせん 言うて 機械な (が) ないもんで (無いので) みな ほおまいて この前を とおりよおつて (通って居て)。

おやぼおず 【名詞】 親の坊主 親子で寺の維持をしている時親の方を言う 東堂 [会話] オヤボオズ言うやんかい (言います) 親の坊主を。オヤボオズや 小坊主や 茶坊主や言うて。

おやま 【名詞】 遊女。女形。女方。江戸時代、元禄の頃、遊女の事を言ったがその後、女形の称に転化した。女郎。売春婦。(志摩市全域、鳥、鈴市、安、松、多、阿、張、名、伊、尾、熊) [会話] オヤマサン はしりがね。今して言うと じよろ (女郎) のことを オヤマサン。おいらんは またちがうねよつてん (違うのだから)、おいらんは 高級品やけど オヤマサンさん言うな (のは) 普通のなあ (です)。浜島のはしりがね 言うて オヤマサン言わせんね (言わないのです)。浜島をはしりがねな (が) よけ (沢山) 有つて 浜島は子な (が) 産まれると うぎやあ 言うて なかんと (泣かずに) はごお はごお言うて なくんてわい (泣くそうだ) 言うて 言よおったやんかい (言つて居たで有りませんか)。大きいなつて (大きくなつて) 男らを はぐので。

おやまかい (おやまかひ) 【名詞】 女郎買い (志 (浜島、布施田)、桑市、上、阿、張、名、尾) [会話] じよろ かい (女郎買い) の事 オヤマカイ。

おやまがお 【名詞】 表情の乏しい顔 凹凸の少ない顔 [会話] 顔も すべつとした (滑らかな) よおな顔し とんのなあ (しているのです)、のべつとした顔やなあ (だ) 言うて オヤマガオしとんの。

おやまかせ 【名詞】 1) すね囃り (上、阿) 2) 親の言いなり [会話] 2) オヤマカセ 言うな (のは) 結婚せえ (しなさい) 言うて来ると、親の 言う通りん (に) なつとんのを (なっているのを) オヤマカセ言うのな。わがとな (自分が) 思うとこい行きとおても (所へ行きたくても) よお言わんで (言えなくて) あそこい (あそこへ) 行きたいなあ おもとでも (思つていても) 親な (が) ここい (此処い) 行け言うと そこいいたて (行つてしまつて)、そげなのおを (そんなのを) オヤマカセ言うのなあ (のです)。親に 言われた通りにしとる (している) 親の言う通りん (に) なることを オヤマカセ 言うて、食わして貰うのは 言わせんけどなあ (言いません)。オヤマカセ言うな

(のは) 親にもたれとて (もたれていて) 言うな (のは) 言うけどな (言います)。親にもたれてまあ 親にこおてもとるとか 言うけどな。親にこおてもとると 言うのは 養^で (な^{って}) 貰^とる (貰^っている) 親こおとる 言うて わがとかせんで (自分が稼いで) 親を食^わしてしとんのなあ (食べさせてしているのです)。

おやまがに 【名詞】蟹の一種 [会話] オヤマガニ 言う ななあ (のは) 挟む 爪な (が) なあがいのなあ (長いのです)、色も違うんなあ (違います)。そして オヤマガニ 言うな (のは) 旨いね (のです) 網掛けい一緒に掛かって来るけど (が) あんまりな掛からせん (あまり掛かりません) たまに (時として) まぜって くんのなあ (来るのです)。

おやまさん 【名詞】女郎 おやまに同じ (多)

おやまする 【自サ変】富士山の頂上に登る 頂上に登って お鉢廻りする [会話] 富士山え登る時 オヤマスル言うて、お鉢回る時は 家でひまち (祈願) して どいらい (大変) 緊張しよおったねんなあ (して居たのです)。

おやまのかい 【名詞】細いもの。白く滑らかな細い物。うなぎ。

おやまのこ 【名詞】可愛らしい女の子 [会話] 婆な (が) 飴売とて (ていて)、飴売てくれ (下さい) 言うと、婆な (が) よお来た (よく来た)、オヤマノコ オヨ。だれ (どれ)、まけたろに (負けてやろう) 言うて。

おやまのふみ 【名詞】1) 長い手紙 2) 長い物 [会話] 1) 手紙、なあごお (長く) すると、なあごおて (長くて)、オヤマノフミみたよおななあ (のようだ)。

おやまや 【名詞】女郎屋。遊女屋。(鳥、上、阿、張、名) [会話] じょろや (女郎屋) の ことなあ (です) オヤマヤ。

おやめがかり 【名詞】親掛かり。子が独立しないで、親に養われて居る事、又その人。[会話] オヤメガカリのおや (時は)、親な (が)、しんしよ持とんねよつて (財産持って居るのだから)、親ん (に) なんでも買おてくれ (買ってください) とか言われる (言える)。

おやもと (親元) 【名詞】1) 嫁、婿の出た家。実家。両親の家。2) 村外と縁結びした時、嫁が実家の代りとして出る家(鳥) 3) 本家 [会話] 1) オヤモトでこおてもらおかい (買って貰いません)。桶屋の爺やんな (が) 全部してくれたの (してくれたのです)。

おやもり 【名詞】母親がいつも子守をしている事

おやゆびないごく 博打を打つ

おやよかい。おやよかな (女性語)。**おやよかれ** 居られない [用例] こいな所ん (こんな所に) オヤヨカレ。

おやわへちまのだんぶくろ 【俚語】親に対する侮りの言葉。役に立たない。[会話] オヤワ ヘチマノ ダンブクロ。そやまあ 冗談口で 言うことで、親は おら親やどよお (俺は親だぞ) 言うて、親な (が) おら (俺は) のらな (お前達) ちっちゃいときん (小さい時に) こげんして育てたねどお (こんなに育てたのだ) 言うて こおに 恩に着せるやんない (でしょう) そすと なんやててや (なんでだ) オヤワ ヘチマノ ダンブクロや (だ) 言うて 子な (が) そげん言うて (そんなに言つて) 親に 言う 言葉やなあ (です)。

おやんとこ 【名詞】親の所 実家(阿) [会話] 親のとこ (所) 言うの (のを)、オヤントコん (に) やつかいん (厄介に) なって、戻って来ておんね (居るのです) 言うて 親の所言うのを オヤントコ言うて。

およぎかく (おえぎかく) 泳ぐ。犬かきが泳ぎの始まり。手の格好からかく (志、鳥 (相差)) [会話] しおあがきすんのを (泳ぎするのを) オヨギカク言うて。泳ぎよお (よく) かいてきたれ (来ました)、えらいなあ (偉いね) 言うて。およぐこた (泳ぐことは) おえぎ言うの。ねこおえぎ (大掻き) か 言うたや (言ったら) なんも (いいえ) ほんのおえぎや (本当の泳ぎだ) 言うて。オエギカク (泳ぐ) 稽古せなはざんわれ (しなければ駄目だ) 言うて しおあびん (海水浴) 行くと ないざ (波打ち際) で おえぐ (泳ぐ) 稽古するやんかい (します) そすと よお (よく) かいてきたなあ おえぎを 言うて。

およぎやい (おえぎやい) 【名詞】泳いで早さを争う事。およぎあい。[会話] はっせんすんのなあ (競争するのです) オヨギヤイや (だ) 言うて、あの島い (へ) まで よおおえぐ (よく泳ぐ) か 言うたや (言ったら) よおおえぐ 言うたや (言ったら)、オエギヤイしよおや (しましよ) 言うて。いち (一) にい (二) さん (三) そして かば島い 行て わあ 一等賞言うて わしら (私達) よおしよおつたてや (よくして居ました) オヨギヤイしよおや 言うて。

およぎよおかかん 泳げない [会話] オヨギヨオカカン おぶれて (溺れて) ひよおたんうきしとたんてない (していたそう) 言うて。

およばん 1) 出来ない とどかない 2) 必要ない 来るにオヨバン およぶ参照

およばんことやなあ 及ばないことです。出来ません。

およぶ参照 およびもつかんこと 及ばないこと

およぶ (及) 【自バ五】 自分の力がとどく。(飯、度) [会話] おらな (私の) オヨバンコトヤナア (だ) 言うのな (のです)。よおせんこと (出来ない事) 言うのな。そげなこと (そんなこと) おらな オヨバンコトヤナア 言うやんかいな (言います)。よおしない (出来ない) 事を 出来ないこと 四国西国は オヨビワナケド、せめて 波切の地蔵さんえ 言うて 言よおった (言っていました) 四国の 西国えは よお行かんけど (行けないが) せめて 波切の 地蔵さんぐらい 行きたいなあ言う 言葉やなあ (です) 四国や西国えは なかなか オヨバンけど 波切の 地蔵さんぐらいなら 行きたいなあ 言うよおな 言葉やんかい (です) オヨバン 言うこた (ことは)。

およんだ 泳いだ (志) [会話] オヨンダ 泳いだ おえんだ 言うのなあ (です) 泳ぐことをなあ おえんだ よお (よく) おえんだ 言うてな。

およんだ 到達した。出来た。[会話] オヨンダ 言うのは そこもいてたろた (届いた) 言うのなし (です)、およばん 言うのは 出来ない事をなあ 出来にくい (難い) ことをなあ 言うね (のです)。

おら (俺) (代) 【名詞】 一人称。俺。おれ。己。男が仲間や目下の者とざっくばらんに話す時に使用する。(志 (波切、布施田、浜島)、鳥 (加茂、鳥羽)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、安、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊)

おらいか おらいかん 居ない 居ません (志) [会話] おららった言うて 言うけどな (けれど)。居なかったのおを おららった言うの (のです)。あの人なとこい (の所へ) たずねてたけど (訪ねて行ったが) おららったんよお (居ませんでした) あすこい行ても (行っても) ばあやんな、おろかれ (お婆さんが居ません) 言うたり おららった言うて、おららった言うのは 行たや (行ったが) おららった言うのと、いたてて (行っても) オライカ 言うのは 行てもおらせん (居ない) 留守や (だ) 言うこと。

おらえ 【名詞】 1) 支持する物。支持棒。2) 耐える。(志 (浜島)) [会話] ₂) オラエ 言うな、こらえる (耐える) 言うことな (です)。そんな (それが) おつてくるよつて (落ちてくるから) ちよいと (少し) オラエとれまあ (ていなさい) 言うて、何んかで つつばとけ (ておけ) 言うて、しゃしゃげる (さし上げる) よおに すんのを (するのを) オラエル 言うの

なあ (のです)。

おらえかねとる 耐えかねている (志 (布施田))

おらえとけ 支えておれ 辛抱しなさい

おらえる 【動詞】 我慢する。耐える。支える。持ちこたえる。おらえ参照 (志 (片田、浜島、布施田、甲賀、鵜方、立神、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、度、北、南)

おらかす 折る (桑郡) [会話] オラカス、折る へし おる言うことかい (ですか)。

おらぎゃ 自分の家は おらげ参照

おらげ (俺家) 【名詞】 自分の家 (志 (布施田)、鳥 (浦村)) [会話] オラゲや (は) そげなもん (そんなもの) 何んもないわれ (少しも有りません) 言う わがうち (自分の家) の ことなあ (を) オラゲ。おら言うこた (ことは) 自分のことをなあ (です) よその家は のらげ、わがと (自分) は オラゲ。

おらざった 居なかった

おらし 【名詞】 1) 漁に行く (志) 2) 進行方向から来る波

おらし。おらしみず 【名詞】 沸騰して居る物に入れる水。差し水。[会話] 麦 よましとけ (軟らかくしておけ) 言うて、よましたら、オランもさいとけ (差しておけ) 言うて。沸騰して来ると、水 一杓入れて、オラン言うて、オラン言うな (のは) 沸騰してから入れる差し水。オラシミズ。

おらしてくる 精白する (米、麦) [会話] 真っ白ん (に) なあ 米でもなあすんのを (するのを) オラシテクル。

おらしてくる 大きな波の波頭がくずれて来る

おらしてくれえ 1) 居させて下さい 2) 便所を使わせて下さい [会話] ₂) 何処でも 道のはたん (近くに) 便所な (が) おいとて (有って) ちよいと (少し) オラシテクレエ言うて はいりおったね (入って居たのです)。

おらしにいく 一本釣漁に行く

おらす 一本釣の方法

おらす 【他サ五】 1) 差し水をして、沸騰して居るのを 静かにさせる。2) 藁などを打って 柔らかくする (志 (布施田)) 3) 居させる 4) 精白する (米、麦) 5) 沈める (志 (鵜方、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] ₂) オラス 言うのは 樋でこなすのを えごつと こなさんとあんのは おれとらせん。

おらせん 居ない。居りません。せん、せぬ、しない。否定。せ、尊敬の助動詞、しやるの命令形がしやい、せえを経て、せになったもの。ん、打ち消しの助動詞。おら

ん参照。いらっしやいませんーおらっしやいませんーお
らせん(志、鈴市、伊)〔会話〕留守の事やなあ(事で
す)オラセン。

おらせんかい。おりやせんかい 居ませんか。かい、え
えかい参照〔会話〕オラセンカイ言うね。オラセン
カイ言うて 居ませんか言うのを。

おらせんやんかい 居ないではないですか〔会話〕此
処におらん(居ない)事。おららった(おらざった、
居なかった)言う事なあ(です)オラセンヤンカイ。

**おらせんね。おらせんわい。おらせんわな(女性語)。お
らせんわら。おらせんわれ** 居ません〔会話〕お婆
さん おらせんかい(居ませんか)言うて、オラセン
ワレ、オラセンワイ、オラセンワ 言うて。

おらだった 居なかった〔用例〕あの家 いたけど
(行ったが) だれんも(誰も)オラダッタ。

おらばな 俺を、私を〔会話〕好かん(嫌な)事をな
あ、嫌ろて(嫌って)まあ、オラバナ言うてなあ 除
けもん(者)にすると オラバナ きろて 言うて。

おらほお。おらなほお(俺方)【名詞】私の方。私達の所。
(志、鳥(国崎))〔会話〕オラホオ言うのは、自分の
ほお(方角、側)、のらなほお(お前の方向)言うね
(言うのです)相手の居るほおを。俺(オラ)ナホウ
い(へ)寄って来んな(来るな)。

おらよかれ 居る事が出来ない おれる参照

おららった 居なかった。おらせんやんかい。おらだっ
た参照

おられ 居ます〔会話〕おる(居る)言う事や(です)。
おるわれ(居ります、居ます)言うのを、オラレ言う
て。

おられやせん 1) 居る事が出来ない。居られない。
2) 便が出ない。

おられよかい。おられよかれ 居る事が出来ない おれ
ない

おられられ 1) 居ることができる。居ることが出来ま
す。仲間に入れられる。2) 便が出る〔会話〕1) わ
しらな、おられるかいなあ(私達が居れますか)言う
て、オラレラレ言うて、此処い(へ)来ても ええ
(よろしい)言うの オラレラレ 言うて 座わられ
る言う事を。

おられるか。おられるかい。おられるかいなあ 居るこ
とが出来ますか。仲間に入れてもらえますか。居ても
よろしいか〔会話〕ここん(に)オラレルカ オラ
レルカイ オラレルカイナア言うて おられられ(居
れます)言うて。

おらん 居ない。居るの否定語。ん：打消しの助動詞ぬ
の転換。(桑郡、三、四、松、阿、北、南)〔会話〕お
らせん(居ない)と一緒に事や(です)。何処やらい
(かえ) 行て(行つて)オランわれ言うて。

おらん 俺に(鳥)〔用例〕オラン 英語で 言うたて
て(言つても) わかよかれ(判らない)。

おらんかい。おらんかな(女性語)。おらんかれ 居なさ
い

おらんと 居ずに(三)〔会話〕こいなとこん(こんな
所に)オラント、あっちゃい(あちらへ)行け言うて。

おらんとき 留守の時〔用例〕おんな(俺の)オラン
トきん(に) 来たんなあ(来たのですね)。

おらんとこ 1) 居ないでおこう 2) 留守の時、所
〔会話〕1) ここに居らんと どこかい(何処かへ)行
こ言うことを ここん(此処に)オラントコ言うて
言うのなあ(のです)。

おらんとこ【名詞】私の家。私の所。(員)〔会話〕オラ
ントコ言うのは わたしんとこ(私の所)言う場合も
あるし。私の家、言うのを オラントコえ言うて 言
うやんない(言うでしょう)。

おり(逦)(鏝)【名詞】1) 液体の中に沈んで底に溜ま
った滓。オリ(降)の義(大言海)(南)2) 下肥〔会
話〕1) とごつとる(て居る)、とごつてた(沈んで行
った) もんを(物を)オリ言うの。

おり(折)【名詞】折り詰め用の箱〔会話〕入れ箱(物
を入れる箱)の事も、オリバコ言うて。呼ばれた(御
馳走、宴席に招待を受けた時)時に、すわってくるも
ん(据わり物)、みやげもん(物)に、オリ据った言う
てなあ。

おり(をり)(節)(折)【名詞】あの時、節 オリメ
(折)の義(大言海)(志(浜島)、桑市、安、一、多、
度、北、熊)〔会話〕あのオリ(あの時)、おや(俺
は) こげん言うたやんかい(こんなに言いました)。あ
の時に言うこと。

おりあい(をりやひ)(おりやい)(折合)【名詞】妥協
折合う事

おりあう(をりあふ)(おりやう)(折合)【自ワ五】相
談がまとまる。喧嘩がおさまって仲良くなる。妥協す
る。〔会話〕話もオリヤウ言うの。喧嘩の仲直り、オ
リアイつけた。オリヨタ(おりあいがついた)言うて。
商売の時でも、オリアイつけて、こんだけん(これだ
けに) しとくわ(しておく)言うて、気前よおて。

おりえ【名詞】区別 決着

おりえなつかん 相談がまとまらない。話し合いがつか

ない。

おりおり（をりをり）（折折）【名詞】【副詞】時々。機会が有る毎に。[会話] 時々 言うことを おりおり言うのなあ（のです）おりおり廻って来て 呉れよお言うてなあ。

おりおった 居た。居た事がある。[会話] おりオッタ言うな（のは）そこん（其処に）じょおくおった（いつも居た）言うことを、おりオッタ 言うて、おんな（俺が）ここん（に）じょおく おりオッタのん（の）に、こんだ（今度は）あんな（彼が）あしこい、むこて（あすこに座って）言うてなあ そこに居った 言う意味。

おりくさられ 居るを卑めていう語 おりくさる参照

おりくさらん 居ないの卑語

おりくさる（居腐）居るをののしって言う語。[会話] オリクサル 言うな（のは）そこん、おる（そこに居る）言うのを、ちょいと にくたらし（少し嫌な憎たらしい）人な（が）居るもんで（ので）ごおなわいとるもんで（腹が立っているの）、あしこんオリクサラレ（あすこに居る）言うて、腹の立つ時ん（に）言う言葉なあ（です）。おりくされとか しりくさらんわ（知らない）言うて、ごおなわいとるときゃ（腹が立っている時は）。

おりくされ 居れを卑めて言う語

おりくち（下口）（降口）【名詞】階段や境の降りぎわの所。

おりくち（織口）【名詞】織：布や畳など織り始めの部分 [会話] 畳でもへりの方、耳、蓆でもみみな（が）あんね（有ります）、耳をオリクチと。

おりごごち【名詞】居心地 [会話] あの家いたや（行ったら）すかんもんで（嫌なので）オリゴゴちな（が）わり（悪い）言うて。

おりこむ（織込）【他マ五】1）一つの物事の中に別の物事を組み込まれる。2）考えてある。3）高い波頭が落ちて来る状態。[会話] ① オリコム。新聞え 折り込みな 広告な 入って来た言うて、挟んでくることなあ。おりこみな 入って来たとか。これもまあ、そのなかい（中へ）オリコンドケ（でおけ）言うて よお言うやんかい（よく言います）いっしょんしとけ（一緒にしておけ）言うことを。② あんた（貴方）の考えを わし（私）の中に オリコンドク（でおく）そいな時も 使う時な（が）あんな（あります）。

おりさか（降坂）【名詞】下り坂 [会話] オリサカを、引っ張らな（なけれな）、とばくらかしてくだ（走り切

って行くぞ）。

おりせむかい【名詞】正座して両足の間に尻を入れる座り方。尻は床につく。[会話] オリセムカイ 言うな（のは）こして 足を とんびみたよん（鳶のように）広げて、じょほい（両方へ）そして どんと 尻 おちつけんの（落ちつけるのです）。

おりづめ 長い事、その場に居る。[会話] ここんばっか（此処にばかり）オリヅメン（に）して おらよかれ（居られない）言うて、あしこいも（あすこへも）行かなはざんしなあ（なければいけないので）言う様な時なあ（です）。おや、ここん（俺は此処に）オリヅメやどお（だ）言うて、人、待って 来るか来るか思もて（思って）そこん（其処に）待つて居るんやんか な（居るのです）、よさまでもまっとんの（夜迄も待っているのを）おやここん オリヅメやどお お前 待つて 言う場合も あんのなあ（あるのです）。長い事居ると オリヅメしとて（していて）言うて。はいきやええけど（早く行けばよいのに）あやまあ ひが ないちにち（彼は一日中）オリヅメン（に）しとんねない（しているのだ）言う場合もあるし（有ります）。あの人な（が）来ると オリヅメで 尻な（が）なあ ごおて、おぞげやなあ（長くて嫌だ）言うて、箒立て ほつかぶり（頬被り）して 団扇で あおげ 言うて、好きと嫌いと 一度に来たら 箒立てたり こ かしたり 言うて。

おりづらい【形容詞】居づらい 居るのに耐えられない [会話] 話しとても（していても）いやな人は せぎ出したる（仲間外れに）よん（様に）言うてな、その人ん（が）嫌がる様な事言うてすんのを（するのを）オリヅライ様な事言うたり、したりすんのを な せぎだした（押し出した）。

おりてた 流産した（南）

おりどこ（をりどこ）（居所）【名詞】居る場所。居所。（志（布施田））[会話] オリドコな（が）わりいて（悪くて）言うて、何んか はんにかかったとこい（中途半端な所に）座っても おおたまあ オリドコな わりいて しりないたいわれ（尻が痛い）言う時も 有るし、あしこい（あすこへ）行てしたけど（行ったが）オリドコな（が）わりかして（悪いとみえて）じつきんいたれ（すぐに帰った）言う時もあるしなあ（有ります）。自分の居る場所な（が）わりときいご（悪いとその時）しりないたかったてやら（尻が痛かったとか）あの家行たや、すかんもんで（行ったら嫌なので）おりごごちなわり（居心地が悪い）とか

言う時 そいな (そんな) 言葉使うんかい (使います)。おりごちなわり 言うのを その家、嫁ん (に) 行ても オリドコな (が) わりかったんやろど (悪かったのだろう) 言うて 舞戻って来ると、言う場合もあるな (有ります)。つらまして (つらくて) 其処に おりづらい のおを 言うんやろな (言うのでしょうか) オリドコな (が) わりかった (悪かった)。

おりば (をりば) (居場) 【名詞】 居る場所。[会話] わるわれて (叱られて) オリバな (が) のて (無くて)、怒られて オリバな (が) ないくらいや (だ)。何処い (へ) 行ても (行っても) お前 そこんおったらはざんやんか (そこに居たら駄目だ) こっちゃい (こちらへ) 来い、あっちゃい行きや (あちらへ行けば) あっちゃい 行け、こっちゃい行きや こっちゃい 行け 言うて、オリバな (が) のて (無くて) 言うのを オリバない 言うね (のです)。

おりば 【名詞】 毛糸を編む編針。[会話] 編針の事 オリボや (だ) 言うの (のです)。鯨の オリボや (とか)、かね (金属) の オリボや 言うて。

おりまがる (をりまがる) (折曲) 【自ラ五】 おれまがる。中途から折れる。[会話] 体も なんもせんとおと (何もせずに居ると)、体な (が) オリマガッてすん (するのが) しのくなくて (しぬくなくて) 来る。

おりめ (をりめ) (折目) 【名詞】 折れた所。区切。(張) [会話] オリメつけとけ (つけておけ) 言うて、仕事も オリメつけえ (つけなさい) 言うて。ここい (此へ) まで したら おけよお (終りなさい) 言うて、区切り つけんのを (つけるのを) 仕事の オリメもつけなな (つけなければ) 言うなあ 働くばっかで (ばかりで)。

おりめきりめ (をりめきりめ) (折目切目) 【名詞】 区切 (志、(布施田) [会話] あの家の 仕事い (へ) 行くと オリメキリメな (が) のて (無くて) いつ迄、だらだらしとて (していて) 言うて、朝やら 昼やら わからんよん (判らないように) して 仕事する家な あ (です)。オリメキリメな のて 言うて。物 折って出来た その後も オリメ。

おりもん (織物) 【名詞】 木綿 絹 麻等すべて糸を織った物 布

おりもん (下物) 【名詞】 婦人性器から流下する血液、精液、組織片などの総称。帯下。(志 (布施田)) [会話] しらち (白血) ながち言うねよって (長血言うのだから)、あつかいのおを (赤いのを)、ながち言うんやろな (言うのでしょうか)。そして 違うオリモンを、

しらち 言うんやろな。

おりや 【名詞】 下肥。濃厚な下肥。(志 (布施田)) [会話] こえびしやく (肥料) 言うて、畑で オリヤをかける (汲み出す) 言うの (のです)。便所の事、小便やなしに (でなくて) 大便の事 な (です) オリヤ 言うな (のは)。

おりや 居れば

おりやい (折合) 【名詞】 互いに譲り合って おだやかに物事を進めようと言う関係。おりあい参照。[会話] オリヤいなわりいて (が悪くて) 言うて、意見が合わない言う事を、オリヤいなわり 言うて。話し合いが あわせんの (合わないのを) オリヤいな (が) わりいて 言うて、嫁と姑と オリヤいな (が) わり、オリヤいなわり 言う時は 仲が悪い 言う事。いくら 話合うても うまいこときまらん (上手にきまらない) 時を オリヤいな わりいて 言うな (のです)。

おりやいなわり 仲が悪い おりやい参照

おりやう 話がまとまる 互に納得して相談が成立する 決着する きまる

おりやせんかい 居ませんか

おりよ 1) 降りろ 命令 降りよう 自発的に (三重県全域) 2) 仲間から抜ける 自発的に、仲間から抜けさない、命令 [会話] 2) その仲間から抜ける 言うことを、オリヨ 言うのは 自分から降りると、1) オリヨ 言うて、言われて おりんのと (降りるのと)。おや、おりられ (俺は降りる) 言う わがとなほおから (自分の方から) おりんのなし (降りるのですし) オリヨ 言われて おりんのわ (降りるのは) 降ろされた。

おりよ 居る格好 [会話] オリヨ そこに居る格好 言うん (の) か、オリヨ が 悪い 正座 しとんのなら (しているのなら) ええけど (よいが)、足が わりもん で (悪いので) 足のばしたり よこむかい (横座り) したりして あ の オリヨな (が) わりな (悪い) 言うて。

おりよい 1) 居やすい。居心地がよい 2) 降りやすい

おりよた 1) 相談がまとまった 2) 喧嘩など仲直りした

おりられ 1) 降ります。 2) 仲間のすることを自分から外れる [会話] 2) おや (俺は) オリラレ 言う わがほおから (自分の方から) 降り んのなし (るのですし)、降りよ 言われて 降り ん (る) のは 降ろされた。

おりる【他ラ上―】 1) 学校などを卒業する。(志、多)
2) 仲間からはづれる。(上、阿) 3) 下船する 4)
海女が海に入るを言う [会話] 1) がっこ (学校) オ
リル、卒業する言うのを がっこ オリル。がっこ
六年で おりてまあ 仕事いかった (に就いた) 言
うて。オリル 言うのは 学校卒業 するだけやなし
に (でなくて)、2) 仕事が終わった 言うのもあるし
仕事がむつかして (難しくて) 自分がよおせん (出来
ない) 時も それからオリルわ (降ります) 言うて、
よおついてかんよって (ついていけないから) オリル
わ 言う場合もあるしなあ。仲間からはづれる 言う。
それこそ、ひごぬく。わしゃ (私は) ひごぬくわい
言うて まあ よおついてかんよってん ひごぬくわ
い 言うのも オリルことやんかい (です)。

おる (下)【自ラ五】 用便する。大便が出る。便なオル。

おる (をる) (居)【自ラ五】 人、動物が存在する。そこ
に有る、又そこにとどまって居る。(志、桑市、員、三、
四、鈴市、鈴郡、亀、安、津、一、飯、多、阿) [会
話] 居る言う事。オル、とごつてくと (沈んで行く)、
その意味は違うけど (違うが)、此処にオル言う事や
(です)。とごる (沈殿する) おりとは 又違うの (の
です)。

おるか 居りますか。他家を訪ねる時、一番始めにする
挨拶の言葉。(志 (志島、国府)、安 (美里村))

おるかい 居ますか (志、北)

おるかえ。おるかな 居ますか (安 (美里村))

おるこ 居ますか [会話] 一緒の意味やけど (です、け
れど)、言い方な (言い回しが) 違うだけで。オルコて
や (と云えば)、あてらあ言うて、わいらよお (あなた
達) オルコ言うて。あてらあは、はい言う事。

おるで。おるでえ 居ます (北) [会話] オルデエ 言
うな (のは) いつまでも ここん (此処に) オルデエ
言うて、おる (居る) ことを ここん 居る 言う。
いつまで 此処に おります (居ます) 言うことを
ここん (に) いつでも オルデエ 言うて いつも
此処んおる (居る) 言うことを お前な (が) 来てく
れや (くれれば) いつでもオルデエ 言うて。

おるわい おるわな (女性語) 居ます [会話] 此処ん
(に) おんない (居ます) 言うて、此処に居る言うこ
と オルワイ言うのを おんない 言うて。

おるわら。おるわれ 居ます。おられ参照 [会話] 居
ります言うのを、オルワレ。オルワラ。

おれ (代)【名詞】 自分、俺、私 多くは下輩に対して用
いる (三重県全域、志 (布施田、浜島、磯部)、鳥 (加

茂、神島)) [会話] 私 言う事をオレ、オレななれ
(が) 言うて おんな、なれ 言うて 自分をさす時
オレ 言うときもあるし、人ん (に) 話す時 おん
ななれ 言うのなあ (です) おんななれ どこそい行
くよってんなれ (行くから) 言うて、なれ 言うな
(のは) 付けことばなあ (です)。

おれ (をれ) (折)【名詞】 折れたもの。きれはし。部分
[会話] オレ言うので 折れた、そこの オレ 持て
こい (持ってこい) 言うて。へしよった かたわれを
そこの オレ 持てこいまあ 言う時もあるし、おつ
たた、かたわれ (折ってやった片一方) を。

おれ 居なさい (桑市) [会話] いかんと (行かずに)
オレマア 言うて、いかんと そこん (行かずにそこ
に) いつまでオレマア そげん せいて (そんなに急
いで) 行かんでも ええわれ (よろしい) 言うて。よ
さ (夜) まで オレマア 言うて、オレマアの まあ
も 付けことば、いらん (要らぬ) 言葉やけど (です
が)、オレ 言や ええことやけど (よいことだが) オ
レマア 言うて。

おれあい (をれわい) (折合)【名詞】 譲り合う事。おり
あい参照。[会話] 仲なおりする事やなあ (です)。は
なしよて、こげんして (話し合ってこんなにして) す
ると ええんけど (よいのだが) 言うて すんのな
(するのが) おれた言うて。さんせえすんのを (賛成
するのを)。あんな (彼が) おれたもんで (折れたの
で) オレアイな (が) ついた 言うて。一人な (が)
こげん (こんなに) しょお言うたや (言ったら) おら
ま (俺は) そやどもならん (それは嫌だ) 言うと、ま
あ はざんねけどなあ (いけないのだが) はい 言う
て すると、こっちゃな (こちらが) おれたもんで
納得しよた (し合った) 言う事かな。

おれあう (をれあふ) (折合)【自ワ五】 譲り合う。妥
協する。おりあう参照 [会話] オレアウ 言うの (の
は)、納得しよたんでわれ (しあったそうだと) 言うのも
あるし、まあ 仲直りしたんでわれ (したそうだと) 言
うのも 一緒の意味やけどな (です)。おれよたんでわ
れ 言うて、言うのもな いろんな事を 相談して決ま
った言う事も オレアウ 言うて。

おれが【名詞】 俺の物。私の所有物。[会話] こやオレ
ガやんかあ (だ)。オレガやのん (だのに)、のな (お
前が) 持つとたんか (ていたのか)。

おれがん 自分の物 俺の物

おれくち (をれくち) (折口)【名詞】 折れた所

おれげ (俺家) 【名詞】 私の家 (志 (志島、船越、越賀、御座、浜島、神明、鶴方、立神)、鳥 (国崎)、度) [会話] わたしげ (私家)。わたしこ (私所) 言うのも、オレゲ、オレゲ のげ (お前の家)。

おれげんね、おれげんの 俺の家の物だ

おれこむ (をれこむ) (折込) 【自マ五】 1) 内側に折れ曲がる。2) 高い波頭が内側に曲がるようにして落下する。

おれそれと 【副詞】 簡単に。おいそれと参照

おれた 仲なおりした 強い主張をやめ 相手に従う 譲歩する ゆずった

おれたんてわい。おれたんてわな (女性語)。おれたんてわれ 仲なおりしたそおだ、互いに意見が一致した。
おれた参照 [会話] おれた。喧嘩しとて (していて) 降参するやんない (でしょう)、片方な (が)。すと (すると) オレタンテワレ 言うて、仲直りした事を あんな (彼が) おれて 言うて 頑固なこと言う とんのん (言って居るのに) まあ 俺も そしたら そげんするわ (そんなにします) 言うとおれた言うんなあ (言うのです) 頑固なおな (のが) おれたもんで (ので) 言うね (言うのです)。

おれてまがって。おれてまがってへのじや 【俚語】 ぼろ儲け (志 (布施田)、上、阿、南、熊) [会話] オレテマガッテ ヘノジヤ (だ) 言うて、儲ると言うやんかい (言います)。あの家 商売な (が) おおて (合つて) オレテマガッテ ヘノジやれ (だ) 言うて、儲る事を。おれる 言うのは 倍になる 言うんなし (言うのですし) ヘノジん (に) なる 言うな (のは) それ以上まだ 儲かった 言う事なあ (です)。オレテマガッテ ヘノジやてわれ (だそうだ) オレテマガッテ ヘノジになる 倍、倍以上儲ける。こそがい (内緒買い) して オレテマガッテ ヘノジなる程 儲けよつたね (て居ました)。折れる言うのは 倍儲ける 言うのを おれる。そして、それよりまだよけ (沢山) 儲けると オレテマガッテ ヘノジになる迄 儲けた言うの (のです)。

おれてまがる 1) 強情を張る。言う事を聞かない。
2) 利益が大きい (上、阿、南、熊) [会話] 1) 強情 ばとんのもなあ (張っているのも) あやまあ (彼は) まがりやよってん (曲りだから) 言うて、臍曲り やよってん 言うて、あやなあ まあ へそやど (臍だ) 言うて あんな (彼が) オレテマガッたらだな (誰が) なつ と言うたて (何と言っても)、きこかれ (聞かない)。臍曲り言わんと (言わずに) あや (彼

は) へそやど 言うて。あんななあ (彼が) まあな曲がったら のびよかれ (伸びない) 言うてな むつかし (頑固な) 人を。

おれとこ 【名詞】 自分のところ 私の家 (志 (畔名)、張)

おれとこのうち 【名詞】 私の家 (志 (畔名)、鳥) [会話] 一緒やんかい (です) おれげ言うのと オレトコノウチ言うのも。

おれとらせん こなれていない 完全になっていない [会話] えつごと (充分) こなれんと、あんのを (完成せずに有るのを) オレトラセン。

おれなまずい こなれが不十分で有る。十分に仕上がって居ない。[会話] 麦でも こなれなまずいと、くろおてなあ (黒くて) 麦飯も こやな (これは) オレナマズイのおで (ので) 飯な (が) くろいわれ (黒いです) 言うて。

おれの 自分の 自分の物

おれの 居なさい [会話] そこん おれ言うて、そこん (そこに) 居れ 言うことを、オレノ言うの (のです) 行かんとなあ (行かずに) そこん (そこに) オレノ言うて。

おればな 俺を。私を。俺をば。[会話] しと (人)、あなずる (あなどる) と最後 (その時)、オレバナなめとて (て居て)。

おれめ (をれめ) 折目 【名詞】 1) 物が折れたさかい目。
2) くぎり

おれめきれめ 【名詞】 くぎり 折目切目 [会話] オレメキリメをつけえまあ (つけなさい)、いつもかも、うんなしよおな (何時も同じような) 事ばつか (ばかり) 言うたり、したりして 言うて。

おれや 1) 私です 2) 居なさい

おれよ こなれぐあい

おれよお 居なさい

おれよた おれあう参照 1) 互に譲り合つて話がまとまった 2) 仲直りした

おれよなまずい こなれ方が不十分である。[会話] 木ではオレヨナマズイもんで (ので、鉄の棒をにほ (二本) したのおを (のを)、きい (木) の代わりにつけて。

おれる 【自ラ下一】 こなれる (志、桑市、津、松、阿) [会話] 藁うつとると (打って居ると) こなれて (柔らかくなって) 来ると、わらな (藁が) オレテキタ 言うて。米も 家で つきおったやんかな (搗いていました)、麦も、米も。そすとオレテキタレ (来ました) とか、オレタとか 言うて、ぬかだつてきたよ

って(糠が多く出て来たから) そや (それ) 言うて、
まだ オレヤセンワレ (ていない) もお 二、三百つ
いたれ (搗いてやれ) 言うて、米ついとて (搗いてい
て) オレンで、おおた (あああ) まあ、たんのしてき
て (飽きて来て) まだやかなあ (だろうか) 思て (思
って)。米がオレタ 言うたら、仕上がった言うこと。
まだオレヤセン言うとなあ まだ かあな (皮が) つ
いとて (付いていて) まだ もっと もお 五、六百
ついたれ言うて。これは こなれる 米な (が) うわ
かわ (上皮) を むいたんねやんかい (剥いてやるの
です)。玄米は かあなついとる (皮がついている) そ
の玄米を 搗いてすると そのかあなむけてくの (皮
が剥けていくのです)、そんな (それが) ぎっちり (完
全に) 剥けると 白米や言うねけど (と言うのだが)、
まだ かあな ちよいちよいついとる (少しづつ付
いていると) もおちよいと (少し) オレルまえやれ
(前だ) 言うて、白米んならせん (なりません)。そ
の かあなじっばん (皮が立派に) 取れてくと (てい
くと) 白米。藁がオレル言う時は やらこお (柔らか
く) なる。オレヤセンと (ないと) こや、さいわらや
れ (だ) 言うて、こやまあ (これは) さいわらで、つ
かしのくいわれ (使いにくいです) 言うて、はんぶん
おれんなつとんのを (半分柔かくなっているのを)
さいわらや (だ) 言うね (言うのです) ちよいとな
(少しです) はんごろしん (半殺しに) したのを さ
いわらや (だ) 言うて、そして じっばん (立派に)
オラスと、まあこや、よお オレテ 使い良いなあ
(使いやすい) 言うて、みのわらみたよん (のよう
に) おらしてもろたれ (柔らかくしてもらった) 言う
と、男の人らな (が) 打つと 力入れて じっばん
オラスんでや (のです)。養作る 藁は えつごと (充
分に) オラサナはざんので (なければいけないので)
みのわらみたよんうってもろた (のように打って貰っ
た) 言うて、オラス言うのは つち (槌) で こなす
のを えつごと (完全に) こなさんとあんのを (柔ら
かくなっていないのを) オレトラセン。

おれる 居る事が出来る [会話] オレルで 此処にオ
レル ここんオレルか おやええけど (居ればよい
が) おられるか 言うて いつまでそげん言うたてて
(そんなに言っても) ここも 電気けえさんならんよ
ん (消さなければならぬように) なると まなあ
おらよかれ (居られない) 言うて、人がよけおって
(沢山居て) 狭い時でも そこにおられるか 言うて、
入られるかとか 人間な (が) おおぜで (大勢で) 入

られるかあ (ますか) オレルか 言うてなあ おると
こな、あるかい (居る所が有りますか) とか。

おれる (をれる) 【自ラ下ー】 相談がまとまる 折れ合い
がつく (津) [会話] オレル 言うのは 相談がまと
まる 言う事やし。

おれん 俺に

おれん 居る事が出来ない (北)

おれん こなれない

おれんとこ 【名詞】 俺の所 私の家 (鈴市、阿、名、
伊) [会話] わしげ言うこと わたしげ言うこと オ
レントコ言うて。

おれんとこのうち 【名詞】 私の家 (鳥 (坂手))

おろおろ 【副詞】 恐ろしがる。泣きごとを言う。うろ
ろ (志、(布施田) 多) [会話] おじおじしとる (して
居る)。おどろ事を、オロオロしとる言うやんかい (言
います)。おどおどかい (ですか)、おどおどしとる言
うて、オロオロとも言うしな。おどおどしとる (して
居る) とか、オロオロしとる とか。

おろか (愚) 【名詞】 1) 馬鹿 2) 容易、やないにつ
て否定に用いる (志 (布施田))

おろか。おろかい。おろかな (女性語)。おろかれ 居
ません [会話] あすこいいても 婆やんな (が) オロカ
レ 言うたり。おららった (居なかった) 言うて、お
ららった言うのは 行たや (行ったが) おららった言
うのと 行たてて (行っても) オロカレ言うのは 行
てもおらせん (居ない) 留守や (だ) 言うこと。

おろける 驚く (志 (船越)) [会話] オロケタない (驚
きました) オロケル言うの 驚く事を。

おろし (卸) 【名詞】 大根おろし。すりくずす事、又その
物。おろす事。大根、わさび等をすりくずす事、又そ
のものの。

おろし (風) 【名詞】 山から吹いて来る風、特に西風。吹
き下ろしの義。下風の合字 (大言海) (度、尾) [会話]
山オロシ言うのも有るし (有ります)。西の風な (が)
吹いて来ると、山オロシな (が) して来た。野分けヤ
マオロシ言う事言うやんかい (言って居ります)。

おろしかき。おろしがね (御金) 【名詞】 おろしを作る用
具 [会話] おろし摺る金 (かね) の事 オロシカキ、
オロシガネとも言うし (言います)。

おろしご (下子) 【名詞】 墮胎児。人工的に殺されて妊婦
の体外に出された子供。[会話] 流産すんのなあ (す
るのです) オロシゴや (だ)。こお (子) おろす言うて
あや (彼女は) オロシゴしたんてわい (したそおだ)
言うて、こお (子) おろすとなあ あの人まあ 子、

おろしてどいらいめえん おおたんでない (あったそう
うだ) 言う。おおた あのにげなあ (人間が) こおも
おけて (子産んで) どいらいめえん (大変な目に) お
おおたんでわい (合ったそうだ) 言うもんで (ので、そ
のこおな (子が) 親を どいらいめえんしたね (大変
な目にしたのだ) 思て、難産した 言う事をなあ ど
いらいめえんおおた 言うと その子にどづかれたね
やれ (叩かれたのだ) 言うたね (言ったのです) どい
らいめえんおおた 言う 言いよで (様で) いろいろ
と。

おろしたて 新品、おろしたばかりの物

おろす (下) (降) (卸) 【他サ五】 1) 高い所から低い所
に移す。2) 乗り物に乗って居る人や物を外に出す。
3) 背負って居た子供や物を背からはずす。4) 神仏
に供えたものをさげる。5) 貯金などを引き出す。
6) 高い地位から退かせる。7) 新品の物を初めて使
う。8) 魚の身を背骨に沿って縦に切り取る。9) お
ろし金で摺りくずす。10) 負担になって居たものがな
くなる。11) 鍵をかける。12) 墮胎する (間引く) 墮
す。拳骨する。13) 風が山の方から吹く。14) 驚かせ
る、おどす (津、阿) [会話] 9) オロス言うのは、だ
いこ摺んのを (大根摺んのを) オロス言うて、だいこ
おろし、おろしかき言うて (言って)、名前な (が) 有
るもん (有ります)。3) 子供おんどても (背負って居
ても) オロス、荷物おいねども (背負うて居ても)、
おろせまあ (おろしなさい) 言うて。2) 車から荷物オ
ロスのも、オロス。12) 子供オロスのも、拳骨で腹を
こおすんねやろなあ (力強く何ヶ所も押すのでしょう)、
してもおおたこた (貰った事は) ないけど (無いけれど)、
医者い (へ) 行かせんもんで (行かないので、拳骨で
腹ん (の) なかの子を潰すんやかなあ (潰すのでしょ
うか)。潰すんやろなあ (潰すのでしょう)。墮して貰
う人は拳骨して貰ろて言うわい (言います)。墮しん行
くと、素人の人な (が)、しよおったわい (して居まし
た) 医者屋やなしん (で無くて)、わがとらな (自分達
が)。やまいすや (病すれば)、医者する言うよおなも
んで (もので、わがとして貰おた (貰った) 事をしよ
おった (して居ました)。そやもんで (それで) 命取ら
れるにげな (人間が) おいかったんやんかい (多かつ
たです)。子がおつきいなつとると (大きくなって居る
と)、墮りのくいんやんかい (墮りぬくいのです)。そ
やよって (それだから)、潰す為に 突いたんや、ない
んかいなあ (突いたのでないでしょうか)。自分と
(が) して貰ろたやんな (でしよう)。わが子ん (に)

して貰ろたや (たら) 墮りたよってん (から)、此の人
もそげんすや (そんなにすれば) ええとめて (と思っ
て)、すんねやろなあ (するのでしょう)。

おろち (をろち) (大蛇) 【名詞】 大酒家 [用例] あや
(彼は) オロチで 幾ら飲ましても 限りがない。

おわえあるく 後について歩く。[会話] 追わせる、つ
け歩く、尻つき、尻つくの オワエアルク言うわい
(言います)。

おわえかける 追いかける

おわえつく 追いつく。[会話] 走ってとんの (居るの
を)、にげん (人に) 追いついたのを、追わえた言うけ
ど (けれど)。追わえんの (追いつくのに) 一生懸命や
ったよお (だった) 言うて、追いつく事を オワエツ
ク。

おわえてくわい 後を追って行きます。[会話] まつと
れまあえ (待つて居なさい) オワエテクワイ (追っ
て行きます) 言うて 後い ついて はしんの (走るの
です)。

おわえやあるく 追いかける、まわりついて行く、後
を追って行く。[会話] アコデオンを弾いて おっち
よこねの薬を買い 給え 言うて、歩いとて (ていて)、
めずらし (珍しい) ので 付いて 村中 オワエヤア
ルイとよおったね (て居ました)。

おわえやい 【名詞】 鬼ごっこ (員、南、熊) [会話] オ
ワエヤイ 言うな (のは) 先い (に) はしとる (走
っている) 人ん (の) とこん (所に) 追わえてくのも
(て行くのも) オワエヤイ。

おわえる (追) 【他ハ下一】 1) 追いかける。(志 (浜
島、立神、鶴方、甲賀、国府、安乗)、鳥 (神島、加
茂)、桑郡、桑市、員、三、鈴市、安、津、一、松、多
上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) 2) 後を
慕って付いて行く。[会話] 1) 追わえてくの (て行く
のを)、人間を追いかけるのを (かけるのを)、オワエ
ル。追わえてこんうちん (来ない間に)、はよにげな
(早く逃げなくては)。

おわがり 1) おあがり。食べてください。飲む、食う
の尊敬語。2) 上にあがって下さい。[会話] 1) 御飯
を食べなさい言う時にも、オワガリ。2) 上へ上がん
の (あがるのも)、オワガリ。上へあがれ部屋の中へ入
れとか言う時ん (に)。

おわしおわし 【感動詞】 煽る時の言葉 [会話] オワシ
オワシ 言うて 犬を煽てて あの人、吠えたれ (て
やれ) 言うて、よお言よおったやん (言っ居たでし
ょう)。オワシオワシ 言うて 人間でも オワシて

あやあれ言うて 煽てると 人間でも喧嘩しとると
(していると) やったれ (てやれ) やったれ言うやん
ない (でしょう) それを オワシ。煽てると オワシ
言うて。

おわだった 追わなかった

おわってくる 被さってくる (志 (布施田)) [会話] 木
な (が) オワツケル 桜な (が) オワツケテ う
つとし (うっとおしい) 言うて かぶさってくる。そ
して 風邪ひいたり めぶたな (目瞼が) はれて来る
と めえな (目が) オワツテ 今日はどいらいわり
(大変悪い) 言うんなあ (言うのです) まぶたな は
れて、顔な おもくれた (はれた) ひいな (日が) あ
ると おた 今日は、顔なオワツテ わりわあ (悪
い) 言うて、目なオワツテ あきのくい (あきぬく
い) 時な あると、おおた 目なオワツテ 今日は
どいらいわりんよお (大変悪いです) 言うてなあ。

おわっとる 1) 被さっている 2) 繁っている (志
(甲賀))

おわっとる 終って居る

おわらった 追わなかった

おわりがみ 【名詞】 乱れ髪、髪が乱れて顔を覆う事 [会
話] 髪な (が) 乱れて 顔の方い (へ) さがってくん
のを (来るのを)、オワリガミ。

おわりね (をはりね) (終値) 【名詞】 最後の値段。その
日最後の値段。安くしたり、又高く買ったりする。[会
話] オワリネ 言うのは 最後の 値段のことをなあ
オワリネ。

おわる (おはる) (被) (生) 【自ラ五】 おおいかわさる。
密生している。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、
国府、安乗)) [会話] ししばのさいな (木が)、両方
からオワツトルとこん (所に)、はいってくんでわい
(入って行くそうです)。

おわれる (迫) 【自ラ下一】 歩らない 手に余る (熊)
[会話] 仕事にオワレテ 仕事な (が) よけ (沢山)
たまって来ると 仕事にオワレル 言うて 手に余る
時 仕事においまくられて言うて。

おん (をん) 【名詞】 雄 を (雄) の音便化 (志 (浜島)、
鳥、上、阿) [会話] 雄雌 オンタ 鳥を オンタ
(雄) めごた (雌)。オンタや めごたや言うて、めご
たは 雌で。

おんがまし 【形容詞】 恩着せがましい 恩に着せて相手
に感謝を強いるさま

おんがらばし。おんがらばし (麻幹) 【名詞】 おがら : 皮
をはぎとった麻の幹。孟蘭盆の迎火、送り火に焚き供

物に添える箸として使用する。おがらばし : おがらの
箸、孟蘭盆の時、精霊さまに供える物に添える。[会
話] 盆のオンガラバシ。オンガラボシ言う人もあるけ
ど (あるけれど)。昔の人ら (人は) オンガラボシ、オ
ンガラボシ言よおったなあ (言って居ました)。箸言わ
んと (言わずに)。

おんぎ (恩義) 【名詞】 報いるべき義理の有る恩。

おんこ。おんこずし 【名詞】 漁夫の握りずし。酢をあ
まり使わない。[会話] オンコズシ、飯、握っというて、
魚、ひつつけて (付けて) 焼いて、鰹を刺身い (に)、
しというて (しておいて)、それを 餅なあごお (握り飯、
沖のもちを長く) 握っというて (ておいて) 手一杯握っ
というて (握って)、それへ、べったりおぼして (負わせ
て、重ねて)、禰かかして (後の方まで、魚で抑えて)、
尻い (へ) 廻して焼くの (のです) 焼かんでもええけ
ど (焼かなくてもよいけれど)、オンコズシ 言うて、
握って、沖行くと、そんなり (そのまま) 喰うけど、
焼くとおいしいもんで (もので) 焼くけど (焼くが)。
なまもんやよって (生ものだから)、なまな (が) 嫌い
なもな (者は) 焼いて喰うとうまいし (美味です)。

おんこお (をんこう) (温厚) 【形容詞】 おとなしくて情
に厚い事

おんざ (をんざ) (穩座) 【名詞】 1) 果物、野菜などの
盛りを過ぎた物 (志、上、阿、張、名、尾、南) 2)
静かになる事。(志 (布施田)) 3) 終わり、最後 (志、
上、阿) [会話] 3) 物がしまい (終わり) 頃になると、
オンザやなあ (だ)。1) 畠の野菜もオンザん (に) な
ったなあ言うて、しまい (終わり) 頃になると。こや
って寄つとて (このように寄りあって)、えらい (大
変) 静かになると、えらい オンザんになったなあ言う
て。2) 風がなんだ (ないだ、静かになった) 時も言う
しなあ (言います)。

おんしえん (をんしえん) 【名詞】 温泉 (度)

おんしらず 【名詞】 恩を知らない人 義理人情の判らな
い人

おんせえ (おんせい) (音声) 【名詞】 声。話し方。[会
話] 普通のオンセエな (が) 出やんと (出なくて)、
よだれ垂らしたよおん (ように) 言うにげな有るやん
かい (人が有ります)。

おんた 【名詞】 雄 めんた : 雌 おんだーおんた だ
にてありーであーだ 断定又は指定の意味を表す。(志
(志島、磯部、布施田、立神、鶴方、神明、国府、安
乗)、桑市、鈴市、三、一、多、上、阿、張、名、度、
鳥 (国崎)、北、南、熊) [会話] 男の事。鳥のオンタ。

にげ (人間) でも、おとこあ (は)、オンタ。女、めんた。

おんたい (御大) 【名詞】 かしら (頭領) 親分などを言う語。御大将の略、おんたい (大言海)

おんだしたる 追い出してやる

おんだしたれ 追い出してやれ

おんだす (追出) 【他サ五】 追い出すの転

おんだる 【動詞】 1) おぶってやる (志、北) 2) 負担してやる [会話] 1) 子供をオンダルとか、荷物をおいねて (負ぶって) 言うなあ。こころ。おんぼして言うな (のは)、子供をおぶ (おぶう) 言う事や (です)。荷物はおいねるやなあ (です)。

おんだるわ。おんだるわい 1) 負ぶってやる おんだるん参照 2) 負担してやる

おんだろ 1) 背負いなさい 2) 負担しなさい

おんだろ。おんだろん 1) 背負ってやろう おぶってあげよう (飯) 2) 負担してあげます [会話] 1) おぶったろ (てやろう) 言うこと オンダロン言うて、背中い (に) ひっつける事 **おんだるわ** (負んでやる) 言うて おぶる ことをなあ。

おんで 1) 背負ってください 2) 背負って 3) 負担して下さい 4) 負担して (志、桑市、鈴市、安、一、北、南) [会話] 1) 背負って呉れ言う事を オンデ言うの (のです)。わし (私) オンデくれえ (下さい) 言うの (のです)。3) も一つ オンデくれえ 言うので 借金をおばされた言うのも 有るしなあ (あります)。私の借金 あんたも (貴方も) オンデいえ 言うて 保証人になって (なっていて) 借金おばされて よわたたよお (困った) 言うて。

おんでいえ。おんでえ 1) 背負って下さい。2) 負担して下さい [会話] 2) 私の借金 あんたも (貴方も) オンデいえ 言うて、保証人になって (なっていて) 借金おばされた (負担された) 言うて。

おんでくれえ 1) 背負って下さい 2) 負担して下さい [会話] 1) 背負って呉れ言う事 おんで言うの (のです)。わし (私) オンデクレエ 言うの。2) そして 私の借金 あんたも (貴方も) オンデクレエ。

おんと (音吐) 【名詞】 唄の上手な声の出し方 音声

おんど 【名詞】 音頭 数人にて歌を歌う時調子を整えるため先に声を出して拍子を示す事 [会話] オンドとる子 盆の櫓で歌 歌う人 オンドリ言うの (のです)。そして 仕事すんのも (するの)も あれせえ (しなさい) これせえ 言うて 指図してくれる人を オンドリなあ (です) オンド言うのは それを いろい

ろ指図する言う事。

おんど 居るぞ 居ます [会話] オンド言うて。あや ○○な そこん (其処に) オンド 言うのも あるし、オンド 言うて 居ます ここん (此処) オンド 言うのもあるし。

おんと、おんとお (をんたう) (穩当) 【形容詞】 妥当な事。柔順で人に逆らわない事。おだやかですなおな事。(志、鳥 (加茂)、阿、張、名) [会話] オントオ言うのは 静かなことを オント。あの人 オントな人やなあ (だ) 言うて。静かん (に) して おとなあ ししとると (おとなしくしていると)、あの人 オントで ええ (よい) 人やなあ (だ) 言うて 物静かな言うの (のを) オントな。

おんどこ (をんどこ) (温床) 【名詞】 温かみ床

おんどとり (音頭取) 【名詞】 1) 盆踊りの音頭を歌う人。2) 先に立って物事を行う人。おんど (音頭) 参照

おんどりや (代) 【名詞】 【感動詞】 おのれわ [会話] 飴屋の小母さんな (が)、オンドリヤ へえ (屁) 幾つも続けてへつといて (しておいて)、せんべえ (千屁) どころか まんべえじゃれ (万遍だ万屁) 言うて。

おんどる 1) 背負って居る (伊) 2) 妻が夫より年上である [会話] 1) こお (子) オンドル、おぶತ್ತる (ている) 言うのを。猫おおどる (おんでいる) 背中な (が) まがとると (曲がっていると) ねおおどる 言うの (のです)。2) かあさん (女房) の方が上になあ (だ)と ねえさんにようぽおなあ (です)、あや おいにようぽお あや (あれは) おいねやてない (だそうだ) 言うて オンドンネ (負んでいるのだ) あや まあ だいぶ (だいぶん) 言うて。

おんどれ 【感動詞】 おのれ。貴様。お前。対称。おどれ 参照 (南)

おんどれ (負) 背負っておれ

おんな 俺の 俺が (志 (布施田、甲賀)、鳥、北) [会話] 芝居見に行くと、オンナ ざあ (座) 取っといて 呉れよお (ておいて下さい) 言うて。私 言う事 オンナなれ (俺がです)、オンナなれ (です) 言うて、人ん (に) 話す時 オンナなれ どどこい行くよつてなれ (から) 言うて。

おんな 居るな [会話] オンナ言うな (のは) 此処に居るな 言うこと。おらせんかいてや (居ませんかと言え) ここん (此処に) オンナい 言うて、此処に居る言うこと おるわい (居ます) 言うのを オンナい 言うて。こいなとこん (こんな所に) オンナ あつちやい (あちらへ) 行け言うて、そいな時 おらんと

(居ずに) 言う時もあるし、そいなとこん (そんな所に) オンナ 言う時もあるやんかい (有ります)。邪魔 んなんのん (になるのに) そいなとこん オンナ、おったらいかん (居たらいけない) 言うことを そいなとこん オンナ 言う時も あるやんない (あるでしょう)。 ここん (此処に) オンナ言うのは 此処に居ます言う事 そすと、こいなとこん オンナ 言う事は ここんおったらいかん (此処に居たらいけない) 言う事や。

おんなあそび (をんなあそび) 【名詞】 女色に耽る事。おなごあそび

おんない 居ます おんな、おるでえ参照

おんなおや (をんなおや) (女親) 【名詞】 母親 おなごおや

おんなきょうだい (をんなきょうだい) (姉妹) 【名詞】 女の姉妹 おなごきょうだい

おんなぎらい (をんなぎらい) (女嫌) 【名詞】 男が女を好かない事 おなごぎらい

おんなくい (をんなくい) (女喰) 【名詞】 おなごくいに同じ、結婚しても妻と死別する夫

おんなごくどお 【名詞】 男道楽をする女性 (南) [会話] オンナゴクドオヤ言うて 道楽すんのを (するのを) 言うんやろな (言うでしょう)。男道楽すんのを (するのを) オンナゴクドオヤれ (だ) 言うて。 何んもせんと (何にもせずに) 男ん (に) つきあるいたり 追わえて あっちゃい (あちらへ) 行き、こっちゃい (こちらへ) 行き、しとんのを (しているのを) あやまあごくどおやれ (だ) おなごの (女) 言うて。

おんなし。おんなじ (同) 【副詞】 同じ おなじの音便 (大言海) (志、員、三、鈴郡、阿、張、度、伊、尾) [会話] おなじ 言うな (のは) うなじ。オンナジこと言うて 言うのを、うなじことばっか (ばかり) 言うて、うなしこと 言うの (のです)。うなじこと、し言うたり じ 言うたり うなじことばっか言うとな ない (言っている) うなしことばっか 言うとなない 言うたり じをしと にごりな (濁りが) あっても のおても (無くても) 一緒の言葉やけどなあ (だが)。

おんなじょたい (をんなじょたい) (女世帯) 【名詞】 女性が主人である家 後家暮らし (上、阿) [会話] オンナジョタイ 言うて、後家の人間を 男無しに世帯もつとる (持っている) 人 オンナジョタイ 言うて。

おんなずき (をんなづき) (女好) 【名詞】 女色を好む事。おなごずき

おんなもん 俺の物 [会話] こや (此れは) オンナモンや (だ)

おんなもん (女物) 【名詞】 女性用の物

おんね 1) 居ます 2) 居るのだ

おんねよお 居ます [会話] 1) ここん (此処に) オンネオ言うて。おらせんかい (居ませんか) 言うて、ここん オンネオオ 言うて、おる (居る) 言うことを ここんに居ります言うことを ここん オンネオオ 言うて。

おんねよつて 居るのだから [会話] ここん (此処に) オンネヨツテ 心配せんでええわい (しなくてよろしい) 言う 意味やわいなあ (です)。ここんおるよつて (此処に居るから) 言う 此処に居ますから 心配すんな (するな) 言う様な 意味の言い方やなあ (言い方です)。

おんの 居る 居ます

おんのおか 居るのですか (志 (布施田))

おんのおに 居るのに [会話] わしな (私が) 此処ん (に) オンノオニ、わしな (私の) こと いなんこと (いらなこと) 言うて。

おんのか。おんのかい 1) 居ますか。他家を訪れる時の挨拶。おるか参照 2) 居るのですか [会話] 1) 今日は言うのを、オンノカイ言うて、とお (戸) 開けると、オンノカ言うて。

おんのかえ 1) 居ますか 2) 居るのですか

おんのか 1) 居ますか。他家を訪れる時の挨拶。おんのかいに同じ。(志) 2) 居るのですか [会話] 1) オンノコ言うて、あてらあ (はい) 言うて。

おんのだ (をんのだ) 【名詞】 静かになる おんざ参照

おんのづけ 当然の事。あたりまえのように。[会話] ごつおするわ (御馳走する) 言うて、親の年忌か煤掃きか言うて、オンノヅケで ごつお しおったも んで (して居たものです)。

おんのに 居るのに (北) [会話] オンノニ あげな こと (あんなこと) 言うて、わしなここん (私が此処に) オンノニ わしなこと、いなんこと (私の事要らないこと) 言うてとか。先生な (が) ここん オンノン 先生な (の) こと言うて。そいな時んなあ (に) そいなこと (そいな事) 言うたら はざんわ (いけない) 先生な (が) あすこん (あすこに) オンノン言うて、先生な (の) こと こっちゃで (こちらで) ぼそ 言う人が あるやんない (有るでしょう) 仮に。そすと おた 先生な (が) あしこに (あすこに) オンノン そいなこと 言うたら はざんわい 言うて言う場合な (です)、おんのおん 言うて 言う場合な、オンノニ 言うて オンノン 言うのを、ここん お

りますのに そお言うことを 言うたらいかん 言う事を、先生な (が) そこん (其処に) オンノニ あんたら (貴方達) そいなこと言やあるいて (そんなこと言って) 言うて。

おんのり 【副詞】 1) 傾斜のゆるやかなさま (志 (布施田)) 2) 緩慢。おだやかなさま [会話] 1) オンノリしとんね (しているのだ)。すべつと (平かで) 坂な (が)、オンノリしとる言うやんない (して居る言うでしょう)。ちよいと (少し) なぞえんなつとると (傾斜になって居ると)、オンノリした。2) 人間がのびとんのも (間抜けなのも)、あのひた (人、ひと) オンノリしとるなあ (して居る) 言うて、あや (彼は)、ちよいと (少し) オンノリや (だ) 言うて、静かん (かに) しとるよって (から)。坂がぬるい (傾斜が少し) 時も言うし、人な (が) ぬるいもの、ちよいと (少し) のおたりん (脳足りん、馬鹿) の事をなあ (をです)。

おんのん 居るのに おんのに参照

おんばぐるま 【名詞】 乳母車 (三、鈴市、安、上、阿、張、名)

おんばれ 晴れ姿。晴れやかである。[会話] 冬ん (に) になると、長いきもん (着物) 着て、はつぷい (半被) 着て、そんな (それが) 一番オンパレやなあ (です)。若いしゅの (若い衆)。

おんびん (をんびん) (穩便) 【名詞】 内証にする事。隠しておく事。

おんべり ゆるやかな事。傾斜がゆるい事。のんびり。気が効かないこと [会話] オンベリしとる (して居る) 言うな (のは)、だらだら坂みたよん (のように)、おんのりしとんのを (おだやかして居るのを)。

おんば 【名詞】 動物の尾 (志 (御座、波切、片田、布施田、鶴方、神明、立神、国府)、鳥 (国崎)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、松、度、伊)

おんば (負) 背負う事 (志 (神明、鶴方、立神、志島、安乗)、鳥 (国崎)、員、多)

おんば (隠坊) 【名詞】 火葬の時、死体を焼くを業とする人 (松、多)

おんほおじ (恩報) 【名詞】 恩返し。人から受けた恩に報いる事。[会話] オンホオジ 言うな (のは)、恩返し言うことのお (ことです)。あの人ん (に) 世話ん なったよって (から) なんなと (何か) その代わりにしたらな (してやらなければ) 言うて、言うのを オンホオジせな (しなければ) 言うて。

おんぼろ。おんぼろそんぼろ 【名詞】 【形容詞】 非常にいたんで居る事。又その物。(鳥) [会話] オンボロん

(に) なつとる (なっている) 言うて。人間でも、と しなとつて (年取つて) 私達みたよんなつとると (のようになっていると) あやまあ (あれ) オンボロん (に) なつて おつて (居て) あいな (あんな) ことして 言うてなあ。年取つて がんえ (棺へ) 足突っ込んで 言う様な 意味やなあ (です)。ふるう (古く) なつたことを オンボロや (です)、オンボロソ**ン**ボロやれ (だ) あや (あれは) 言うて、物妻お ふるうなつたことを オンボロ言うやんかい (言うのです)。

おんみ (代) 【名詞】 貴方。おみ参照

おんり 降りること 幼児語

おんりせえ 降りなさい 幼児語 1) 高い所から降りなさい 2) 背負われているのから降りなさい